学習指導要領

社会創造科編

平成２８年１月１３日

新潟大学教育学部附属長岡校園

本報告書に記載されている内容は，学校教育法施行規則第 79 条において準用する第 55 条の規定に基づき，教育課程の改善のために文部科学大臣の指定を受けて実施した実証的研究です。

したがって，この研究内容のすべてが直ちに一般の学校における教育課程の編成・実施に適用できるものでないことに留意してお読みください。

「社会創造科」学習指導要領

第１　目標

身の回りや地域の人と深くかかわりながら，持続可能な社会の創造の視点に立って，実践的・探究的に活動・学習をすることを通して，「自己を推進すること」「相互に交流すること」「新たに開発すること」という三つの資質・能力をはぐくむとともに，身の回りや地域に対する認識を深め，これからの社会を主体的に創り上げる態度を育てる。

第２　内容

実践的・探究的に活動・学習することを通して，習得・活用する学習内容を以下のように設定する。

Ⅰ　持続可能な社会を創り上げるための重要概念

Ａ　人を取り巻く環境（自然・文化・社会・経済等）に関わる概念

・有限性の視点からとらえる意味

・多様性の視点からとらえる意味

・相互性の視点からとらえる意味　等

Ｂ　人（集団・地域・社会・国等）の意思や行動に関わる概念

・連携性の視点からとらえる意味

・責任性の視点からとらえる意味　等

Ⅱ　持続可能な社会を創り上げる活動に関わる技能

Ａ　「自己を推進すること」に関わる技能

Ｂ　「相互に交流すること」に関わる技能

Ｃ　「新たに開発すること」に関わる技能

第３　指導計画の作成と内容の取扱い

１　指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

(1)　全体計画及び年間指導計画の作成に当たっては，学校における全教育活動との関連の下に，学習内容やはぐくむ資質・能力，学習活動，指導方法や指導体制，学習の評価の計画などを示すこと。

(2)　学習内容は，一つの単元で全てを網羅するのではなく，年間の単元配列の中で全てを網羅できるよう，計画すること。

(3)　はぐくむ資質・能力についても，単元ごとに重点を置く資質・能力を定めること。単元ごとに軽重をつけながら年間を見通してはぐくむことができるよう，計画すること。

(4)　身の回りや地域との接点をもちつつ，多様な人々とつながりをもつことができるような指導計画を立てることで，「社会に開かれた教育課程」の実現に努めること。

(5)　指導の基盤とする問題解決のプロセスを描き，各プロセスに子供が働かせると期待される資質・能力を明確にして，そのための具体的な活動を適切に位置付けて計画を作成すること。

なお，問題解決のプロセスは以下の過程とする。

「出合う・気付く」→「調べる・問題をもつ」→「考える」→「行動する」→「評価する」

(6)　各プロセスではぐくむ資質・能力及び学習内容，そのための活動の関係を明確にすること。

(7)　各学校においては，学年や年齢の区分によって，学習の母体を定めること。その際，異校種同士や異学年同士による合同授業や，乗り入れ指導などの効果が期待できる場面を位置付けるように検討すること。

２　第２の内容の取扱いについては，次の事項に配慮するものとする。

(1)　各学校において定める学年や年齢の区分によって，学習内容の具体を定めること。

(2)　地域の実態を踏まえ，持続可能な社会の創造の視点の獲得が見込めるテーマを設定して，教材及び題材をつくり，社会参画の意識を高めること。

(3)　問題解決のプロセスにおいては，他者と協働して問題を解決し，新たな価値を生み出していく学習活動が行われるようにすること。その際，身近な地域を含めた社会とのつながりの中で，様々な立場の人と協働して取り組む活動を位置付けること。

(4)　教師の意図，子供の願い，地域の人の期待等を総合的に考えて指導計画を作成し実践するとともに，地域や子供の実態に応じて実践を修正すること。

学習指導要領解説

社会創造科編

平成２８年１月１３日版

新潟大学教育学部附属長岡校園

本報告書に記載されている内容は，学校教育法施行規則第 79 条において準用する第 55 条の規定に基づき，教育課程の改善のために文部科学大臣の指定を受けて実施した実証的研究です。

したがって，この研究内容のすべてが直ちに一般の学校における教育課程の編成・実施に適用できるものでないことに留意してお読みください。

第１章　総説

第１節　社会創造科新設の経緯

環境保全，経済資源，エネルギー，貧困，人権，紛争等，世界は多様な価値観の相違にもとづく問題を多く抱えている。また，ボーダレス化，グローバル化が加速し，私たちの社会全体に大きな影響をもたらしている。さらに，日本国内では，戦後の日本が作り上げた政治・社会のシステムは不景気，産業構造の変化，地域コミュニティの変化，災害の影響等により大きく変容してきている。

私たちは今，複雑で多岐にわたる様々な問題に直面し，将来の生活に不安を抱いている。しかし，私たちが望むのは，将来の世代にわたっても誰もが安心して，幸福に暮らすことのできる社会である。上記のような問題を解決し，持続可能な社会を地球規模で創りあげていくことが求められている。

教育界では，PISA 型学力，知識基盤社会，生きる力等がキーワードとなってその重要性が謳われている。この背景にあるものは，複雑で多岐にわたる問題を抱え，急激に変化する現代社会を生き抜くことのできる人材の育成である。もちろん，この人材育成と持続可能な社会を創りあげていくことの理念に共通する点は多い。

しかし，学校現場では，学力の低下，小学校から中学校に進学した時に不登校・いじめなどが増える「中１ギャップ」[1]，同様に小学校入学段階での「小１プロブレム」[2]等が問題となっている。学校や家庭環境の変化に伴って人との関係がうまく作れず，協力しながら互いの力を発揮して，問題を解決することができない子供が増えてきているからと考えられる。

このような現状を打破し，持続可能な社会を創り上げるには，ある個人の力によるものではなく，専門的な知識や技能を有する人と人とが手を携え，尊重し合い，互いにもつ知識や経験といった「知」と「知」を結び付けながら新たな発想のもと問題を解決していくことが重要である。そのためには，様々な問題を自分のこととしてとらえ，困難を乗り越えながら粘り強く解決していく資質・能力，他者の立場や考えを尊重し，互いに協力し合える良好な関係を築く資質・能力，これまでにない発想で問題を解決し，新たなものを創造していく資質・能力，持続可能な社会の実現を常に思い描き，その実現を目指す認識・態度が不可欠であり，これらをはぐくむための教科が必要である。

そこで，人と人とが手を携え，「知」と「知」を結び付けながら実践的に問題を解決し，新たな社会を創造していくような資質・能力等をはぐくむ教科の新設を構想した。

総合的な学習の時間では，学習指導要領に国際理解，情報，環境，福祉・健康などが内容として例示されており，これらについて教科の枠を超えて総合的，横断的に学習することや探究的な学習を進めていくことが求められている。また国連は，日本が提案した「持続可能な開発のための教育の 10 年」を受け，持続可能な開発の実現に必要な教育への取組を積極的に推進している（2005 年～2014 年）。日本の「ESD の 10 年」実施計画は，ESD を「一人ひとりが，世界の人々や将来世代，また環境との関係性の中で生きていることを認識し，行動を変革するための教育」と定義している。社会創造科では，この ESD の理念を受け，持続可能な社会を創り上げる資質・能力と学習内容を明確に定め，これからの社会を創り上げる態度を培うために，社会創造科を新設することとした。

1　中学校に進学したばかりの中学１年生が，学習や生活の変化になじめずに不登校となったり，いじめが急増したりするという現象。新潟県教育委員会が名付けた。

2　小学校に入学したばかりの小学校１年生が，集団行動を取れない，授業中に座っていられない，話を聞かないなどの状態が数か月継続する状態。

第２節　社会創造科新設の趣旨

多様な価値観から生じる様々な問題を抱える現代社会において，私たちは主体的に，現在の生活レベルを維持しつつ，次の世代も含めたすべての人々に，より質の高い生活をもたらす社会を開発していかなければならない。そのためには，「持続可能な社会を創り上げる資質・能力」を備える人を，様々な立場の人と共に育成する必要がある。そのような資質・能力とは，現代社会の様々な問題に主体的にかかわりながら，従来の枠組みにとらわれず，新たな発想で他者と手を携えながら解決していく問題解決能力である。そこで，当校園では，子供たちが様々な問題に向かって，「持続可能な社会を創り上げる資質・能力」がはぐくまれるとともに，身の回りや地域に対する認識とこれからの社会を創り上げる態度を培うために，「社会創造科」を設置した。

子供の資質・能力が萌芽し，はぐくまれるようにすることは，必ずしも，同年齢・同学年を視点とした段階設定によるとは限らない。むしろ，子供の認識等の発達段階に着目することが必要であると考える。また，社会に出てからは，異年齢や様々な立場の人とかかわることが通常であり，そのような場や関係から，人は多くを学び成長する。以上のことから，社会創造科を設置する際に，主に「認知の特徴」「社会性の発達の特徴」「かかわり方の特徴」の視点から，同年齢や同学年によって設定する同年齢集団の他に，年齢や学年をまたいで設定する異年齢集団が重要であると考えた。そこで，幼稚園入園から中学校卒業までの１２年間を５つのまとまりに分ける。そして，まとまりを「ステージ」と呼び，第１～５までの５つのステージを設定した。

<table>
<tr><th rowspan="2">校種</th><th rowspan="2">ステージ</th><th rowspan="2">学年</th><th colspan="3">ステージの主な特徴</th></tr>
<tr><th>主に認知の特徴</th><th>主に社会性の発達の特徴</th><th>主にかかわり方の特徴</th></tr>
<tr><td rowspan="2">中学校</td><td rowspan="2">5</td><td>中３</td><td rowspan="2">第４ステージよりも抽象的な議論や推論的な思考も可能になり，論理的に物事を話す。</td><td rowspan="2">第３者的に仲間に助言したりすることができる。</td><td rowspan="2">目的や課題の達成のために特定の仲間と行動を共にする。</td></tr>
<tr><td>中２</td></tr>
<tr><td rowspan="5">小学校</td><td rowspan="2">4</td><td>中１</td><td rowspan="3">ある程度抽象的な議論や推論的な思考も可能になり，論理的に物事を話そうとする。</td><td rowspan="3">仲間と役割分担をして行動できる。</td><td rowspan="3">仲間の気持ちや立場を考えながら活動や学習を進めることができる。</td></tr>
<tr><td>小６</td></tr>
<tr><td>小５</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3</td><td>小４</td><td rowspan="2">これまでの自己の経験や既習の学習内容をもとに思考していこうとする。</td><td rowspan="2">気の合う仲間と集団を形成し始める。</td><td rowspan="2">仲間の気持ちや置かれている状況を考えながら活動や学習を進め始める。</td></tr>
<tr><td>小３</td></tr>
<tr><td rowspan="4">幼稚園</td><td rowspan="3">2</td><td>小２</td><td rowspan="3">文脈の支え・適切な支援があれば，学年相応の内容やそれ以上の内容に対して，具体的操作を基にした思考が可能な時期である。</td><td rowspan="3">興味関心が同じ仲間と集団を形成する。</td><td rowspan="3">適切な支援があれば，仲間の気持ちを考えながら活動や学習を進めることができる。</td></tr>
<tr><td>小１</td></tr>
<tr><td>5歳 後</td></tr>
<tr><td rowspan="3">1</td><td>5歳 前</td><td rowspan="3">文脈の支え・適切な支援・環境構成等があれば，具体的操作が可能になる時期である。</td><td rowspan="3">遊びによる集団とのかかわりが徐々に芽生え始める。</td><td rowspan="3">自分中心に物事を考えている。</td></tr>
<tr><td>4歳</td></tr>
<tr><td>3歳</td></tr>
</table>

1　地域の人と共に地域の課題を解決すること

社会創造科では，持続可能な社会を創り上げる資質・能力をはぐくむために，地域の課題を地域の人と共に解決する活動を展開する。「地域の人から学ぶ，地域を学ぶ」ことだけではなく，「地域の人と共に地域の課題を解決する」ことを重視し，子供たちに以下のつながりをもたせることをねらう。

○　地域の課題の解決を図っている人との協働は，自分と「人」とをつなげる。

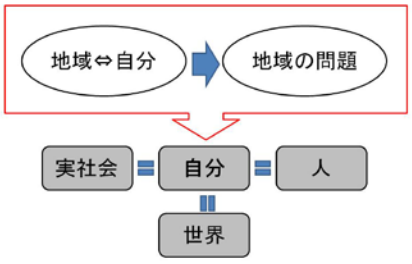
実際に地域の課題の解決に取り組んでいる人たちと出会い，活動をすることを通して，地域への愛情や愛着をもつ人たちや，理想の実現に向けて喜びや苦労を感じながら力強く活動を進める人たちの生き方に触れることができる。このような体験は，様々な困難を自ら乗り越えていく態度を育てるとともに，地域の課題の解決を図る際に，必要な人とのネットワークを構築することにつながっていくと期待している。

○　地域の課題の解決に向けて実際に取り組むことは，自分と「実社会」とをつなげる。

地域の課題を知り，地域の人と共にその解決方法を考え，実際に課題の解決を図る活動を行う。このことにより，実社会の様々な人の考えや立場，問題を構成する要素の複雑なつながり，解決の困難さを実感することができる。このような体験は，社会の実態を知るとともに，その中で自分がどのように「ひと・もの・こと」とかかわりながら生きていくべきかを考えることにつながっていくと期待している。

○　地域の課題の解決に実際に取り組んだ経験は，自分と「世界」とをつなげる。

地域の課題の解決に取り組んだ子供たちは，地域の課題が世界の問題の縮図であることに気付いていくだろう。そして，地域の課題を地域の人と共に解決した経験は，全てのひと・もの・ことを自分のこととして受け止め，世界の問題を解決したいという意欲や態度につながると考えられる。いわゆる「Think Globally，Act Locally」の考え方である。社会創造科で学んだ子供たちには，将来，別の地域との出会いやより広い世界との出会いの際に，この学びを生かし持続可能な世界の構築に向けて活動していくことを期待する。



２　「知の循環型教育システム」を構築すること

社会創造科では，地域の課題を解決する際に，地域の人と子供たちとが互恵的にかかわりながら活動をすすめる。このような活動が継続的に繰り返され，子供たち同士，地域と子供たちに以下のようなつながりを生じさせることで，「知の循環型教育システム」の構築をねらう。

異年齢・異学年における知の循環

学校の中の先輩と後輩との「互恵的なかかわり」[3]によって，学校や子供の中の資源（知識や技能，経験など）を子供同士が成長にともなって繋いでいく形で実現される知の循環。子供は先輩から学び，やがて自らの知識や経験等を後輩に還元する。

学校と地域社会の間における知の循環

子供と学校や地域の人との「互恵的なかかわり」によって，学校周辺にある様々な教育的資源を学校が繋いでいく形で実現される知の循環。子供は，地域に出て貢献し，地域の人は自らの知識や経験等を学校や子供に還元する。

以上のように，地域の中で「知」を循環させる営みは，世界に向かう「知」の循環の営みにつながり，世界の縮図である。社会創造科での学びを核とした「知の循環型教育システム」の構築を目指す。

[3] 「互恵的なかかわり」＝附属長岡校園では，互恵的にかかわっている様相を「互恵的なかかわり」とし，次のように定義している。「自分が相手に尋ねたり伝えたりしたことで，自分が相手に役に立ったことを自覚したり，相手の考えややり方に納得したりして，互いにプラスの影響を受け合っている様相」。

第２章　社会創造科の目標

第１節　目標の構成

社会創造科のねらいや，はぐくもうとする資質・能力を明確にし，その特質と目指すところが何かを端的に示したものが，以下の社会創造科の目標である。

> 身の回りや地域の人と深くかかわりながら，「持続可能な社会の創造」の視点に立って，実践的かつ探究的に活動・学習をすることを通して，「自己を推進すること」「相互に交流すること」「新たに開発すること」という三つの資質・能力をはぐくむとともに，身の回りや地域に対する認識を深め，これからの社会を創り上げる態度を育てる。

社会創造科の目標は，

(1)　身の回りや地域の人と深くかかわること

(2)　「持続可能な社会の創造」の視点に立つこと

(3)　実践的かつ探究的に学習・活動をすること

(4)　「自己を推進すること」「相互に交流すること」「新たに開発すること」という三つの資質・能力をはぐくむこと

(5)　身の回りや地域に対する認識を深め，これからの社会を創り上げる態度を育てること

という五つの要素から構成されている。

この五つの要素のうち，(1)，(2)，(3)は，社会創造科に特有な学習の在り方を示している。すなわち，身の回りや地域の人と共に持続可能な社会の視点に立って，実践的かつ探究的に学習・活動をすることが目標であり，これを前提にして(4)に示された資質・能力をはぐくみ，(5)で示された認識の深まり，態度の育成を目指している。

各学校においては，（1）～（5）の目標の構成について十分に理解し，創意工夫して実践していくことが求められている。

第２節　目標の趣旨

先に記した五つの要素で構成される社会創造科の目標について，以下にその趣旨を解説する。

(1)　身の回りや地域の人と深くかかわること

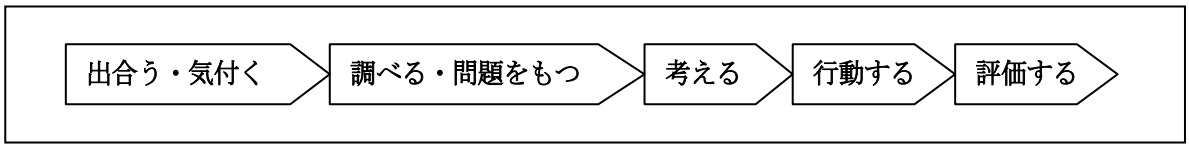
「社会創造科」は，発達段階に応じて実社会の実態へ参加することを通して，資質・能力を働かせて，学習内容を習得することを目指す。そのために，地域の人とかかわることはもちろん，認識や社会性の発達及び校種間の接続を考慮して，年齢や学年をまたいで適切にステージを設定し，それを活動・学習の母体として取り入れる。実社会の実態への参加については，第４章で詳しく解説する。

(2)　「持続可能な社会の創造」の視点に立つこと

現代社会が抱えている複雑で多岐にわたる様々な問題や将来への不安を解決し，持続可能な社会を創り上げていくためには，「持続可能な社会の創造」の視点に立ち，問題を解決していくことが重要である。「持続可能な社会の創造の視点に立つ」とは，ある個人の力によるものではなく，専門的な知識や技能を有する人と人とが手を携え，尊重し合い，互いにもつ知識や経験といった「知」と「知」を結び付けながら新たな発想のもとに問題解決に取り組むことである。そのためには，様々な問題を自分のこととしてとらえ，持続可能な社会の有り様を常に思い描くことが不可欠である。

(3)　実践的かつ探究的に学習・活動をすること

「社会創造科」における「実社会の実態への参加」を，以下の問題解決のプロセスとしてとらえる。



このプロセスは段階的・直線的に進行するとは限らず，前の過程に戻って進むこともある。「実社会の実態への参加」の様相は，「考える」「行動する」の過程に強く表れる。

(4)　「自己を推進すること」「相互に交流すること」「新たに開発すること」という三つの資質・能力をはぐくむこと

持続可能な社会を創り上げていくためには，現代社会の様々な問題に主体的にかかわりながら，従来の枠組みにとらわれず，新たな発想で他者と手を携えながら解決していける人を育てていくことが重要である。このような人が備えるべき問題解決能力を「持続可能な社会を創り上げる資質・能力」とする。それは，現代社会の様々な問題に主体的にかかわっていくという意味での「自己を推進すること」，そのような問題に，様々な他者と手を携えながら取り組んでいくという意味での「相互に交流すること」，そのような問題を解決するために，従来の枠組みにとらわれず，新たな発想を具現していくという意味での「新たに開発すること」の三つでとらえた。そして，それら三つの資質・能力は，問題解決のプロセスではぐくまれるとしている。

(5)　身の回りや地域に対する認識を深め，これからの社会を創り上げる態度を育てること

社会創造科は，今ある社会の問題に目を向け，その解決に向けて実践的に行動することを通して，持続可能な社会を志向していく教科である。したがって社会の問題を自分ごととしてとらえることが重要である。「身の回りや地域に対する認識を深める」とは，第２，３ステージでは，身の回りの「ひと・もの・こと」や地域の人と深くかかわる学習を通して愛情・愛着を深めていくことである。また，第４，５ステージは，それらを土台にしながら地域で実践的に問題を解決する学習活動に取り組むことで，自分なりの持続可能な社会の在り様を描くことである。また，持続可能な社会を創り上げるためには，自ら行動しようとする態度を育てることが必要不可欠である。

第３節　各ステージの目標

社会創造科を第２ステージから位置付け，各ステージに目標を設定した。第１ステージについては，幼児教育のため，社会創造科につながる活動を大切にする。なお，５歳児後半は，小学校への接続を考慮し，幼小合同活動の中で社会創造科に参加する。

第２ステージの目標

身の回りの人と深くかかわりながら，「持続可能な社会の創造」の視点に立って，実践的かつ探究的に活動・学習することを通して，「自己を推進すること」「相互に交流すること」「新たに開発すること」という三つの資質・能力をはぐくむとともに，身の回りの「ひと・もの・こと」に対する愛情・愛着を深め，自分たちの生活を創り上げる態度を育てる。

第１ステージまでにはぐくんできた，生活における身の回りの「ひと・もの・こと」への愛情・愛着をもとに，活動・学習としての身の回りの「ひと・もの・こと」へと対象を広げていく。

本ステージでは，身の回りにある「ひと・もの・こと」への愛情・愛着を深め，進んで自分たちの生活を豊かにしていこうとする態度を育てる。そのために，地域の自然や生き物，風土や四季による変化，及び施設などといった窓口から，身の回りの人と深くかかわりながら活動していく。

第３ステージの目標

身の回りや地域の人と深くかかわりながら，「持続可能な社会の創造」の視点に立って，実践的かつ探究的に活動・学習することを通して，「自己を推進すること」「相互に交流すること」「新たに開発すること」という三つの資質・能力をはぐくむとともに，身の回りや地域の「ひと・もの・こと」に対する愛情・愛着を深め，自分たちの生活を創り上げる態度を育てる。

前ステージまでに身に付けた身の回りの「ひと・もの・こと」への愛情・愛着をもとに，学習対象を身近な地域へと広げていく。

本ステージでは，身近な地域の「ひと・もの・こと」への愛情・愛着をより一層深められるようにする。そのために，日々の生活や遊び，家族，生きものといった窓口から，身の回りや地域の人と深くかかわりながら活動していく。また，直接体験や人とのかかわりを重視するとともに，自然科学や社会科学の面からも身近な地域をとらえていくことを大切にする。

第４ステージの目標

地域の人と深くかかわりながら，「持続可能な社会の創造」の視点に立って，実践的かつ探究的に活動・学習することを通して，「自己を推進すること」「相互に交流すること」「新たに開発すること」という三つの資質・能力をはぐくむとともに，地域のよりよい発展と持続可能な地域の在り方を構想し，その実現に向けて行動しようとする態度を育てる。

前ステージまでに身に付けた「ひと・もの・こと」への愛情・愛着をもとに，身近な地域の課題をテーマにしてその解決に取り組む。

本ステージでは，社会全体が直面している様々な問題を，身近な地域をとおしてとらえ，地域で実際に活動している様々な人とのかかわりの中で，地域の現状と課題を見いだし，解決方法を考える。その中で，子どもたちは，実社会における様々な人の考えや立場，問題を構成する要素の複雑なつながり，解決の困難さを実感するとともに，持続可能な地域の姿を構想する。また，課題の解決に取り組み，持続可能な地域の在り方を志向する中で，その実現に向けて自ら行動しようとする態度を養っていく。

第５ステージの目標

地域の人と深くかかわりながら，「持続可能な社会の創造」の視点に立って，実践的かつ探究的に活動・学習することを通して，「自己を推進すること」「相互に交流すること」「新たに開発すること」という三つの資質・能力をはぐくむとともに，地域のよりよい発展と，持続可能な社会の在り方を志向し，実践的に活動しようとする態度を育てる。

前ステージまでに身に付けた学習内容をもとに，地域の人と手を携え，実社会での継続的な実践を行う。

本ステージでは，実際に地域で課題を解決している人とともに学習をすすめる。これまで，身近なひと・もの・ことから，地域へと広げて育んできた愛情・愛着は，地域の課題を自分のことに引き付けて考えることを可能にする。自分の事として継続的に関わる学習活動は，その内容をより確かに身に付けることができる。

第５ステージは，社会創造科の最終ステージに位置付く。これまでに高めてきた資質・能力は，社会の一員としての考え方や周囲とのかかわり方，現代の事象だけでなく将来の世界を見据えた問題解決の仕方や発想へと，これからの社会を築いていく力へと熟成していく。

第３章　内容

第１節　学習内容

社会創造科では，「重要概念」と「技能」の二つの面から学習内容を設定している。

実践的・探究的に活動・学習することを通して，習得・活用する学習内容を以下のように設定した。

１　学習内容

Ｉ　持続可能な社会を創り上げるための重要概念

Ａ　人を取り巻く環境（自然・文化・社会・経済等）に関わる概念

・　有限性の視点からとらえる意味

・　多様性の視点からとらえる意味

・　相互性の視点からとらえる意味　等

Ｂ　人（集団・地域・社会・国等）の意思や行動に関わる概念

・　連携性の視点からとらえる意味

・　責任性の視点からとらえる意味　等

社会創造科では，持続可能な社会を創り上げる重要概念として，上述の「Ａ　人を取り巻く環境（自然・文化・社会・経済等）に関わる概念」，「Ｂ　人（集団・地域・社会・国等）の意思や行動に関わる概念」の二つの学習内容を設定している。これらは，国立教育政策研究所が示す六つの「持続可能な社会づくり」の構成概念（多様性，相互性，有限性，公平性，連携性，責任性）と重なる面がある。

認識論でいうと，概念とは，事柄どうしを関係付けてとらえられる意味である。「社会創造科」では，その関係付ける視点が多様性や相互性等で，その視点から関係付けて意味を構成する。

それぞれの概念は，次のような意である。

Ａ　人を取り巻く環境（自然・文化・社会・経済等）に関わる概念

・ 有限性…自然・文化・社会・経済は限りある事物から成り立っている

・ 多様性…自然・文化・社会・経済は多種多様な事物から成り立ち，多種多様な現象が起きている

・ 相互性…自然・文化・社会・経済は互いに働き掛け合っている

Ｂ　人（集団・地域・社会・国等）の意思や行動に関わる概念

・ 連携性…持続可能な社会では多様な主体が力を合わせている

・ 責任性…持続可能な社会では多様な主体がよりよい社会づくりへの責任をもち，それを果たしている

それぞれの具体的な学習内容を定める際に留意することとして，日常生活や身近な社会とのかかわりを重視し，その時々に最適な学習課題が何かを，適宜，判断することが求められる。その上で，各学校においては，子供の学習状況に応じた適切な指導を行うとともに，社会創造科における評価結果等を基にして，その改善を円滑に実施することが期待される。

なお，各学校においては，学習内容の具体を指導計画に適切に位置付けることが求められる。その際，学年間の連続性，発展性や各校種間それぞれの接続，各教科等との違いや関連性などに配慮して，内容を定めることが重要である。

Ⅱ　持続可能な社会を創り上げる活動に関わる技能
　A　「自己を推進すること」に関わる技能
　B　「相互に交流すること」に関わる技能
　C　「新たに開発すること」に関わる技能

社会創造科では，「自己を推進すること」「相互に交流すること」「新たに開発すること」という三つの資質・能力をはぐくむことを目標としている。これら三つの資質・能力を働かせる時に，身に付けられる技能を学習内容として設定した。

具体的には，以下のような技能が考えられる。

A　「自己を推進すること」に関わる技能
- 自己評価・振り返りの仕方
- 目標設定の仕方
- 計画立案の仕方　等

B　「相互に交流すること」に関わる技能
- 他者理解の仕方
- 目標を共に設定したりビジョンを共有したりする方法
- 話し合いの仕方　等

C　「新たに開発すること」に関わる技能
- 情報の把握・分析の仕方
- 試行修正の仕方や論理的思考の仕方
- 創造的思考の仕方
- プレゼンテーションの仕方　等

これらの技能は，身の回りや地域との接点をもちつつ，多様な人々とつながりをもつ社会創造科ならではの特性を生かし，問題解決のプロセスを通して学ばれることによって，子供にとって習得することが期待できる。

第４章　指導計画の作成と内容の取扱い

第１節　指導計画の作成に当たっての配慮事項

(1)　全体計画及び年間指導計画の作成に当たっては，学校における全教育活動との関連の下に，学習内容やはぐくむ資質・能力の具体，学習活動，指導方法や指導体制，学習の評価の計画などを示すこと。

社会創造科の目標を実現するためには，各教科，道徳及び特別活動を含めた全教育活動の中で，社会創造科の位置付けを明確にすることが重要である。各教科，道徳，社会創造科及び特別活動が適切に実施され，その上で相互に関連し合うことではじめて教育課程はその機能を果たし，学習指導要領が目指している「生きる力」をはぐくむことにつながる，したがって，社会創造科が実効性のあるものとして実施されるためには，地域や学校，生徒の実態や特性を踏まえ，各教科等を視野に入れた全体計画及び年間指導計画を作成することが求められる。

全体計画とは，指導計画のうち，学校として，この時間の教育活動の基本的な在り方を概括的・構造的に示すものである。一方，年間指導計画とは，全体計画を踏まえ，その実現のために，どのような学習活動を，どのような時期に，どのくらいの時数で実施するのかなどを示すものである。この二つの計画において，各学校では，社会創造科の目標と，はぐくむ資質・能力および学習内容を実現するために，各ステージや学年において，学習内容の具体を明確にすることが重要である。さらには，それらとの関連において生み出される「学習活動」，その実施を推進していく「指導方法」や「指導体制」，生徒の学習状況等を適切に把握するための「学習の評価」などが示されるべきである。

各学校においては，校長の責任のもとで，社会創造科コーディネーターやステージ主任を配置して組織的に教育活動を展開し，全体計画及び年間指導計画を作成することが重要である。これらの計画を作成することによって，適切な教育活動が展開され，学校として行き届いた指導を行うことが可能となる。その際，これまでの各学校の教育実践の積み重ねや教育研究の実績に配慮して計画を作成することが有効である。

また，異校種（幼稚園や小学校，中学校，高等学校）それぞれの全体計画や年間指導計画を踏まえた指導計画を作成することや，社会創造科の取組が連続的かつ発展的に展開できることに配慮することも大切である。すなわち，異校種間の相互連携を図ることが求められている。

各学校においては，この時間の指導計画を踏まえ，意図的・計画的な指導に努めるとともに，学習内容の具体，学習活動や指導方法，学校全体の指導体制，評価の在り方，学年間，ステージ間，学校段階間の連携等について，学校として自己点検・自己評価を行うことが大切である。そのことにより，各学校の社会創造科を不断に検証し，改善を図っていくことにつながる。そして，その結果を次年度の全体計画や年間指導計画，具体的な学習活動に反映させるなど，計画，実施，評価，改善というカリキュラム・マネジメントのサイクルを着実に行うことが重要である。

なお，年度途中においても，学習活動の展開が必ずしも計画通りに進まない場合には，当初の計画を固定的なものとしてとらえるのではなく，必要に応じて適宜見直していくという柔軟かつ弾力的な姿勢をもつことも大切である。

(2) 学習内容は，一つの単元ですべてを網羅するのではなく，年間の単元配列の中で全てを網羅できるよう，計画すること。

学習内容（多様性・相互性・連携性・有限性・相互性）は大きな概念であるため，五つすべてを一つの単元で網羅することは難しい。そこで，年間の単元配列表を作成し，年間をとおして全てを扱うことができるよう，計画を立てることが重要である。単元に応じて軽重をかけながら進めることが大切である。

(3) はぐくむ資質・能力についても，単元ごとに重点を置く資質・能力を定めること。単元ごとに軽重をつけながら年間を見通してはぐくむことができるよう，計画すること。

全ての資質・能力を一つの単元で網羅することは難しい。そこで，年間の単元配列表を作成し，年間をとおして全てを扱うことができるよう，計画を立てることが重要である。単元に応じて軽重をかけながら進めることも大切である。

（例）単元において，以下の観点から資質・能力の働きを目指すことを示した例

※ 単元によっては，すべての観点から設定をしなくともよい。

	観点	本単元における資質・能力が働いている姿
自己を推進すること	自己の認識	自分が地域の一人であることを自覚し，自分の特徴や考えのよさが地域の中でどのように生かせるか考え，よりよい自分づくりに向けて必要なことをとらえている。
	価値の認識	地域の事象や課題について，それにかかわる人の思いや願い，考えをふまえ，持続可能性の視点からよさを見出している。
	立志・計画	地域の課題を解決したいと強く願い，自分で目標や長期的な計画を立て，問題解決を実践する過程を通して，逐次修正を重ねている。
	責任の遂行・粘り強い取組	追究の過程で任された自分の役割に責任をもって取り組んだり，実践の過程で生じる問題や，現状・実情に対して柔軟に対応したりしている。
相互に交流すること	他者の認識	地域の課題の解決に向けて取り組む人の思いや願い，考えを大切にしたり，実践する過程でかかわるさまざまな人の考えを大切にしたりしている。
	志の共有	地域の課題の解決に向け，それに取り組む人の思いや願い，考えを共感的に理解し，自分たちの考えを柔軟に対応させ，共通の目標を立てている。
	他者との協力	地域の課題の解決をするために，地域の人と継続的に手を携え，また，さまざま人と考えを出し合いながら，力を合わせて取り組んでいる。
	対話や議論への参加	地域の課題の解決に向けて，地域の人との話合いに建設的に参加したり，工夫して話合いをすすめたりしている。
新たに開発すること	現状の把握・分析	地域の課題に取り組む人との関わりを通し，現状について，その背景や原因，しくみを，持続可能性の視点からとらえている。
	熟考	幅広い視点で，様々な知識や情報を収集し，それらを組み合わせ，根拠を明らかにした解決方法を考えたり，試行錯誤しながら解決を試みたりしている。
	創造	対象とする問題に対して，持続可能性の視点で有効なよりよい考え，新たな考えをつくっている。
	発信	さまざまな人とかかわり，相手や場面，目的に応じて表現方法を工夫し，自分の思いや願い，考えを効果的に伝えている。

上述の(2)の学習内容，及び(3)の資質・能力については，例えば次のように，年間指導計画に位置付けることが考えられる。

（年間指導計画に位置付けた例）

<table>
<tr><th>学年</th><th>月</th><th colspan="2">4月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th colspan="2">9月</th><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th></tr>
<tr><td rowspan="5">小4</td><td>題材</td><td colspan="3">栖吉川の今と昔
長岡野菜を作ろう</td><td colspan="2">おじいちゃんおばあちゃんに会いに行こう</td><td></td><td colspan="3">栖吉川の今と未来</td><td>みんなでつくろうなかよしフェスティバル</td><td>長岡の先人に学ぼう</td><td colspan="3">2分の1成人式を成功させよう</td></tr>
<tr><td>配当時間</td><td colspan="3">19</td><td>5</td><td colspan="2">10</td><td></td><td colspan="3">26</td><td>10</td><td>10</td><td colspan="3">15</td></tr>
<tr><td>学習内容Ⅰ</td><td colspan="3">A多様性,相互性,有限性
B連携性</td><td>A有限性,
相互性</td><td colspan="2">A多様性,相互性
B連携性</td><td></td><td colspan="3">A有限性,多様性,相互性</td><td>A相互性
B連携性,責任性</td><td>A多様性
B連携性</td><td colspan="3">A相互性
B連携性,責任性</td></tr>
<tr><td>学習内容Ⅱ</td><td colspan="3">C情報収集の仕方
まとめ方等</td><td>C情報収集の仕方</td><td colspan="2">Bインタビューの仕方,
交流の仕方等</td><td></td><td colspan="3">A目標設定の仕方
C現状の分析方法，ﾌﾟﾚｾﾞﾝの仕方</td><td>A計画の立案
B話し合いの仕方</td><td>A計画立案の仕方
Bｲﾝﾀﾋﾞｭｰの仕方
Cﾌﾟﾚｾﾞﾝの仕方</td><td colspan="3">A自己評価･振り返りの仕方
B願いの共有 C思いの伝え方</td></tr>
<tr><td>重点を置く資質･能力</td><td colspan="3">立志･計画，価値の認識，他者との協力，現状の把握･分析</td><td>価値の認識，
他者との協力</td><td colspan="2">価値の認識，志の共有，発信</td><td></td><td colspan="3">立志･計画，対話や議論への参加，発信</td><td>自己の認識，責任の遂行･粘り強い取組，
他者との協力</td><td>価値の認識，
立志･計画，発信</td><td colspan="3">自己の認識，責任の遂行･粘り強い取組，
他者との協力，発信</td></tr>
<tr><td rowspan="5">小3</td><td>題材</td><td colspan="4">楽しもう百年の森</td><td colspan="2">長岡野菜を作ろう</td><td></td><td colspan="3">もっと楽しもう百年の森</td><td>みんなでつくろうなかよしフェスティバル</td><td>錦鯉となかよし</td><td colspan="3">錦鯉となかよし
伝えよう長岡の民話</td></tr>
<tr><td>配当時間</td><td colspan="4">30</td><td colspan="2">11</td><td></td><td colspan="2">15</td><td colspan="2">14</td><td>10</td><td colspan="3">15</td></tr>
<tr><td>学習内容Ⅰ</td><td colspan="4">A多様性,相互性,連携性
B責任性</td><td colspan="2">A有限性,相互性</td><td></td><td colspan="2">A有限性,多様性,相互性
B連携性,責任性</td><td colspan="2">A多様性,相互性
B連携性,責任性</td><td>A相互性
B連携性,責任性</td><td colspan="3">A多様性　B責任性</td></tr>
<tr><td>学習内容Ⅱ</td><td colspan="4">B他者理解の仕方
Cまとめ方</td><td colspan="2">C情報収集の仕方</td><td></td><td colspan="2">A計画の立案
B話し合いの仕方
C現状の分析</td><td colspan="2">Bｲﾝﾀﾋﾞｭｰの仕方
Cまとめ方</td><td>A計画の立案，
B話し合いの仕方</td><td colspan="3">A計画の立案 Cプレゼンの仕方</td></tr>
<tr><td>重点を置く資質･能力</td><td colspan="4">自己の認識，現状の把握･分析，志の共有，
責任の遂行･粘り強い取組</td><td colspan="2">価値の認識，
他者との協力</td><td></td><td colspan="2">価値の認識，現状の把握･分析，
対話や議論への参加</td><td colspan="2">価値の認識，他者の認識，発信</td><td>自己の認識，責任の遂行･粘り強い取組，
他者との協力</td><td colspan="3">志の共有，他者との協力，発信</td></tr>
</table>

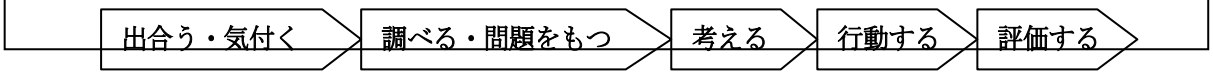
(4)　身の回りや地域との接点をもちつつ，多様な人々とつながりをもつことができるような指導計画を立てることで，「社会に開かれた教育課程」の実現に努めること。

これからの教育課程には，社会の変化に目を向け，教育が普遍的に目指す根幹を堅持しつつ，社会の変化を柔軟に受け止めていく「社会に開かれた教育課程」としての役割が期待されている。

このような「社会に開かれた教育課程」としては，社会や世界の状況を幅広く視野に入れ，社会や世界と向き合い関わり合うことが大切である。また，地域の人的・物的資源を活用することも有効である。

「社会創造科」では，身の回りの地域を学びのフィールドとする。すなわち，上述したように，「社会に開かれた教育課程」の中で学びを進めることとなる。資質・能力を働かせながら地域の様々な立場の人とかかわり，つながり，学習内容を獲得することが望まれる。

(5) 指導する際，問題解決のプロセスを描き，各プロセスに子供が働かせると期待される資質・能力を明確にして，そのための具体的な活動を適切に位置付けて計画を作成すること。
なお，問題解決のプロセスは以下の過程とする。



「社会創造科」では，問題解決のプロセスを，「出合う・気付く」→「調べる・問題をもつ」→「考える」→「行動する」→「評価する」ととらえる。このプロセスは段階的・直線的に進行するとは限らず，前のプロセスに戻って再び進むこともある。

身の回りの地域との設定をもちつつ，多様な人々とつながりをもつ「実社会の実体への参加」の様相は，特に「行動する」プロセスに強く表れる。 以上の問題解決のプロセスを基に，子どもの発達段階に応じて指導する。

(6) 各プロセスで特に重点を置いてはぐくむ資質・能力及び学習内容，そのための活動の関連を明確にすること。

「社会創造科」では，資質・能力を高めるとともに，身の回りや地域に対する認識を深め，これからの社会を主体的に創り上げる態度を育てることを目標としている。そして，持続可能な社会を創り上げるための重要概念及び，社会を創り上げる活動に関わる技能を学習することをねらう。こうした資質・能力や学習内容が，問題解決のプロセスにおいて，どのようにはぐくむのかを明確にして計画し，実践することが大切である。このことに留意して，単元計画を立案し，実践を進めることが望ましい。

(7)　異年齢・異学年同士による合同活動・授業や，乗り入れ指導などの効果が期待できる場面を位置付けるように検討すること。

子供たちが学校を卒業して実際に社会に出て問題の解決に当たるとき，ともに活動するのは，様々な年齢・考え方をもった人々である。社会創造科では，そのような場面で生きて働く力を身に付けさせるために，日常の学級の仲間を超えた人との探究的な学びを行う。

子どもたちは，ステージ内・外の仲間や地域の人と課題を共有し，ともに解決の方法を考え，実践することで互恵的なかかわりを構築していく。そのために，地域の人とかかわることはもちろん，認識や社会性の発達及び校種間の接続を考慮して，年齢や学年をまたいで適切に段階を設定し，それに基づく集団を学習・活動の母体として取り入れることが望ましい。そのためには，「各ステージにおける実社会の実体への参加を具体的に描くことが有効である。

また，地域と密接に関わる実践的かつ探究的な学びの中で，現実の問題に直面することで，その問題をより自分に引き付けてとらえたり，問題を解決する過程を経験したりすることができる。特に，地域と継続的に関わることで，その学びは繰り返される。

このような学習を通し，社会創造科では地域の課題を自分なりのつながりをもって解決していく。このことにより，様々な場面で生きて働く力を高めていくことができると考える。

社会創造科では，次のような人たちと手を携え，「協働型学習」をすすめる。

○　ステージ内の園児・児童・生徒

○　ステージを超えた園児・児童・生徒

○　地域の高校，高専，大学の学生および研究者（専門的な研究をしている人）

○　地域で実際に課題の解決活動に取り組んでいる人（ＮＰＯ，行政，企業など）

なお，ここでの「協働」とは，問題解決過程のある段階で異なる見方・考え方・表し方をもつ他者（同年齢・異年齢）とかかわり，相互にプラスの影響を受け合いながら，知識・技能の獲得および，資質・能力の高まりに迫ることを指す。このような「協働」を位置付けた問題解決過程を「協働型学習」と呼ぶ。社会創造科では，子ども同士，子どもと地域の人など，かかわり合うもの同士が互恵的なかかわりを築きながら持続可能な社会を創りあげる資質・能力を高め合う「協働型学習」を進める。

第２節　内容の取扱いについての配慮事項

(1)　各学校において定める学年や年齢の区分によって，学習内容の具体を定めること。

学習内容は，発達段階に応じてステージごとに設定する。各ステージのゴールで目指す姿を以下のように描く。例えば，以下のような例が考えられる。

Ⅰ　持続可能な社会を創り上げるための重要概念

	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ	第5ステージ
有限性	自然・文化・社会・経済では限りがあるということ。	自然・文化・社会・経済は限りがあるなかで，工夫して成り立っていること。	自然・文化・社会・経済は，有限の環境要因や資源（物質やエネルギー）に支えられていること。	自然・文化・社会・経済は，有限の環境要因や資源（物質やエネルギー）に支えられながら，不可逆的に変化していること。
多様性	自然・文化・社会・経済ではいろいろな現象があること。	自然・文化・社会・経済ではよりたくさんの現象があること。	自然・文化・社会・経済では多種多様な現象が起きていること。	自然・文化・社会・経済は起源・性質・状態などが異なる多種多様な物事から成り立ち，それらの中では多種多様な現象が起きていること。
相互性	自然・文化・社会・経済ではかかわっていることがあること。	自然・文化・社会・経済ではいろいろなものがつながっていること。	自然・文化・社会・経済では物質やエネルギーが循環したり，情報が伝達したりしていること。	自然・文化・社会・経済は，互いに働き掛け合い，それらの中では物質やエネルギーが移動・循環したり，情報が伝達・流通したりしていること。
連携性	持続可能な社会は，いろいろなものが協力していること。	持続可能な社会は，いろいろな主体が協力して成り立っていること。	持続可能な社会は，多様な主体が互いに連携・協力することにより構築されること。	持続可能な社会は，多様な主体が状況や相互関係などに応じて順応・調和し，互いに連携・協力することにより構築されること。
責任性	持続可能な社会は，一人一人が責任をもって物事を成し遂げること。	持続可能な社会は，いろいろなものがそれぞれ責任をもつことで構築されること。	持続可能な社会は，多様な主体が将来象に対する責任あるビジョンをもつことにより構築されること。	持続可能な社会は，多様な主体が将来象に対する責任あるビジョンをもち，それに向かって変容・変革することにより構築されること。

Ⅱ　持続可能な社会を創り上げる活動に関わる技能

	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ	第5ステージ
「自己を推進すること」に関わる技能	・振り返り	・振り返り ・いろいろな調べ方 ・計画の立て方	・振り返り ・実地調査の仕方 ・計画の立案の仕方	・振り返り ・実地調査の仕方 ・計画の点検 ・修正の仕方
「相互に交流すること」に関わる技能	・相手の話の聞き方	・話し合いの仕方	・インタビューの仕方 ・集団での目標決定の仕方 ・話し合いの仕方	・即時的に深めるインタビューの仕方 ・ビジョン共有の仕方 ・効率的，創造的，収束的な話し合いの仕方
「新たに開発すること」に関わる技能	・調べたことのまとめ方	・情報の整理の仕方（２Ｗ１Ｈ）	・アンケート分析の仕方 ・ＫＪ法的な手法 ・推敲の仕方 ・企画書の書き方 ・プレゼンの仕方	・アンケート分析の仕方 ・ＫＪ法的な手法 ・多様な視点からの推敲 ・実践，試行をとおした検討 ・説得力のある企画書の書き方 ・プレゼンの仕方

以上のように，ステージごとの学習内容に合わせて，単元においてその具体を設定する。以下は例である。

第２ステージ

単元名			あそびはっけん　だいすきすよしがわ	町たんけんに行こう
単元の概要			楽しい栖吉川フェスティバルにしたいという思いを 6 年生に伝え，自分のやりたい遊びを提案することで，6 年生と目的意識を共有し，試行錯誤しながら遊びを工夫する。6 年生への愛情をはぐくむとともに，一緒に栖吉川での遊びを楽しみながら，栖吉川への愛着を深めていく。	学校周辺の地域について，気になるお店や施設を選び，気になることや疑問に思うことを中心に調べたいことを決め，見学やインタビューを目的とした探検を行う。その際，挨拶やマナーについて，相手の気持ちを考え，前もって練習をする。探検後は，分かったことを，仲間が行きたくなるパンフレットにまとめて発表し合う。
Ⅰ	持続可能な社会を創り上げるための重要概念			
	有限性	自然・文化・社会・経済は，有限の環境要因や資源に支えられていること		
	多様性	自然・文化・社会・経済は多種多様な事物から成り立ち，多種多様な現象が起きていること	・楽しい栖吉川フェスティバルにするために，いろいろな遊びや遊び方があること	・身の回りには，様々なお店や施設があることに気付くこと
	相互性	自然・文化・社会・経済は互いに働き掛け合っていること		・様々なお店や施設がそれぞれの役割を果たしていることで，自分たちの楽しく便利な生活が成り立っていること
	連携性	持続可能な社会では多様な主体が力を合わせていること	・作り方や使い方を工夫して 6 年生と一緒に栖吉川でできる遊びをつくること	・仲間と協力して，お店や施設を探検する計画を立てる際の役割分担をしたり，探検の挨拶やインタビューの練習をしたりすること
	責任性	持続可能な社会では多様な主体がよりよい社会に対して責任をもち，それを果たしていること	・楽しい栖吉川フェスティバルにするために，遊びがうまくできなくても，最後まで取り組むこと	・仲間と決めた役割を，責任をもって果たしたり，マナーを守ったりすること
	など			
Ⅱ	持続可能な社会を創り上げる活動に関わる技能			
	「自己を推進すること」に関わる技能	・自己評価・振り返りの仕方 ・目標設定の仕方 ・計画立案の仕方　等	・項目を立てて計画を作成する方法（栖吉川でしたい遊びについて，材料や遊び方を項目ごとにあげること）	・探検の目標や調査のポイント，まとめを明確にした計画を作成する方法 ・振り返りの方法（事前に立てためあてについて振り返ること）
	「相互に交流すること」に関わる技能	・他者理解の仕方 ・目標を共に設定したりビジョンを共有したりする方法 ・話し合いの仕方　等	・6 年生に聞きたいことを「2W1H」（何を，誰に，どのように）で整理する方法 ・挨拶やインタビューの仕方（相手の目を見ること，感謝を言葉で表すこと，しゃべらずに相手の答えをしっかり聞くことなど）	・町探検の役割分担の仕方 ・挨拶やインタビューの仕方（相手の目を見ること，感謝を言葉で表すこと，しゃべらずに相手の答えをしっかり聞くこと，お店の迷惑になることはしないことなど） ・伝え合う方法（新しく知ったことや驚いたことなどを伝え合うこと。疑問をその場で聞き合い，伝えたいことや聞きたいことを話し合うこと）
	「新たに開発すること」に関わる技能	・情報の把握 ・分析の仕方 ・試行修正の仕方や論理的思考の仕方 ・創造的思考の仕方 ・プレゼンテーションの仕方　等	・楽しくできた遊びを絵と文で「栖吉川遊びブック」にまとめること	・取材した内容をパンフレットやクイズパンフレットにまとめること

第３ステージ

単元名			楽しもう１００年の森	栖吉川の今と未来
単元の概要			「ふぞく百年の森」を観察し，森の木がツル科の植物に巻きつかれ枯れ始めていることを知った児童が，自分の木や森を守るためにツル科の植物をどうすればよいか考える。そして，森林インストラクターから話を聞くことを通して「ふぞく百年の森」がいつまでも豊かな森であるようにするために，森の手入れの必要性を理解し，「ふぞく百年の森」のために自分たちができることを考え，実行する。	身近にある栖吉川の自然や川に棲む生き物を調べる中で，河川工事が行われることを知り，工事が生き物にどのような影響があるのかについて調べる。地域振興局の職員を招いて工事の説明を聞いたり，生き物を守りたいという願いを伝えたりする中で，子供たちの願いと水害から地域の暮らしを守る地域振興局の仕事との双方の立場からよりよい方法について考え，子供たちの栖吉川や生き物への愛着を一層深める。
I	持続可能な社会を創り上げるための重要概念			
	有限性	自然・文化・社会・経済は，有限の環境要因や資源に支えられていること	・植物は生命には限りがあり，環境によって生息域が異なること	・動物は環境によって生息する場所が異なること
	多様性	自然・文化・社会・経済は多種多様な事物から成り立ち，多種多様な現象が起きていること	・植物は様々な植生をもっていること	・栖吉川には，アカザやスナヤツメなどの絶滅危惧種や多種多様な生き物が棲息していること
	相互性	自然・文化・社会・経済は互いに働き掛け合っていること	・森の木々は，互いにプラスやマイナスの要素を受け合いながら共生していること	・川に棲む生き物と川辺の植物が生態系を維持していくために密接に関係していること
	連携性	持続可能な社会では多様な主体が力を合わせていること	・森の木々を守るために，様々な人が様々な形で活動していること	・栖吉川の自然を守るためや，水害から地域を守るために，様々な人が関係して活動していること
	責任性	持続可能な社会では多様な主体がよりよい社会に対して責任をもち，それを果たしていること	・地域の環境や景観の保護のために，地域の人々が取り組める活動を主体的に進める必要があること ・森林インストラクターは，自然の森や木々を守るために森の手入れや自然のよさを伝える活動をしていること	・栖吉川の豊かな自然を守り，未来につなげていくために，栖吉川を継続して調査したり，栖吉川のよさを伝えたりしていくこと
	など			
II				
	「自己を推進すること」に関わる技能	・自己評価・振り返りの仕方 ・目標設定の仕方 ・計画立案の仕方等	・森の手入れの仕方を計画，実行，振り返りをする方法	・栖吉川の調査に向けた計画，取組，発信するための方法
	「相互に交流すること」に関わる技能	・他者理解の仕方 ・目標を共に設定したりビジョンを共有したりする方法 ・話し合いの仕方等	・森林インストラクターへのインタビューの仕方 ・仲間との話し合いの仕方（仲間と検討し，妥協点を探る話し合い）	・地域振興局の職員への質問の仕方，仲間との話合いの仕方
	「新たに開発すること」に関わる技能	・情報の把握 ・分析の仕方 ・試行修正の仕方や論理的思考の仕方 ・創造的思考の仕方 ・プレゼンテーションの仕方　等	・ツル科の植物の駆除作業の遂行	・栖吉川の調査の仕方，調査結果をまとめ方，発信の方法 ・結果から自分たちできることについて新たな課題をもつこと

第４ステージ

単元名			山古志地域のことについてもっとしりたい（まちづくり）	地域に根付く会社・企業（ブランド）	人の営みと環境保全（自然環境）	地域の子育ての現状（コミュニティ）
単元の概要			山古志のよさをとらえ，多くの人に知ってもらいたいと考えている児童・生徒と，山古志の活性化を求める地域の方が，山古志のＰＲの内容や方法について考える。	長岡に根付く企業（飲食業）の社長の講話から，持続可能な社会の創造と結び付けて願いや困り感をとらえ，中学生の視点から改善点やアイディアを提案し，評価を受ける。	農業関係者の講話から課題を知り，人の営みが環境に与える影響をとらえる。環境保全に役立ちたいという思いを大切にして，地域の課題について解決策を考える。	安全・安心な子育てを願う子育て支援施設の職員や利用者とかかわり，少子化が進んでいる原因をとらえ，よりよい子育てについて，自分たちにできることを考えていく。
Ⅰ	持続可能な社会を創り上げるための重要概念					
	有限性	自然・文化・社会・経済は，有限の環境要因や資源に支えられていること			・人間の生活や産業は，限られた自然の中で営まれていること	
	多様性	自然・文化・社会・経済は多種多様な事物から成り立ち，多種多様な現象が起きていること	・山古志には，地域の自然や文化を生かした食，風景，闘牛など，様々なよさがあること	・飲食店を訪れる人は，多種多様なニーズがあり，飲食店もそれに対応する必要があること ・地域に根ざした商売が大切であること	・農業には，田んぼの減少，米の消費量の増加，専業農家の増加，若者の仕事継承などの多様な現象が見られること	・子育てに関わる様々な仕事が存在し，様々な現代的課題とニーズがあること ・地域によって子育て支援の仕方や施設の違いがあること
	相互性	自然・文化・社会・経済は互いに働き掛け合っていること	・山古志には，自然や食文化，闘牛など様々な要素が存在し，観光資源として成り立っていること	・経済活動は生産と消費が密接にかかわっていること	・農業の活性化が，地域の景観や環境の保全につながること	・地域の子育てのために，行政や施設，家庭など，多くの立場の主体がそれぞれの役割を果たしていること
	連携性	持続可能な社会では多様な主体が力を合わせていること	・山古志には，中越地震を境に，復興に向けて様々な立場の人が力を合わせて取り組んでいること	・企業は，買い手と売り手，雇う側と雇われる側，同業種間の関係など，多様な立場のかかわりによって成り立っていること	・環境保全のために，農家の方や地域の方，様々な企業が協力をして取組を行っていること	・子育て支援施設は，保育士やボランティア，親子など，多くの人がかかわり合って運営されていること
	責任性	持続可能な社会では多様な主体がよりよい社会に対して責任をもち，それを果たしていること	・それぞれの立場の人が，山古志のよさを伝えたり，多くの人を山古志に呼んで活性化につなげようとしたりしていること	・企業は，地域社会のよりよい暮らしに対してそれぞれの立場で貢献しようとしていること	・多くの人がそれぞれの立場で農業を　ＰＲして活性化させたり，現状を調査して改善策を検討したりしていること	・子育て支援施設は，安全・安心な子育てのために，取り組んでいること
	など					
Ⅱ	持続可能な社会を創り上げる活動に関わる技能					
	「自己を推進すること」に関わる技能	・自己評価・振り返りの仕方 ・目標設定の仕方 ・計画立案の仕方 等	・計画の作成方法（ワークシートに沿って考える） ・毎時間の問題に対する考えの変化を記した自己評価の仕方 ・地域の方への礼状の書き方			
	「相互に交流すること」に関わる技能	・他者理解の仕方 ・目標を共に設定したりビジョンを共有したりする方法 ・話し合いの仕方 等	・異年齢の人との話し合いの仕方 →中学生（傾聴の仕方），小学生（考えの伝え方，考えの可視化，整理の仕方） ・インタビューの仕方 ・メモのとり方（箇条書き，項目立て，関連付け）			
	「新たに開発すること」に関わる技能	・情報の把握 ・分析の仕方 ・試行修正の仕方や論理的思考の仕方 ・創造的思考の仕方 ・プレゼンテーションの仕方　等	・ＫＪ法やウェビング（アイディアの共有，整理，焦点化） ・ポスターセッションの仕方 ・５Ｗ１Ｈ（実現可能な現実的な提案への修正） ・パンフレットなどのまとめの表現の仕方（個々の伝えたいことが伝わるように）			

第５ステージ

単元名			持続可能な長岡の創造「よりよい長岡を目指して」			
			地域の誇りを生かす（まちづくり）	究極の商品開発（ブランド）	リサイクル活動の PR（自然環境）	子育てにおける多世代交流（ｺﾐｭﾆﾃｲ）
単元の概要			いくつもの災害を乗り越え，地域の人々の努力で復活した長岡花火の力強さを，次世代に伝えるための絵本作りを行う。	地域の活性化を目指して，地域の特産品を活用した新商品の開発に取り組む。	「長岡市ごみ情報誌」を活用してＰＲ活動を進める。市民一人一人の環境への意識を高め，住みよい町，循環型社会の実現を目指す。	中学生が，地域の子育て施設を利用する若い親子と触れ合い，子育ての大切さを共に学ぶ機会を作る。
学習内容Ⅰ	持続可能な社会を創り上げるための重要概念					
	有限性	自然・文化・社会・経済は，有限の環境要因や資源に支えられていること			・使用できる資源には限界があり，ゴミの再利用を通じて，限りある資源を循環させることが重要であること	
	多様性	自然・文化・社会・経済は多種多様な事物から成り立ち，多種多様な現象が起きていること	・長岡花火は，地震や戦争など大きな災いを経験しながらも，そのたびに復活し，年々工夫されて地域の人々の誇りとなっていること	・地域には様々な食材が存在し，それらを独自に組み合わせていくことで，新たな商品（価値）が生み出されること	・人々の生活からは様々なごみが排出され，様々な方法で処理が行われていること	・地域には様々な子育て施設があり，様々な親子が様々な理由で施設を利用していること
	相互性	自然・文化・社会・経済は互いに働き掛け合っていること	・長岡花火は，打ち上げに必要な自然条件，打ち上げにかかる費用など，様々な要素が考えられて実現していること			
	連携性	持続可能な社会では多様な主体が力を合わせていること	・長岡花火には，多くの人の地域を大切に思う心や，多額の費用を募金で集める苦労などがあること ・絵本を作成することで，子どもに花火の価値を伝えられること	・商品開発には，チラシの作成や，広告の掲載など，様々な人々がそれぞれの立場からかかわっていること ・開発のアイディアの提供やＰＲなどで地域の企業に貢献できること	・ゴミの処理に関わる様々な人の協力や，地域の人々の理解により，リサイクルが成り立っていること ・ＰＲを通して，自分もリサイクル活動に参加できること	・地域の子育てに様々な人や団体がかかわっていて，中学生もその輪に加わることが求められていること
	責任性	持続可能な社会では多様な主体がよりよい社会に対して責任をもち，それを果たしていること	・地域の一人として，長岡花火がもつ歴史的な背景や，地域に生きる様々な人々の思いを受け継ぎ，次世代へ伝える必要があること	・開発した商品を販売して利益を上げるために，役割分担して各自が宣伝を行う必要があること	・市の情報紙でＰＲするなど，ゴミの分別に対して意識を高める必要があること ・市民へ情報を提供する情報誌を作成するには，内容の正確さや締め切りの厳守など大きな責任があること	・子育てかかわる人々が子育てしやすい地域を創るためにどのような努力をしているかということ ・将来親になる自覚をもち，親としての在り方を考えること
		など				
学習内容Ⅱ	持続可能な社会を創り上げる活動に関わる技能					
	「自己を推進すること」に関わる技能	・自己評価・振り返りの仕方 ・目標設定の仕方 ・計画立案の仕方　等	・目標を明確にした計画作成の方法	・商品に対する地域のニーズを把握するためのアンケート項目の設定の仕方	・情報誌の読者層を拡大するための目標設定の仕方（若年層にターゲットを絞る）	・計画の途中の点検の仕方（目標に基づいて現状を批判的に評価すること）
	「相互に交流すること」に関わる技能	・他者理解の仕方 ・目標を共に設定したりビジョンを共有したりする方法 ・話し合いの仕方　等	・長岡花火の魅力を引き出すためのインタビュー項目の設定の仕方 ・意見をまとめるための話し合いの仕方（傾聴，復唱，口調，態度，表情，要約，言い換え）など	・独自性を生かせる食材を選定するためのブレインストーミングやバズセッションの仕方	・リサイクルに関わる地域の方の思いと，自分の重いとの重なりを明らかにするビジョン共有の仕方 ・共感的な態度で相手の思いを聞き出すインタビューの仕方	・ビジョンの共有の仕方（相手の思いと自分の思いの重なりを明らかにし，よりよい方向に進めるために互いに案を出し合うこと）
	「新たに開発すること」に関わる技能	・情報の把握 ・分析の仕方 ・試行修正の仕方や論理的思考の仕方 ・創造的思考の仕方 ・プレゼンテーションの仕方　等	・対象となる読者の発達段階に配慮した絵本の構成の仕方（分かりやすい絵，文字の読みやすさ）	・新たなメニュー作りに必要な要素をまとめるためのＫＪ法の仕方	・レイアウトを工夫した伝わりやすい情報誌の作り方	・プレゼンテーションの方法（対象，理由を明確にして，自分たちの企画の魅力を生かしたＰＲ文の書き方）

(2)　地域の実態を踏まえ，持続可能な社会の創造の視点の獲得が見込めるテーマを設定して，教材及び題材をつくり，社会参画の意識を高めること。

社会創造科では，身の回りや地域との接点をもちつつ，多様な人々とつながりをもつことを大切にしている。そのために身近な地域をフィールドとして学習を進めることは，子供たちにとって，人間一人一人の活動が身近な地域や社会生活に影響を与えるという認識につながり，これを積み重ねることにより，地球規模の問題にも関わり，持続可能な社会づくりを担っていこうとする意欲を持つようになることが期待できる。このようにして，社会的意識や積極性を持った子どもの育成につなげることが重要である。

テーマの設定例としては，

・『自然環境』（環境やエネルギー問題）
・『コミュニティ』（地域社会の基盤，福祉問題）
・『ブランド』（独自の技術，起業家精神）

などが考えられる。

(3)　問題解決のプロセスにおいては，他者と協働して問題を解決し，新たな価値を生み出していく学習活動が行われるようにすること。その際，身近な地域を含めた社会とのつながりの中で，様々な立場の人と協働して取り組む活動を位置付けること。

ステージを構成して学習を進める社会創造科では，学級や学年の仲間を越えて「協働型学習」を行う。年齢差のある仲間同士が，同じ目標に向かって互いの意見や考え方を尊重し合い，すり合わせながら学習をすすめる。これにより，年上の者が年下の者の意見を新たな価値として取り入れたり，年下の者が年上の者の立場を考慮した態度や憧れを抱いたりする力のはぐくみが期待できる。

また，地域の課題を実際に扱う過程で，地域の人との「協働型学習」を行う。地域の人とは，専門家や実際に課題の解決のために活動に取り組んでいる人を指す。子どもたちは，実際に課題に直面したり，解決場面に立ち会ったりする学習を通して，社会創造科の学習内容を確かに身に付けていくことが期待できる。また，関わった地域の人たちには，次のような恩恵が与えられる。

・自分たちの専門とする分野・領域の価値を，後に続く世代に伝えられる。
・直接の消費者である小・中学生の声を取り入れたり，新たな視点や発想を得たりすることができる。

このように，地域との「協働型学習」は，実社会の中で児童・生徒を育てるだけでなく，学校と地域とを密接に結び付け，地域の教育力を高めていくことが期待される。

【発達段階に応じた実社会の実体への参加】　※第1ステージは3歳児～5歳児前半

発達段階	実社会の実体への参加	具体的な活動例
5歳児後半 ～小学2年 第2ステージ	身の回りの人と共に遊んだり活動したりして，ひと･もの･ことへの愛情を感じ，愛着をもつ。	･身近な自然･人･社会に触れる遊びや活動
小学3年 ～小学4年 第3ステージ	地域の人とかかわり，ひと･ もの･ことへの愛情･愛着を深め，それらを守ろうとする。	･身近な地域の人の思いや願いをとらえるインタビュー ･身近な地域の人の活動への協力
小学5年 ～中学1年 第4ステージ	地域の課題を様々な立場からとらえ，その課題に対して地域の人と共に考える。	･地域の人の思いや願いをとらえるインタビュー ･課題の解決に向けた地域の人との話し合い
中学2年 ～中学3年 第5ステージ	地域の課題の解決に向けて，地域の人と手を携えて実際に取り組む。	･地域の人とのプロジェクトの共同企画･実施 ･課題に対する考えの提案･発信

なお，「発達段階に応じた実社会の実体への参加」を描く上で，当校園の第１次研究の以下の内容を参考に，整理し要約した。

第１～３ステージ

体験的に「ひと・もの・こと」への愛情・愛着を深める。愛情・愛着を深めることが「自己力」につながり，実社会の問題解決への動機付けをはぐくむことになる。ステージが上がるにしたがって，身に付けた内容を系統的に整理して自覚化し，意図的に用いて諸問題の解決に向かうことで４つの資質・能力を養う。

第４ステージ

第３ステージまでの学習をもとに，長岡に関する追求の大テーマの４つ，小テーマ８つ設定し，現在地域が直面している課題について考えていく。

第５ステージ

第４ステージの学習を生かし，子どもたちが住む長岡が直面している課題について地域の人とともに考え，ともに解決していく活動を通して，持続可能な社会を創り上げる体験をし，「開発力」を実践的に培う。

(4)　教師の意図，子供の願い，地域の人の期待等を総合的に考えて計画し実践するとともに，実態に応じて実践を修正すること。

社会創造科では，身の回りや地域との接点をもちつつ，多様な人々とつながりをもちながら学習を進める。年齢や立場などの違う様々な人々と考え，行動を共にすることは，すなわち多種多様な思いや考えに触れることになる。学習の過程では，計画段階で想定していた資質・能力や学習内容，学習活動を超えた新しいものが表出したり，必要になったりすることが考えられる。このダイナミックさこそ，社会創造科の重要な点である。学校教育を学校内に閉じずに，その目指すところを社会と共有・連携しながら実現するように努めることが大切である。

第５章　社会創造科を推進するための体制づくり

第１節　体制整備の基本的な考え方

各学校で適切に作成した指導計画を確実に実施するためには，校園内の指導体制の整備が必要不可欠である。そのための視点を三つ挙げる。

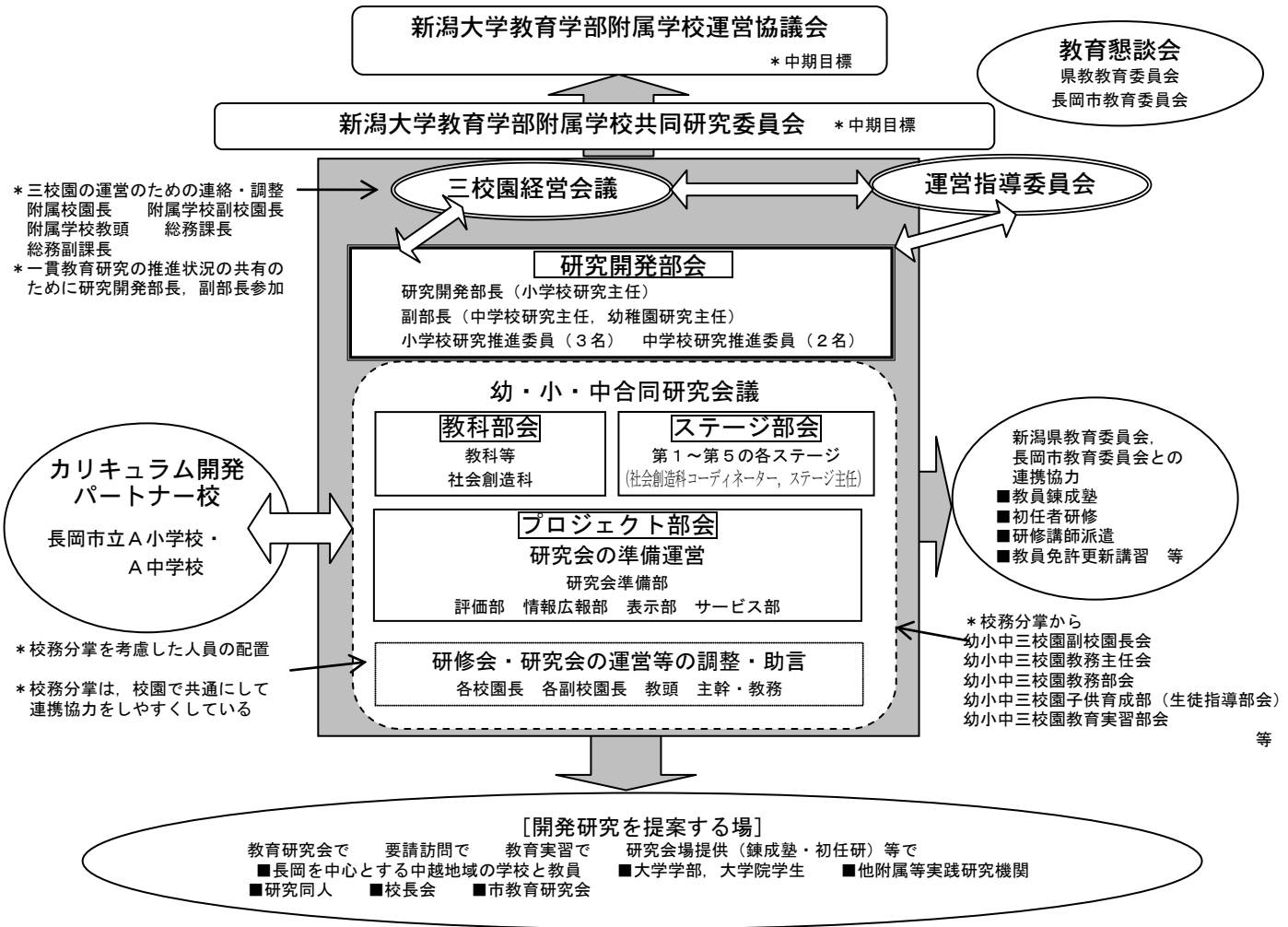
１　校内組織の整備
２　年間授業時数の確保と弾力的な授業時数の運用
３　外部連携を含めた環境整備

一つ目は，校内の職員が一体となり協力できる体制をつくるなど，校内組織の整備についてである。社会創造科ではグループ学習や異年齢集団による学習をはじめ，多様な学習形態の工夫を積極的に図る必要がある。その活動が円滑に進むためにも教職員が協力して取り組む体制整備は重要である。

二つ目は，年間授業時数の確保と弾力的な運用についてである。社会創造科ではその時間が確実に実施されるとともに，状況に応じて校外での学習や講師を招いての講話など柔軟な対応が求められる。授業時数を適切に運用することが欠かせない。

三つ目は，社会創造科を推進するためのに必要な外部連携を含めた環境整備についてである。地域の課題に気づくことは地域の方からの声や実態が欠かせない。このように，課題に対して問題意識をもち，その解決策について考え，深めていくためには，様々な場所での学習活動や多様な学習活動を行うことにつながる。充実した学習のために，空間，時間，人などの学習環境を整えることが重要となる。

地域や社会に存在する多様で幅広い教育力を活用することが社会創造科の充実を実現する。



第２節　校内組織の整備

●１　校長のリーダーシップ

各学校における教育課程は，校長のリーダーシップの下，全教職員が協力して編成していくものである。教師が互いに知恵を出し合ったり，実践上の悩みや課題について気軽に相談しあったりできる態勢づくりや雰囲気づくりも，校長をはじめとする管理職の務めである。

加えて，問題の解決や探究活動の広がりや深まりを促すために，校外の様々な人や施設，団体等からの支援が欠かせない。また，家庭の理解と協力も必要である。このことから校長はリーダーシップを発揮し，自校の社会創造科の取組について積極的に情報発信し，広く協力を求めていくことが大切である。

●２　校内推進体制の整備

社会創造科では，ステージや学年ごとに年間指導計画や単元計画等を作成したり，実施したりする。異学年合同で学習活動を行う場合は，学年の担当者を窓口に教師間の連携を図る必要がある。このことから，社会創造科部会，ステージ部会，学年部会は社会創造科を運営するうえで重要な役割をもつといえる。

社会創造科部会では，社会創造科の全体計画等の作成や評価，各分担及び学年間の連絡・調整，実践上の課題解決や改善等が打ち合わされる。年度始めや年度末，単元の開始時と終了時等に適宜設定されることが望ましい。

ステージ部会では，各学年や各テーマの学習活動の進捗状況の確認，校外活動の子供の動静把握，それに伴う引率や安全面の確保等が打ち合わされる。また，指導計画や指導方法等の改善について学び合うなど，研修の場としても大切な役割が期待される。単元の開始時と終了時や学習プロセスの進行状況を考慮しながら適宜設定されることが望ましい。

学年部会では，学級間，テーマ間の連絡・調整，指導計画の改善や実践に伴って次々と生まれる諸課題の解決や効果的な指導方法等について打ち合わされる。週に１回程度設定されることが望ましい。

●３　教職員の研修

社会創造科では，指導する教師の指導計画の作成と運用の能力，そして授業での指導力や評価力が必要である。そのためにも社会創造科の趣旨や内容等についての理解を，校内研修を通して教職員全体で確かにする必要がある。

校内での研修例は全教師が一堂に会して実施する講師を招いての講義といった全体研修や指導計画の作成やテーマに基づくワークショップなどといったグループ研修が考えられる。また，校外での研修としては，実地体験研修や教材収集研修等があげられる。

さらに，子供の作品や実践の記録を整理・保存し，いつでも活用できるようにしておくことも，研修の推進にとって有効である。

第３節　年間授業時数の確保と弾力的な授業時数の運用

社会創造科では，特に，１単位時間や年間を見通した授業時数の弾力化が必要となる。したがって，授業時数の確保が行われているかどうかを確認することが，一層重要となる。そのためにも，年間指導計画に授業時数を明確に示すとともに，生徒の時間割に社会創造科を位置付けることが欠かせない。さらには，週単位，月単位，学期単位などに応じて授業時数の確認を行い，年間授業時数が確保されているかどうかを十分把握しなければならない。

第４節　外部との連携の構築

社会創造科は，地域に愛情・愛着をもち，地域の課題を地域の人とともに解決していく教科である。地域の素材や地域の学習環境を積極的に活用することが重要である。

このような学習を実現するためには，保護者や地域の人々，専門家をはじめとした外部の人々や社会教育施設や社会教育関係団体等の協力が欠かせない。この時間において豊かな学習活動を展開するには，これらの地域の人々の協力を得るとともに，地域の教育資源などを積極的に活用することが望まれる。

外部連携に当たっては，一人一人の教師が個別に外部の教育資源を活用することが大切である。そのため，外部の教育資源を有効に活用するためのシステム作りが必要である。

（１）校外活動実施マニュアルの作成

社会創造科では，校外での学習活動が頻繁に実施される。地域の企業や人などと手を携えて活動するにあたって，訪問先にアポイントメントを取ったり，礼状を書いたりすることなどの一般社会のマナーを身に付ける必要がある。その都度指導をすることで校外での学習時間が十分に確保できない場合もある。それを避けるために，校外活動実施マニュアルを作成することが有効である。また，緊急時，災害時の対応についてもマニュアル化を図ることで，子供も教師もマニュアルに基づいて適切な行動がなされ，安全面も確保される。

（２）担当者や組織の設置

外部人材などと連携し，外部の教育資源を適切に活用するためには，校務分掌上に外部連携部などを設置し，外部と連携するための窓口となる担当者を置く。また，学校を支えてくれる地域の有識者との協議の場を設ける必要もある。そのためにも，教頭や教務主任などが地域連携の中心を担うだけでなく，地域連携のためのコーディネート役の教師を校内組織に位置付けることも考えられる。

（３）人材バンクの作成

学校外の教育資源を活用するために社会創造科に協力可能な人材や施設などに関するリスト（人材・施設バンク）を作成する。そのデータを，校内で共有化し，手軽に，日常的に活用できるように整備しておくことも考えられる。

こうしたリストを生かして，指導計画などを作成したり，具体的な学習活動を充実させたりしていくことが大切である。

（４）学習成果の伝達

保護者や地域の人々に社会創造科の成果を発表する場と機会を設けることも必要である。そのことにより，保護者や地域の人々は，社会創造科に関心を示すとともに，連携や協力の成果を実感し，満足感をもつことにもなる。こうした取組は，社会創造科が子供の成長につながるだけでなく，相手にとっても大きな成果を生む。学校と地域との間に互恵関係が生まれることが，息長く継続的な外部連携を実現することにつながる。このことは学校を地域に開くことにもつながり，保護者や地域との信頼関係を築く大きな要因となる。

「社会創造科」Q＆A

○社会創造科と総合的な学習の時間との違いは何ですか？

社会創造科は，「持続可能な社会を創り上げる資質・能力」をはぐくむための教育活動の場として当校園が創設しているものです。それは，持続可能な開発のための教育(ESD)*と重なります。また，習得すべき学習内容について，学習指導要領に明記しております。

総合的な学習の時間では，持続可能な社会の在り方を追究するESDと重なるテーマを設定する学校はあるでしょうが，そのようなテーマで必ず指導しなければならないという規定は，学習指導要領にありません。

一方，当校園では，そのようなテーマに特化した学習や活動をする場が重要と考え，学習指導要領に示して指導することが，今後必要であると考えています。そのため，総合的な学習の時間の時数をすべて社会創造科に充てています。

さらに，総合的な学習の時間との大きな違いは，社会創造科は地域の課題に携わっている人と共にその課題の解決に取り組むことです。そして，よりよい社会をつくるための「行動」をプロセスに位置付けている点にあるととらえております。

*Education for Sustainable Development
持続可能な開発（将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく，現在の世代のニーズを満たす開発や人間を支える生態系が有する能力の範囲内で営みながら，人間の生活の質を向上させること）のための教育

○社会創造科と生活科との違いは何ですか？

生活科の趣旨は，自立への基礎を養っていくことであり，そのために，直接体験を重視した学習活動を行うこと，身の回りの地域や自分の生活に関する学習活動を行うことに生活科の特質があります。

そのような活動の中で，子どもの知的な気付きの質を高めていくこと，社会や自然の環境に考慮していくことが重要とされています。

また，幼児など異年齢とのかかわりを大切にして，スタートカリキュラムとしての充実もねらわれています。

これらの内容は，社会創造科においても大切にして指導するため，生活科の時数をすべて社会創造科に充てています。

ただし，当校園では，社会創造科において，特に幼児や身近な人とのかかわる機会を充実させて，人・もの・ことへの愛情・愛着をはぐくむことを特に大切にしています。

○社会創造科と各教科等との関係はどうとらえていますか？

各教科等の資質・能力と社会創造科の三つの資質・能力には重なりがあります。この重なる資質・能力を「協働型学習」を通してはぐくみます。

子どもたちが，他者と共に，各教科等と社会創造科で重なる資質・能力を生きて働く力として様々な学習場面や生活場面で発揮しながら問題を解決することができれば，将来，社会が抱える多様な問題を解決し，持続可能な社会を創り上げることができると考えています。

幼児教育・各教科等・「社会創造科」ではぐくむ資質・能力で重点を置く観点

三つの資質・能力	観点	社会創造	幼児教育	国語	社会	算数・数学	理科	音楽	図工・美術	家庭・技術	体育	外国語	道徳	学活
自己を推進すること	自己の認識	●	○	○	●	○	○	●	○	○	●	○	●	○
	価値の認識	●	●	●	●	○	●	○	●	○	○	○	○	○
	立志・計画	●	○	○	○	●	●	○	●	●	●	●	○	○
	責任の遂行・粘り強い取組	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●
相互に交流すること	他者の認識	●	●	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○
	志の共有	●	○	●	○	○	●	●	●	○	○	●	●	○
	他者との協力	●	○	○	●	●	○	○	○	●	●	●	○	○
	対話や議論への参加	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●
新たに開発すること	現状の把握・分析	●	○	○	●	○	●	○	○	○	○	○	○	○
	熟考	●	○	○	○	○	●	○	●	○	○	○	○	○
	創造	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●
	発信	●	○	●	○	○	○	●	○	○	○	●	○	○

＊幼児教育・各教科等・「社会創造科」で重点を置く観点は●で表示。基本的には全ての観点を全ての教科ではぐくむ。

○社会創造科に時数を移譲している教科等は何がありますか？

新潟大学教育学部附属長岡小学校　教育課程表（平成２６年度）

	各教科の授業時数									道徳	外国語活動	特別活動	学総習合の的時な間	**社会創造科**	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育						
第１学年	276 (-30)		136		0 (-102)	68	68		102	34		34		132	850
第２学年	285 (-30)		175		0 (-105)	70	70		105	35		35		135	910
第３学年	230 (-15)	60 (-10)	175	90		60	60		105	35		35	0 (-70)	95	945
第４学年	230 (-15)	80 (-10)	175	105		60	60		105	35		35	0 (-70)	95	980
第５学年	160 (-15)	90 (-10)	175	105		50	50	60	90	35	35	35	0 (-70)	95	980
第６学年	160 (-15)	95 (-10)	175	105		50	50	55	90	35	35	35	0 (-70)	95	980
計	1341 (-120)	325 (-40)	1011	405	0 (-207)	358	358	115	597	209	70	209	0 (-280)	647	5645

新潟大学教育学部附属長岡中学校　教育課程表（平成２６年度）

	各教科の授業時数									道徳	特別活動	学総習合の的時な間	**社会創造科**	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	技術・家庭	保健体育	外国語					
第１学年	135 (-5)	100 (-5)	140	105	45	45	70	105	140	35	30 (-5)	0 (-50)	65	1015
第２学年	135 (-5)	100 (-5)	105	140	35	35	70	105	140	35	35	0 (-70)	80	1015
第３学年	100 (-5)	135 (-5)	140	140	35	35	35	105	140	35	35	0 (-70)	80	1015
計	370 (-15)	335 (-15)	385	385	115	115	175	315	420	105	105 (-5)	0 (-190)	225	3045

例えば，小学校5・6年生の国語科おける，福祉やまちづくりについての調べ学習にともなう「話す聞く活動」「レポートによるまとめ」などの学習内容を移譲しています。国語科では，話し方，聞き方やレポートの書き方の概略については，学習しますが，実際の調べ活動や調べたことをもとに表現する活動は，社会創造科の中で，より実践的に行います。

〇学習内容に設定している五つの構成概念は，社会科や理科等と重なるところはないのですか？

社会や理科の学習内容とも重なっています。しかし，社会科や理科は持続可能な社会を目指すための資質・能力を直接的にはぐくむことに特化した教科ではありません。社会創造科は資質・能力を働かせながら五つの重要概念を視点とした学習内容を習得していきます。

〇社会創造科とESDは同じなのですか？

社会創造科は，ＥＳＤの理念である「持続可能」を視点に，価値観や行動に実現を目指している点，持続可能な社会をつくる担い手となる人材の育成を目指している点，コミュニケーション能力や体系的な思考力をはぐくむ点等大きく重なります。ＥＳＤは，戦争，枯渇，食糧危機など，広い範囲に渡る問題を解決し，持続可能な社会を目指すために，既存の各教科等の学習を通して新たな価値観や行動を生み出す力を身に付けることを目指す学習や活動です。

社会創造科は，「長岡」という地域にある問題を解決する活動を通して，持続可能な社会を創りあげる力を身に付けるための新しい教科です。

特に，社会創造科では，学習内容をはっきり規定していることが特徴です。

また，地域をフィールドとし，地域に働きかけたり，地域の問題を実践的に解決したりする探究的な学習を進めます。

さらに，これらの学習を幼小中の 12 年間で系統的にすすめ，持続可能な社会を創り上げる資質・能力を培うことが最大の特徴です。

○それぞれのステージではどのように資質・能力をとらえていますか？

各ステージで，資質・能力の発展を描いています。具体的には，以下の表のとおりです。

新設教科「社会創造科」で育む資質・能力発展表

	観点	社会創造科の見解	幼児教育	第２ステージ	第３ステージ	第４ステージ	第５ステージ
自己を推進すること	自己の認識	あるがままの自己の姿を見つめ，広い視野，長期的な視点に立って，自己を伸長したり改善したりする視点をとらえること。	自分のよさが分かる。	自分のよさが分かる。	自分の特徴を自分のよさとしてとらえ，よりよい自分づくりに向けて必要なことを明らかにする。	自分の特徴が地域の中でどのように生かせるかを考え，よりよい自分づくりに向けて必要なことを明らかにする。	自分が地域社会を構成する一員であることを自覚し，自分の特徴がどのように生かせるか考え，よりよい自分づくりに向けて必要なことを明らかにする。
	価値の認識	ひと・もの・ことのもつよさをとらえ，それを生かしたり守ったりしていこうとする愛情や愛着をもつこと。また，持続可能性の視点から地域の資源をとらえ，それを生かしたり守ったりすべきだと考えること。	身の回りの「ひと・もの・こと」に興味・関心をもち，繰り返しかかわりながら愛情を感じ，愛着をもつ。	身の回りの「ひと・もの・こと」へ繰り返しかかわることを通して愛情を感じ，愛着をもったり，そのよさを見いだしたりする。	身近な地域の自然や人に繰り返しかかわることを通して愛情を感じ，愛着をもったり，そのよさを見いだしたりする。	地域の問題に対して，それにかかわる人の思いや願い，考えとをふまえ，現状をとらえ，地域のよさを見いだす。	地域社会の事象や問題について，それにかかわる人の思いや願い，考えをふまえ，現実を深くみつめ，持続可能の視点から，地域社会のよさを見出す。
	立志・計画	あるべき姿やなりたい自分を思い描き，それに向かう強い心をもち，実現に向けて目標や見通しを立てたり段取りをしたりすること。	自分のやりたいことをするために，思いやイメージ，大まかな見通しをもつ。	身の回りの「ひと・もの・こと」と楽しくかかわりたいと願い，その実現に向けて，自分で目標を立てたり，活動の手順を考えたりする。	身近な地域や自然をよりよくしたいと強く願い，その実現に向けて，自分で活動の目標や計画を立てる。	地域の問題を解決したいと強く願い，その実現に向けて，自分で活動の目標や計画を立てる。	地域社会の問題を解決したいと自ら強く願い，自分で目標や長期的な計画を立て，それに逐次修正を重ねる。
	責任の遂行・粘り強い取組	よりよい社会を築くための自分の役割を自覚し，確実に実行すること。また，うまくいかない現実に直面しても，あきらめずに取り組むこと。	自分の思いをもとに納得するまで遊んだり，やらなければいけないことをきちんとしたりする。	自分の役割に責任をもって取り組んだり，うまくいかないことがあっても最後まで取り組んだりする。	自分の役割に責任をもって取り組んだり，うまくいかないことがあっても最後まで取り組んだりする。	自分の立場・役割に責任をもって取り組んだり，自分たちと地域の人の思いや願い，考えが違うことがあっても最後までやり遂げたりする。	自分の立場・役割に責任をもって取り組んだり，地域社会の現状や実情に対して柔軟に対応しながら，最後までやり遂げたりする。
相互に交流すること	他者の認識	様々な立場の人の思いや願い・考えをとらえ，思いやること。	身の回りの人の存在を感じ，人とかかわるよさや楽しさを感じる。	自分の思いや願い，考えだけでなく，仲間にも思いや願い，考えがあることを知り，大切にする。	自分の考えをよりよくするために，自分の考えと同じように，身近な地域の人や仲間がもっている考えを大切にする。	地域の問題解決に向け，それにかかわる人の思いや願い，考えを大切にしたり，仲間の思いや願い，考えを大切にしたりする。	地域社会の問題解決に向け，それに取り組む人の思いや願い，考えを大切にしたり，実践する過程でかかわる様々な人の考えを大切にしたりする。
	志の共有	様々な立場の人の思いを共感的に理解し，重なる思いを強くしたり，目標の共有に向けて互いのずれを克服しようとしたりすること。	みんなで遊ぶ際に，お互いがもつ遊びのイメージを重ね，遊びの内容を友だちと一緒に決めている。	一緒に活動するために，仲間の思いや願い，考えを聞き，目標を立てる。	一緒に活動するために，相手の思いや願い，考えを理解し，自分とのずれに気付き，その克服に向けて自分の考えを変化させ，目標を立てる。	地域の問題解決に向け，それに関わる人の思いや願い，考えを共感的に理解し，自分の考えとのずれに気付き，その克服に向けて自分たちの考えを柔軟に対応させ，目標を立てる。	地域社会の問題解決に向け，それに取り組む人の思いや願い，考えを共感的に理解し，自分の考えとのずれを明らかにし，その克服に向けて自分たちの考えを柔軟に対応させ，ともに目標を立てる。
	他者との協力	集団の構成者としての互いの立場や役割を理解し，目的に向かって力を合わせて取り組むこと。	友だちと一緒に準備をしたり，片付けたりしている。	目的を達成するために，仲間と考えを出し合い，共に行動する。	共通の目的を達成するために，考えを出し合いながら，力を合わせて取り組む。	地域の問題解決を解決するために，地域の人と考えを出し合いながら，力を合わせて取り組む。	地域社会の問題解決をするために，さまざまな人と考えを出し合いながら，力を合わせて取り組む。
	対話や議論への参加	様々な立場の人との話し合いを充実させるために，準備したり，話合いの方法を工夫したり，建設的に参加したりすること。	友達と一緒に遊ぶ際に，友達の思いや考えを聞いたり，自分の思いや考えを進んで話したりする。	話合いで，相手の思いや願い，考えを聞いたり，自分の思いや願い，考えを伝えたりする。	一緒に活動するための話合いで，身近な地域の人や仲間の思いや願い，考えを聞き，それを知った上で，自分の思いや願い，考えを伝える。	地域の問題解決に向け，それに関わる人との話合いに積極的に参加したり，工夫して話合いを進めたりする。	地域社会の問題解決に向けて，さまざまな人との話合いに建設的に参加したり，工夫して話合いを進めたりする。
新たに開発すること	現状の把握	身の回りの事象・現象や，現実に起きている地域の問題をとらえるとともに，その背景や原因・仕組みを，明らかにしていくこと。	身の回りの「ひと・もの・こと」に繰り返しかかわながら遊ぶ際に，「どうして～になるのだろう」「～するとよいかも」と考える。	身の回りの「ひと・もの・こと」へ繰り返しかかわることを通して，問題を見いだし，自分の事としてとらえる。	身近な地域の自然や人に繰り返しかかわることを通して，具体的な事例から問題を見いだし，自分の事としてとらえる。	地域の問題に取り組む人とかかわることを通し，現実に起きている地域の問題や実情について，その背景や原因，しくみを持続可能の視点からとらえる。	地域社会の問題に取り組む人とかかわることを通し，現状について，その背景や原因，しくみを，持続可能の視点からとらえる。
	熟考	身の回りや地域の問題の解決方法について，様々な知識を組み合わせたり，試行錯誤したり，考えの筋道を時味したりして，よく考えること。	身の回りの「ひと・もの・こと」に繰り返しかかわる中で満足いかないことに対して，今までの遊びを生かして試行錯誤しながら遊ぶ。	身の回りの「ひと・もの・こと」にかかわる問題に対して，自分なりの方法を考え，試行錯誤しながら解決を試みる。	身近な地域の自然や人にかかわる問題に対して，根拠のある解決方法を考え，試行錯誤しながら解決を試みる。	地域の問題に対して，様々な知識や情報を収集し，それらを組み合わせ，根拠のある解決方法を考え，試行錯誤しながら解決を試みる。	地域社会が抱える複雑な問題に対して，幅広い視点で様々な知識や情報を収集し，それらを組み合わせ，根拠を明らかにした解決方法を考え，試行錯誤しながら解決を試みる。
	創造	持続可能性の視点から，新しい問題や課題を掘り起こしたり，解決の新しい形を描き出したり，新しい解決方法や考え方を生み出したりすること。	身の回りの「ひと・もの・こと」」に繰り返しかかわる中で，遊びのイメージを膨らませながら，遊びを工夫したり創り出したりする。	身の回りの「ひと・もの・こと」にかかわる問題に対して，仲間の考えを聞きながら，よりよい考えをつくる。	身近な地域の自然や人にかかわる問題に対して，身近な地域の人や仲間の考えを聞きながら，よりよい考えをつくる。	地域の問題に対して，持続可能の視点でよりよい考えをつくる。	地域社会が抱える複雑な問題に対して，持続可能の視点で有効なよりよい考え，新たな考えをつくる。
	発信	場面や目的に応じて表現方法を工夫し，自らの思いや願い，考えを効果的に表し，他者や社会を啓発すること。	身の回りの「ひと・もの・こと」に繰り返しかかわる中で，自分の思いや考えを，自分なりの方法で伝える。	身の回りの「ひと・もの・こと」にかかわる中で，感じたことを言葉で表したり，取り組んだことを伝えたりする。	身近な地域の人にかかわる中で，自分の感想や考えを区別して伝える。	地域の人とかかわる中で，相手に応じて内容をまとめなおしたり，表現方法を工夫したりして，自分の思いや願い，考えを伝える。	さまざまな人とかかわる中で，相手や場面，目的に応じて表現方法を工夫し，自分の思いや願い，考えを効果的に伝える。

○評価はどのようにしていますか？

社会創造科では，ポートフォリオから子供の成長を評価します。その際に，単元のプロセスの各過程における形成的評価と，単元終末時に単元の学習を１枚にまとめたもの（凝縮ポートフォリオと呼ぶ）を中心とした総括的評価を行います。

■形成的評価について

単元の終末に凝縮ポートフォリオを作成する際に，必要と考えられる様々なワークシートや製作物，感想，途中評価など（元ポートフォリオと呼ぶ）を単元のプロセスの各過程に位置付けます。プロセスの各過程で，元ポートフォリオに基づいて形成的評価（教師評価，自己評価，生徒同士の相互評価，保護者による評価など，必要に応じて選択）を行い，生徒の学びを価値付けたり，新たな方向性を示唆したりします。

■総括的評価について

生徒は，自分の学びの成果を最大限アピールするために，使用する元ポートフォリオを取捨選択し，それらを効果的に活用しながら凝縮ポートフォリオを作成します。教師や保護者は，生徒が自分の学びの履歴として配列した元ポートフォリオと，その集大成としての凝縮ポートフォリオをもって学習内容Ⅰ・Ⅱおよび資質・能力のはぐくみを見取ります。

※第２ステージ（5歳児後半～小学２年生）の場合

○　5歳児はポートフォリオ評価の対象外とし，教師による見取りをカルテとして蓄積し，それをもとにした継続指導の結果を評価とします。

○　小学１～２年生は，可能な範囲でポートフォリオ評価を行います。（凝縮ポートフォリオは課さず，元ポートフォリオによる形成的評価を中心として子供の様子をカルテに蓄積し，単元末に総括的評価を行います）

【評価計画の作成】

各教科と同じ形式の単元計画を作成し，評価の部分を「評価計画」として別に作成します。

※　資料１（社会創造科　「５ｓｔ　中３　まちづくり（防災）」におけるポートフォリオ評価計画）参照

【評価の実際】

作成した評価計画を元に，「単元のプロセスと身に付けたい力」を作成します。それを生徒に示した上で活動に取り組み，振り返りをさせます。教師はそれらの元ポートフォリオで生徒の状況を把握し，指導に生かすとともに，単元終末の凝縮ポートフォリオで総括的評価を行います。

※　資料２－①（５ｓｔ社会創造科　中期単元「防災コース」単元のプロセスと身に付けたい力）および資料２－②（ポートフォリオ評価の実際）参照。

資料１

社会創造科「第5ステージ　中３　まちづくり（防災）」におけるポートフォリオ評価計画

学習内容と評価の対応表

プロセス	活動内容 ※各プロセスにおける主な活動内容を記述	評価材料 ※ポートフォリオに入れるワークシートなどの製作物などを記述	学習内容Ⅰ					学習内容Ⅱ			資質・能力											
			A			B																
			有限性	多様性	相互性	責任性	連携性	A	B	C	自己の認識	価値の認識	立志・計画	責任・粘り	他者の認識	志の共有	他者との協力	対話・議論	現状把握	熟考	創造	発信
出会う・気付く	○防災とは何か ・防災の基礎を学ぼう	・学習シート①「防災についてもっと知ろう」									○	○										
	○ハザードマップを調べる ・フィールドワークにいこう	・フィールドワークノート								○									○			
	○講話・見学 ・地域の防災施設へ行こう	・メモシート		○		○	○		○			○			○							
調べる・問題をもつ	○関心のある分野を調べる ・防災について詳しく調べよう（ハザードマップ，防災グッズ，防災食，避難所運営など）	・学習シート②「防災について，興味を持った事柄を詳しく調べよう」		○						○									○			
	○問題点を把握する	・学習シート②「調べた結果生じた問題意識」								○											○	
考える	○企画を考える ・企画会議 ・アポイントメント ・関係する地域の方との交渉 ・地域の方との意見交換	・企画書①「私たちが提案する防災」				○							○							○		
		・アポ取りｼｰﾄ「依頼する内容を整理しよう」							○								○					
		・学習シート③「企画会議の内容」					○		○						○	○	○	○				
行動する	○企画の実施	・企画書②「会議を生かした詳しい企画内容」				○	○			○							○			○	○	
		・報告書（イベント関係） ・製作物（マップやパンフ）「取組の振り返り」									○	○										
評価する	○活動の振り返り ・防災とは何か，活動を通して学んだことをまとめる	・凝縮ポートフォリオ「私にとって防災とは」		○		○	○	○			○	○								○	○	○

評価規準と具体例

	学習内容（Ⅰ，Ⅱ）の獲得と資質・能力（〇資）の評価規準	規準をクリアしている具体例
出会う・気付く	【資自己の認識】～自分の日常を振り返り，防災の意識や知識についてとらえる 【資価値の認識】～防災の大切さについてとらえる	・思った以上に防災の意識が低いことがわかった。防災には予防・対策・復旧が大切で，私たちも自分にできる防災について考えていく必要があるな
	【ⅡC視点を明確にした調査方法】～どこで何を調査したいのか明確な目的をもって調査する 【資現状の把握・分析】～ハザードマップをもとに，地域にどのような問題点があるか明らかにする	・フィールドワークノートに，「高齢者の逃げやすさ」などの視点が明確に記入されている ・私たちだったら気にならないけれど，高齢者が避難すると考えると，この段差が危ないと思う。
	【ⅠA多様性】～地域では様々な防災の取組がある 【ⅠA責任性】～防災にかかわる人は，安全な地域を実現するために一生懸命取り組んでいる 【ⅠA連携性】～地域の人は，防災に協力し合って取り組んでいること 【ⅡBメモのとり方】～目的意識をもって講話を聞いて端的にメモを取ること 資：価値の認識～安全な地域を創造するために防災が大切な役割を果たすことをとらえる 他者の認識～防災にかかわる地域の人の思いや願いをとらえる	・メモシートに「防災意識を向上させるための取組は」などの聞きたい内容が明記されている ・「防災意識→イベントや広報でのＰＲ」「☆防災に市民が参加できる機会の増加」など，疑問への答えについて記号を用いたり，端的な言葉で表現したりしている ・安心で安全な地域を作るために，いろいろな立場の人が，強い思いをもち協力して様々な取組を行っているのだな。
調べる・問題をもつ	【ⅠA多様性】～防災の取組について，いろいろな立場の人が様々な活動を行っていること 【ⅡC情報の集め方】～インターネットや広報誌などの活用方法 【資現状の把握・分析】～防災の取組についていくつかの情報源から，より詳細な情報を集めること	・ハザードマップは行政が作成しているけれど，地域や小中学生も自分たちの住む地域を調査し，自分たちなりのマップを作成したりしているのだな。
	【ⅡCアイデアの出し方】よさを伸ばす方策と，課題を克服する方策の両面から考える 【資創造】～新しい視点で，地域の防災の取組を考えること	・ハザードマップで浸水区域はよく分かるが，子供にはわかりづらい。イラストや吹き出しなどを活用した新たなハザードマップをつくりたいな。
考える	【ⅠB責任性】～安心・安全な地域のために，自分たちにできる防災を考えている 【資立志・計画】～地域の防災に役立ちたいと願い，目標をもって取組を進めること 【資熟考】～防災意識を高めるため，学んだことや生活経験を結集して解決策を考えること	・子どもの防災意識を高めるためには，子どもにわかりやすいハザードマップを作ることが大切。そのためには，マップに見やすさを意識して，子ども目線で必要な情報を書くことが大切だな。
	【ⅡB依頼の仕方】～何のために，何をお願いしたいのかを明確に，失礼のないように伝える 【資他者との協力】～問題解決に向け，どのように地域の人の協力を仰ぐかを考えること	・危機管理室の方に，もう一度ハザードマップについて聞きたい。自分たちが考えているマップの特徴をしっかりと伝え，アドバイスをもらう時間をとってもらえるかな。
	【ⅠB連携性】～防災の取組を進めるために，地域の人の協力が大切であることを感じている 【ⅡB企画分析の方法】～思考ツールを活用して企画の練り上げを行う 【資責任の遂行・粘り強い取組】～企画の不備を素直に受け入れ，あきらめずに改善を図ろうとすること 【資他者の認識】～防災に取り組む地域の人の考えを大切にすること 【資志の共有】～願いを地域の人と共有し，心を合わせて安全な地域を作ろうとすること 【資他者との協力】～地域の人とともに防災に取り組むこと 【資対話や議論への参加】～地域の防災に向けた話し合いに主体的に臨む	・積極的に自分たちの考えを伝えたおかげで，ハザードマップの作成について，自分たちだけでは分からない専門的な視点がもらえた。自分たちの考えには足りないところが多かったが，意図は評価してもらえた。アドバイスを生かしてよいものにしていきたい。
行動する	【ⅠB責任性】～地域の人のアドバイスを生かしてさらに良い取り組みを考えようとすること 【ⅠB連携性】～地域の人のアドバイスを生かし，共に取り組む防災計画を立てている 【ⅡC企画書の書き方】～５Ｗ１Ｈなど，実行に移すための具体的な手だてが書かれている 【資他者との協力】～仲間や地域の人とともに取り組む内容を企画書に記載すること 【資熟考】【資創造】～地域の人や仲間の考えを最大限生かしながら，新たな企画を立てること	・どこに，どのようにアドバイスが生きているか，地域の人との協力をどのように描いているか，企画は具体的で実現可能なレベルか，などを，企画書①と比較して見取る
	【資自己の認識】～企画に関する自分の考えの深まりを自覚すること 【資価値の認識】～企画の価値を自覚すること	・今までは意識しなかったけれど，ハザードマップを作るのはとても難しい。けれど，地域の安全をみんなが意識し，いざというときに備えるためには絶対必要なものだ。
評価する	【ⅠA多様性】～自然災害に対し，様々な世代や立場の視点から多くの対策が取り組まれていることを知り，自分たちでも主体的に取り組めることがたくさんあることに気付くこと 【ⅠB責任性】～防災に関わる人たちの，安心・安全な地域を作りたいという切実な思いに気付くこと。当事者意識をもって防災について考え，行動する大切さに気付くこと 【ⅠB連携性】～防災には多様な主体が協力し合って取り組んでいることに気付くこと。防災意識や取組を広めるために，多くの人に協力してもらう必要性に気付き，共に行動すること 【ⅡA凝縮ポートフォリオの書き方】～学びの履歴から自分の考えの深まりを示すうえで有効なものを取捨選択し，それを基に１枚の凝縮ポートフォリオに学びの成果をまとめる 【資自己の認識】～防災について自分の意識の変容や深まりを自覚すること 【資価値の認識】～防災について学ぶ価値を認識し，今後も取り組み続ける価値に気付くこと 【資熟考】～自分の学びの成果は何なのかを，いくつかの証拠を基に考えること 【資創造】～とらえた自分の学びの成果をまとめること 【資発信】～わかりやすく，伝わりやすい形で凝縮ポートフォリオを工夫すること	

資料２-①

５ｓｔ社会創造科　中期単元 「防災コース」 単元のプロセスと身に付けたい力

プロセス		出会う 気付く ※個人・グループ	調べる 問題をもつ ※個人・グループ	考える ※グループ	行動する ※グループ	評価する ※個人
主な活動		・防災とは何か ・防災について何を知るべきか ・防災について知る（フィールドワーク） （講話・見学）	・関心のある分野を調べる（ハザードマップ，市や地域の取組，防災グッズ，防災食，避難所運営など） ※関連する地域の方との交渉（アポ取り） ・問題点を把握する	・自分たちにできることや提案を考える ・企画会議 ・地域の方との意見交換	・企画実施	・振り返り
身に付けたい力	**行動・態度**	**○自分の知っていることや取れる行動などを認識する。 ○自分に必要な情報が分かる。 ○今後の活動に見通しをもつ。**	**○必要な情報を収集する。 ○仲間と協力する。 ○地域の人の考えを理解し，ともに活動しようとする。 ○解決が必要な問題を把握する**	**○自分のやることに責任をもつ。 ○積極的に話し合いに参加する。 ○よりよい意見を考える。**	**○主体的に行動する。 ○必要に応じて臨機応変に振舞う。**	**○自分の成長を感じる。 ○仲間の成長をとらえ，評価する。**
	技能	**○フィールドワークの計画の立て方 ○防災にかかわる様々な仕事 ○効果的なメモのとり方**	**○情報収集の仕方 ○情報整理（分析）の仕方 ○話し合いをうまく進める方法**	**○企画の立て方**		**○評価の視点**
月日		９／１５ １０／６，１３	１０／２０，２７ ※調べは各自でも行う	１１／１週目 １１／１０	１１／１７，２４	１２月初旬

※プロセスの通り進むとは限りません。グループによってはプロセスを行ったりきたりするかもしれないし，すぐに行動にたどり着かないグループもあるかもしれません。地域の人とのかかわり方も様々でしょう。また，グループもいくつできるか分かりません。皆さんの関心・意欲，地域の方の状況などにもよります。その都度，臨機応変に進めていく必要があります。そのためには，各自がしっかりと目標をもち，見通しをもって進めていくことが大切です。

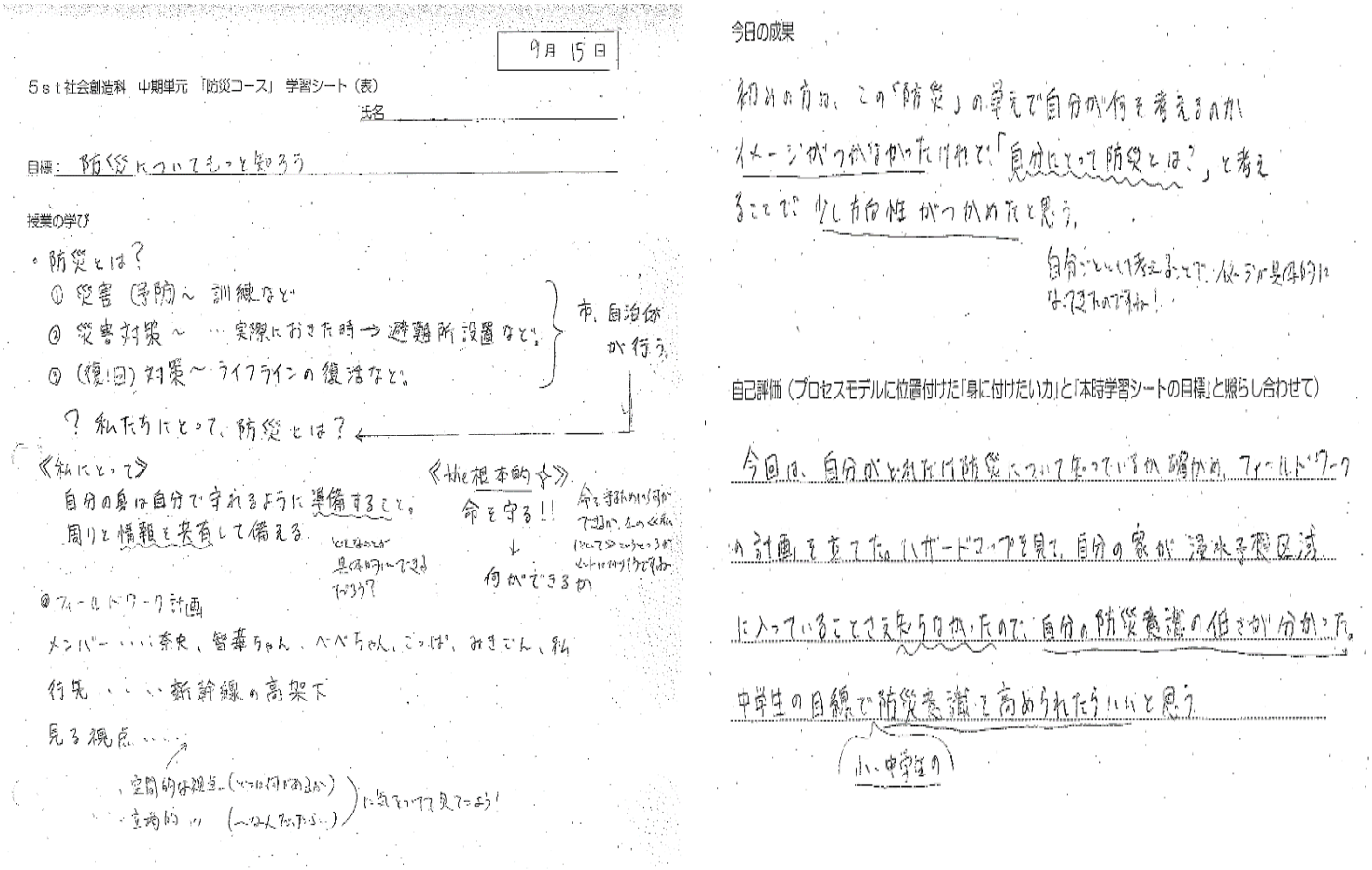
資料２－②

ポートフォリオ評価の実際

○「出会う・気付く」の過程におけるポートフォリオ評価

＜第１時＞

単元の始まりに当たり，防災とは何かについて基礎的な情報を得ることと，生徒が自身の防災意識にあらためて目を向けることをねらった。そこで各家庭の災害への供えを調べる課題を課し，その結果の交流や，市が作成した防災クイズなどへの取組を授業に取り入れた。その結果，「自分にとって防災とは」と自問自答して考えを述べたり，自分自身の防災意識の低さを認識したりする姿が見られた（「自己の認識」「価値の認識」）生徒は学びの成果を記述し，振り返りによって今後の活動の期待をもつ姿が見られた（「価値の認識」）※図１参照



【図１】

また，次回の活動（ハザードマップを見ながらのフィールドワーク）に向けてグループで調査の視点にアドバイスを見出させた。教師はあげられた視点をもとに子供と対話をし，アドバイスを行い，活動への見通しをもたせた。

＜第２時＞

ハザードマップを元に，浸水想定地域や避難所の様子，避難経路の状態などを調査するために，フィールドワークに出かけた。その際に，生徒は前回見出した視点を元に調査をし，記録写真を撮ったりメモを取ったりするなどして詳細に調査を行った。結果，計画上で定められていても，お年寄りや小さな子供では避難が難しいのではないかという課題を自分たちなりに見出していった（「現状の把握・分析」）。

＜連休中の自主調査＞

9 月の連休中に，次回訪問する長岡市危機管理防災本部への質問事項を考えることや，防災食の作成，今後取り組んでみたい防災の取り組みについて考える課題を設定した。生徒は，今までの学習から浮かんだ疑問について自分なりに調査をしつつ，それでもわからない質問を書き出したり，今後取り組んでみたい内容について記入したりしていた。教師は生徒の思いや願いをとらえ，ワークシートにその価値を記入したり，直接話しながら生徒が今後取り組みたいと考えている内容に助言を与えたりした。※図２参照

○10 月 13 日に、危機管理防災本部を訪問し、質問したり施設見学をしたりする機会があります。なかなかないチャンスですので、どのようなことを聞きたいのか、どのようなものが見たいのかを明確にしておきましょう。

私たちはクイズをやってみて半分くらいしか知っていなかった。だから、

・HP や防災フェアなどの他に防災を広めるために他にやっていることはあるか。

目的）もっといろんな世代（例えば中学生、子供）にも防災が広まるといいと思うからそのためになにをしているかが知りたい。

・普段から防災にたずさわっているけどいつも一番強く思っていることは何か。（一番の願い）

目的）防災というコースは初めてでどういうふうなことをゴールにやっていけばいいかあまりわからない。だから危機管理防災本部の人たちの願いと同じような気持ちでやればいい追求ができると思ったから。

○防災について、特にどんなことをしてみたいですか？

私たちがクイズをやってみてあまり知らなかったということは、私よりもっと小さな子（小学生とか）はもっと知らないと思う。だから小さい子をターゲットにした防災をしてみたいです。

◎おもしろそうです。時間には限りがあるので ぜひ協力して進めれば。

【図２　連休中の自主調査】

＜第３時＞

長岡市危機管理防災本部を訪問し，長岡市で取り組まれている防災について学んだ。実際に消火や地震・煙などを体験することにより，防災への取組の重要性を再認識する姿が見られた（「価値の認識」「多様性」）。また，礼状への記述から，地域における防災の取組の大切さを実感したり（「他者の認識」「連携性」），今後取り組んでいきたい活動を少しずつ具体的にし，意欲を高めたりしている生徒も多数見られた（「価値の認識」）。

教師はそれをとらえ，生徒たちに次から何をしていけばよいのか，自分たちで考えていくことが大切であることを告げ，個々に相談する中でグループごとの取組の内容をより明確にしていった。※図３参照

防災関連のイベントに行ったことがなかった私には、地震体験や煙体験、消火器を使った模擬消火などがとても新鮮に感じられ、同時にいつそれらが起こるかわからない恐ろしさも知りました。特に消火器の模擬消火は、もしかしたら日常生活の中で使うかもしれない（そのようなことはあってほしくないですが）ので、本当に勉強になりました。

私は今後の活動として避難所の運営・設置などに興味があります。災害が起きてしまった後に、いかに早く生活をとり戻すか、いかに早く復興に近づけるかを中学生の視点からでも考えていけたら良いと思っています。今回学ばせていただいた様々なことを、次につなげていきます。

また、この体験は、町内や防災のイベントとしても行われているということなので、防災についてより身近に感じられるような工夫がされていることが分かりました。

今後、私たちの活動は「防災」というテーマで、中学生でも出来るような防災の仕方を考えています。その時、今回学んだ体験を生かしていきたいです。

【図３】

この例のように各ステージ，各テーマで評価を進める。

「12年間の単元配列表」(2015年版)　　⇕ は異年齢・異学年による合同活動・学習を示す。

ステージ	学年＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
5	中3	前期単元（ブランド）			中期単元（ブランド，まちづくり，コミュニティ，自然環境）					後期単元（持続可能な社会の創造に向けて			
	中2	前期単元（ブランド）			中期単元（ブランド，まちづくり，コミュニティ，自然環境）					後期単元（修学旅行と関連して　異文化理解）			
4	中1	前期単元（コミュニティ）※小中合同			中期単元（ブランド・自然環境・まちづくり）					後期単元（研修旅行と関連して　キャリア教育）			
	小6				中期単元（まちづくり）					後期単元（コミュニティ・まちづくり）			
	小5	前期単元（ブランド，自然環境）			中期単元（ブランド・自然環境）					後期単元（自然環境）			
3	小4	栖吉川の今と昔　長岡野菜を作ろう		おじいちゃんおばあちゃんに会いに行こう			栖吉川の今と未来		みんなでつくろう仲良しフェスティバル	長岡の先人に学ぼう	2分の1成人式を成功させよう		
	小3	楽しもう百年の森		長岡野菜を作ろう			もっと楽しもう百年の森		みんなでつくろう仲良しフェスティバル	錦鯉となかよし	錦鯉となかよし　伝えよう長岡の民話		
2	小2	学校探検をしよう	遊び発見大好き栖吉川	いっしょにあそんで	大きくなあれやさいさん			手作りおもちゃの遊園地を作ろう			昔の遊び探検隊		
				まちたんけんに行こうパート1				まちたんけんに行こうパート2			冬のくらしを楽しくしよう		
											お店屋さんごっこをしよう		
	小1	大好き附属小学校		いっしょにあそんで			つくってあそぼう	ぼくわたしにできる家のこと			雪で作って一緒に楽しもう		
		大きくなってねお花さん							つくってあそんでなかよしに				
			遊び発見大好き栖吉川				秋のしぜんでつくってあそぼう				おめでとうよろしくね新1年生		
1	幼5歳	ばら組さんと出かけよう・お花見散歩	友達と遊ぼう	みんなで遊ぶと楽しいね			中学3年生と遊ぼう		小学1年生と仲よしになろう		小学1年生ともっと仲よしに		
						校園合同運動会	探検遠足		いっしょにやってみよう		ようこそ小さいお友達	ありがとうおめでとうもり組さん	
	幼4歳	お花を探しに・お花見散歩		一緒に遊ぼうよ		校園合同運動会	力を合わせて・探検遠足		中学3年生と遊ぼう		小2と雪遊び そり遠足	小2のお店屋さんへ	
		新しい友達も一緒					外遊びを一緒にしようよ		友達と遊ぶって楽しいね		ようこそさくら組さん	ありがとうもり組さん	
	幼3歳	みんなと楽しく	先生やお友達と一緒			校園合同運動会	いろいろみつけたよ・探検遠足		中学3年生と遊ぼう		小さいさくら組さんいらっしゃい	ありがとうもり組さん	
		お友達もいるよ					一緒に遊ぶと楽しいね		○○ちゃんと遊びたい				

※幼稚園は「社会創造科」につながる活動を明示した。

第2ステージ
（幼稚園5歳児後半～小学2年生）

年間単元配列表【第2ステージ（幼5，小1，小2）】

学年	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小2	題材	学校探検をしよう	大きくなあれやさいさん								昔の遊び探検隊		
		遊び発見大好き栖吉川	いっしょにあそんでひろがるなかま					手作りおもちゃの遊園地を作ろう			冬のくらしを楽しくしよう		
			まちたんけんに行こうパート1				まちたんけんに行こうパート2				お店屋さんごっこをしよう		
	配当時間	8	16	18	22		15	18			6	16	16
	学習内容Ⅰ	A相互性 B責任性	A多様性 B連携性	A相互性,多様性 B責任性	A相互性 B責任性		B連携性,責任性	A相互性,多様性 B責任性			A多様性 B責任性	A相互性 B責任性	A多様性 B連携性
	学習内容Ⅱ	A計画立案の仕方	B話し合いの仕方	Bインタビューの仕方	A目標設定の仕方		B話し合いの仕方	Bインタビューの仕方			B話し合いの仕方	C試行修正の仕方	B話し合いの仕方
	重点を置く資質・能力	立志・計画 他者との協力	価値の認識・他者との協力	自己の認識・価値の認識・発信	立志・計画・他者との協力・価値の認識		価値の認識・発信	自己の認識・価値の認識・発信			他者との協力・創造	他者との協力・創造	価値の認識・他者との協力
小1	題材	大好き附属小学校	いっしょにあそんでひろがるなかま				つくってあそぼう	ぼくわたしにできる家のこと			雪で作って一緒に楽しもう		
		大きくなってねお花さん						つくってあそんでなかよしに					
			遊び発見大好き栖吉川				秋のしぜんでつくってあそぼう				おめでとうよろしくね新1年生		
	配当時間	10	19	20	10		12	12	10	10	20		12
	学習内容Ⅰ	A多様性 B連携性	A多様性 B責任性	A多様性 B連携性	B連携性,責任性		B連携性,責任性	A多様性 B連携性	B連携性,責任性	B連携性,責任性	B連携性,責任性		A多様性 B連携性
	学習内容Ⅱ	A自己評価の仕方	A計画立案の仕方	B話し合いの仕方	Bインタビューの仕方		A計画立案の仕方	Bビジョン共有の仕方	A目標設定の仕方	Bインタビューの仕方	B話し合いの仕方		Cプレゼンの仕方
	重点を置く資質・能力	価値の認識・他者の認識	現状の把握 価値の認識	熟考・対話や議論への参加	立志・計画 他者との協力		立志・計画 創造	他者との協力 創造	立志・計画	立志・計画 価値の認識	他者の認識 創造		他者の認識 発信
幼5歳	題材								小学1年生と仲よしになろう		小学1年生ともっと仲よしに		
	重点を置く資質・能力								他者の認識		創造 他者の認識		

第２ステージでは，身の回りの人とのあそびや活動をとおして，
ひと・もの・ことへの愛情・愛着を深めます。

【幼・小の合同活動】
第２ステージは，園児と小学１・２年生の，異学年合同活動を行います。

第2ステージ　小1・小2合同

1　はぐくむ資質・能力

	観点	本単元における資質・能力が働いている姿
自己を推進すること	自己の認識	異年齢の仲間と楽しく遊びができるように，自分の思いや願い，考えを伝えることができたり，遊びが楽しくなるように工夫できたりしたことをとらえている。
	価値の認識	異年齢の仲間と繰り返しかかわることを通して，異年齢の仲間や遊びへの愛情・愛着を深めたり，異年齢の仲間とかかわるよさや楽しさを見いだしたりしている。
	立志・計画	異年齢の仲間と一緒に楽しく遊びたいと強く願い，その実現に向けて，目標を立てたり，遊びや遊び方を考えたりしている。
	責任の遂行・粘り強い取組	一緒に遊ぶ中で，自分の役割に責任をもって取り組んだり，うまくいかないことがあっても最後までやり通したりしている。
相互に交流すること	他者の認識	一緒に楽しく遊ぶために，自分の思いや願い，考えだけでなく，仲間の思いや願い，考えも大切にしながら活動している。
	志の共有	一緒に楽しく遊ぶために，仲間の思いや願い，考えも聞きながらグループで目標を立てている。
	他者との協力	遊びをより楽しいものにするために，仲間と考えを出し合い，共に活動している。
	対話や議論への参加	異年齢の仲間と行う遊びの工夫についての話合いで，仲間の思いや願い，考えを聞いたり，自分の思いや願い，考えを伝えたりしている。
新たに開発すること	現状の把握・分析	異年齢の仲間と繰り返し遊ぶ中で問題を見いだし，自分の事としてとらえている。
	熟考	異年齢の仲間との遊びにかかわる問題に対して，自分なりの解決方法を考え，試行錯誤しながら解決を試みている。
	創造	異年齢の仲間との遊びにかかわる問題に対して，仲間の考えを聞きながら，よりよい考えをつくっている。
	発信	異年齢の仲間と繰り返し遊ぶ中で，遊び方の工夫や楽しかったこと，嬉しかったことを絵や文で表している。

2　資質・能力を働かせる活動を位置付けたプロセスモデル例（このモデルを元に，題材に応じて内容を設定して実際の単元をつくります）

プロセス	○学習課題・学習活動　※手だて	資質・能力	学習内容Ⅰ	学習内容Ⅱ
出合う・気付く	○目標との出合い ・年上の異年齢に遊びを紹介してもらう。 ※教師が「これからどんなことをしていきたいか。」を問う。	立志・計画		A 目標設定の仕方
調べる・問題をもつ	○計画の作成 ・どのような遊びをすれば一緒に楽しく遊べそうか，家の人に聞いたり，本で調べたりする。 ※教室に遊びに関する資料を置いておく。	立志・計画		C 情報の把握の仕方
考える	○同年齢での話合い ・どんな遊びをしたら楽しく遊べそうか同年齢の仲間と話し合う。 ※教師が，遊びに対する願いを問い，黒板に整理する。	志の共有， 対話や議論への参加	A 多様性	B 話合いの仕方
行動する	○遊びの創造・願いの具現 ・同年齢での話合いを基に，遊びをつくる。 ・つくった遊びで同年齢の仲間と一緒に遊ぶ。 ※つくった遊びを紹介し合い，一緒に遊ぶ場を設定する。	他者の認識， 他者との協力	B 連携性	B 他者理解の仕方
評価する	○遊びの振り返り ・遊んで思ったことを伝え合う。 ※全体で振り返りを行ったあとで，グループごとの振り返りを行う。	熟考		A 自己評価の仕方
出合う・気付く・問題をもつ	○新たな目標との出合い ・年上の仲間の遊びへのアドバイスも受けながら工夫すると，もっと遊びが楽しくなりそうなことに気付く。 ※振り返りの内容を整理し，「これからどうしていきたいか。」を問う。	現状の把握・分析		A 目標設定の仕方
考える	○年上の仲間のアドバイスを基にした新たな遊びの創造 ・年上の仲間のアドバイスも生かした遊びになるように工夫する。 ※年上の仲間からアドバイスをもらいながらつくる場を設定する。	責任の遂行・粘り強い取組， 熟考，創造	B 責任性 A 多様性	C 創造的思考の仕方
行動する	○願いの具現 ・年上の仲間のアドバイスを生かしながら工夫した遊びで，みんなが楽しく遊べるように一緒に遊ぶ。 ※教師が遊んでいる様子を見取り，子どもたちの言動を価値付ける。	他者の認識， 発信	B 連携性	B 他者理解の仕方 C プレゼンの仕方
評価する	○遊びの振り返り ・異年齢の仲間が，嬉しかったことや楽しかったことを言葉で伝え合う。 ※全体で振り返りを行ったあとで，グループごとの振り返りを行う。ワークシートへの記述も行う。	自己の認識， 価値の認識		A 自己評価の仕方

単元の実際　「いっしょにあそんでひろがるなかま」（6月～7月）

3　単元の概要

小学１年生が，小学２年生と一緒に遊ぶ中で，遊びを楽しくするための工夫やかかわり方は様々である（多様性）ことに気付き，一緒に楽しく遊べるように２年生のアドバイスも生かしながら遊びや遊び方を工夫（責任性）し，願いを伝え合いながら一緒に遊ぶ（連携性）。

■　評価計画

プロセス	学習内容	評価材料	学習内容Ⅰ					学習内容Ⅱ			資質・能力											
			A			B																
			有限性	多様性	相互性	責任性	連携性	A	B	C	自己の認識	価値の認識	立志・計画	責任・粘り	他者の認識	志の共有	他者との協力	対話・議論	現状把握	熟考	創造	発信
出合う・気付く	◎2 年生がつくったまと倒し遊びで一緒に遊ぼう。 ○2 年生がつくった道具を利用した遊びを紹介してもらい，一緒に遊ぶ。							○					○									
調べる・問題をもつ	◎道具を使った遊びにはどんなものがあるか調べよう。 ○どのような遊びがあるのか，家の人に聞いたり，本で調べたりする。	・ワークシート								○			○									
考える	◎どんな遊びがつくれそうか話し合おう。 ○自分たちでどんな遊びをつくることができそうか，学級の仲間と話し合う。	・振り返りカード		○					○							○		○				
行動する	◎みんなで楽しく遊べる遊びをつくろう。 ○話合いを生かして，遊びを学級の仲間とつくる。 ◎つくった遊びで学級の仲間と遊ぼう ○つくった遊びを紹介し合い，学級の仲間と遊ぶ。	・振り返りカード					○		○						○		○					
評価する	◎学級の仲間との遊びを振り返ろう ○遊んで思ったことを出し合うと共に，ワークシートへも記述する。	・振り返りカード						○				○										
出合う・気付く・問題をもつ	◎2 年生に,つくった遊びを紹介して一緒に遊ぼう。 ○1 年生がつくった遊びを 2 年生に紹介して，一緒に遊ぶ場を設定する。							○						○					○			
考える	◎もっと楽しい遊びになるように 2 年生と一緒に工夫しよう。 ○1 年生と 2 年生とがグループをつくり,2 年生のアドバイスも生かしながら遊びを工夫していく。	・振り返りカード		○		○				○				○						○	○	
行動する	◎工夫した遊びでみんなで遊ぼう。 ○1，2 年生のグループで，みんなで一緒に遊ぶ。	・遊び紹介カード					○		○	○					○							○
評価する	◎2 年生の仲間との遊びを振り返ろう。 ○グループごとに異年齢の仲間が，嬉しかったことや楽しかったことを言葉で伝え合う。その後ワークシートへも記述する。	・振り返りカード						○			○	○										

	学習内容（Ⅰ、Ⅱ）の獲得と資質・能力（〇資）の評価の具体
出合う・気付く	【ⅡA 目標設定の仕方】～これまでの遊びを振り返り，目標をもつことができる。 【資立志・計画】～遊びを振り返り，思ったことを出し合う中で，「自分たちも道具を使った遊びをつくりたい」という願いをもった。
調べる・問題をもつ	【ⅡC 情報把握の仕方】～道具を使った遊びにはどんなものがあるか家の人に聞いたり，本で調べたりすることができる。 資立志・計画～家の人に相談したり，本を調べたりしながら，できそうな遊びを各自が決めた。
考える	【ⅠA 多様性】～つくることが出来そうな道具を利用した遊びはいろいろあると考えた。 【ⅡB 話合いの仕方】～自分の調べた遊びを伝え，仲間の調べた遊びを聞いて，遊びを決めている。 【資志の共有】～仲間の調べた遊びも楽しそうだから，考えを聞きながらどの遊びをつくるか決めた。 【資対話や議論への参加】～自分の調べた遊びを伝えたり，仲間の調べた遊びを聞いたりした。
行動する	【ⅠB 連携性】～グループの仲間と，遊びに対する考えを出し合いながら遊びをつくった。 【ⅡB 他者理解の仕方】～グループの仲間の遊びに対する考えに質問するなどしながら聞いている。 【資他者の認識】～どの遊びをするか，グループの仲間と考えを出し合いながら決めた。 【資他者との協力】～遊びが上手にできるように，考えを出し合って一緒に遊んだ。
評価する	【ⅡA 振り返りの仕方】～遊んで思ったことを伝え合い，ワークシートに記述する。 【資価値の認識】～学級の仲間の遊びは楽しかったし，楽しんでもらうことができた。2 年生にも紹介して遊んでもらいたい。
出合う・気付く・問題をもつ	【ⅡA 目標設定の仕方】～2 年生の遊びに対するアドバイスを受け，もっと楽しい遊びになるように新たな目標をもつことができる。 【資現状の把握・分析】～2 年生の遊びに対するアドバイスを生かしながら遊びを工夫するともっと楽しい遊びになりそうなことに気付いた。
考える	【ⅠB 責任性】～2 年生のアドバイスを生かしながら，1 年生なりに遊び方を工夫しようと粘り強く取り組んだ。 【ⅠA 多様性】～遊びを楽しくする工夫は様々あることに気付いた。 【ⅡC 創造的思考の仕方】～2 年生のアドバイスを生かして，遊び方を工夫しようとしている。 【資責任の遂行・粘り強い取組】【資創造】～もっと楽しい遊びになるように，2 年生のアドバイスを生かしながら 1 年生なりに遊び方を工夫した。 【資熟考】～どうしたらもっと楽しい遊びになるか，試行錯誤しながら遊び方を工夫した。
行動する	【ⅠB 連携性】～楽しく遊べるように，したい遊びや遊び方についての思いや願い，考えを伝え合いながら一緒に遊んだ。 【ⅡC プレゼンの仕方】～遊びや遊び方の楽しさが伝わるように絵と文でまとめる。 【ⅡB 他者理解の仕方】～楽しく遊べるように遊びや遊び方についての思いや願い，考えを聞いている。 【資他者の認識】～したい遊びを言い合いながら，一緒に遊んでいた。 【資発信】～遊びや遊び方の楽しさが伝わるように絵と文を用いた看板で呼び込みをしていた。
評価する	【ⅡA 自己評価の仕方】～嬉しかったことや楽しかったことを言葉で伝え合い，ワークシートに記述する。 【資自己の認識】【資価値の認識】～「2 年生のアドバイスを生かして遊び方を工夫したら，楽しい遊びになった。これからも一緒にいろいろなことをしたい。」という感想をもった。

4　単元の実際(「■評価計画」で定めたもの以外の資質･能力の表出や学習内容の習得がなされる場合もある)

	○学習課題・学習活動	資質・能力	学習内容
出合う・気付く	○2年生がつくったまと倒し遊びで一緒に遊ぼう。 ・2年生がつくった道具を利用した遊びを紹介してもらい，一緒に遊ぶ。	・「2 年生がつくった遊びは楽しかった。自分たちも道具を使った遊びをつくりたい。」【立志・計画】	・「2 年生がつくった遊びのように自分たちも道具を使った遊びをつくりたい。」【ⅡA 目標設定の仕方】
調べる 問題をもつ	○道具を使った遊びにはどんなものがあるか調べよう。 ・どのような遊びがあるのか，家の人に聞いたり，本で調べたりする。	・「家の人に相談したり，本を調べたりしながら，できそうな遊びを調べよう。」【立志・計画】	・「家の人に相談したり，本で調べたりしよう。」【ⅡC 情報の把握の仕方】
考える	○どんな遊びがつくれそうか話し合おう。 ・自分たちでどんな遊びをつくることができそうか，学級の仲間と話し合う。	・「自分たちでどんな楽しい遊びをつくることができそうか話し合って決めよう。」【志の共有】 ・「自分の調べた遊びを伝えたり，仲間の調べた遊びを聞いたりすることができたよ。」【対話や議論への参加】	・「仲間の調べた遊びを聞いたら，できそうな遊びがいろいろあってどれも楽しそうだった。遊びを決めることができたよ。」【ⅡB 話合いの仕方】【ⅠA 多様性】
行動する	○みんなで楽しく遊べる遊びをつくろう。 ・話合いを生かして，遊びを学級の仲間とつくる。 ○つくった遊びで学級の仲間と遊ぼう ・つくった遊びを紹介し合い，学級の仲間と遊ぶ。	・「グループの仲間と考えを出し合いながら遊びを決めることができたよ。」【他者の認識】 ・「楽しく遊びができるように，仲間と協力しながら遊ぶことができたよ。」【他者との協力】	・「グループの仲間と遊びの工夫を話し合って，楽しい遊びをつくることができたよ。」【ⅡB 他者理解の仕方】【ⅠB 連携性】
評価する	○学級の仲間との遊びを振り返ろう ・遊んで思ったことを出し合うと共に，ワークシートへも記述する。	・「学級の仲間の遊びは楽しかったし，楽しんでもらうことができてよかった。2 年生にも紹介して遊んでもらいたい。」【価値の認識】	・「みんながつくった遊びは楽しかった。みんなで楽しい遊びをつくることができてよかった。」【ⅡA 自己評価の仕方】
出合う・気付く 問題をもつ	○2 年生に，つくった遊びを紹介して一緒に遊ぼう。 ・1 年生がつくった遊びを 2 年生に紹介して，一緒に遊ぶ場を設定する。	・2 年生の遊びに対するアドバイスを生かしながら遊びを工夫するともっと楽しい遊びになりそうなことに気付いた。【現状の把握・分析】	・「2 年生と一緒に楽しい遊びをつくりたい」【ⅡA 目標設定の仕方】
考える	○もっと楽しい遊びになるように 2 年生と一緒に工夫しよう。 ・1 年生と 2 年生とがグループをつくり，2 年生のアドバイスも生かしながら遊びを工夫していく。	・「もっと楽しい遊びになるように，2 年生のアドバイスを聞いてに遊び方を工夫したよ。」【責任の遂行・粘り強い取組】【創造】 ・「どうしたらもっと楽しい遊びになるのかな。」【熟考】	・「2 年生のアドバイスを聞いて，遊び方を工夫したよ。」【ⅡC 創造的思考の仕方】 ・「うまくいかないこともあったけど，遊び方を工夫して遊びをつくることができたよ。」【ⅠB 責任性】 ・「遊びを楽しくする工夫はたくさんあるな。」【ⅠA 多様性】
行動する	○工夫した遊びでみんなで遊ぼう。 ・1，2 年生のグループで，みんなで一緒に遊ぶ。 	・「遊びたいことを話しながら，みんなで一緒に遊ぶことができたよ。」【他者の認識】 ・「遊びや遊び方の楽しさが伝わるように看板を作って，呼び込みをしたよ。」【発信】	・「遊びや遊び方が伝わるように絵や文を入れた看板を作って，声をかけることができたよ。」【ⅡC プレゼンの仕方】 ・「楽しく遊べるように，したい遊びや遊び方を話し合って，一緒に遊べたよ。」【ⅠB 連携性】【ⅡB 他者理解の仕方】
評価する	○2 年生の仲間との遊びを振り返ろう。 ・グループごとに異年齢の仲間が，嬉しかったことや楽しかったことを言葉で伝え合う。その後ワークシートへも記述する。	・「2 年生のアドバイスを生かして遊び方を工夫したら，楽しい遊びになった。これからも一緒にいろいろなことをしたい。」【自己の認識・価値の認識】	・「2 年生のアドバイスを聞　いて，遊びを工夫したら楽しい遊びができたよ。みんなで楽しく遊ぶこともできたよ。」【ⅡA 自己評価の仕方】

第2ステージ　幼5歳･小1合同

1　はぐくむ資質・能力

	観点	本単元における資質・能力が働いている姿
自己を推進すること	自己の認識	異年齢の仲間と楽しく遊びができるように，遊び方を工夫できたことをとらえている。
	価値の認識	異年齢の仲間と繰り返し遊ぶことを通して，異年齢の仲間や遊びへの愛情・愛着を深めたり，そのよさを見いだしたりしている。
	立志・計画	異年齢の仲間と一緒に楽しく遊びたいと強く願い，その実現に向けて，目標を立てたり，遊び方を考えたりしている。
	責任の遂行・粘り強い取組	一緒に遊ぶ中で，自分の役割に責任をもって取り組んだり，うまくいかないことがあっても最後までやり通したりしている。
相互に交流すること	他者の認識	一緒に楽しく遊ぶために，自分の思いや願い，考えだけでなく，仲間の思いや願い，考えも大切にしながら活動している。
	志の共有	一緒に楽しく遊ぶために，仲間の思いや願い，考えも聞きながら目標を立てている。
	他者との協力	遊びをより楽しいものにするために，仲間と考えを出し合い，共に活動している。
	対話や議論への参加	異年齢の仲間と行う遊びの工夫についての話合いで，仲間の思いや願い，考えを聞いたり，自分の思いや願い，考えを伝えたりしている。
新たに開発すること	現状の把握・分析	異年齢の仲間と繰り返し遊ぶ中で問題を見いだし，自分の事としてとらえている。
	熟考	異年齢の仲間との遊びにかかわる問題に対して，自分なりの解決方法を考え，試行錯誤しながら解決を試みている。
	創造	異年齢の仲間との遊びにかかわる問題に対して，仲間の考えを聞きながら，よりよい考えをつくっている。
	発信	異年齢の仲間と繰り返し遊ぶ中で，遊び方の工夫や楽しかったこと，嬉しかったことを絵や文で表している。

2　資質・能力を働かせる活動を位置付けたプロセスモデル例（このモデルを元に，題材に応じて内容を設定して実際の単元をつくります）

プロセス	○学習課題・学習活動　※手だて	資質・能力	学習内容Ⅰ	学習内容Ⅱ
出合う 気付く	○目標との出合い ・これまでの異年齢との交流活動を振り返り，一緒に楽しく遊びたいと目標をもつ。 ※教師が「今まで一緒に遊んできてどうであったか。」「これからどうしていきたいか。」を問う。	立志・計画		A目標設定の仕方
調べる 問題をもつ	○計画の作成 ・どのような遊びをすれば一緒に楽しく遊べそうか，家の人に聞いたり，本で調べたりする。 ※教室に遊びに関する資料を置いておく。	立志・計画		C情報の把握の仕方
考える	○同年齢での話合い・遊びの創造 ・どんな遊びをしたら一緒に楽しく遊べそうか同年齢の仲間と話し合う。 ・話合いを生かして，異年齢と一緒にする遊びをつくる。 ※教師が，遊びに対する願いを問い，黒板に整理する。	志の共有， 対話や議論への参加	A多様性	B話合いの仕方
行動する	○願いの具現 ・話し合った遊び方で，みんなが楽しく遊べるように一緒に遊ぶ。 ※つくった遊びを異年齢の仲間に紹介して一緒に遊ぶ場を設定する。	他者の認識， 他者との協力	B連携性	B他者理解の仕方
評価する	○遊びの振り返り ・異年齢の仲間が一緒に遊んで思ったことを伝え合う。 ※全体で振り返りを行ったあとで，グループごとの振り返りを行う。小学１年生はワークシートへの記述も行う。	価値の認識		A振り返りの仕方
出合う 気付く 問題をもつ	○新たな目標との出合い ・異年齢の仲間の遊びへの願いも受け入れながらつくる必要があることに気付く。 ※振り返りの内容を整理し，「これからどうしていきたいか。」を問う。	現状の把握・分析， 熟考		A目標設定の仕方
考える	○異年齢の願いを基にした新たな遊びの創造 ・異年齢の仲間の願いも生かした遊びになるように工夫する。 ※異年齢の仲間の願いを整理したものを掲示する。	責任の遂行・粘り強い取組， 熟考	B責任性 A多様性	B話合いの仕方
行動する	○遊びの発信・願いの具現 ・考えた遊びを絵と文で可視化し，異年齢の仲間に伝える。そして，みんなが楽しく遊べるように一緒に遊ぶ。 ※教師が遊んでいる様子を見取り，子どもたちの言動を価値付ける。	他者の認識， 他者との協力， 発信	B連携性	Cプレゼンの仕方 B他者理解の仕方
評価する	○遊びの振り返り ・異年齢の仲間が，嬉しかったことや楽しかったことを言葉で伝え合う。 ※全体で振り返りを行ったあとで，グループごとの振り返りを行う。小学１年生は，ワークシートへの記述も行う。	自己の認識， 価値の認識		A自己評価の仕方

単元の実際　「つくって あそんで なかよしに ～ようこそ『なかよし楽しいランド』へ～」(10月~11月)

3 単元の概要

小学1年生が，幼稚園5歳児と繰り返し一緒に遊ぶ中で，楽しく遊ぶための遊び方やかかわり方は様々である（多様性）ことに気付き，幼稚園 5 歳児の願いも生かした遊びを考えて絵と文で紹介（責任性）し，願いを伝え合いながら一緒に遊ぶ（連携性）。

■評価計画

プロセス	学習内容 ※各プロセスにおける主な学習内容を記述	評価材料	学習内容Ⅰ					学習内容Ⅱ			資質・能力										
			A			B															
			有限性	多様性	相互性	責任性	連携性	A	B	C	自己の認識	価値の認識	立志・計画	責任・粘り	他者の認識	志の共有	他者との協力	対話・議論	現状把握	熟考	創造	発信
出会う・気付く	◎これまでの幼小自由交流を振り返ろう。 ○毎月行われている幼小自由交流を振り返り，よさや改善点を共有する。							○					○									
調べる・問題をもつ	◎どんな遊びができそうか調べよう。 ○どのような遊びをすれば一緒に楽しく遊べそうか，家の人に聞いたり，本で調べたりする。	・ワークシート								○			○									
考える	◎どんな遊びにしたら一緒に楽しく遊べそうか。 ○どんな遊びをしたら一緒に楽しく遊べそうか学級の仲間と話し合う。 ○話合いを生かして，幼稚園5歳児と一緒にする遊びをつくる。	・振り返りカード		○					○							○		○				
行動する	◎もり組さんを招待して一緒に遊ぼう。 ○1年生がつくった遊びを紹介して，園児と一緒に遊ぶ。						○		○						○		○					
評価する	◎もり組さんと一緒に楽しく遊べたか振り返ろう ○1年生が思ったことを出し合うと共に，園児にも感想を聞く。	・振り返りカード						○				○										
出会う・気付く・問題をもつ	◎もり組の仲間にどの遊びが楽しかったか聞こう。 ○もり組の仲間にどんな遊びが楽しかったか，どんな遊びがしたいかを聞く。							○											○			
考える	◎もり組の仲間ともっと一緒に遊ぶためにはどうしたらよいか。 ○園児の願いも生かした遊びになるように遊びや遊び方を工夫する。	・振り返りカード				○			○					○			○			○		
行動する	◎「楽しそう」「やりたい」と思ってもらえるように遊びを紹介しよう。 ○考えた遊びを絵と文で可視化し，園児に伝える。 ◎自分も仲間も楽しめるように一緒に遊ぼう。 ○みんなが楽しく遊べるように一緒に遊ぶ。	・遊び紹介カード		○			○		○	○					○							○
評価する	◎もり組の仲間との遊びを振り返ろう。 ○異年齢の仲間が，嬉しかったことや楽しかったことを言葉で伝え合う。	・振り返りカード						○			○	○										

	学習内容（Ⅰ、Ⅱ）の獲得と資質・能力（〇資）の評価の具体
出合う・気付く	【ⅡＡ目標設定の仕方】～これまでの幼小自由交流のよさや改善点から目標をもつことができる。 【資立志・計画】～自分たちの交流の様子を振り返り，思ったことを出し合う中で，「もっと一緒に楽しく遊びたい」という願いをもっている。
調べる・問題をもつ	【ⅡＣ情報把握の仕方】～どんな遊びができそうか家の人に聞いたり，本で調べたりすることができる。 【資立志・計画】～家の人に相談したり，本を見たりしながら，できそうな遊びを各自が決めている。
考える	【ＩＡ多様性】～一緒に出来そうな遊びはいろいろあると考えている。 【ⅡＢ話合いの仕方】～自分の調べた遊びを伝え，仲間の調べた遊びを聞いて，遊びを決めている。 【資志の共有】～仲間の調べた遊びも楽しそうだから，遊びに取り入れるとよいと考えている。 【資対話や議論への参加】～一緒にする遊びについて，自分の調べた遊びを伝えたり，仲間の遊びを聞いたりしながら，行う遊びを決めている。
行動する	【ＩＢ連携性】～グループの仲間とどんな風に園児に声を掛けるか相談しながら声を掛けている。 【ⅡＢ他者理解の仕方】～園児が楽しく遊べるように声を掛けている。 【資他者の認識】～自分のつくった遊びに来たいと考えている園児だけに参加してもらう。 【資他者との協力】～たくさんの園児に来てもらえるように大きな声で呼び込みをしている。
評価する	【ⅡＡ振り返りの仕方】～一緒に遊んで思ったことを伝え合い，ワークシートに記述する。 【資価値の認識】～たくさん来てくれて嬉しかったけど，あまり人が来てくれない遊びがあったと思う。もっと楽しく遊べるかなという思いをもっている。
出合う・気付く・問題をもつ	【ⅡＡ目標設定の仕方】～園児の願いを基に新たな目標をもつことができる。 【資現状の把握・分析】～時間内に終わらない遊びがあって悲しい思いをした園児がいることに気付いている。
考える	【ＩＢ責任性】～園児も楽しめるように１年生としての立場を考えながら遊びや遊び方を工夫している。 【ⅡＢ話合いの仕方】～園児の願いを基に遊びや遊び方の工夫について仲間と話し合っている。 【資責任の遂行・粘り強い取組】～園児も楽しめるように，１年生なりに遊びや遊び方を工夫している。 【資他者との協力】～仲間と考えを出し合いながら遊びや遊び方を工夫している。 【資熟考】～どうしたら園児も楽しめるか，試行錯誤しながら遊びや遊び方を工夫している。
行動する	【ＩＢ連携性】～園児にしたい遊びやしたい遊び方を聞きながら一緒に遊んでいる。 【ＩＡ多様性】～園児によって，したい遊びや遊び方が違うことに気付いている。 【ⅡＣプレゼンの仕方】～遊びや遊び方の楽しさが伝わるように絵と文でまとめる。 【ⅡＢ他者理解の仕方】～園児にしたい遊びや遊び方を聞いている。 【資他者の認識】～作りたい折り紙や使いたい色を聞きながら一緒に遊んでいる。 【資発信】～遊びや遊び方の楽しさが伝わるように絵と文で工夫してまとめて紹介している。
評価する	【ⅡＡ自己評価の仕方】～嬉しかったことや楽しかったことを言葉で伝え合い，ワークシートに記述する。 【資自己の認識】【資価値の認識】～「遊びや遊び方を工夫したらみんなが楽しめた。もり組の仲間が笑顔で，自分も嬉しくなった。これからももっともっと一緒に遊びたい。」という感想をもつ。

４　単元の実際(「■評価計画」で定めたもの以外の資質･能力の表出や学習内容の習得がなされる場合もある)

	○学習課題・学習活動	資質・能力	学習内容
出合う・気付く	○これまでの幼小自由交流を振り返ろう。 ・毎月行われている幼小自由交流を振り返り，よさや改善点を共有する。	・「もっと一緒に楽しく遊びたい。」「もり組の仲間に楽しいって言ってもらえる遊びをつくりたい。」【立志・計画】	・「もり組の仲間と楽しく遊んでいたけれど，もっと楽しく遊びたい。」【ⅡA 目標設定の仕方】
調べる・問題をもつ	○どんな遊びができそうか調べよう。 ・どのような遊びをすれば一緒に楽しく遊べそうか，家の人に聞いたり，本で調べたりする。	・「家の人に相談したり，本を調べたりしながら，できそうな遊びを調べよう。」【立志・計画】	・「家の人に相談したり，本で調べたりしよう。」【ⅡC 情報の把握の仕方】
考える	○どんな遊びにしたら一緒に楽しく遊べそうか。 ・どんな遊びをしたら一緒に楽しく遊べそうか学級の仲間と話し合う。 ・話合いを生かして，幼稚園５歳児と一緒にする遊びをつくる。	・「自分たちでどんな楽しい遊びをつくることができそうか話し合って決めよう。」【志の共有】 ・「自分の調べた遊びを伝えたり，仲間の調べた遊びを聞いたりすることができたよ。」【対話や議論への参加】	・「仲間の調べた遊びを聞いたら，できそうな遊びがいろいろあってどれも楽しそうだ。遊びを決めることができたよ。」【ⅡB 話合いの仕方】【ＩA 多様性】
行動する	○もり組さんを招待して一緒に遊ぼう。 ・１年生がつくった遊びを紹介して，園児と一緒に遊ぶ。 	・「来てくれたもり組の仲間と楽しく遊ぶことができたよ。」【他者の認識】 ・「たくさんの園児に来てもらえるように大きな声で呼び込みをしたよ。」【他者との協力】	・「グループの仲間とどんな風に園児に声を掛けるか相談しながら楽しく遊べるように声を掛けたよ。」【ＩB 連携性】【ⅡB他者理解の仕方】
評価する	○もり組さんと一緒に楽しく遊べたか振り返ろう ・１年生が思ったことを出し合うと共に，園児にも感想を聞く。	・「たくさん来てくれて嬉しかったけど，あまり人が来てくれない遊びもあった。もっと楽しく遊べるかな。」【価値の認識】	・「もり組の仲間がたくさん来てくれたし，楽しく遊べたと思う。」「もり組の仲間が楽しいって言ってくれてうれしかった。」【ⅡA振り返りの仕方】
出合う・気付く 問題をもつ	○もり組の仲間にどの遊びが楽しかったか聞こう。 ・もり組の仲間にどんな遊びが楽しかったか，どんな遊びがしたいかを聞く。	・「時間内に終わらない遊びがあって悲しい思いをしたもり組の仲間がいたみたい。」「やりたい遊びが思ったようにできなかったもり組の仲間がいたよ。」【現状の把握・分析】	・「みんながもっと楽しいって思ってもらえる遊びにしたい。」【ⅡA 目標設定の仕方】
考える	○もり組の仲間ともっと一緒に遊ぶためにはどうしたらよいか。 ・園児の願いも生かした遊びになるように遊びや遊び方を工夫する。	・「もり組の仲間も楽しめるように，遊びや遊び方を工夫したよ。」【責任の遂行・粘り強い取組】 ・「仲間と話し合って遊びや遊び方を工夫したよ。」【他者との協力】 ・「どうしたらもり組の仲間も楽しめるかな。もっと色々な工夫を考えよう。」【熟考】	・「もり組の仲間も楽しめるように遊びや遊び方の工夫を話し合って，決めたよ。」【ＩB 責任性】【ⅡB話合いの仕方】
行動する	○「楽しそう」「やりたい」と思ってもらえるように遊びを紹介しよう。 ・考えた遊びを絵と文で可視化し，園児に伝える。 ○自分も仲間も楽しめるように一緒に遊ぼう。 ・みんなが楽しく遊べるように一緒に遊ぶ。 	・「作りたい折り紙や使いたい色を聞いて一緒に遊ぶことができたよ。」【他者の認識】 ・「遊びや遊び方の楽しさがもり組の仲間に伝わるように絵と文で工夫して紹介することができたよ。」【発信】	・「遊びや遊び方が伝わるように絵や文にまとめたよ。」【ⅢCプレゼンの仕方】 ・「園児にしたい遊びやしたい遊び方を聞きながら一緒に遊ぶことができたよ。」【IB連携性】【ⅡB他者理解の仕方】 ・「園児によって，したい遊びや遊び方が違っていたよ。」【ＩA 多様性】
評価する	○もり組の仲間との遊びを振り返ろう。 ・異年齢の仲間が，嬉しかったことや楽しかったことを言葉で伝え合う。	・「遊びや遊び方を工夫したらみんなが楽しめた。もり組の仲間が笑顔で，自分も嬉しくなった。これからもっと一緒に遊びたい。」【自己の認識・価値の認識】	・「みんなと遊びを工夫したら楽しい遊びができたよ。もり組の仲間と楽しく遊ぶこともできたよ。」【ⅡA 自己評価の仕方】

第2ステージ　小2

1　はぐくみを目指す資質・能力

	観点	本単元における資質・能力が働いている姿
自己を推進すること	自己の認識	学校の回りのお店や施設を繰り返し訪問し，そこで働く人の工夫や願いを調査することできたととらえている。
	価値の認識	学校の回りのお店や施設，そこで働く人と繰り返しかかわりながら，工夫や願いを見いだし，また行きたいという思いをもっている。
	立志・計画	選択したお店や施設を見学したいと願い，質問したいことや見学を通して気を付けることを明らかにしている。
	責任の遂行・粘り強い取組	活動班における自分の役割に責任をもって取り組んだり，自分が質問したいことを質問したり，大事なことを落とさないように最後まで聞いたりして，見学を通して分かったことをメモしている。
相互に交流すること	他者の認識	学校の回りのお店や施設，そこで働く人と繰り返しかかわりながら，その人たちの工夫や願いをとらえている。
	志の共有	仲間の思いや願い，考えを聞きながら，見学の目標や計画を立てる。
	他者との協力	目標を達成するために，同じグループの仲間と考えを出し合い，質問したい事柄や気を付けることを決めたり，考えた計画を実行したりしている。
	対話や議論への参加	同じグループの仲間の意見を大切にしたり，自分から進んで意見を述べたりしている。
新たに開発すること	現状の把握・分析	※本単元では重点を置かない。
	熟考	※本単元では重点を置かない。
	創造	※本単元では重点を置かない。
	発信	学校の回りのお店や施設を繰り返し訪問し，新たに発見したこと，感じたことをまとめ，伝える順序を明確にして，表現している。

2　資質・能力を働かせる活動を位置付けたプロセスモデル例（このモデルを元に，題材に応じて内容を設定して実際の単元をつくります）

プロセス	○学習課題　・学習活動　※手だて	資質・能力	学習内容Ⅰ	学習内容Ⅱ
出合う 気付く	○実態把握のための学校周辺の調査 ・学校の周りにはどんなお店や施設があるのかを調べ，行ってみたい場所を見つける。 ※発見カードを作成し，見つけたお店や施設を絵や文でまとめられるようにする。	価値の認識	多様性	目標設定の仕方
	○見学に行きたいお店や施設の選択，班の編成，見学計画の作成 ・見学に行きたいお店や施設ごとに班を作り，保護者や地域の人に分かったことを知りたいことや働く人に質問したいことをまとめる。	立志・計画 志の共有		計画立案の仕方
調べる 問題をもつ	○学校の回りのお店や施設，そこで働く人へのインタビュー，分かったことの整理 ・見学活動。インタビューの実施。 ※インタビューをして感じたことや考えたことを出し合う場を設定する。 ※働く人がどんな気持ちで働いていたかを問う。	価値の認識 責任の遂行・粘り強い取組 他者の認識	責任性	計画立案の仕方 他者理解の仕方
考える	○目標と追究課題の設定，再見学計画の作成 ・見学を通してはっきりしなかったことや分かったことの発表。 ・再見学の計画について考える ※教師が，今後の追究に対しての願いを問い，黒板に整理する。 ※教師が，はっきりしなかったことを焦点化する。または，再見学で何をはっきりさせるのかを問う。	立志・計画 他者との協力 対話や議論への参加	多様性 責任性	振り返りの仕方 話合いの仕方
行動する	○学校の回りのお店や施設で働く人へ，これまでの追究で分かったこと，感じたことの発表 ・再見学活動。発表の実施。 ※発表の方法は，新聞，劇，群読等が考えられる。	価値の認識 責任の遂行・粘り強い取組 他者の認識 発信	相互性 責任性	話合いの仕方 プレゼンの仕方
評価する	○再見学の振り返り ・見学を通して新たに発見したこと，感じたことをまとめ，追究活動を通してできたことをとらえる。	自己の認識		自己評価の仕方

単元の実際　町たんけんに行こうパート１（６～７月）

３　単元の概要

学校周辺のお店や施設の見学を通して，同じ施設やお店を調べるグループの中での自分の役割をきちんと果たそう（責任性）としながら，地域には，様々な種類の施設やお店が存在している（多様性）ことや，地域の施設やお店で働く人の工夫と利用する人の思いや願いはつながっている（相互性）ことに気付き，リーフレットで紹介し，学校周辺のお店や施設に親しみや愛着をもつ。

■評価計画

プロセス	学習内容 ※各プロセスにおける主な学習内容を記述	評価材料	学習内容Ⅰ					学習内容Ⅱ			資質〇能力											
			A			B																
			有限性	多様性	相互性	責任性	連携性	A	B	C	自己の認識	価値の認識	立志・計画	責任・粘り	他者の認識	志の共有	他者との協力	対話・議論	現状把握	熟考	創造	発信
出合う・気付く	◎学校周辺のお店や施設を調べよう 〇学校の周りにはどんなお店や施設があるのかを調べ，行ってみたい場所を見つける。	・見学希望アンケート		○				○				○										
	◎見学に行きたいお店や施設を決めて，見学の計画を立てよう 〇見学に行きたいお店や施設ごとに班を作り，知りたいことや働く人に質問したいことをまとめる。	・町たんけん計画カード						○					○			○						
調べる・問題をもつ	◎学校の周りのお店や施設を見学したり，そこで働く人へのインタビューをしたりして，分かったことを整理しよう 〇お店や施設を見学する。 〇そこで働く人へインタビューする。	・見学メモ(ﾜｰｸｼｰﾄ)				○		○	○			○		○	○							
考える	◎見学したお店や施設の魅力や，伝えたいことを話し合って決めよう 〇見学を通してはっきりしたことや分かったことを発表する。 〇グループで伝えたいことを整理して分担する。	・振り返りカード		○		○		○	○				○				○	○				
行動する	◎他の見学先へ行った仲間へ，学校の周りのお店や施設の見学で分かったこと，感じたことを発表しよう 〇ﾘｰﾌﾚｯﾄにまとめる。 〇学年で発表する。	・ﾘｰﾌﾚｯﾄ			○	○			○	○		○		○	○							○
評価する	◎見学の振り返り 〇見学を通して新たに発見したこと，感じたことをまとめ，追究活動を通してできたことをとらえる。	・振り返りカード						○			○											

	学習内容（Ⅰ，Ⅱ）の獲得と資質・能力（〇資）の評価の具体
出合う・気付く	【ＩＡ多様性】～学校周辺にはいろいろなお店や施設があることに気付いている。 【ⅡＡ目標設定の仕方】～学校周辺のお店や施設を調べ，行ってみたい場所を見つける。 【資価値の認識】～学校周辺のお店や施設を出し合う中で，たくさんのお店や施設があるという思いをもっている。
	【ⅡＡ計画立案の仕方】～見学に行きたいお店や施設ごとに班を作り，知りたいことや働く人に質問したいことをまとめる。 【資立志・計画】～自分が選んだお店や施設で，質問したいことや見学を通して気を付けることを班で決めている。 【資志の共有】～班の仲間と話し合い，思いや願い，考えを聞きながら，見学の目標や計画を立てている。
調べる・問題をもつ	【ＩＢ責任性】～班の仲間とどんなことを調べるか相談しながら質問する。 【ⅡＡ計画立案の仕方】～班長，保健係など班で決めた自分の役割に責任をもって取り組む。 【ⅡＢ他者理解の仕方】～学校の周りのお店や施設を見学したり，そこで働く人へのインタビューをしたりして，分かったことを整理する。 【資価値の認識】～お店や施設を見学したり，そこで働く人に質問したりしながら，工夫や願いを見いだす。 【資責任の遂行・粘り強い取組】～班長，保健係など自分の役割に責任をもって取り組んだり，質問したり，最後まで聞いたりして，見学を通して分かったことをメモする。 【資他者の認識】～お店や施設，そこで働く人とのかかわりを通して，その人たちの工夫や願いをとらえる。
考える	【ＩＡ多様性】～お店や施設の魅力がたくさんあることに気付いている。 【ＩＢ責任性】～班の仲間とどんなことを伝えたいか相談している。 【ⅡＡ振り返りの仕方】～見学を通してはっきりしたことや分かったことを発表する。 【ⅡＢ話合いの仕方】～グループで伝えたいことを整理して分担する。 【資立志・計画】～自分が選んだお店や施設で，伝えたい魅力を班で決める。 【資他者との協力】～班の仲間と考えを出し合い，伝えたい事柄を決めたり，分担したりする。 【資対話や議論への参加】～班の仲間の意見を大切にしたり，自分から進んで意見を述べたりする。
行動する	【ＩＡ相互性】～お店や施設で働く人が地域やお客さんへの思いをもっていることに気付いている。 【ＩＢ責任性】～お店や施設の魅力が伝わるように班の仲間と相談しながらリーフレットにまとめる。 【ⅡＢ話合いの仕方】～発表の仕方や順番を決める。 【ⅡＣプレゼンの仕方】～他の見学先へ行った仲間へ，学校の周りのお店や施設の見学で分かったこと，感じたことをリーフレットにまとめ，発表する。 【資価値の認識】～学校の回りのお店や施設，そこで働く人とかかわりながら，工夫や願いを見いだす。 【資責任の遂行・粘り強い取組】～お店や施設の魅力が伝わるように班で分担した事柄をリーフレットにまとめる。 【資他者の認識】～その人たちの工夫や願いをとらえている。 【資発信】～発見したこと，感じたことをまとめ，伝える順序を明確にして，リーフレットに表現する。
評価する	【ⅡＡ自己評価の仕方】～見学を通して新たに発見したこと，感じたことをまとめ，追究活動を通してできたことをとらえる。 【資自己の認識】～「学校周辺のお店や施設を見学し，そこで働く人の工夫や願いを調査することができた」という感想をもつ。

4　単元の実際(「■評価計画」で定めたもの以外の資質･能力の表出や学習内容の習得がなされる場合もある)

	○学習課題　・学習活動	資質・能力	学習内容
出合う・気付く	○学校周辺のお店や施設を調べよう ・学校の周りにはどんなお店や施設があるのかを調べ，行ってみたい場所を見つける。	・「学校周辺には，たくさんのお店や施設があるんだな。どんなお店や施設なのか知りたいな。」　【価値の認識】	・「学校周辺にはいろいろなお店や施設があるんだな。」【ＩＡ多様性】 ・「どんなお店や施設なのか調べたいな。」 【ⅡA 目標設定の仕方】
	○見学に行きたいお店や施設を決めて，見学の計画を立てよう ・見学に行きたいお店や施設ごとに班を作り，知りたいことや働く人に質問したいことをまとめる。	・「自分が選んだお店や施設の，質問したいことをたくさん考えたよ。」 【立志・計画】 ・「見学で気を付けることを班で決めた。見学に行くのが楽しみだな。」 【志の共有】	・「自分が選んだお店や施設を見学する計画をたてたよ。質問や係分担など準備をしていこう。」 【ⅡA 計画立案の仕方】
調べる・問題をもつ	○学校の周りのお店や施設を見学したり，そこで働く人へのインタビューをしたりして，分かったことを整理しよう ・お店や施設を見学する。 ・そこで働く人へインタビューする。 	・「秘密の部屋を見せてもらったよ。地域の人やお客さんが便利なように工夫しているんだな。」 ・「お店や施設の人はお客さんのことを考えて工夫しているんだな。」 【価値の認識】 ・「班長，保健係など自分の役に責任をもって取り組んだよ。」 ・「お店や施設のことがよく分かるように質問したり，メモをとったりして，しっかり調べよう。」 【責任の遂行・粘り強い取組】 ・「お店や施設の秘密や，そこで働く人の工夫が分かったよ。今まで知らなかったなあ。」　【他者の認識】	・「班の仲間とどんなことを調べるか相談しよう。」「質問したり，メモをとったりして，しっかり調べよう。」 【ＩＢ責任性】【ⅡA 計画立案の仕方】 ・「お店や施設の秘密や，そこで働く人の思いを知ることができた。」 【ⅡB 他者理解の仕方】
考える	○見学したお店や施設の魅力や，伝えたいことを話し合って決めよう ・見学を通してはっきりしたことや分かったことを発表する。 ・グループで伝えたいことを整理して分担する。	・「見学していろいろな魅力を感じたけれど，班のみんなで決めた伝えたい魅力は何のことにしようか決めよう。」 【立志・計画】 ・「考えを出し合って，班で伝えたい魅力を決めよう。」「司会や記録の役になって，班をまとめよう。」【他者との協力】 ・「自分の考えた魅力もいいけれど，仲間の考えた魅力もいいな。」 【対話や議論への参加】	・「お店や施設の魅力がたくさんあるんだな。」 【ＩＡ多様性】【ⅡA 振り返りの仕方】 ・「班の仲間と伝えたいことを話し合って決めよう。」 【ＩＢ責任性】【ⅡB 話合いの仕方】
行動する	○他の見学先へ行った仲間へ，学校の周りのお店や施設の見学で分かったこと，感じたことを発表しよう ・リーフレットにまとめる。 ・学年で発表する。 	・「自分たちの班が伝えたいお店や施設の魅力が，はっきりした。」【価値の認識】 ・「他のお店や施設に行った仲間に魅力が伝わるように，班で分担してリーフレットにまとめよう。」 【責任の遂行・粘り強い取組】 ・「お店や施設で働く人たちは，地域やお客さんのことを考えて工夫しているんだな。」　【他者の認識】 ・「リーフレットにまとめたことを，どんな順番で発表するか決めて，大きな声で発表できたよ。他の見学に行った仲間が自分たちのお店や施設の魅力を分かってくれてよかったな。」　【発信】	・「お店や施設の魅力が伝わるように班の仲間と相談しながらリーフレットにまとめよう。」 【ＩＢ責任性】【ⅡB 話合いの仕方】【ⅡC プレゼンの仕方】 ・「お店や施設で働く人は，地域やお客さんへの思いをもっているんだな。」　【ＩＡ相互性】
評価する	○見学の振り返り ・見学を通して新たに発見したこと，感じたことをまとめ，追究活動を通してできたことをとらえる。	・「学校周辺のお店や施設を見学して，そこで働く人の工夫や願いを調べることができた。」　【自己の認識】	・「お店や施設で進んで質問したら，働く人の願いや工夫を調べることができた。」 【ⅡA 自己評価の仕方】

第3ステージ
（小学3年生～小学4年生）

年間単元配列表【第3ステージ（小3，小4）】

<table>
<tr><th>学年</th><th>月</th><th colspan="2">4月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th colspan="2">9月</th><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th></tr>
<tr><td rowspan="5">小4</td><td>題材</td><td colspan="3">栖吉川の今と昔
長岡野菜を作ろう</td><td colspan="2">おじいちゃんおばあちゃんに会いに行こう</td><td></td><td colspan="3">栖吉川の今と未来</td><td>みんなでつくろうなかよしフェスティバル</td><td>長岡の先人に学ぼう</td><td colspan="3">2分の1成人式を成功させよう</td></tr>
<tr><td>配当時間</td><td colspan="2">19</td><td>5</td><td colspan="2">10</td><td></td><td colspan="3">26</td><td>10</td><td>10</td><td colspan="3">15</td></tr>
<tr><td>学習内容Ⅰ</td><td colspan="2">A多様性,相互性,有限性
B連携性</td><td>A有限性,
相互性</td><td colspan="2">A多様性,相互性
B連携性</td><td></td><td colspan="3">A有限性,多様性,相互性</td><td>A相互性
B連携性,責任性</td><td>A多様性
B連携性</td><td colspan="3">A相互性
B連携性,責任性</td></tr>
<tr><td>学習内容Ⅱ</td><td colspan="2">C情報収集の仕方
まとめ方等</td><td>C情報収集の仕方</td><td colspan="2">Bインタビューの仕方,
交流の仕方等</td><td></td><td colspan="3">A目標設定の仕方
C現状の分析方法，ﾌﾟﾚｾﾞﾝの仕方</td><td>A計画の立案
B話し合いの仕方</td><td>A計画立案の仕方
Bｲﾝﾀﾋﾞｭｰの仕方
Cﾌﾟﾚｾﾞﾝの仕方</td><td colspan="3">A自己評価・振り返りの仕方
B願いの共有 C思いの伝え方</td></tr>
<tr><td>重点を置く資質・能力</td><td colspan="2">立志・計画，価値の認識，他者との協力，現状の把握・分析</td><td>価値の認識，
他者との協力</td><td colspan="2">価値の認識，志の共有，発信</td><td></td><td colspan="3">立志・計画，対話や議論への参加，発信</td><td>自己の認識，責任の遂行・粘り強い取組，他者との協力</td><td>価値の認識，
立志・計画，発信</td><td colspan="3">自己の認識，責任の遂行・粘り強い取組，
他者との協力，発信</td></tr>
<tr><td rowspan="5">小3</td><td>題材</td><td colspan="3">楽しもう百年の森</td><td colspan="2">長岡野菜を作ろう</td><td></td><td colspan="3">もっと楽しもう百年の森</td><td>みんなでつくろうなかよしフェスティバル</td><td>錦鯉となかよし</td><td colspan="3">伝えよう長岡の民話</td></tr>
<tr><td>配当時間</td><td colspan="3">30</td><td colspan="2">11</td><td></td><td colspan="2">15</td><td colspan="2">14</td><td>10</td><td colspan="3">15</td></tr>
<tr><td>学習内容Ⅰ</td><td colspan="3">A多様性,相互性,連携性
B責任性</td><td colspan="2">A有限性,相互性</td><td></td><td colspan="2">A有限性,多様性,相互性
B連携性,責任性</td><td colspan="2">A多様性,相互性
B連携性,責任性</td><td>A相互性
B連携性,責任性</td><td colspan="3">A多様性　B責任性</td></tr>
<tr><td>学習内容Ⅱ</td><td colspan="3">B他者理解の仕方
Cまとめ方</td><td colspan="2">C情報収集の仕方</td><td></td><td colspan="2">A計画の立案
B話し合いの仕方
C現状の分析</td><td colspan="2">Bｲﾝﾀﾋﾞｭｰの仕方
Cまとめ方</td><td>A計画の立案，
B話し合いの仕方</td><td colspan="3">A計画の立案 Cﾌﾟﾚｾﾞﾝの仕方</td></tr>
<tr><td>重点を置く資質・能力</td><td colspan="3">自己の認識，現状の把握・分析，志の共有，
責任の遂行・粘り強い取組</td><td colspan="2">価値の認識，
他者との協力</td><td></td><td colspan="2">価値の認識，現状の把握・分析，
対話や議論への参加</td><td colspan="2">価値の認識，他者の認識，発信</td><td>自己の認識，責任の遂行・粘り強い取組，他者との協力</td><td colspan="3">志の共有，他者との協力，発信</td></tr>
</table>

第３ステージでは，地域とのかかわりをとおして，
ひと・もの・ことへの愛情・愛着を深めます。

第3ステージ　小3

1　はぐくむ資質・能力

	観点	本単元における資質・能力が働いている姿
自己を推進すること	自己の認識	百年の森の特徴や自然のよさが学校生活の中でどのように生かせるか考え，自分の経験や願いと結び付けている。
	価値の認識	百年の森を創った当時の人の思いや願い，考えをふまえ，それらがもつ価値をとらえるとともに，今の附属校園にとっての価値を理解している。
	立志・計画	百年の森をもっと楽しい森にしたいと願い，その実現に向けて，目標を立てたり，活動を考えたりしている。
	責任の遂行・粘り強い取組	活動の中で自分の立場に責任をもって取り組んだり，自分たちの考えと現実に隔たりがあっても，最後までやり遂げたりしている。
相互に交流すること	他者の認識	百年の森をつくった当時の人や，幼稚園や低学年など百年の森で遊ぶ人の思いや願いを大切にし，百年の森に生息する生きものなど自然環境にも目を向けている。
	志の共有	百年の森について詳しく調べたい，もっと楽しい森にしたいという願いを仲間や他学年と共有し，それぞれの願いや立場を共感的に理解し，願いの実現のための活動目標を立てている。
	他者との協力	願いを実現するために，仲間と考えを出し合いながら，力を合わせて取り組んでいる。
	対話や議論への参加	地域の専門家に森の木々や生物との関わりを質問したり，願いを実現のために仲間と話し合ったりしている。
新たに開発すること	現状の把握・分析	百年の森の歴史を調べたり，森の木々やそこに生息する生きものを調べたりする。
	熟考	様々な知識や情報を収集し，それらを組み合わせ，根拠のある解決方法を考えたり，試行錯誤しながら解決を試みたりしている。
	創造	願いの実現に向けて，調べたり話し合ったりしながらよりよい考えをつくっている。
	発信	地域の人や異校種・異学年に対して，相手の状況をふまえて内容や表現を工夫し，百年の森の情報を伝えている。

2　資質・能力を働かせる活動を位置付けたプロセスモデル例（このモデルを元に，題材に応じて内容を設定して実際の単元をつくります）

プロセス	○学習課題　・学習活動　※手だて	資質・能力	学習内容Ⅰ	学習内容Ⅱ
出合う 気付く	○百年の森の実態把握のための調査 ・資料の収集，現地調査，話し合い。	価値の認識 他者の認識 志の共有	A 多様性	B 目標を共に設定しビジョンを共有する方法
調べる 問題を もつ	○地域の森林インストラクターからの講話 ・百年の森での講話，校外活動。 ※百年の森の木々の特徴や生きものとの関わりを教えていただく。	価値の認識 対話や議論への参加	A 有限性 A 多様性 B 連携性	B 他者理解の仕方
	○目標と追求課題の設定，計画の作成 ・自分たちでもう一度森について調べる。 →お気に入りの木を調べる。みんなで紹介し合うというゴールを共有する。	立志・計画 現状の把握・分析	A 多様性 B 連携性	B 計画立案の仕方
考える	○森でお気に入りの木について調べ，気付きを共有する。 →選んだ木の特徴や，良いところはどこか。特に伝えたい視点は何か考える。 ○調べて得た情報を整理し，紹介文にまとめる ・説明文と図でおすすめの木について紹介する文章を作成する。 ※国語「書くこと」の移議内容	他者との協力 責任の遂行・粘り強い取組 熟考 創造	B 責任性	C 話し合いの仕方
行動する 評価する	○仲間に対しておすすめの木について紹介文を読み合う活動で伝え合う。 ・グループや学級全体で紹介し合う。	発信	A 多様性	B 説明の仕方
	○仲間の紹介文にコメントする。	価値の認識	A 多様性	B 他者評価
評価する	○追求活動の振り返り ・振り返りシートへの記入。	自己の認識	A 相互性	A 自己評価の仕方

単元の実際　楽しもう百年の森（４月～６月）

３　単元の概要

附属長岡校園（特に，幼稚園から下学年）の子供たちにとって身近な百年の森で，願いを共有する仲間や専門家と協力しながら（連携性）森の木や生き物の種類や関わりを調べ（多様性，相互性），まとめた上で発信する。

■評価計画

プロセス	学習内容 ※各プロセスにおける主な学習内容を記述	評価材料	学習内容Ⅰ					学習内容Ⅱ			資質・能力											
			A			B																
			有限性	多様性	相互性	責任性	連携性	A	B	C	自己の認識	価値の認識	立志・計画	責任・粘り	他者の認識	志の共有	他者との協力	対話・議論	現状把握	熟考	創造	発信
出合う・気付く	**◎百年の森調べをしよう。** ○森で木や虫などの生き物を観察し，発見したことや知っていることを仲間と共有する。 ○資料を基に，百年の森の歴史を調べる。	・発見メモ ・振り返りシート		○					○			○			○	○						
調べる・問題をもつ	**◎森の専門家に百年の森のことを教えていただこう。** ○森林インストラクターから，百年の森にある木の種類や特徴，生物との関わり，調べ方などについて聞く。 ○自分たちで改めて調べる。	・質問シート ・講話メモ ・振り返りシート	○	○			○	○	○			○	○					○	○			
考える	**◎おすすめの木を決めて調べ，まとめよう。** ○百年の森にある木の中からお気に入りの木を決め，図鑑などで調べる。 ○調べたことを基に，木の特徴を説明（おすすめ）する文章にまとめる。	・振り返りシート ・説明文		○		○				○				○						○	○	
行動する	**◎紹介文を使っておすすめの木を仲間に紹介しよう。** ○仲間に書いた文を読んでもらい，評価のコメントを書いてもらう。	・振り返りシート ・説明文に対する仲間からのコメント記入		○					○			○										○
評価する	**◎これまでの学習をまとめよう。** ○百年の森の良さを振り返り，これからどのように関わっていきたいかまとめる。	・凝縮ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ ・単元のまとめシート			○			○			○											

	学習内容（Ⅰ，Ⅱ）の獲得と資質・能力（〇資）の評価の具体
出合う・気付く	【ＩＡ多様性】～百年の森には様々な種類の木があり，そこには多様な生き物が生息していることに気付く。 【ⅡＢ 目標を共に設定しビジョンを共有する方法】～仲間が発見した情報を基に，黒板やグループごとのホワイトボードを活用しながら話し合うことが有効であることに気付く。 【㊮価値の認識】～百年の森の自然の良さや，先輩や地域の人達が百年の森に込めた願いを認識している。 【㊮他者の認識】～百年の森には多くの人の願いが込められていることや，自分たちだけでなく幼稚園や低学年の子供たちにとっても大切な場所であることを認識している。 【㊮志の共有】～百年の森について詳しく調べたい，もっと楽しい森にしたいという願いを仲間や他学年と共有している。
調べる・問題をもつ	【ＩＡ有限性】～百年の森の木々は相互に関わり合い，淘汰されていくことを理解する。 【ＩＡ多様性】～百年の森には様々な種類の木があり，それぞれの名前や固有の特徴があることを理解する。 【ＩＢ連携性】～百年の森の木々について，自分たちとのかかわりについて考えている。 【ⅡＢ他者理解の仕方】～森の専門家が地域にいることを知る。 【ⅡＡ計画立案の仕方】～話し合いを通して，仲間と願いを交流させながら学習のゴールを設定する。 【㊮価値の認識】～百年の森にある木々には様々な特徴があることや森に棲む生き物と関わりがあることを認識している。 【㊮立志・計画】～百年の森にある木々の特徴について調べていこうとしている。 【㊮現状の把握・分析】～百年の森にある木や生き物の一部について，名前や特徴を知る。 【㊮対話や議論への参加】～百年の森について専門家に質問したり，仲間と学習のゴールについて話し合ったりする。
考える	【ＩＡ多様性】～百年の森の木には，種類によって，生長の仕方や形状に特徴があること気付く。 【ＩＢ責任性】～自分が調べる気を決め，特徴を詳しく調べる。 【ⅡＣ紹介文のまとめ方】～木の魅力が伝わるような工夫を説明文に加える。 【㊮責任の遂行・粘り強い取組】～自分が決めた木について仲間が知らない情報を得ようと，図鑑で詳しく調べる。 【㊮熟考】～調べたことが相手に伝わるように，文章の書き方を考えている。 【㊮創造】～百年の森の木々の特徴や調べたことを基に，自分の考えをまとめている。
行動する	【ＩＡ多様性】～百年の森の木は，様々な特徴があることを理解する。 【ⅡＢ説明の仕方・他者評価】～相手の文章を読んだ感想をコメントとして記入する。 【㊮発信】～文章を読み合う活動を通して，自分のおすすめの木を仲間に伝えることができる。 【㊮価値の認識】～仲間の考えを聞いてそのよさに気付いている。
評価する	【ＩＡ 相互性】～百年の森に対して，自分がこれからどのように関わっていくか，また，どのような森になっていってほしいかという意思や願いをもっている。 【ⅡＡ 自己評価の仕方】～凝縮ポートフォリオの作成をとおして，自分がこの学習で何を身につけたかを明らかにすることができる。 【㊮自己の認識】～百年の森の良さや特徴を振り返り，これからの生活にむけて意欲を高めている。

附属長岡小学校開校 100 周年を記念して造成された森，現在は，自然の形に近い樹林園となっている。

４　単元の実際(「■評価計画」で定めたもの以外の資質･能力の表出や学習内容の習得がなされる場合もある)

	○学習課題　・学習活動	資質･能力	学習内容
出合う・気付く	**○百年の森調べをしよう。** ・森での観察活動後に，気付いたことや今までの経験を話し合う。 ・百年の森の歴史を調べる。	・「百年の森はみんなが遊べるし，生き物もいっぱいすんでいるよ。」「開校百周年の記念事業で植林されてできた森だったのだな。」【価値の認識】【他者の認識】 ・「百年の森のことをもっとくわしく調べていきたいな。」【志の共有】	・百年の森には豊かな自然があって，学校の生活とつながっているんだな。」 【ＩＡ多様性】 ・「仲間と一緒に調べていきたいな。」 【ⅡB 目標設定の仕方】
調べる・問題をもつ	**○森林インストラクターの先生に森の木や生き物について教えてもらおう。** ・木の名前や特徴などを知る。 ・木と虫の関係など，様々な生物が多様性や関連性をもちながら森で生きていることを知る。 	・「百年の森にはいろいろな木があって，それぞれに特徴があるのだな。」【価値の認識】 ・「百年の森の木々の特徴について調べていきたいな。」 【立志･計画】 ・「仲間と話し合いながら気の特徴をはっきりさせていきたいな。」 【対話・議論への参加】	・「いろいろな木があるから，生き物も棲んでいるし，鳥などもやってくるよ。」 【ＩＡ 有限性】 【ＩＡ 多様性】 【ＩＢ 連携性】
	○百年の森を自分たちでも調べてみよう。 ・森林インストラクターの先生に教わった，森を調べる技（形，色，におい，虫などとの関係，季節，生活への利用など）を活用しながら調べる。	・「教えてもらった木の他にも，においや形など，それぞれちがうがあるのだな。名前が分からない木もたくさんある。もっと詳しく調べたいな。」　【現状の把握・分析】	・「百年の森についてもっと詳しく調べたいな。森林インストラクターの先生に教わったやり方で森を調べてみよう。」【ⅡB 調査の仕方】
考える	**○木の特徴を協力して調べよう。** ・自分が調べる木を決め，資料を用いて詳しく調べる。 	・「それぞれが調べる木を決めて，詳しく調べよう。」 【責任の遂行･粘り強い取組】 ・「仲間と一緒に調べたり，相談したりしてまとめていきたいな。」 【他者との協力】 ・「調べたことを基にして，自分の考えをまとめることができた。」【創造】	・「森を調べてみたら，分かるだけでも約２５種類の木があったぞ。」 【ＩＡ多様性】 ・「人に訪ねたり図鑑で調べたりしたら，いろいろなことが分かったよ。」 【ＩＢ責任性】
	○おすすめの木について調べたことをまとめよう。 ・特におすすめの木を選ぶ。	・「特におすすめの木を選んでまとめたよ。」【熟考】	・「調べたことをもとに紹介文を書くことができた。」 【ⅡC 紹介文のまとめ方】
行動する	**○紹介文を使っておすすめの木を仲間に紹介しよう。** ・おすすめの木を仲間に紹介する。 	・「おすすめの木について，仲間にうまく伝えることができたよ。」【発信】 ・「仲間の考えのいいところがみつけられたよ。」【価値の認識】	・「百年の森にはいろいろな特徴をもった木があるのだな。」【ＩＡ 多様性】【ⅡB 説明の仕方・他者評価】
評価する	**○これまでの学習を振り返ろう。** ・学習の振り返りをする。	・「これまでの学習を振り返り，学習のまとめを作成したよ。百年の森のことについて詳しくなれたよ。」 【自己の認識】	・「これから，もっと百年の森を大切にしていきたい。」 【ＩＡ相互性】 【ⅡA 自己評価の仕方】

第3ステージ　小4

1　はぐくむ資質・能力

	観点	本単元における資質・能力が働いている姿
自己を推進すること	自己の認識	身近な自然を大切にしたいという思いをもったことを自覚し，これからもそのために活動していきたいと考えている。
	価値の認識	身近な自然や人に繰り返しかかわることを通してよさを見いだし，大切にしている。
	立志・計画	身近な自然を大切にしていきたいと強く願い，実現に向けて，自分で活動の目標や計画を立てている。
	責任の遂行 ・粘り強い取組	活動の中で役割を分担し，最後まで自分の役割に取り組んだり，うまくいかないことがあってもやり通したりしている。
相互に交流すること	他者の認識	身近な自然の専門家や仲間の，自然を大切にしたいという願いを大切にして，自分の考えに生かしている。
	志の共有	身近な自然の専門家や仲間の思いや願い，考えを理解して，身近な自然を大切にするために考え，目標を立てている。
	他者との協力	身近な自然を大切にするための活動について，身近な自然の専門家や仲間と，思いや願い，考えを出し合いながら取り組んでいる。
	対話や議論への参加	身近な自然を生かした遊びや活動を実行するために，仲間の意見を聞いたり，自分の考えを伝えたりしている。
新たに開発すること	現状の把握 ・分析	身近な自然や自然の専門家とかかわることを通して，自然を大切にしていくための問題を自分の事としてとらえている。
	熟考	身近な自然にかかわる問題に対して，様々な知識や情報を収集し，それらを根拠として，試行錯誤しながら解決を試みている。
	創造	身近な自然にかかわる問題に対して，身近な地域の専門家や仲間の考えを聞きながら，よりよい考えをつくっている。
	発信	身近な地域の人に，自分たちが学んだ身近な自然を大切にしていくための考えと活動の感想を区別して伝えている。

2　資質・能力を働かせる活動を位置付けたプロセスモデル例（このモデルを元に，題材に応じて内容を設定して実際の単元をつくります）

プロセス	○学習課題　・学習活動　※手だて	資質・能力	学習内容Ⅰ	学習内容Ⅱ
出合う 気付く	○目標との出合い ・身近な自然で季節の変化の様子を観察したり，自然の中にある動植物で遊んだりして，もっと身近な自然のことについて知りたいと目標をもつ。 ※身近な自然で見付けたものやできた遊び，遊んでみてどう思ったかを問う。	価値の認識 立志・計画		B 目標設定の仕方
調べる 問題をもつ	○計画の作成 ・身近な自然について調べ，自然の大切さについてまとめる。 ※遠足等の学校行事と関連を図る。 ※自然の大切さが分かる資料を用意する。 ※地域の方の思いや願いを聞く場を設定する。	立志・計画 他者の認識 責任・粘り	A 多様性	C 情報の把握の仕方
考える	○グループでの話合い ・身近な自然の大切さを伝えたり，活動に参加してもらったりするために，自分たちができることを考える。 ※全体の目標とグループの目標とを整理し，各グループでの取組を可視化する。	対話や議論への参加	A 有限性 A 相互性 B 連携性	B 話合いの仕方
行動する	○願いの具現 ・異学年の仲間や地域の方を招き，グループで考えた身近な自然を大切にする活動に取り組む。 ※異学年交流は，休み時間等も使って繰り返し行えるようにする。	発信 現状の把握	A 相互性 B 連携性	B 他者理解の仕方 C プレゼンの仕方
評価する	○活動の振り返り ・計画した活動についてワークシートに振り返りを記述する。 ※活動したことによって身近な自然への思いの変化や，異学年や地域の方への効果に目を向けて記述させる。	自己の認識 価値の認識	A 多様性 B 連携性	A 振り返りの仕方

単元の実際　栖吉川の今と昔（４月～６月）

３　単元の概要

栖吉川の自然環境について調べたり，話し合ったりする中で，栖吉川には絶滅危惧種や多種多様な生き物が生息していることに気付き（多様性・相互性），栖吉川の自然の豊かさやすばらしさを未来に残していきたいと意欲をもつことができる（有限性）。

■評価計画

プロセス	学習内容 ※各プロセスにおける主な学習内容を記述	評価材料	学習内容Ⅰ					学習内容Ⅱ			資質・能力											
			A			B					自己の認識	価値の認識	立志・計画	責任・粘り	他者の認識	志の共有	他者との協力	対話・議論	現状把握	熟考	創造	発信
			有限性	多様性	相互性	責任性	連携性	A	B	C												
出合う・気付く	◎学校脇の栖吉川に出かけて，生き物を捕まえよう。 ○栖吉川の周囲を散策する。 ○栖吉川に入り，生き物を捕まえる。	・ワークシート						○					○									
調べる・問題をもつ	◎捕まえた生き物の名前や世話の仕方を調べよう。 ○捕まえた生き物の名前や特徴，世話の仕方について調べ，ポスターにまとめる。	・ポスター ・ワークシート		○						○			○	○								
考える	◎地域の方から栖吉川の工事について聞いてみよう。 ○長岡市地域振興局の方をお呼びして，工事について説明を聞いたり，質問したりする。 ○栖吉川の工事が生き物にどのような影響を及ぼすか話し合う。	・ワークシート	○		○		○		○									○				
行動する	◎工事後の栖吉川の生き物を調査しよう。 ・栖吉川で生き物調査を行う。 ○生き物の特徴やすみかのことについて教えよう。 ・地域振興局の方に生き物と工事の影響について伝えよう。	・ポスターセッション			○		○		○	○									○			○
評価する	○学習を振り返る ・身近にある栖吉川の生き物のことや水害から地域を守る工事との関係について振り返ったり，新聞にまとめたりする。	・振り返りカード		○			○	○			○											

	学習内容（Ⅰ，Ⅱ）の獲得と資質・能力（〇資）の評価の具体
出合う・気付く	【ⅡA 目標設定の仕方】～栖吉川の周りの散策や川で生き物を捕まえる活動から学習計画をたてている。 【㊎立志・計画】～捕まえた生き物を学校で飼いたいと願をもっている。
調べる・問題をもつ	【ⅠA 多様性】～絶滅危惧種に指定されている生き物や多種多様な生き物が生息していることをとらえている。 【ⅡC 情報の把握の仕方】～捕まえてきた生き物の名前や特徴，世話の仕方が分かるについて調べている。 【㊎立志・計画】～図鑑やインターネットで絶滅危惧種のアカザやスナヤツメなどの生き物の世話の仕方について調べている。 【㊎責任の遂行・粘り強い取組】～捕まえてきた生き物の世話を継続して行う。
考える	【ⅠA 有限性】～生き物の住みかについて考えている。 【ⅠA 相互性】～栖吉川の土砂を取り除く工事が生き物へ及ぼす影響について考えている。 【ⅠB 連携性】～工事と生き物，工事と河川活動，工事と地域住民との関係について考えている。 【ⅡB 話し合いの仕方】～栖吉川には，アカザやスナヤツメなどの絶滅危惧種が生息せいていることを長岡市地域振興局の方に伝える。 【㊎対話・議論への参加】～栖吉川の生き物に影響がないように工事を進めてほしいことを伝える。また，栖吉川の生き物を守りたいという互いの考えを出し合う。
行動する	【ⅠA 相互性】～栖吉川の土砂を取り除く工事が生き物へ及ぼす影響について考えている。 【ⅠB 連携性】～長岡市地域振興局の方から川の生き物について関心をもってもらいたいという思いを共有する。 【ⅡB 他者理解の仕方】～長岡市地域振興局の方もよりよい栖吉川について考えていることを知る。 【ⅡC プレゼンの仕方】～栖吉川の生き物の現状についての情報を伝えている。 【㊎現状の把握・分析】～栖吉川の生き物調査について，表やグラフなどでまとめている。 【㊎発信】～工事後の栖吉川の生き物について絵や写真，文章を工夫してポスターや新聞にまとめている。
評価する	【ⅠA 多様性】～栖吉川には，多種多様な生き物が生息していることをとらえている。 【ⅠB 連携性】～長岡市地域振興局の方と一緒にこれからも栖吉川のことについて考えていきたい。 【ⅡA 振り返りの仕方】～栖吉川の学習を新聞やワークシートにまとめる。 【㊎自己の認識】【㊎価値の認識】～身近にある栖吉川に愛情や愛着を深めている。

4　単元の実際(「■評価計画」で定めたもの以外の資質･能力の表出や学習内容の習得がなされる場合もある)

	○学習課題　・学習活動	資質・能力	学習内容
出合う・気付く	**○学校脇の栖吉川に出かけて生き物を捕まえよう。** ・栖吉川の周囲を散策する。 ・栖吉川に入り，生き物を捕まえる。 	・「栖吉川には，いろいろな生き物がいることが分かった。捕まえた生き物を学校で飼いたい。そして，どんな名前の生き物なのか調べたい。」 【立志・計画】	・「栖吉川には，アカザやスナヤツメなどの絶滅危惧種や，ドジョウやアブラハヤなど，多くの生き物がいるらしい。捕まえて詳しくなりたい。」 【ⅡB 目標設定の仕方】
調べる・問題をもつ	**○捕まえた生き物の名前や世話の仕方を調べよう。** ・捕まえた生き物の名前や特徴，世話の仕方について調べ，ポスターにまとめる。	・「図鑑やインターネットで生き物のことについて調べて詳しくなったぞ。」【責任・粘り】 ・「絶滅危惧種のアカザやスナヤツメがいることが分かった。」 ・「石や砂の中に棲んでいて，水棲昆虫を食べることが分かった。」【立志・計画】	・「栖吉川には，アカザやスナヤツメなどの絶滅危惧種や，ドジョウやアブラハヤなど，多くの生き物がいることが分かった。飼い方も分かったぞ。」 【ⅠA 多様性】 【ⅡC 情報の把握の仕方】
	○地域の方から栖吉川の工事について聞いてみよう。 ・長岡市地域振興局の方をお呼びして，工事について説明を聞いたり，質問したりする。	・「栖吉川の土砂を取り除く工事をすることの理由が分かったぞ。」【他者の認識】	
考える	**○長岡市地域振興局の方に生き物の生態について伝えよう。** ・栖吉川の工事が生き物にどのような影響を及ぼすか話し合う。 ・生き物の特徴やすみかのことについて教えよう。	・「川の土砂を取り除くしゅんすい工事は，生き物に影響がないのか心配だ。どんな行動をすればよいのか考えたい。」 【対話・議論への参加】	・「土手の草は，生き物が隠れたり，ヤゴが成虫になったりするために必要なことが分かった。川の土砂を取り除く工事をすると，生き物が棲めなくなってしまうかもしれない。」 【ⅠA 有限性】【ⅠA 相互性】 ・「工事は必要なことだと分かったけれど，生き物にとって泥や河原が必要なことを地域振興局の方に知ってほしい。」 【ⅠA 連携性】 【ⅡB 話し合いの仕方】
行動する	**○工事後の栖吉川の生き物を調査しよう。** ・栖吉川で生き物調査を行う。 ・調べた生き物の生態をまとめる ･生き物の生態について発表する。 	・「栖吉川の工事をすると，水棲昆虫が成虫になる草がなくなり，アカザが生きられなくなることを伝えたい。」【発信】 ・工事後に生き物調査を行い「工事の前と変わらず，たくさんの生き物がいたから安心した。」 【現状の把握・分析】	・「川の中は工事をする前と変わっていなかった。生き物が大きく成長していたし，数もたくさんいた。」 【ⅠA 相互性】 ・「生き物にとって泥や河原が必要なことを地域振興局の方に伝えたい。」 【ⅠB 連携性】 【ⅡB 他者理解】 【ⅡC プレゼンの仕方】
評価する	**○学習を振り返る** ・身近にある栖吉川の生き物のことや水害から地域を守る工事との関係について振り返る。	・「自然豊かな栖吉川を自分たちの力で大切にしていきたい。」 【自己の認識，価値の認識】	・「栖吉川の生き物をこれからも守っていきたい。生き物がたくさんいる栖吉川であってほしい。」 【ⅠA 多様性】 ・「生き物調査を続けていきたい。」 【ⅠB 連携性】 【ⅡA 振り返りの仕方】

第4ステージ
（小学5年生～中学1年生）

年間単元配列表【第4ステージ（小5，小6，中1）】

授業形態		小中合同授業（中1・小6）			小中交流授業（計画時・中間発表時・単元末時の3回）					小中別授業			
学年	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
中1	題材	前期単元 （コミュニティ）			中期単元 （ブランド・自然環境・まちづくり）					後期単元 （東京でのキャリア教育）			
	配当時間	18			27					20			
	学習内容Ⅰ	A有限性,多様性　B責任性			題材により，いくつかを設定					A相互性　B連携性,責任性			
	学習内容Ⅱ	B目標やビジョンの共有方法 C問題の把握や分析の方法			A目標設定の仕方 Bメモの取り方 C現状の分析方法，論理的な思考法　等					Bプレゼンテーションの仕方			
	重点を置く資質・能力	自己の認識，責任の遂行・粘り強い取組，志の共有，現状の把握・分析			価値の認識，他者の認識，他者との協力，熟考，創造					発信			
小6	題材	前期単元 （コミュニティ）			中期単元 （まちづくり）					後期単元 （コミュニティ・まちづくり）			
	配当時間	22			40					33			
	学習内容Ⅰ	A多様性　B責任性			題材により，いくつかを設定					A相互性　B責任性			
	学習内容Ⅱ	B目標やビジョンの共有方法 C問題の把握や分析の方法			A計画・立案の仕方 Bビジョンを共有する方法 C表現の仕方　等					Bプレゼンテーションの仕方 C現状の分析方法			
	重点を置く資質・能力	自己の認識，責任の遂行・粘り強い取組，志の共有，現状の把握・分析			価値の認識，他者の認識，他者との協力，熟考，創造					自己の認識，志の共有，発信			
小5	題材	前期単元 （ブランド・自然環境）			中期単元 （ブランド・自然環境）					後期単元 （自然環境「安全で快適な雪国の暮らしを求めて」）			
	配当時間	20			45					30			
	学習内容Ⅰ	A多様性　B責任性			題材により，いくつかを設定					A有限性,多様性　B責任性			
	学習内容Ⅱ	Bメモのとり方 C創造的思考の仕方			A事実の把握・分析の仕方 Bインタビューの仕方 C効果的な表現の仕方　等					Bインタビューの仕方 C情報整理の仕方　等			
	重点を置く資質・能力	自己の認識，責任の遂行・粘り強い取組，志の共有，現状の把握・分析			価値の認識，他者の認識，他者との協力，熟考，創造					自己の認識，責任の遂行・粘り強い取組，志の共有，現状の把握・分析			

第４ステージでは，地域の課題を様々な立場からとらえ，
地域の人と一緒に考えます。
【小・中の合同授業】
第４ステージは，小学５・６年生と中学１年生の，異学年合同授業を行います。

第4ステージ　小5

1　はぐくむ資質・能力

	観点	本単元における資質・能力が働いている姿
自己を推進すること	自己の認識	自分が地域の一人であることを理解し，自分の特徴や考えのよさが地域の中でどのように生かせるか考え，できたことをとらえている。
	価値の認識	地域の事象や問題に対して，それにかかわる人の思いや願い，考えをふまえ，それらがもつ価値をとらえている。
	立志・計画	地域の問題を解決したいと強く願い，その実現に向けて，目標を立てたり，活動を考えたりしている。
	責任の遂行・粘り強い取組	活動の中で自分の立場に責任をもって取り組んだり，自分たちの考えと現実に隔たりがあっても，最後までやり遂げたりしている。
相互に交流すること	他者の認識	地域の問題の解決に向けて取り組む人や，それにかかわる人の思いや願いを大切にしている。
	志の共有	地域の問題の解決に向け，それにかかわる人の考えを共感的に理解し，共通の願いの実現のための活動目標を立てている。
	他者との協力	地域の問題を解決するために，異校種・異学年の仲間と考えを出し合いながら，力を合わせて取り組んでいる。
	対話や議論への参加	地域の問題解決に向けた地域の人との話合いの充実に向けて，積極的に準備したり，即時的に質問したりしている。
新たに開発すること	現状の把握・分析	地域の問題に取り組む人とのかかわりを通し，現実に起きている問題や実情について，その背景や原因をとらえている。
	熟考	様々な知識や情報を収集し，それらを組み合わせ，根拠のある解決方法を考えたり，試行錯誤しながら解決を試みたりしている。
	創造	地域の問題の解決に向けて，地域の人や仲間の考えを聞きながら，よりよい考えをつくっている。
	発信	地域の人に対して，相手の状況をふまえて，内容や表現を工夫し，自分の思いや願い，考えを伝えている。

2　資質・能力を働かせる活動を位置付けたプロセスモデル例（このモデルを元に，題材に応じて内容を設定して実際の単元をつくります）

プロセス	○学習課題　・学習活動　※手だて	資質・能力	学習内容Ⅰ	学習内容Ⅱ
出合う・気付く	○地域の実態把握のための調査 ・校外活動，レポートの作成。	価値の認識	Ａ有限性	C 事実の把握・分析の仕方
調べる問題をもつ	○地域の人へのインタビュー ・講話，校外活動。 ※地域の人の思いを尊重し，大切にしていることや困り感をとらえさせる。	価値の認識，他者の認識	Ｂ連携性	B インタビューの仕方
	○目標と追究課題の設定，計画の作成 ・目標設定シートへの記入。 ※地域の人の抱える問題に対する自分の気持ちを記述させる。 ※実際に地域の人が取り組む問題解決活動に沿った計画を立てさせる。	立志・計画	Ｂ責任性	B ビジョン共有の方法 C 効果的な伝え方
		志の共有		C 情報の分析の仕方
考える	○充実した話合いと，問題解決への取組 ・役割分担シートの記入と振り返り。 ※校種の違う仲間と合同グループを編成し，役割と責任を自覚させる。	他者との協力		A 目標修正の仕方
	○調べて得た情報の整理・分析と，持続可能性の視点からの提案作成 ・分析シート，企画書シートへの記入。 ※KJ 法的な手法，マトリクス，before-after，メリットデメリット，ウェビング等，思考を可視化することができる技法を用い，小グループでの活動を組織する。	現状の把握・分析	Ｂ責任性	A 自己評価の仕方
		熟考		C 情報の効果的なまとめ方やプレゼンの仕方
		創造		B 相手の思いを引き出すインタビューの仕方
行動する	○地域の人との充実した話合い ・地域の人を招致したり，訪問したりしての提案会。	対話や議論への参加		C 情報の効果的なまとめ方 C 効果的な伝え方
		発信		C 情報の分析の仕方
	○地域の人からのフィードバックを受けた改善。 ・フィードバックを受けた提案の練り直し。	責任の遂行・粘り強い取組		A 目標修正の仕方
評価する	○発表交流会 ※仲間の追究を聞き，共通点から重要な概念を一般化してとらえさせたり，相違点から自分の認識を広げさせたりする。 ○追究活動の振り返り ・振り返りシートへの記入。 ※認識の深まりと，追究活動そのものについての両方の観点から振り返らせる。	自己の認識	Ｂ連携性 Ｂ責任性	A 自己評価の仕方

単元の実際　トキが暮らせる自然環境を目指して（４月～６月）

３　単元の概要

トキを守り育てる自然環境づくりに取り組む長岡市の取組に共感し，これからもトキが暮らせる自然環境をつくるために自分たちができること（責任性）を多様な視点から考え（多様性），発信する。

■評価計画

プロセス	学習内容 ※各プロセスにおける主な学習内容を記述	評価材料	学習内容Ⅰ					学習内容Ⅱ			資質・能力											
			A			B																
			有限性	多様性	相互性	責任性	連携性	A	B	C	自己の認識	価値の認識	立志・計画	責任・粘り	他者の認識	志の共有	他者との協力	対話・議論	現状把握	熟考	創造	発信
出合う・気付く	○トキについて知っていることを話し合ったり現状について調べたりする。	・ワークシート①「トキの現状調査シート」	○																○			
調べる・問題をもつ	○各地で行われているトキ保護の取組をインターネットで調べる。 ○長岡市で取り組んでいるトキの保護増殖と地域の自然環境保全について調べる。	・ワークシート②「トキ保護活動調査シート」					○		○			○										
	○調べたことを基に，これからの活動計画を立てる。	・ワークシート③「活動計画シート」							○								○					
考える	○トキを守り育てるために自分たちができることを考え，全体で話し合う。	・ワークシート④「アイデアシート」		○						○											○	
行動する	○学習したことやトキを守り育てるために考えたことを新聞に表し，職員の方や施設の来訪者に新聞を発表する。	・各自が作成した新聞 ・振り返りシート								○												○
評価する	○自分たちの活動が実社会に生きていたかどうかを振り返り，今後の課題について話し合う。	・ワークシート⑤「学びのまとめシート」				○	○				○											

	学習内容（Ⅰ、Ⅱ）の獲得と資質・能力（〇資）の評価の具体
出合う・気付く	【ＩＡ有限性】～トキが絶滅の危機にあることをとらえている。 【資現状の把握・分析】～前ステージの単元で学んだこと（栖吉川に生息するアカザのように，絶滅が懸念される生物がいること）と関連させて，トキが絶滅の危機にある現状をとらえている。
調べる・問題をもつ	【ＩＢ 連携性】～長岡市は，トキを保護・増殖する活動を行い，国や県が進めているトキの増殖・保護の活動に協力していることをとらえている。 【ⅡＢメモの取り方】～「トキと自然の学習館」の方の話を聞いて，必要な事柄をワークシートに記入する。 【資価値の認識】～長岡市などが取り組んでいるトキの増殖や保護の取組の価値や役割，意味をとらえている。
	【ⅡＢ 目標を共に設定しビジョンを共有する仕方】～各々が考えたことを付箋などに書いて出し合って整理し，それを基に今後の目標や内容を決めていく。 【資他者との協力】～長岡市が取り組んでいるトキの増殖や保護の取組に協力し，トキが暮らせる自然環境をつくっていきたいと考えている。
考える	【ＩＢ 多様性】～長岡市が取り組んでいるトキの増殖や保護の取組に協力し，これからもトキが暮らせる自然環境をつくるために自分たちができることを多様な視点から考えている。 【ⅡＣ創造的思考の仕方】～アイデアシートを分類・整理して，実現可能な方法を取捨選択する。 【資創造】～効果的でかつ実現可能な方法を考えている。
行動する	【ⅡＣ 効果的な表現の仕方】～自分の考えが読み手に伝わるように，新聞の記事の内容やレイアウトなどを工夫して表現している。 【資発信】～新聞の記事の内容やレイアウトなどを工夫し，トキを守り育てることへの関心が高まるように表現している。
評価する	【ＩＢ 連携性】～トキが暮らせる自然環境をつくることにこれからも力を合わせていくことが大切であると考えている。 【ＩＢ責任性】～自分たちで考えたことが実現できるように，自らが努力していくことが大切であると考えている。 【資自己の認識】～これからもトキが暮らせる自然環境をつくっていくために自分にできることを自分なりに考えている。

４　単元の実際(「■評価計画」で定めたもの以外の資質･能力の表出や学習内容の習得がなされる場合もある)

	○学習課題　・学習活動	資質・能力	学習内容
出合う・気付く	**○トキの現状について知ろう。** ・トキについて知っていることを話し合う。 ・トキが絶滅の危機がある鳥であることを知る。	「栖吉川にいたアカザのように，身の回りには絶滅の恐れがある生き物がいる。県の鳥に指定されているトキもその１つだ。トキをどうしたらいいか考える必要がある。」 【現状の把握・分析】	「トキが絶滅の恐れのある鳥だということがわかった。何もしなければトキも絶滅しまう。絶滅しないために，人々はなにか対策をしているだろうか。」 【ＩＡ有限性】
調べる・問題をもつ	**○トキを守り育てる取組について調べよう。** ・各地でトキを守り育てる取組がどのように行われているかインターネットで調べる。 ・長岡市で取り組んでいるトキの保護増殖と地域の自然環境保全について調べる。 	「長岡市は，トキの分散飼育を行っていたり，トキが暮らしやすい自然環境づくりに取り組んでいたりしている。長岡市の取組はとてもよいことだと思った。」 【価値の認識】	「長岡市は，トキを守り育てる活動を行い，国や県が進めているトキの増殖や保護に協力しているんだ。」 【ＩＢ連携性】 【ⅡＢメモの取り方】
	○調べたことをもとに，これからの活動計画を立てよう。	「これからもトキが増えて暮らしやすい自然環境になるように，できることを考えていきたい。」 【他者との協力】	「各々が考えたことを出し合って整理し，今後の活動内容を決めよう。」 【ⅡＢ目標を共に設定しビジョンを共有する仕方】
考える	**○これからもトキを守り育てるために，わたしたちにできることを考えよう。** ・トキを守り育てるために自分たちができることを考え，全体で話し合う。	「大きなことではなく自分たちでも実行が可能な方法にしよう。自分たちが考えたことを地域の人に呼び掛けていくことも大切だ。」 【創造】	「国や県，市の取組にわたしたちも協力をして，トキを守り育てるためにどんなことができるか考えていきたい。」 【ＩＢ多様性】 【ⅡＣ創造的思考の仕方】
行動する	**○新聞を作ってトキと自然の学習館に送ろう。** ・学習したことやトキを守り育てるために考えたことを新聞に表す。 ・職員の方や施設の来訪者に見ていただく。	「新聞の記事の内容やレイアウトなどを工夫して，トキを守り育てることに関心をもってもらえるように工夫した。読みやすいと評価をしてもらってよかった。」 【発信】	「どうやって新聞を書くと分かりやすくなるのだろう。」 【ⅡＣ効果的な表現の仕方】
評価する	**○活動の振り返りをしよう。** ・自分たちの活動が実社会に生きていたかどうかを振り返り，今後の課題について話し合う。	「新聞を作って読んでもらうことで，トキを守り育てることに関心をもってもらうことができたようだ。自分たちも考えたことを実行して取り組んでいこうと思う。」 【自己の認識】	「これからもトキが暮らせる自然環境をつくることに力を合わせて取り組んでいくことで，トキが増えて野生でも暮らせるようになると思う。自分たちで考えたことが実現できるようにこれからも自然環境をよくすることについて考えていきたい。」 【ＩＢ連携性，責任性】

第4ステージ　小5

1　はぐくむ資質・能力

	観点	本単元における資質・能力が働いている姿
自己を推進すること	自己の認識	自分が地域の一人であることを理解し，自分の特徴や考えのよさが地域の中でどのように生かせるか考え，できたことをとらえている。
	価値の認識	地域の事象や問題に対して，それにかかわる人の思いや願い，考えをふまえ，それらがもつ価値をとらえている。
	立志・計画	地域の問題を解決したいと強く願い，その実現に向けて，目標を立てたり，活動を考えたりしている。
	責任の遂行・粘り強い取組	活動の中で自分の立場に責任をもって取り組んだり，自分たちの考えと現実に隔たりがあっても，最後までやり遂げたりしている。
相互に交流すること	他者の認識	地域の問題の解決に向けて取り組む人や，それにかかわる人の思いや願いを大切にしている。
	志の共有	地域の問題の解決に向け，それにかかわる人の考えを共感的に理解し，共通の願いの実現のための活動目標を立てている。
	他者との協力	地域の問題を解決するために，異校種・異学年の仲間と考えを出し合いながら，力を合わせて取り組んでいる。
	対話や議論への参加	地域の問題解決に向けた地域の人との話合いの充実に向けて，積極的に準備したり，即時的に質問したりしている。
新たに開発すること	現状の把握・分析	地域の問題に取り組む人とのかかわりを通し，現実に起きている問題や実情について，その背景や原因をとらえている。
	熟考	様々な知識や情報を収集し，それらを組み合わせ，根拠のある解決方法を考えたり，試行錯誤しながら解決を試みたりしている。
	創造	地域の問題の解決に向けて，地域の人や仲間の考えを聞きながら，よりよい考えをつくっている。
	発信	地域の人に対して，相手の状況をふまえて，内容や表現を工夫し，自分の思いや願い，考えを伝えている。

2　資質・能力を働かせる活動を位置付けたプロセスモデル例（このモデルを元に，題材に応じて内容を設定して実際の単元をつくります）

プロセス	○学習課題　・学習活動　※手だて	資質・能力	学習内容Ⅰ	学習内容Ⅱ
出合う 気付く	○実態把握のための調査 ・仲間との話合いによる情報の共有　講話。	現状の把握・分析		C事実の把握・分析の仕方
調べる 問題を もつ	○調査および地域の人へのインタビュー ・講話，校外活動。 ※地域の人の思いを尊重し，大切にしていることや困り感をとらえさせる。	価値の認識	A有限性 B責任性	C事実の把握・分析の仕方
	○目標と追究課題の設定，計画の作成 ・目標設定シートへの記入。 ※地域の人の願いに対する自分の考えを記述させる。 ※実際に地域の人が取り組む問題解決活動に沿った計画を立てさせる。	熟考		B目標をともに設定しビジョンを共有する仕方 Bインタビューの仕方
考える	○充実した話合いと，問題解決への取組 ・役割分担シートの記入。 ※グループを編成し，役割と責任を自覚させる。 ○調べて得た情報の整理・分析と，持続可能性の視点からの提案作成 ・分析シート，企画書シートへの記入。 ※KJ法的な手法，マトリクス，before-after，メリットデメリット，ウェビング等，思考を可視化することができる技法を用い，小グループでの活動を組織する。	創造	B責任性	C創造的思考の仕方
行動 する	○地域の人との充実した話合い ・地域の人を招致したり，訪問したりしての提案会。 ○地域の人からのフィードバックを受けた改善。 ・フィードバックを受けた提案の練り直し。	発信		C効果的な表現の仕方
評価 する	○発表交流会 ※仲間の追究を聞き，共通点から重要な概念を一般化してとらえさせたり，相違点から自分の認識を広げさせたりする。 ○追究活動の振り返り ・振り返りシートへの記入。 ※認識の深まりと，追究活動そのものについての両方の観点から振り返らせる。	自己の認識	B責任性	A自己評価の仕方

単元の実際　長岡野菜のこれからを考えよう（７月～１０月）

３　単元の概要

地域で古くから栽培されている長岡野菜に関心をもち，地域の方に長岡野菜に対する思いや願いについて調べ（連携性），長岡野菜のよさを多くの人に知ってもらうために自分たちができること（責任性）を考え，提案・発信する。

■評価計画

プロセス	学習内容 ※各プロセスにおける主な学習内容を記述	評価材料	学習内容Ⅰ					学習内容Ⅱ			資質・能力											
			A			B																
			有限性	多様性	相互性	責任性	連携性	A	B	C	自己の認識	価値の認識	立志・計画	責任・粘り	他者の認識	志の共有	他者との協力	対話・議論	現状把握	熟考	創造	発信
出合う・気付く	○長岡野菜について知っていることを話し合ったり，栄養教諭から長岡野菜について話を聞いたりする。	・ワークシート①「長岡野菜を知ってる?」						○											○			
調べる・問題をもつ	○長岡野菜についてインターネットで調べたり，関係者の方からお話を聞いたりする。	・ワークシート②「長岡野菜について詳しく調べてみよう」	○			○				○		○										
考える	○調査結果をまとめ,長岡野菜のPR方法を考えよう。	・ワークシート③「企画書」				○				○											○	
調べる・問題をもつ	○長岡野菜をどのようにPRしているのかを調査し，どのようなPR方法がよいのかを考える。	・グループワークシート①「ﾌﾟﾗｽ･ﾏｲﾅｽ表」							○											○		
行動する	○自分たちの考えたPR方法で,長岡野菜のよさを紹介する。	・ワークシート③「企画書」								○												○
評価する	○自分たちの活動が実社会に生きていたかどうかを振り返り，今後の課題について話し合う。	・ワークシート④「PR活動を振り返ろう」 ・ワークシート⑤「学びの総まとめシート」				○	○	○			○											

	学習内容（Ⅰ、Ⅱ）の獲得と資質・能力（〇資）の評価の具体
出合う・気付く	【ⅡA 事実の把握・分析の仕方】～自分自身が長岡野菜についてどの程度知っているのかを認識している 【㊟現状の把握・分析】～長岡野菜についてどの程度理解しているのか現状をとらえている
調べる・問題をもつ	【ⅠA 有限性】～長岡野菜が現在まで育て続けられていること，長岡野菜の歴史をとらえている 【ⅠB 責任性】～長岡野菜と地域に住む自分たちの関わりをとらえている 【ⅡC 事実の把握・分析の仕方】～長岡野菜を育てている人や販売する人などの思いや願いを理解している 【㊟価値の認識】～長岡野菜をブランド化している協会の人の思いや長岡野菜を育てている人の思いについて考えている
考える	【ⅠB 責任性】～長岡に住む者として，長岡野菜の関係者の方の思いを大切にして PR 方法を考えようとしている 【ⅡC 創造的思考の仕方】～どのような方法が長岡野菜のことが伝わるのか，様々なアイディアを組み合わせて考えようとしている 【㊟創造】～長岡野菜の最も効果がありそうな PR 方法を見いだしている
調べる・問題をもつ	【ⅡB 目標を共に設定しビジョンを共有する仕方】～調査結果を基に，長岡野菜の PR 方法を分類・整理する インタビューの仕方～取材する時の聞き方を工夫して，自分たちが聞きたいことを聞いている 【㊟熟考】～長岡野菜のよさを効果的に伝えられる PR 方法になっているか，自分の考えた方法について考えている
行動する	【ⅡC 効果的な表現の仕方】～相手に伝わるように工夫しながら長岡野菜を紹介しようとしている 【㊟発信】～自分たちの考えた PR 方法で長岡野菜のよさを紹介しようとしている
評価する	【ⅠB 連携性】～長岡野菜に関係する人々と自分たちの思いを関連付けて考えようとしている 【ⅠB 責任性】～長岡野菜の今後のことを考えながら，自分たちがするべきことを考えている 【ⅡA 自己評価の仕方】～今までの学びをワークシートにまとめる 【㊟自己の認識】～長岡野菜についての学びを振り返り，自分の変化や成長をとらえている

4　単元の実際(「■評価計画」で定めたもの以外の資質･能力の表出や学習内容の習得がなされる場合もある)

	○学習課題　・学習活動	資質・能力	学習内容
出合う・気付く	**○長岡野菜について知ろう。** ･長岡野菜について知っていることを話し合う。 ･栄養教諭から長岡野菜について話を聞く。 ･身近な所でも長岡野菜が使われていることを知る。	「長岡野菜にはいろんな種類があることを知った。毎日食べている給食にも使われている。長岡野菜についてもう少し詳しく調べてみたい。」 【現状の把握・分析】	「近くのスーパーや直売所で長岡野菜が売られているのを見たことがある。」 「給食にもたくさん長岡野菜が使われているのだな。地元の新鮮な野菜を使って給食がつくられているんだ。」 【ⅡＡ事実の把握・分析の仕方】
調べる・問題をもつ	**○長岡野菜について詳しく調べよう。** ･長岡野菜の種類や生産量などの情報をインターネットで調べる。 ･長岡野菜ブランド協会の方にお話をうかがう。 ･長岡野菜を生産している地域の方からお話をうかがう。 ・自分たちも長岡野菜を育ててみる。 	「生産している人も販売している人も，歴史ある長岡野菜を大切に思い，少しでも多くの人に食べてもらいたいという願いをもっていた。長岡野菜に携わる人々の願いがよく伝わってきた。」 【価値の認識】	「地域で作られてきた野菜を今も作り続けている人がいる。」 「長岡野菜に認定されるためには，３つの基準のどれかをクリアしなければならないのだな。」 「自分たちも長岡野菜を育ててみたい。どんなことに気をつけて育てたらよいのかな。」 【ＩＡ有限性】 【ＩＢ責任性】 【ⅡＣ事実の把握・分析の仕方】
考える	**○長岡野菜を多くの人に知ってもらうためにはどうすれば良いか考えよう。** ･長岡野菜を多くの人に知ってもらうために自分たちができることを考え，全体で話し合う。	「どのように紹介すれば，長岡野菜を多くの人に知ってもらえるだろうか。自分たちでも実行が可能な方法でたくさんの人に呼び掛けていくことが大切だ。」 【創造】	「長岡野菜にかかわる人たちの思いを大切に，わたしたちも長岡野菜をPR していきたい。どんな方法があるのか調べたいな。」 【ＩＢ責任性】 【ⅡＣ創造的思考の仕方】
調べる・問題をもつ	**○長岡野菜の PR 方法を調べよう。** ･長岡野菜にかかわる方々は，どのように長岡野菜を広めているのか調査する。 ・中学生からアドバイスをもらう。 	「どのような PR をすれば一番効果があるのかな。」 「いろいろな人からのアドバイスを参考に，よいところを組み合わせてみよう。」 「長岡野菜のよさをもっと広げていくには，もっと長岡野菜のことを知る必要がある。」 【熟考】	「PR 方法を出し合って整理し，よりよい PR 方法にしよう。」 「取材するときの聞き方を工夫して，自分たちが聞きたいことを聞くことができた。」 【ⅡＢ目標を共に設定しビジョンを共有する仕方】 【ⅡＢインタビューの仕方】
行動する	**○長岡野菜を PR しよう。** ･自分たちの考えた PR 方法で，長岡野菜のよさを紹介する。	「たくさんの人に長岡野菜に興味をもってもらえるよう PR できた。長岡野菜を知ってもらえてよかった。」 【発信】	「たくさんの人に知ってもらえるような PR の工夫を考えた。」 【ⅡＣ効果的な表現の仕方】
評価する	**○活動の振り返りをしよう。** ･自分たちの活動が実社会に生きていたかどうかを振り返り，今後の課題について話し合う。	「長岡野菜の PR をすることで，長岡野菜に興味をもってもらうことができた。自分たちもできることを考え，これからも取り組んでいこう。」 【自己の認識】	「今後も長岡野菜にかかわる人の思いや願いを大切にして，歴史ある長岡野菜がずっと作られっていってほしい。自分たちも長岡野菜のよさを広げるお手伝いをしたい。」 【ＩＢ連携性，責任性】 【ⅡＡ自己評価の仕方】

第4ステージ　小6

１　はぐくむ資質・能力

	観点	本単元における資質・能力が働いている姿
自己を推進すること	自己の認識	自分が地域の一員であることを理解し，自分の特徴や考えのよさが地域の中でどのように生かせるか考え，できたことをとらえている。
	価値の認識	地域の事象や問題に対して，それにかかわる人の思いや願い，考えをふまえ，それらがもつ価値をとらえている。
	立志・計画	地域の問題を解決したいと強く願い，その実現に向けて，目標を立てたり，活動を考えたりしている。
	責任の遂行・粘り強い取組	活動の中で自分の立場に責任をもって取り組んだり，自分たちの考えと現実に隔たりがあっても，最後までやり遂げたりしている。
相互に交流すること	他者の認識	地域の問題の解決に向けて取り組む人や，それにかかわる人の思いや願いを大切にしている。
	志の共有	地域の問題の解決に向け，それにかかわる人の考えを共感的に理解し，共通の願いの実現のための活動目標を立てている。
	他者との協力	地域の問題を解決するために，異校種・異学年の仲間と考えを出し合いながら，力を合わせて取り組んでいる。
	対話や議論への参加	地域の問題解決に向けた地域の人との話合いの充実に向けて，積極的に準備したり，即時的に質問したりしている。
新たに開発すること	現状の把握・分析	地域の問題に取り組む人とのかかわりを通し，現実に起きている問題や実情について，その背景や原因をとらえている。
	熟考	様々な知識や情報を収集し，それらを組み合わせ，根拠のある解決方法を考えたり，試行錯誤しながら解決を試みたりしている。
	創造	地域の問題の解決に向けて，地域の人や仲間の考えを聞きながら，よりよい考えをつくっている。
	発信	地域の人に対して，相手の状況をふまえて，内容や表現を工夫し，自分の思いや願い，考えを伝えている。

２　資質・能力を働かせる活動を位置付けたプロセスモデル例（このモデルを元に，題材に応じて内容を設定して実際の単元をつくります）

プロセス	○学習課題　・学習活動　※手だて	資質・能力	学習内容Ⅰ	学習内容Ⅱ
出合う 気付く	○地域の実態把握のための調査 ・校外活動，経験の振り返り等。	価値の認識	B 責任性	A 振り返りの仕方
調べる 問題をもつ	○地域の人へのインタビュー ・講話，校外活動。 ※地域の人の思いを尊重し，大切にしていることや困り感をとらえさせる。	価値の認識 他者の認識	B 連携性	B 他者理解の仕方
	○目標と追究課題の設定，計画の作成 ・目標設定シートへの記入。 ※地域の人の抱える問題に対する自分の気持ちを記述させる。 ※実際に地域の人が取り組む問題解決活動に沿った計画を立てさせる。	立志・計画 志の共有	A 多様性	A 計画立案の仕方
考える	○異学年での充実した話合いと，問題解決への取組 ・役割分担シートの記入と振り返り。 ※校種の違う仲間と合同グループを編成し，役割と責任を自覚させる。 ○調べて得た情報の整理・分析と，持続可能性の視点からの提案作成 ・分析シート，企画書シートへの記入。 ※KJ 法的な手法，マトリクス，before-after，メリットデメリット，ウェビング等，思考を可視化することができる技法を用い，小グループでの活動を組織する。	他者との協力 現状の把握・分析 熟考 創造	A 多様性 B 責任性	B 話し合いの仕方 B ビジョンの共有の方法
行動する	○地域の人との充実した話合い ・地域の人を招致したり，訪問したりしての提案会。	対話や議論への参加 発信	A 多様性	C プレゼンテーションの仕方
	○地域の人からのフィードバックを受けた改善 ・フィードバックを受けた提案の練り直し。	責任の遂行・粘り強い取組	B 責任性	A 目標修正の仕方
評価する	○発表交流会 ※仲間の追究を聞き，共通点から重要な概念を一般化してとらえさせたり，相違点から自分の認識を広げさせたりする。 ○追究活動の振り返り ・振り返りシートへの記入。 ※認識の深まりと，追究活動そのものについての両方の観点から振り返らせる。	自己の認識		A 自己評価の仕方

単元の実際「考えよう わたしたちの地域 長岡のこれからー目指そう 子育てNo.1のまち 今の私にできることー」(4月～6月)

3　単元の概要

子育てしやすいまちづくりを目指して長岡市が設置した子育ての駅で，利用者とかかわることのよさや意味を見いだし，自分たちができることを提案する。

■評価計画

プロセス	学習内容 ※各プロセスにおける主な学習内容を記述	評価材料	学習内容Ⅰ					学習内容Ⅱ			資質・能力										
			A			B					自己の認識	価値の認識	立志・計画	責任・粘り	他者の認識	志の共有	他者との協力	対話・議論	現状把握	熟考	創造	発信
			有限性	多様性	相互性	責任性	連携性	A	B	C												
出合う・	○今までの幼小自由交流日での園児とのかかわりを振り返る。	・ワークシート①「何のグラフでしょう？」				○													○			
調べる・問題をもつ	○園児や幼稚園の先生の声を聞き，幼小自由交流の意義について話し合う。	・ビデオ映像「1回目の交流の感想」					○				○		○									
	○次の幼小自由交流日でのかかわり方を話し合う。	・グループワークシート①「ボックスチャート」		○					○				○					○				
考える	○2 回目の幼小自由交流を振り返り，学んだことや考えたことをまとめる。	・ワークシート②「幼小自由交流を振り返ろう」				○					○											
	○中学生に幼小自由交流で学んだことや考えたことを伝える。	・ワークシート③「学びの交流で，自分たちに生かせそうなことは」		○					○										○			
	○子育て支援施設で，何ができるのかを考える。	・ワークシート④「子育て支援施設で見聞きしたいこと」		○									○									
調べる・問題をもつ	○子育ての駅を訪問し，利用のされ方を観察したり，利用者や職員の願いを聞いたりする。	・グループワークシート②「ベン図」 ・ワークシート⑤「訪問を振り返ろう」		○								○			○	○						
考える	○ここまで集めた情報を生かして，子育て支援施設でできる企画を考える。	・ワークシート「企画書」					○													○	○	
	○中学生や地域の人からのアドバイスを参考にし、地域の施設で自分たちにできることを考える。	・グループワークシート③「プラス・マイナス表」 ・ワークシート⑥「企画書」								○				○			○		○			
行動する	○実際に地域の子育て施設を訪問し、体験や調査活動を行う。	・ワークシート⑦「調査カード」 ・ワークシート⑥「企画書」				○									○							○
評価する	○今までの学びをまとめる。	・ワークシート⑧「学びの総まとめシート」						○													○	

	学習内容（Ⅰ、Ⅱ）の獲得と資質・能力（〇資）の評価の具体
出合う・気付く	【ＩＢ責任性】～小学校の年長者としての年少者とのかかわり方をとらえている 【資現状の把握・分析】～幼小自由交流日における園児とのかかわり方の現状をとらえている
調べる・問題をもつ	【ＩＢ連携性】～園児との交流で，幼稚園の先生や園児の思いを大切にして考えている 【資自己の認識】～どのように園児とかかわったらよいか自分なりに考えている 【資立志･計画】～園児とのかかわり方について自分なりの目標を立てている
	【ＩＡ多様性】～園児は多様な行動様式や性格をもっているととらえること 【ⅡＢ目標やビジョンの共有方法】～ボックスチャートで園児との交流内容を分類･整理する 【資立志･計画】～園児との交流内容･方法を，園児に合わせて考えている 【資対話や議論への参加】～園児との交流内容･方法について積極的に自分の考えを伝えている
考える	【ＩＢ責任性】～年長者としての年少者である園児とのかかわり方をとらえている 【資自己の認識】～園児との交流を振り返り，自分のよさやできたことをとらえている
	【ＩＡ多様性】～長岡市は，子育て支援のために様々な施策を行っていることをとらえている 【ⅡＢメモの取り方】～中学生の話を聞き，必要な事柄をワークシートに記入する 【資現状の把握･分析】～子育ての駅が設けられた背景や果たしている役割をとらえている
	【ＩＡ多様性】～子育ての駅を利用する子供との交流のためにできそうなことを，多様な視点からとらえている 【資立志･計画】～子育ての駅で小さな子供と交流するために自分がやれそうなことを考えている
調べる・問題をもつ	【ＩＡ多様性】～子育ての駅は，利用者の様々なニーズに応えていることをとらえる 【資他者の認識】～子育ての駅職員の思いや願いを理解する。 【資価値の認識】～子育ての駅がもつ価値や役割，意味をとらえている 【資志の共有】～子育ての駅職員の思いや願い，子育ての駅がもつ価値や役割に共感し，そこで活動したいという目標をもつ
考える	【ＩＢ連携性】～子育ての駅利用者と交流する内容や方法を，自分ができることと施設の価値や目的を関連付けて考えている 【資熟考】～子育ての駅利用者に喜ばれる内容になっているか，自分の考えた企画について考えている 【資創造】～子育ての駅利用者が喜んでくれるような交流の内容を考えている
	【ⅡＣ問題の把握や分析の方法】～プラスマイナス表に，各自の企画の良い点･改善点を書き出す 【資現状の把握･分析】～小中学生が，互いの企画の内容について良い点と改善点を見いだしている 【資責任の遂行・粘り強い取組】～仲間の意見を聞きながら，自分の企画を改善しようとしている 【資他者との協力】～よりよい企画になるように，互いのアイディアを出し合いながら話し合っている
行動する	【ＩＢ責任性】～自分が考えた企画を基に，利用者を楽しませようと働きかけている 【資他者の認識】～子育ての駅職員や，利用する子供の親たち願いや思いを基に，交流のための企画を見直している 【資発信】～自分の考えた企画を，子育ての駅利用者に投げかけ，一緒に活動しようとしている
評価する	【ⅡＡ自己評価･振り返りの仕方】～今までの学びをワークシートにまとめる 【資創造】～これから子育て支援でかかわれそうなことを見いだしている

4　単元の実際(「■評価計画」で定めたもの以外の資質・能力の表出や学習内容の習得がなされる場合もある)

	○学習課題　・学習活動	資質・能力	学習内容
出会う・気付く	○幼小交流日でのかかわり方を振り返ろう ・1 回目の幼小自由交流日での園児とのかかわり方について振り返る。	・「園児たちは私たちとの交流を楽しんでくれていたな。」　【他者の認識】	・「最初の交流をしてみて，次もしてみようと思いました。仲良くなれるし，これからも交流した方がよいと思います。」　【ＩＢ責任性】
調べる・問題をもつ	○幼稚園の先生や園児の声を聞いてみよう ・幼稚園の先生や園児の声を聞き，幼小自由交流の意義について話し合う。	・「幼稚園の先生の言うように，広い心で園児と接したいと思った。」【自己の認識】	・「園児と合わせて遊んだりかかわったりすることが大切だと気付きました。」　【ＩＢ連携性】
	○次の交流日はどのように交流したらよいだろうか。 ・2 回目の幼小自由交流日で園児と交流する内容を話し合う。	・「ぼくは鬼ごっこをしたいです。なぜなら，鬼ごっこが楽しかったという園児が多かったからです。」　【立志・計画】	・「いろいろな楽しく遊べる意見が出てきたのでよかったです。」 【ＩＡ多様性】 【ⅡＢ目標やビジョンの共有方法】
考える	○2 回目の交流日について振り返ろう ・2 回目の幼小自由交流日での園児とのかかわり方について振り返る。	・「これからも自分たちから遊びに行きたいと思った。」　【自己の認識】	・「遊びのルールをしっかり教えて，危険なものはつくらないようにする。」　【ＩＢ責任性】
	○互いに学んできたことを伝え合おう ・これまでに学習してきたことを中学 1 年生と伝え合う。	・「子育ての駅は，長岡市が初めてつくったと聞き，すごいなと思いました。」 【価値の認識】	・「中学生から教えてもらったことはたくさんあったが，しっかりとメモを取りながら聞くことができた。」 【ⅡＢメモの取り方】 ・「市は子育てのためにいろいろなプランを用意しているんだ。」 【ＩＡ多様性】
	○子育て支援施設で，自分たちは何ができるだろう。 ・子育て支援施設の訪問計画を立てる。	・「どんな施設なのか，よく見学してきたい。」 【立志・計画】	・「どのような人が利用しているのか，どのような工夫がされているのか話を聞いてきたい。」 【ⅡＢ計画立案の仕方】 ・「いろいろな視点から子育てを考えることが必要なのだな。」 【ＩＡ多様性】
調べる・問題をもつ	○子育ての駅を訪問して情報を集めよう。 ・子育て支援施設を訪問して職員や利用者から話を聞く。 	・「小さな子供が楽しむだけでなく，親が困ったときに助けてくれるところでもあるのだな。」 【価値の認識】	・「子供だけじゃなく，親とかいろいろな世代のためにつくられた施設だと分かった。」　【ＩＡ多様性】 ・「どちらの施設も子育てを支援するために共通の目的をもっているな。自分たちも利用者と交流してみたいな。」【ⅡＢ調査結果のまとめ方】
考える	○集めた情報を生かして企画を考えよう。 ・子育て支援施設で交流する企画を考える。	・「利用者が楽しめる内容か心配だ。」　【熟考】	・「これで大丈夫か，中学生に聞いてみたい。」　【ＩＢ連携性】
	○中学生や地域の人と，自分の企画について話し合おう。 ・考えた企画の改善点について中学生や地域の人と話し合う。	・「中学生の意見を聞いて考えが変わりました。」 【他者との協力】	・「自分たちと子供と親で協力できる手つなぎ鬼をすればよいと思う。」 【ⅡＣ問題の把握や分析の方法】
行動する	○企画を修正し，訪問の準備をしよう。 ・話合いから見いだした改善点を生かし，企画を修正する。	・「親子で一緒に楽しめるように考えたので，早く交流してみたい。」　【他者の認識】	・「自分たちの企画で，利用者に楽しんでもらいたい。」　【ＩＢ責任性】
	○施設を訪問し，企画を試してみよう。 ・子育て支援施設を訪問し，考えた企画で利用者と交流する。 	・「折り紙でお寿司をつくって遊んだ。お寿司は自分でつくったものを，小さな子供に手渡した。交流した親子は，とても楽しんでくれた。」　【発信】	・「小さな子供だけでなく，そのお母さんのことも考えながら交流することができた。」【ⅡＢ交流の仕方】
評価する	○これまでの学習を振り返ろう。 ・今までの学びをまとめる。	・「これからも小さな子供とのかかわりを自分からもち続けたい。」 【自己の認識】	・「これから子供とかかわるときには，多世代交流，自分ができることを常に意識して，どんどん仲を深めていきたい。」 【ⅡＡ自己評価・振り返りの仕方】

第4ステージ　小6

1　はぐくむ資質・能力

	観点	本単元における資質・能力が働いている姿
自己を推進すること	自己の認識	自分が地域の一人であることを理解し，自分の特徴や考えのよさが地域の中でどのように生かせるか考え，できたことをとらえている。
	価値の認識	地域の事象や問題に対して，それにかかわる人の思いや願い，考えをふまえ，それらがもつ価値をとらえている。
	立志・計画	地域の問題を解決したいと強く願い，その実現に向けて，目標を立てたり，活動を考えたりしている。
	責任の遂行・粘り強い取組	活動の中で自分の立場に責任をもって取り組んだり，自分たちの考えと現実に隔たりがあっても，最後までやり遂げたりしている。
相互に交流すること	他者の認識	地域の問題の解決に向けて取り組む人や，それにかかわる人の思いや願いを大切にしている。
	志の共有	地域の問題の解決に向け，それにかかわる人の考えを共感的に理解し，共通の願いの実現のための活動目標を立てている。
	他者との協力	地域の問題を解決するために，異校種・異学年の仲間と考えを出し合いながら，力を合わせて取り組んでいる。
	対話や議論への参加	地域の問題解決に向けた地域の人との話合いの充実に向けて，積極的に準備したり，即時的に質問したりしている。
新たに開発すること	現状の把握・分析	地域の問題に取り組む人とのかかわりを通し，現実に起きている問題や実情について，その背景や原因をとらえている。
	熟考	様々な知識や情報を収集し，それらを組み合わせ，根拠のある解決方法を考えたり，試行錯誤しながら解決を試みたりしている。
	創造	地域の問題の解決に向けて，地域の人や仲間の考えを聞きながら，よりよい考えをつくっている。
	発信	地域の人に対して，相手の状況をふまえて，内容や表現を工夫し，自分の思いや願い，考えを伝えている。

2　資質・能力を働かせる活動を位置付けたプロセスモデル例（このモデルを元に，題材に応じて内容を設定して実際の単元をつくります）

プロセス	○学習課題　・学習活動　※手だて	資質・能力	学習内容Ⅰ	学習内容Ⅱ
出合う 気付く	○地域の実態把握のための調査 ・校外活動，講話等。	価値の認識	B 連携性	A 振り返りの仕方
調べる 問題をもつ	○地域の人へのインタビュー ・講話，校外活動。 ※地域の人の思いを尊重し，大切にしていることや困り感をとらえさせる。	価値の認識 他者の認識	A 多様性	B 他者理解の仕方
	○目標と追究課題の設定，計画の作成 ・目標設定シートへの記入。 ※地域の人の抱える問題に対する自分の気持ちを記述させる。 ※実際に地域の人が取り組む問題解決活動に沿った計画を立てさせる。	立志・計画 志の共有	A 相互性	A 計画立案の仕方
考える	○異学年での充実した話合いと，問題解決への取組 ・役割分担シートの記入と振り返り。 ※校種の違う仲間と合同グループを編成し，役割と責任を自覚させる。 ○調べて得た情報の整理・分析と，持続可能性の視点からの提案作成 ・分析シート，企画書シートへの記入。 ※KJ 法的な手法，マトリクス，before-after，メリットデメリット，ウェビング等，思考を可視化することができる技法を用い，小グループでの活動を組織する。	他者との協力 現状の把握・分析 熟考 創造	A 多様性 A 相互性 B 責任性 B 連携性	B 話し合いの仕方 B ビジョンの共有の方法
行動する	○地域の人との充実した話合い ・地域の人を招致したり，訪問したりしての提案会。	対話や議論への参加 発信	A 多様性	C プレゼンテーションの仕方
	○地域の人からのフィードバックを受けた改善 ・フィードバックを受けた提案の練り直し。	責任の遂行・粘り強い取組	B 責任性	A 目標修正の仕方
評価する	○発表交流会 ※仲間の追究を聞き，共通点から重要な概念を一般化してとらえさせたり，相違点から自分の認識を広げさせたりする。 ○追究活動の振り返り ・振り返りシートへの記入。 ※認識の深まりと，追究活動そのものについての両方の観点から振り返らせる。	自己の認識	A 相互性 B 責任性	A 自己評価の仕方

単元の実際　山古志の人たちの生き方から自分たちの生き方を考えよう（9 月～11 月）

3　単元の概要

人口減少，過疎化が進む山古志地域で生活する人々の思いや願い，考えに共感し(多様性，相互性)，自分たちができることを考え(責任性)，山古志の人々やその他の地域に生活する人々に提案する。

■評価計画

プロセス	学習内容 ※各プロセスにおける主な学習内容を記述	評価材料	学習内容Ⅰ					学習内容Ⅱ			資質・能力											
			A			B					自己の認識	価値の認識	立志・計画	責任・粘り	他者の認識	志の共有	他者との協力	対話・議論	現状把握	熟考	創造	発信
			有限性	多様性	相互性	責任性	連携性	A	B	C												
出合う・気付く	○カグラナンバンを使った山古志伽哩を販売している人を知り，なぜ販売しているのか考える。	・学習の振り返り①「新聞記事を読んで気付いたこと，疑問に思ったこと」					○								○							
	○山古志伽哩を製造，販売している五十嵐さんに話を聞く。	・ワークシート①「五十嵐さんの話を振り返ろう」							○			○										
調べる・問題をもつ	○山古志のことで，興味・関心があることについて調べる。	・ワークシート②「山古志について調べよう」		○															○			
	○山古志を訪問し，多菜田，養鯉業者，畜産農家の話を聞く。	・学習の振り返り②「学んだことを振り返ろう」					○					○			○							
考える	○山古志の人々の思いや願い，考えを振り返り，まとめる。	・ワークシート③「これまでの学習を振り返ろう」				○										○						
	○山古志の人々のためにできることはないか考える。	・学習の振り返り③「自分ができることは何か」				○		○					○									
行動する	○山古志の人々のために考えたことの原案を作成する。	・ワークシート④「山古志の人たちのためにできること」の企画書		○						○											○	
調べる・問題をもつ	○考えた原案が，山古志の人々の思いや願い，考えに沿っているか確かめる。	・ワークシート③と④			○							○				○						
考える	○自分の考えについて，中学生と意見交換をする。	・ワークシート③と④ ・グループワークシート①「プラス・マイナス表」			○															○	○	
	○意見交換を基に，自分の考えを見直して取り組む。	・ワークシート④				○		○						○			○					
行動する	○自分の考えを山古志の人に伝え，指摘を受けた点を修正する。	・ワークシート④ または， 新しいワークシート⑤「企画書パート②」				○	○		○					○								○
評価する	○今までの学びをまとめる。	・ワークシート「学びの総まとめシート」						○			○											

	学習内容（Ⅰ、Ⅱ）の獲得と資質・能力（資）の評価の具体
出合う・気付く	【ＩＢ連携性】～特産であるカグラナンバンを使ったカレーで，地域の魅力を広めようとしていること 【資他者の認識】～五十嵐さんの考えや取組をとらえている
	【ⅡＢメモの取り方】～五十嵐さんの話を聞き，必要な事柄をワークシートにまとめる 【資価値の認識】～山古志のもつよさや人のつながりをとらえている
調べる・問題をもつ	【ＩＡ多様性】～山古志には様々なよさや魅力があるととらえること 【資現状の把握･分析】～震災を乗り越えてきたことや人口減少，少子高齢化の問題を抱えていることをとらえている
	【ＩＢ連携性】～山古志の人々は，同じ思いをもち，互いに力を合わせて生活してきていること。 【資価値の認識】～山古志のよさをとらえ，それを生かし，守っていくことが大切だととらえている 【資他者の認識】～山古志の人々の思いや願い，考えをとらえている
考える	【ＩＢ責任性】～山古志地域の中で，それぞれの人々が伝統やよさをつなぐために役割を果たしていること 【資志の共有】～山古志の人々の思いや願い，考えを共感的に理解し，自分にできることはないか考えようとしている
	【ＩＢ責任性】～山古志の人々のために自分ができることはないか考えている 【ⅡＡ計画･立案の仕方】～自分ができることについて考える 【資立志･計画】～山古志の人々のためにできることはないか考え，そのための計画を立てている
行動する	【ＩＡ多様性】～山古志の人々の思いや願い，考えは多様であり，それに沿った行動を計画すること 【ⅡＣ表現の仕方】～山古志の人々の思いや願い，考えに沿って自分ができることを考える 【資創造】～山古志の人々のために自分ができることを考える
調べる・問題をもつ	【ＩＡ相互性】～自分の考えが，山古志の人々の思いや願い，考えに沿っているか確かめる 【資志の共有】～山古志の人々の思いや願い，考えに共感して考えている 【資価値の認識】～山古志のよさをとらえて考えている
考える	【ＩＡ相互性】～自分の考えが，山古志の人々の思いや願い，考えに沿っているか確かめる 【資熟考】～自分の考えが，山古志の人々の思いや願い，考えに沿うように修正しようとする 【資創造】～山古志の人々の思いや願い，考えに沿った新しい考えを創り出そうとする
	【ＩＢ責任性】～山古志の人々の思いや願い，考えに沿うように，自分の考えを見直し，完成させる 【ⅡＡ修正の仕方】～自分の考えを，これまでの学習を基に見直していく 【資責任の遂行・粘り強い取組】～仲間の意見を聞きながら，自分の考えを改善しようとしている 【資他者との協力】～よりよい考えになるように，互いのアイディアを生かしながら改善しようとしている
行動する	【ＩＢ連携性】～山古志の人々と協力して自分の考えを修正する 【ＩＢ責任性】～自分の考えを実現するために進んで行動する 【ⅡＢビジョンを共有する方法】～互いの思いや願い，考えを伝え合い，考えをつくりあげる 【資責任の遂行・粘り強い取組】～自分の考えたことを，山古志の人々に伝え，一緒に考えをつくりあげようとしている 【資発信】～自分の考えを様々な立場の人に伝える
評価する	【ⅡＡ自己評価･振り返りの仕方】～今までの学びをワークシートにまとめる 【資自己の認識】～自分の生活する地域のよさも見いだし，大切にしていこうとしている

4　単元の実際(「■評価計画」で定めたもの以外の資質・能力の表出や学習内容の習得がなされる場合もある)

	○学習課題　・学習活動	資質・能力	学習内容
出合う・気付く	○山古志伽哩って何だろう。 ・カグラナンバンを使った山古志伽哩を販売している人を知り，なぜ販売しているのか考える。	・「カグラナンバンをカレーに使って，山古志をPR しようとしているのだな。」　【他者の認識】	・「どうして地域の魅力を発信しようと思ったのか。伽哩の効果はあったか。なぜカグラナンバンなのか。」　【ＩＢ連携性】
	○山古志伽哩や「多菜田」について聞いてみよう。 ・山古志伽哩を製造，販売している五十嵐さんに話を聞く。	・「山古志にはよさがたくさんあるようだ。人々も協力して生活しているようだ。」【価値の認識】	・「伽哩に込められた思いが分かり，大切な気持ちが入っていたと思った。自分が助けられたから，困っている人を助けようと思うところがすごい。」　【ⅡＢメモの取り方】
調べる・問題をもつ	○山古志について調べてみよう ・山古志のことで興味・関心があることについて調べる。	・「山古志は，中越地震の被害から復興していったのだな。でも，少子高齢化の問題がある。」【現状の把握・分析】	・「山古志には，錦鯉や牛の角突き，豊かな自然など様々な魅力があることが分かった。山古志に行って話を聞いてみたい。」【ＩＡ多様性】
	○『多菜田』や養鯉場，畜産農家を訪ねて話を聞いてみよう。 ・山古志を訪問し，多菜田，養鯉業者，畜産農家から話を聞く。	・「山古志の人たちは，地域のよさを協力して守り，つないでいるのだな。」　【価値の認識】	・「地震の時は，みんなで協力して復活させてすごい。」「たくさんの人に山古志に来てもらいたいという共通した思いがあった。」　【ＩＢ連携性】
考える	○山古志の人々から聞いたことをまとめよう。 ・山古志の人々の思いや願い，考えを振り返り，まとめる。	・「山古志の人々は，地域をPRしていきたいと考えている。自分たちにもできることはあるだろうか。」　【志の共有】	・「錦鯉に対する思いがすごいことが分かった。ぼくも，錦鯉をPRするパンフレットをつくりたい。」　【ＩＢ責任性】
	○山古志の人々の思いや願いのためにできることはあるだろうか。 ・山古志の人々のためにできることはないか考える。	・「自分たちも山古志を PR したい。そのための計画を立てよう。」　【立志・計画】	・「山古志を PR していきたい。山古志にはいいところがたくさんあるので，山古志を知らない人に知ってほしいから。」　【ＩＢ責任性】 【ⅡＡ計画・立案の仕方】
行動する	○考えたことの原案を作ろう ・山古志を PR するためのポスターやパンフレットの原案を作成する。 	・「山古志の錦鯉を PR するために，錦鯉の歴史や飼育方法を取り入れよう。」　【創造】	・「内容をより詳しく考えられた。錦鯉は様々な歴史があって生まれているので，それも書き加えよう。」　【ⅡＣ表現の仕方】 ・「いろいろな人々の願いがあるから，それぞれを大切にしてポスターをつくりたい」 【ＩＡ多様性】
調べる・問題をもつ	○山古志の人々の思いや願い，考えに沿った考えになっているだろうか。 ・考えた原案が山古志の人々の思いや願い，考えに沿っているか，レーダーチャートを使って確かめる。	・「山古志の人々の思いや願い，考えに沿った原案になっているか，中学生から意見をもらいたい。」　【志の共有】	・「原案を完成できた。前回よりも詳しくできた。少し欠けているところがあるので，他の人から見てもらいたい。アドバイスをもらって，修正していきたい。」　【ＩＡ相互性】
考える	○互いの意見を伝えて，自分の考えを見直そう。 ・自分の考えについて中学 1 年生と意見交換をする。	・「どうしてレーダーチャートが欠けているのか聞いてみたい。」　【熟考】	・「レーダーチャートをかいてもらった結果，『山古志の人々が協力していること』が欠けていたので，直したいと思った。」　【ＩＢ相互性】
	○自分たちの考えを見直して作成しよう。 ・意見交換を基に，自分の考えを見直して取り組む。	・「中学生のアドバイスのおかげで，よいパンフレットになりました。」　【他者との協力】	・「チラシで紹介した山古志の人の思いが，山古志をあまり知らない人にも伝わってほしいと思いました。」　【ＩＢ責任性】 ・「アドバイスをもとに，新しい視点から改良できた」　【ⅡＡ修正の仕方】
行動する	○見直した自分の考えを山古志の人に伝えよう。 ・自分のつくったパンフレットやポスター等を山古志の人々に紹介する。 ・賞賛の言葉やアドバイスをもらう。 	・「私は，山古志を知らない人たちにこのパンフレットを読んでもらい，山古志のことをよく知ってもらいたいです。山古志の人たちの気持ちを伝えられるようにつくりました。」 【責任の遂行・粘り強い取組】 【発信】	・「ポスターを見せたら，とても喜んでくれた。山古志の人たちの役に立てたと思う。」 ・「レイアウトはよいと言われ，嬉しかった。錦鯉は直していきたい。できたらアオーレや駅などに置いてたくさんの人に見てもらいたい。」 【ＩＢ連携性】 【ＩＢ責任性】 【ⅡＢビジョンを共有する方法】
評価する	○自分たちの学習を振り返ろう。 ・今までの学びをまとめる。	・「地域のよさを生かしながら生活している山古志の人たちのように，自分の地域のよさも大切にしていきたい。」 【自己の認識】	・「山古志の人々の思いなどを伝えられてよかった。自分たちの地域のことも見つめ直し，大切にしていきたいと思う。」 【ⅡＡ自己評価・振り返りの仕方】

第4ステージ　中1

1　はぐくむ資質・能力

	観点	本単元における資質・能力が働いている姿
自己を推進すること	自己の認識	自分が地域の一人であることを理解し，自分の特徴や考えのよさが地域の中でどのように生かせるか考え，できたことをとらえている。
	価値の認識	地域の事象や問題に対して，それにかかわる人の思いや願い，考えをふまえ，それらがもつ価値をとらえている。
	立志・計画	地域の問題を解決したいと強く願い，その実現に向けて，目標を立てたり，活動を考えたりしている。
	責任の遂行・粘り強い取組	活動の中で自分の立場に責任をもって取り組んだり，自分たちの考えと現実に隔たりがあっても，最後までやり遂げたりしている。
相互に交流すること	他者の認識	地域の問題の解決に向けて取り組む人や，かかわる人の思いや願いを大切にしている。
	志の共有	地域の問題の解決に向け，それにかかわる人の考えを共感的に理解し，共通の願いの実現のための活動目標を立てている。
	他者との協力	地域の問題を解決するために，異校種・異学年の仲間と考えを出し合いながら，力を合わせて取り組んでいる。
	対話や議論への参加	地域の問題解決に向けた地域の人との話合いの充実に向けて，積極的に準備したり，即時的に質問したりしている。
新たに開発すること	現状の把握・分析	地域の問題に取り組む人とのかかわりを通し，現実に起きている問題や実情について，その背景や原因をとらえている。
	熟考	様々な知識や情報を収集し，それらを組み合わせ，根拠のある解決方法を考えたり，試行錯誤しながら解決を試みたりしている。
	創造	地域の問題の解決に向けて，地域の人や仲間の考えを聞きながら，よりよい考えをつくっている。
	発信	地域の人に対して，相手の状況をふまえて，内容や表現を工夫し，自分の思いや願い，考えを伝えている。

2　資質・能力を働かせる活動を位置付けたプロセスモデル例（このモデルを元に，題材に応じて内容を設定して実際の単元をつくります）

プロセス	○学習課題　・学習活動　※手だて	資質・能力	学習内容Ⅰ	学習内容Ⅱ
出合う 気付く	○地域の実態把握のための調査 ・文献調査，講話等。	価値の認識	A 多様性	
調べる 問題を もつ	○地域の人へのインタビュー ※地域の人の思いを尊重し，大切にしていることや困り感をとらえさせる。	他者の認識 現状の把握・分析	A 多様性	B メモの取り方
	○仲間との情報の共有 ※仲間と調査内容を交流し、重要な情報を共有させる。	他者との協力		B 目標やビジョンの共有方法 C 情報分析の仕方
考える	○目標と追究課題の設定，計画の作成 ・追究シートの作成。 ※地域の人の抱える問題に対する自分の気持ちを記述させる。 ※実際に地域の人が取り組む問題解決活動に沿った計画を立てさせる。	立志・計画 他者の認識 志の共有		
	○異学年での充実した話合いと，問題解決への取組 ※校種の違う仲間と各自の考えを交流する。	他者との協力		C 問題の把握や分析の方法
	○調べて得た情報の整理・分析と，持続可能性の視点からの提案作成 ・分析シート，企画書シートへの記入。 ※KJ 法的な手法，マトリクス，メリットデメリット，ウェビング等，思考を可視化することができる技法を用い，追究を進める。	現状の把握・分析 熟考 創造	B 連携性	
行動する	○地域の人との充実した話合い ・地域の人を招致したり，訪問したりしての提案会。	対話や議論への参加 発信		
	○地域の人からのフィードバックや各自の体験を受けた改善 ・フィードバックや体験に基づき、提案の練り直し。	責任の遂行・粘り強い取組	B 責任性	
評価する	○発表交流会 ※仲間の追究を聞き，共通点から重要な概念を一般化してとらえさせたり，相違点から自分の認識を広げさせたりする。 ○追究活動の振り返り ・振り返りシートへの記入。 ※認識の深まりと，追究活動そのものについての両方の観点から振り返らせる。	自己の認識		

単元の実際 「考えよう わたしたちの地域 長岡のこれから－目指そう 子育てNo.1のまち 今の私にできること－」(4月～7月)

３　単元の概要

子育てしやすいまちづくりを目指して長岡市が設置した子育ての駅で，施設職員や利用者とかかわることの意味を見いだし，これからどのような姿勢や態度で少子化問題や地域の子育て支援に向き合っていくかについて考えを深める。

■評価計画

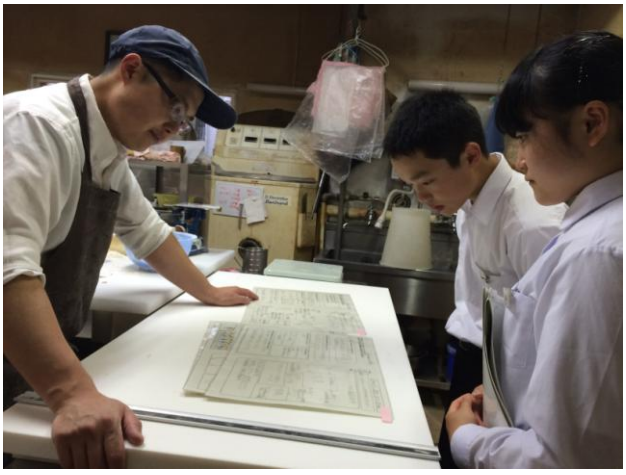
プロセス	学習内容 ※各プロセスにおける主な学習内容を記述	評価材料	学習内容Ⅰ					学習内容Ⅱ			資質・能力											
			A			B					自己の認識	価値の認識	立志・計画	責任・粘り	他者の認識	志の共有	他者との協力	対話・議論	現状把握	熟考	創造	発信
			有限性	多様性	相互性	責任性	連携性	A	B	C												
出合う・気付く	○次の２つをとらえる。 ・持続可能な社会とは ・４つのテーマ	・ワークシート①「子育ての面から持続可能な社会を考えよう」	○	○								○										
調べる・問題をもつ	○日本の少子化問題について資料を読み取り、仲間と原因や影響について話し合う。	・グループワークシート①「⇒マップ」								○									○			
		・ワークシート②「振り返り（⇒マップ）」	○	○																		
	○少子化対策について、自分が考える取組を付箋に書きだし、ラベリングする。	・グループワークシート②「ＫＪ法的分類」							○						○		○					
		・ワークシート③「振り返り（KJ法的分類）」		○			○															
	○地域の専門家から今までの疑問の答えや、長岡市の取組の現状を聞く。	・ワークシート⑤「地域の方のお話をメモしよう」							○						○							
考える	○地域の人からのアドバイスや小学生の取組を参考にし、地域の施設で自分たちにできることを考える。	・ワークシート⑧「計画書」		○																		
		・グループワークシート⑤「PM（ﾌﾟﾗｽﾏｲﾅｽ）表」								○				○	○				○			
行動する	○実際に地域の子育て施設を訪問し、体験や調査活動を行う。	・ワークシート⑧「企画書」				○								○								
評価する	○今までの学びをまとめる。	・ワークシート⑨「学びのまとめシート」 ※凝縮ポートフォリオ									○											

	学習内容（Ⅰ、Ⅱ）の獲得と資質・能力（〇資）の評価の具体
出合う・気付く	【ＩＡ有限性】～自然や資源には限りがあることを、現在の世界の諸課題からとらえている 【ＩＡ多様性】～世界には様々な持続可能性を阻む課題があることを具体からとらえている 【資価値の認識】～人類が暮らす世界を維持していくことの大切さをとらえている
調べる・問題をもつ	【ⅡＣ情報分析の仕方】～因果関係を→でつなげて示している 【資現状の把握・分析】～少子化社会が生じる原因と、その結果として考えられることをとらえている
	【ＩＡ 有限性】～人間の営みはいつまでも同じように続くわけではなく、限界もあるのだということをとらえている 【ＩＡ多様性】～少子化の原因には様々な要素があるということをとらえている
	【ⅡＢ目標やビジョンの共有方法】～ＫＪ法的分類で少子化対策をカテゴリー分けしている 【資他者の認識】～少子化対策に取り組む人々の思いや願いに気付いている 【資他者との協力】～少子化対策について、調べたことや考えたことを出し合って分類している
	【ＩＡ多様性】～少子化対策には様々な方策がとられていることをとらえている 【ＩＢ連携性】～自分たちにできることに取り組んでいこうという意欲を見せている
	【ⅡＢ メモの取り方】～キーワードで示す、聞きたいことを明確にする、相手意識をもつなどの工夫を、実際にメモに生かしている 【資他者の認識】～地域で子育て支援に取り組む人の思いや願いをとらえている
考える	【ＩＡ多様性】～企画を作成する際に、様々な人の思いや願いを反映させている
	【ⅡＣ問題の把握や分析の方法】～企画をﾌﾟﾗｽとﾏｲﾅｽの両面で分析している 【資現状の把握・分析】～様々な情報をもとに、他者と交流しながら自他の企画のよさや課題を書き出している 【資責任の遂行・粘り強い取組】～小学生と企画を練り上げのために、意欲的に意見を述べている 【資他者の認識】～仲間の企画を理解し、そこにこめられた思いを大切にしている
行動する	【ＩＢ責任性】～地域の人がそれぞれの立場で、子育て支援において役割を果たしていることをとらえている 【資責任の遂行・粘り強い取組】～よりよい企画にするために見学や体験から企画改善の視点を得ている
評価する	【資自己の認識】～持続可能な社会をどうとらえているか自分なりに振り返り、これからどのような姿勢や態度で少子化問題や地域の子育て支援に向き合っていくかを考える

４　単元の実際(「■評価計画」で定めたもの以外の資質･能力の表出や学習内容の習得がなされる場合もある)

ﾌﾟﾛｾｽ	○学習課題　・学習活動	資質・能力	学習内容
出合う・気付く	**○持続可能な社会における問題について考えよう。** ・ガイダンス資料を基に、話を聞きながら考える。 **○昨年度の先輩の実践から学ぶ。**	・「持続可能な社会を目指していくことが、様々な問題を抱える現代において重要なのだ。」【価値の認識】	・「資源の使いすぎにより、将来の世代が暮らせなくなる」」。【ＩＡ有限性】 ・「世界には様々な持続可能性を妨げる課題がある。」【ＩＡ多様性】
調べる・問題をもつ	**○日本の少子化問題とその原因や影響について考えよう。** ・資料を読み取り、仲間と話し合ってマップを作成する。	・「少子化社会が生じる原因として「核家族化」「保育所不足」などがある。結果、若者が減少し、地域が衰退していくことが考えられる」【現状の把握・分析】	・「少子化には後継ぎの減少や働く女性の増加など多くの原因がある」・「少子化が進むと、今の生活は失われていく。日本から日本らしさが消えてしまう」【ＩＡ多様性】【ＩＡ有限性】 ・「矢印マップを活用してで因果関係をとらえることができた。」【ⅡC 情報分析の仕方〕
	○少子化対策の取り組みについて考えを出し合おう。 ・自分が考える取組を付箋に書きだし、ラベリングする。	・「少子化対策について、みんなで調べたことを出し合ってまとめることができた。」【他者との協力】	・「少子化対策について調べて付箋にまとめ、仲間と相談して分類できた。」【ⅡB 目標やビジョンの共有方法】 ・「国や市町村レベルで、様々な少子化対策が採られていることが分かった。私たちもかかわることができそうだ」【ＩＡ多様性】【ＩＡ連携性】
	○地域の専門家のお話を聞こう。 ・今までの疑問の答えや、長岡市の取組の現状を聞く。 ・メモを取りながら話を聞いたり質問したりする。	・「地域の子育て支援施設では子供だけでなく親や市民のことを考え、みんなで力を合わせてつくっていくことを大切にしていてすごいと思った。」【他者の認識】	・「今までの学習のメモの取り方の反省点を生かし、聞きたいことを明確にしながら、相手意識をもって聞き、要点を短い言葉でメモにまとめることができた。」【ⅡB メモの取り方】
考える	**○資料を基に調べたことや講話から知ったことをまとめて小学生に発表しよう。** ・簡単なポスターを作って説明する。 **○地域の施設で自分たちにできることを考えよう。** ・ブレーンストーミングの結果を基に企画を考え、PM（プラスマイナス）表で振り返る。	・「小学生に対し、はっきりした声で分かりやすいよう心掛けて話せた。」【責任の遂行・粘り強い取組】 ・「小学生は、園児と目線を同じにすることを大切にしながら取り組んでいることが分かった。」【他者の認識】 ・「幼児に何か伝えるには時間がかかって大変」「幼児はすぐ顔を覚えてくれるから積極的にコミュニケーションをとる」【現状の把握・分析】	・「幼児の様子を踏まえて仲間と相談すると企画のよさや問題点が分かった。」【ⅡC 情報分析の仕方】 ・「自分たちがリードして，小学生の考えを大切にしながら，よりよい企画をどんどん出した。」【ⅡB 話し合いの仕方】 ・「施設の方，親や私たちの思いや願いを生かしたい。」。【ＩＡ 多様性】
行動する	**○自分たちができる企画を練り上げよう。** ・地域の人からのアドバイスや小学生の取組を参考にし、地域の施設で自分たちにできることを再考する。	・「子育て施設で子供に触れ合ったり、さらに利用者にインタビューしたりするなどして子育てについて学びたい。」「施設にかかわる方や、現在利用している人の話をさらに聞いたり、施設見学をして企画のシミュレーションが必要」【立志・計画】	・「企画の練り上げや実現のために何が知りたいのか、何をしていけばよいのかについて、仲間と役割分担をしながら計画書を作成することができた。」【ⅡA 企画実現に向けた計画作成の仕方】 ・「いろいろな立場の人の願いを大切にして企画を考えることができた」【ＩＡ多様性】
行動する	**○実際に地域の子育て施設を訪問し、体験や調査をしよう。** ・地域の子育て支援施設で企画の妥当性や可能性を調査する。 **○訪問して得たことを報告し合う。** ・訪問先が同じグループ内と、訪問先が異なる人たちと報告会をもつ	・「思ったようなスペースがなく、実現のためには企画の規模を小さくする工夫が必要だ。」 ・「よりよい企画にするために見学や体験から企画改善の視点を共有できた。」【責任の遂行・粘り強い取組】	・「地域の人が子育て支援で果たしている役割など、見学で得た情報を基にした諸注意なども記入しよう。」【ＩＢ責任性】
評価する	**○今までの学びをまとめよう。** ・自分たちの活動が地域のニーズにあった妥当な企画であるかどうかを振り返る。	・「情報を集めて整理し、自分なりの追究計画をつくることができた。」「子育ての楽しさや魅力を知ることがまず大切で、今回学んだことを自分も伝えていきたい。」【自己の認識】	

第5ステージ
（中学2年生～中学3年生）



年間単元配列表【第5ステージ（中2，中3）】

学年	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
中3	題材	前期単元（ﾌﾞﾗﾝﾄﾞ）			中期単元（ﾌﾞﾗﾝﾄﾞ，まちづくり，ｺﾐｭﾆﾃｨ，自然環境）					後期単元（卒業レポート）「持続可能な社会の創造に向けて」			
	配当時間	20			40					20			
	学習内容Ⅰ	A相互性,多様性			A有限性,相互性,有限性（単元による） B責任性,連携性					B責任性			
	学習内容Ⅱ	Bメモの取り方 Cより良い企画書の書き方			A自己省察の仕方 Cプレゼンの仕方					C振り返りの仕方,論理的思考の仕方, プレゼンの仕方			
	重点を置く資質・能力	価値の認識，立志・計画			熟考，創造，志の共有，責任の遂行・粘り強い取組					自己の認識，発信			
中2	題材	前期単元（ブランド）			中期単元（ブランド，まちづくり，コミュニティ，自然環境）					後期単元（修学旅行）「シンガポール・マレーシアでの異文化理解」			
	配当時間	10			50					20			
	学習内容Ⅰ	A多様性 B連携性			A有限性,相互性,連携性（単元による） B責任性,連携性					A多様性,相互性 B連携性			
	学習内容Ⅱ	C振り返りの仕方，発信の仕方			B効果的なメモのとり方，C情報の効果的なまとめ方，効果的なPRの仕方					A計画立案の仕方 B他者理解の仕方			
	重点を置く資質・能力	自己の認識，発信，現状の把握・分析			創造，志の共有，他者との協力，熟考					価値の認識，他者の認識，対話や議論への参加			

第５ステージでは，地域の課題の解決に向けて，
地域の人と手を携えて実際に取り組みます。

第5ステージ　中2

1　はぐくむ資質・能力

	観点	本単元における資質・能力が働いている姿
自己を推進すること	自己の認識	自分が地域の一人であることを自覚し，自分の特徴や考えのよさが地域の中でどのように生かせるか考え，よりよい自分づくりに向けて必要なことをとらえている。
	価値の認識	地域の事象や問題について，それにかかわる人の思いや願い，考えをふまえ，持続可能性の視点からよさを見出している。
	立志・計画	地域の問題を解決したいと強く願い，自分で目標や長期的な計画を立て，問題解決を実践する過程を通して，逐次修正を重ねている。
	責任の遂行・粘り強い取組	追究の過程で任された自分の役割に責任をもって取り組んだり，実践の過程で生じる問題や，現状・実情に対して柔軟に対応したりしている。
相互に交流すること	他者の認識	地域の問題解決に向けて取り組む人の思いや願い，考えを大切にしたり，実践する過程でかかわるさまざまな人の考えを大切にしたりしている。
	志の共有	地域の問題解決に向け，それに取り組む人の思いや願い，考えを共感的に理解し，自分たちの考えを柔軟に対応させ，共通の目標を立てている。
	他者との協力	地域の問題解決をするために，地域の人と継続的に手を携え，また，さまざま人と考えを出し合いながら，力を合わせて取り組んでいる。
	対話や議論への参加	地域の問題解決に向けて，地域の人との話合いに建設的に参加したり，工夫して話合いをすすめたりしている。
新たに開発すること	現状の把握・分析	地域の問題に取り組む人との関わりを通し，現状について，その背景や原因，しくみを，持続可能性の視点からとらえている。
	熟考	幅広い視点で，様々な知識や情報を収集し，それらを組み合わせ，根拠を明らかにした解決方法を考えたり，試行錯誤しながら解決を試みたりしている。
	創造	対象とする問題に対して，持続可能性の視点で有効なよりよい考え，新たな考えをつくっている。
	発信	さまざまな人とかかわり，相手や場面，目的に応じて表現方法を工夫し，自分の思いや願い，考えを効果的に伝えている。

2　資質・能力を働かせる活動を位置付けたプロセスモデル例（このモデルを元に，題材に応じて内容を設定して実際の単元をつくります）

プロセス	○・学習活動，※手だて	資質・能力	学習内容Ⅰ	学習内容Ⅱ
出合う 気付く	○地域の実態把握のための調査 ・問題の洗い出し，解決方法の模索，地域のパンフレット・Web ページの確認。 ※自分たちの生活する地域にある問題点を洗い出し，持続可能な社会を創造するために解決すべき問題を見つけ出す。個人の考えを明らかにする。	価値の認識		C情報の 効果的な まとめ方
	○追究グループの設定，目標と追究課題（仮）の設定，計画概略（案）の作成 ・プレゼン式テーマ選択発表会，課題設定シート・追究概略シートの作成。 ※テーマで１つの追究課題を設定し，テーマ内の小グループで個人の考えを生かした問題解決策を練り上げていく。	立志・計画 対話や議論への参加		
調べる 問題を もつ	○地域の人へのインタビュー ・講話，校外活動。 ※地域の人の活動のねらい，思いをとらえさせる。	他者の認識		B効果的な メモの とり方
考える	○地域の人との話合い（目標と追究課題の設定） ・校外活動，課題設定シートの作成。 ※地域の人の抱える問題に対する考えに対する自分の気持ちを記述させ，共通の目標を設定させる。 ○地域の人との話し合い（長期的な計画の作成） ・校外活動，計画シートの作成。 ※実際に地域の人が取り組む問題解決活動に沿った計画（日程・内容）を立てさせる。	立志・計画 志の共有 発信	A相互性	C効果的な ＰＲの仕方
行動 する	○現状の分析，多様な可能性の模索と最善の選択，開発的な発想 ・校外活動，分析シート・発想シート・企画書の作成。 ※地域の人との話し合いや，実際の活動を通して深めさせる。 ※KJ 法的な手法，マトリクス，ウェビング，三角ロジックや 5W2H 等，思考を促進させたり，論理的・具体的に提案を考えたりできるような技法を用いさせる。	現状の把握・分析 熟考 創造		C効果的な ＰＲの仕方
	○計画の定期的な振り返り，実践を通した役割の遂行，現実への柔軟な対応 ・活動計画の修正，活動報告書の作成。 ※実践を批判的に振り返り，進捗に応じてグループの目標や方法を修正させたり，活動にどのように自分が貢献できているか内省させたりする。	立志・計画 責任の遂行・粘り強い取組 他者との協力	B連携性	
評価 する	○追究の振り返り ・自分の変容等の視点から振り返らせる。 ・今年度調査したことをもとに，来年度どのように実践していけば，地域に影響を与えることができるか考え，計画を立てる。	自己の認識	B責任性	A自己評価 の仕方

単元の実際自分たちの住む街・長岡の活性化をコミュニティの視点から図る（６月～９月）

３　単元の概要

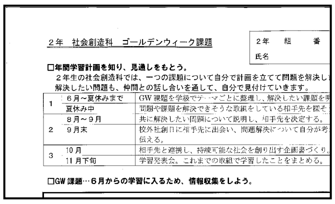
長岡の街を活性化させるために，若い世代同士や多世代の交流の場を提供している市や町内の，高齢者福祉施設，子育て支援施設と手を携える。今ある活動の取組を強化したり，中学生が多世代と積極的に交流したりするための方策を考え，提案する。

■単元の学習内容と評価計画

プロセス	学習内容 ※各プロセスにおける主な学習内容を記述	評価材料	学習内容Ⅰ					学習内容Ⅱ			資質・能力											
			A			B																
			有限性	多様性	相互性	責任性	連携性	A	B	C	自己の認識	価値の認識	立志・計画	責任・粘り	他者の認識	志の共有	他者との協力	対話・議論	現状把握	熟考	創造	発信
出合う・気付く	**◎長岡に現在ある問題点をとらえよう！** ○ガイダンス。 ○地域の問題点について知っていることを仲間と話し合い，共有する。 ○今まで気付かなかった問題点やその重要性を認識する。	・ワークシート (問題点の洗い出し)								○		○							○			
調べる・問題をもつ	**◎解決可能で，より自分たちの生活に密接な問題点はなんだろう。** ○実際に地域活性に繋がる活動を行っている方を取材する。 ○インターネットなどで施設のイベントの活動状況や傾向について調査する。 ○効果的なメモの取り方。	・振り返りシート ・ワークシート「メモのとり方」							○						○				○			
	◎成功例から自分たちのイベントを企画するためのアイデアを学ぼう。 ・コミュニティに関するイベントを継続的に行っているコミュニティセンターの担当の方から話を聞く。	・振り返りシート													○							
考える	**◎参加者を新しく増やすための，新しいＰＲ方法とはなんだろう。** ○イベントの良さや問題点を踏まえ，コンセプトやねらいを明確にしてＰＲ方法を考案する。 ○プレゼン大会を設定し，小グループごとに評価し合い，新たな視点を得る。	・振り返りシート ・企画書 ・評価用紙			○					○			○			○				○	○	
行動する	**◎自分たちの企画書とＰＲ方法を見ていただこう。** ○多世代交流の企画書を持ち込み，コミセン担当者様より評価をいただく。	・振り返り ・評価用紙					○			○							○					○
評価す	**◎活動をまとめよう。** ○自分たちの活動が実社会に生きるかどうか振り返る。 ○来年度への課題を見付ける。	・凝縮ポートフォリオ ・単元のまとめシート				○		○			○											

	学習内容（Ⅰ，Ⅱ）の獲得と資質・能力（〇資）の評価の具体
出合う・気付く	【ⅡＣ情報の効果的なまとめ方】～ポイントや要点を押さえ，話し合いで出た意見を読む人に分かりやすくまとめることができる。 【資価値の認識】～長岡の問題点を洗い出し，自分たちが解決すべき問題だと認識している。 【資現状の把握・分析】～持続可能な地域であるかという視点で長岡にある問題点を洗い出す。
調べる・問題をもつ	【ⅡＢ効果的なメモのとり方】～事前に調べたことを生かし，キーワードとなる言葉を絞って使ったりイラストを入れたりして，後で見ても分かりやすいようにまとめている。 【資他者の認識】～コミュニティに関する活動にかかわる様々な人の見方や考え方に触れ，改めて良さを認識している。 【資現状の把握・分析】～コミュニティについてインターネットや施設が発行しているパンフレットなどから正しく情報を整理する。
考える	【ＩＡ相互性】～成功しているイベントは，施設や町内などがうまくかかわりあっていることを捉える。 【ⅡＣ効果的な PR の仕方】～相手をひきつけ，実際に足を運んでくれるような親しみやすさや分かりやすさを工夫する。 【ⅡＣより良い PR の書き方】～ターゲットやコンセプトを明確にし，分かりやすい言葉や親しみやすい色使いでまとめる。 【資立志・計画】～少しでも多くの人にイベントへの興味をもってもらうために，成功例を分析し，アイデアを修正しながらまとめる。 【資志の共有】～地域の方の思いや，自分たちの互いの考えを受け止め，様々な人の思いが伝わるようなＰＲ方法を考える。 【資熟考】～さまざまな立場の人の考えや情報を整理し，よりよいイベントになるよう調査したことを生かし，仲間と話し合って考えている。 【資創造】～地域の持続可能性の視点から，地域のコミュニティのよさを生かして，地域に合うイベントやＰＲ方法を考えている。
行動する	【ＩＢ連携性】～イベントの成功には，企画内容や運営だけでなく，地域の人々の思いを大切にし，他の行事とうまくかかわらせることが大切であることを捉える。 【ⅡＣ効果的な PR の仕方】～読みやすさ，分かりやすさ，親しみやすさなどを工夫し，相手に伝わりやすく，気持ちをひくような工夫をする。 【資他者との協力】～企画書やＰＲ方法を地域の代表の方に提案し，相手の思いや反応，評価を受け，改良の視点を得ている。 【資発信】～企画書やＰＲ方法を提案するために発表方法を工夫し，自分たちは地域のつながりを大切にしたいという思いを伝えようとする。
評価する	【ＩＢ責任性】～持続可能な社会づくりのために，自分自身が行動の主体となって取り組むという意思をもっている。 【ⅡＡ自己評価の仕方】～凝縮ポートフォリオの作成をとおして，自分がこの学習で何を身につけたかを明らかにすることができる。 【資自己の認識】～持続可能な社会づくりのために，地域のコミュニティをどのように生かすことが大切であるかを振り返り，これからの生活にむけて意欲を高めている。

４　単元の実際（「■評価計画」で定めたもの以外の資質・能力の表出や学習内容の習得がなされる場合もある）

<table>
<tr><th></th><th>○学習課題　・学習活動</th><th>資質・能力</th><th>学習内容</th></tr>
<tr><td>出合う・気付く</td><td>○長岡に現在ある問題点をとらえよう！
・地域の問題点について知っていることを仲間に伝え，共有する。　↓ワークシート（部分）
・今まで気付いていなかった問題点やその問題の重要性を認識する。
 
２年　社会創造科　ゴールデンウィーク課題　２年　組　番　氏名
□年間学習計画を知り、見通しをもとう。
２年生の社会創造科では、一つの課題について自分で計画を立てて問題を解決し…
解決したい問題も、仲間との話し合いを通して、自分で見付けていきます。
1　６月～夏休みまで　GW 課題を学級でテーマごとに整理し、解決したい課題を…
夏休み中　問題や課題を解決できそうな取組をしている相手先を探そ…
2　８月～９月　共に解決したい問題について説明し、相手先を決定する。
９月末　校外社創日に相手先に出会い、問題解決について自分が考…伝える。
3　10 月　相手先と連携し、持続可能な社会を創り出す企画書づくり。
11 月下旬　学習発表会。これまでの取組で学習したことをまとめる。
□GW 課題…６月からの学習に入るため、情報収集をしよう。</td><td>・自分で問題点はないかという視点で調べたり，調べたことについて話し合ったりする中で，長岡を持続可能な街にするために解決すべき問題点に気付くことができた。【価値の認識，現状の把握，分析】</td><td>・「役割分担をし，様々な人と話し合うことができた。自分では気付かなかった問題点に気付いている仲間がいて驚いた。」「私は書記担当だったので，A３のワークシートで読む人に分かりやすいように心掛けた。」【ⅡC 情報の効果的なまとめ方】</td></tr>
<tr><td rowspan="2">調べる・問題をもつ</td><td>○解決可能で，より自分たちの生活に密接な問題点はなんだろう。
・実際に地域活性に繋がる活動を行っている方を取材する。
・インターネットなどで施設のイベントの活動状況や傾向について調査する。
・効果的なメモの取り方を学ぶ。</td><td>・施設の取組の工夫や職員の方の思いを興味深く聞き，「人と人をつなげるには，間に入って活動する思いをもった人が必要だ。」という思いを改めてもった。【他者の認識】</td><td>・「多世代交流の良さや必要性が身に染みて分かった。この気持ちを，まだ理解されていない人に伝えることで活性化に繋げたい。」【ⅠB責任性】
・「重要度が分かるようにメモに印を付けた。また，重要なキーワードをもち，常に仲間と意識できるようにした。」【ⅡB効果的なメモの取り方】</td></tr>
<tr><td>○成功例から自分たちのイベントを企画するためのアイデアを学ぼう。
・コミュニティに関するイベントを継続的に行っているコミュニティセンターの担当の方に，施設を案内していただく。
 </td><td>・「コミセンに来れば，楽しいことがあると理解している方は継続して利用している。楽しさを多くの方に理解していただくために，参加を呼びかける方法をもつことが大切だ。町内会長さんなど，街のことを理解している人に相談したい。」【他者との協力】</td><td>・「多世代交流のよさを新しく認識してもらうには私たちが行動することが大切だ。」【ⅠB責任性】
・「なぜ私たちは，多世代交流に積極的になれないのか。問題点は自分たちの中にもある。この現状について改めて考えさせられた。」【ⅠB責任性】</td></tr>
<tr><td>考える</td><td>○参加者を新しく増やすための，新しいＰＲ方法とはなんだろう。
・イベントの良さや問題点を踏まえ，コンセプトやねらいを明確にしてＰＲ方法を考案する。

・プレゼン大会を設定し，小グループごとに評価し合い，新たな視点を得る。コミセンの方からも評価をいただく。</td><td>・プレゼン資料の作成に向けて，様々な広告に目が向くようになった。自分たちなりによいアレンジができた。」【創造】
・「言葉で説明をしないと交流のよさが伝わらないことが問題だ。様々な人に評価してもらい，よりよいものを目指そう。」【現状の把握・分析】</td><td>・「自分たちがよいと考えたＰＲ方法が，高齢者には伝わりにくいという助言をいただいた。相手の立場に立つ難しさを知った。」【ⅠA　相互性】
・「見せ方にこだわっていたが，声量と目力を意識した方が気持ちは伝わる。」【ⅡC　効果的な PR の仕方】
・「どのようなレイアウトにして書くと分かりやすくなるかを考えた。」【ⅡC よりよい PR の書き方】</td></tr>
<tr><td>行動する</td><td>○自分たちの企画書とＰＲ方法を見ていただこう。
・多世代交流の企画書を持ち込み，コミセン担当者様より評価をいただく。
 </td><td>・「資料の文字やイラストが分かりやすくて好感がもてると言われた。」「イベントのよさを前面に押し出すことの大切さを教わった。」【発信】</td><td>・時期や時間帯も相手に合わせる必要がある。リサーチが必要だ。【ⅠB　連携性】
・「大切なことは何が見極めよう。常に分かりやすいキーワードをもつことが鍵だ。」【ⅡC 効果的な PR の仕方】</td></tr>
<tr><td>評価する</td><td>○活動をまとめよう。
・自分たちの活動が実社会に生きるかどうか振り返り，来年への課題を見付けよう。</td><td>・これまでの学習を振り返り，凝縮ポートフォリオ及び単元のまとめを作成した。【自己の認識】</td><td>「持続可能な社会をつくりあげるには，人の思いやりの心を伝えていくことが大切だと良く分かった。コミセンの職員さんや町内会長さんの熱心さに感動した。自分も見習ってよい大人になりたい。」【ⅠB 責任性】【ⅡA 自己評価の仕方】</td></tr>
</table>

第5ステージ　中3

1　はぐくむ資質・能力

	観点	本単元における資質・能力が働いている姿
自己を推進すること	自己の認識	自分が地域の一人であることを自覚し，自分の特徴や考えのよさが地域の中でどのように生かせるか考え，よりよい自分づくりに向けて必要なことをとらえている。
	価値の認識	地域の事象や問題について，それにかかわる人の思いや願い，考えをふまえ，持続可能性の視点からよさを見出している。
	立志・計画	地域の問題を解決したいと強く願い，自分で目標や長期的な計画を立て，問題解決を実践する過程を通して，逐次修正を重ねている。
	責任の遂行・粘り強い取組	追究の過程で任された自分の役割に責任をもって取り組んだり，実践の過程で生じる問題や，現状・実情に対して柔軟に対応したりしている。
相互に交流すること	他者の認識	地域の問題解決に向けて取り組む人の思いや願い，考えを大切にしたり，実践する過程でかかわるさまざまな人の考えを大切にしたりしている。
	志の共有	地域の問題解決に向け，それに取り組む人の思いや願い，考えを共感的に理解し，自分たちの考えを柔軟に対応させ，共通の目標を立てている。
	他者との協力	地域の問題解決をするために，地域の人と継続的に手を携え，また，さまざま人と考えを出し合いながら，力を合わせて取り組んでいる。
	対話や議論への参加	地域の問題解決に向けて，地域の人との話合いに建設的に参加したり，工夫して話合いをすすめたりしている。
新たに開発すること	現状の把握・分析	地域の問題に取り組む人との関わりを通し，現状について，その背景や原因，しくみを，持続可能性の視点からとらえている。
	熟考	幅広い視点で，様々な知識や情報を収集し，それらを組み合わせ，根拠を明らかにした解決方法を考えたり，試行錯誤しながら解決を試みたりしている。
	創造	対象とする問題に対して，持続可能性の視点で有効なよりよい考え，新たな考えをつくっている。
	発信	さまざまな人とかかわり，相手や場面，目的に応じて表現方法を工夫し，自分の思いや願い，考えを効果的に伝えている。

2　資質・能力を働かせる活動を位置付けたプロセスモデル例（このモデルを元に，題材に応じて内容を設定して実際の単元をつくります）

プロセス	○学習課題　・学習活動　※手だて	資質・能力	学習内容Ⅰ	学習内容Ⅱ
出合う 気付く	○地域の実態把握 ・これまでの学びの振り返り。まとめ直し。 ※教師が改めて生徒に知識を問い直すことで，学びの不十分さを自覚させる。	価値の認識		C情報の効果的なまとめ方やﾌﾟﾚｾﾞﾝの仕方
調べる 問題を もつ	○対象の調査，問題点の把握 ・講話を聞く。 ※地域の人の活動のねらい，思いをとらえさせる。	他者の認識		B相手の思いを引き出すインタビューの仕方
考える	○目標と追究課題の設定 ・課題設定シートの作成。 ※地域の人の抱える問題に対する考え，それに対する自分の気持ちを記述させ，共通の目標を設定させる。 ○長期的な見通しをもつ ・計画シートの作成。 ※実際に地域の人が取り組む問題解決活動に見合った計画（日程・内容）を立てさせる。	立志・計画 志の共有 対話や議論への参加 熟考 創造		A振り返りの仕方 Bビジョン共有の方法 C効果的な伝え方
行動 する	○現状の分析，多様な可能性の模索と最善の選択，開発的な発想 ・分析シート，発想シート，企画書の作成。 ※地域の人との話し合いや，実際の活動を通して深めさせる。	発信	B連携性	C情報の分析の仕方（ＫＪ法的手法，マトリクス，ｳｪﾋﾞﾝｸﾞ，三角ﾛｼﾞｯｸなど）
	○計画の定期的な振り返り，現実への柔軟な対応 ・活動計画の修正。 ※実践を批判的に振り返り，進捗に応じて目標や方法を修正させたり，自分がどう貢献できているか内省させたりする。	立志・計画 責任の遂行・粘り強い取組 他者との協力		A目標修正の仕方
評価 する	○まとめ ・発表交流会，追究の振り返り。 ※自分たちの実践が地域に与えた影響，自分の変容等の視点から振り返らせる。	自己の認識	B責任性	A自己評価の仕方

単元の実際　地域の活性化につながる長岡野菜の普及を目指して（4月～7月）

３　単元の概要

長岡野菜の普及を目指して素材の良さを生かしながら商品開発に取り組んでいる地域の飲食店と手を携え，地域素材（多様性）を生かす（連携性）視点を学び，提案・発信する。

■評価計画

プロセス	学習内容 ※各プロセスにおける主な学習内容を記述	評価材料	学習内容Ⅰ					学習内容Ⅱ			資質・能力											
			A			B																
			有限性	多様性	相互性	責任性	連携性	A	B	C	自己の認識	価値の認識	立志・計画	責任・粘り	他者の認識	志の共有	他者との協力	対話・議論	現状把握	熟考	創造	発信
出合う・気付く	**◎長岡野菜の現状をとらえよう！** ○ガイダンス。 ○長岡野菜について知っていることを仲間に伝え，共有する。 ○長岡野菜検定を受け，自分の知識不足を認識する。	・振り返りシート								○		○										
調べる・問題をもつ	**◎長岡野菜について知ろう！** ○長岡野菜に詳しい方から，長岡野菜の種類や特徴，生産者の方の思い，講話を聞く。 ○長岡野菜を活かしている方から，講話を聞く。 ○効果的なメモのとり方。	・振り返りシート ・ワークシート「メモのとり方」							○						○							
考える	**◎長岡野菜の良さや問題点を捉えて提案を立てよう。** ○長岡野菜を使ったメニューの立案をする。 ○中間発表会で新たな視点を得る。 ○計画の修正をする。「採用を目指して考えを直そう」「キャッチコピーを考えよう」	・振り返りシート ・企画書 ・問題点を明らかにするレーダーチャート			○					○			○			○				○	○	
行動する	**◎自分たちの提案を社会に発信しよう。** ○グランドホテルさんをお招きし，評価をいただく。	・コンペ大会の振り返り					○			○							○					○
評価する	**◎活動をまとめよう。** ○自分たちの活動が実社会にどのような影響を与えたのかを振り返る。	・凝縮ポートフォリオ ・単元のまとめシート				○		○			○											

	学習内容（Ⅰ，Ⅱ）の獲得と資質・能力（〇資）の評価の具体
出合う・気付く	【ⅡＣ情報の効果的なまとめ方】～ポイントや要点を押さえ，相手に分かりやすくなるようにプレゼン資料をつくることができる。 【資価値の認識】～長岡野菜の良さや問題点を認識している。
調べる・問題をもつ	【ⅡＢ効果的なメモのとり方】～キイワードをきちんとメモし，因果関係を線で結んだりイラストを入れたりして，後で見ても分かりやすいようにまとめている。 【資他者の認識】～長岡野菜にかかわる様々な人の見方や考え方に触れ，改めて良さを認識している。
考える	【ＩＡ相互性】～価値あるものは，地域の素材がうまくかかわりあっていることを捉える。 【ⅡＣ効果的なプレゼンの仕方】～相手をひきつけるような工夫を発表資料に加える。 【ⅡＣより良い企画書の書き方】～ターゲットや商品のコンセプトを明確にし，分かりやすい言葉で端的にまとめる。 【資立志・計画】～より良い商品を生み出すために，先行事例などの調査をしながら，アイディアを修正しながらまとめる。 【資志の共有】～地域の方の思いや，自分たちの互いの考えを受け止め，様々な人の思いを生かした商品をつくろうと考える。 【資熟考】～さまざまな立場の人の考えや情報を整理し，より良い商品をつくろうと考えを重ねている。 【資創造】～地域の持続可能性の視点から，地域の素材を生かしてより良い商品を作ろうと考えている。
行動する	【ＩＢ連携性】～商品の開発には，味だけでなくタイトルやキャッチコピーを含め，さまざまなものをうまくかかわらせることが大切であることを捉える。 【ⅡＣ効果的なプレゼンの仕方】～論の順序，表情や話すスピードなどを工夫し，相手に伝わりやすいプレゼンを行う。 【資他者との協力】～コンペをとおして，地域の方に商品の構想を伝えることで，相手の思いや反応を受け止め，改良の視点を得ている。 【資発信】～コンペに向けて発表方法を工夫し，訴求力のあるプレゼンをつくろうとする。
評価する	【ＩＢ責任性】～持続可能な社会づくりのために，自分自身が行動の主体となって取り組むという意思をもっている。 【ⅡＡ自己評価の仕方】～凝縮ポートフォリオの作成をとおして，自分がこの学習で何を身につけたかを明らかにすることができる。 【資自己の認識】～持続可能な社会づくりのために，地域素材をどのようにいかすことが大切であるかを振り返り，これからの生活にむけて意欲を高めている。

４　単元の実際(「■評価計画」で定めたもの以外の資質･能力の表出や学習内容の習得がなされる場合もある)

	○学習課題　・学習活動	資質・能力	学習内容
出合う・気付く	**○長岡野菜の現状をとらえよう！** ・知っていることを仲間に伝え，共有する。 ・長岡野菜検定を受け，自分の知識不足を認識する。	・改めて長岡野菜の価値に気付き，「県外だけでなく市外の人も知らないほどの知名度であるという課題を知った。」と問題点を見出した。【価値の認識】	・「分かりやすく付箋にまとめて発表することで，分かりやすく伝えられると思った」。【ⅡC 情報の効果的なまとめ方】
調べる・問題をもつ	**○長岡野菜について知ろう！** ・長岡野菜の種類や特徴，生産者の方の思いなどの講話を聞く。 ・インターネットなどで長岡野菜について調査する。 ・効果的なメモの取り方を学ぶ。	・「話を聞いて，関わっている人たちから長岡野菜がとても愛されているということが分かった。【他者の認識】	・「地元の食材を食べることがどれほど良いことか分かった。また，次の世代へと大切に受け継げてきたものを絶やさないようにしていきたい。」【ＩB責任性】 ・「メモは，見出しをナンバリングしたり下線で強調したりできた。」【ⅡB効果的なメモのとり方】
	○長岡野菜の活かし方について話を聞こう！ ・長岡野菜の良さに着目してメニュー開発を行っている「長岡グランドホテル」さんの講話を聞く。 	・「長岡野菜には「郷土愛」が必要。その上で，その土地ならではのもの，知名度など…が必要。家庭で使わないということも指摘されていた。」【価値の認識】	・「長岡野菜の存在は私たちの行動で決まる。」【ＩB責任性】 ・「活性化で受け継ぐ必要があると強く感じた。新しいメニューをつくってもっと広めなくてはならない。」【ＩB責任性】 ・「長岡野菜を，消費者である私たちがどの思いながら食べたらよいかを考えさせられた。」【ＩB責任性】
考える	**○長岡野菜の普及を目指して，新しいメニューを考えよう！** ・長岡野菜の良さや問題点を踏まえ，コンセプトやねらいを明確にしてメニューを考案する。 ・中間発表会で評価し合い，新たな視点を得る。 ・計画の修正をする。	・「他の半から意見をもらい，＋αすることができた」【熟考】 ・発表資料の作成に向けて，選考研究の調査や資料づくりなどを分担して進めた。「発表について 3 人で役割分担をしていい資料ができた」【責任の遂行】 ・レーダーチャートで相互評価を行い，計画の不十分さを明らかにした。「自己評価と他の人からの評価，かなり違うところがあった。」【現状の把握･分析】	・「(メニューを考える上で)伝統文化と意外性(の視点)を両立させるのが難しい」「長岡の伝統とパフェをうまく結びつけられなくて，苦労した。」【ＩA 相互性】 ・「(発表資料を)絵本にして，今までにない発表の仕方を計画した。」【ⅡC 効果的なプレゼンの仕方】 ・「どうやって紙を書くことで，分かりやすくなるかを考えた。」【ⅡC よりよい企画書の書き方】
行動する	**○自分たちの提案を発信し，コンペ大会をしよう！** ・グランドホテルさんをお招きし，長岡野菜がより広まるように提案を行う。 ・グランドホテルさんから評価をいただく。 	・「資料を使って見やすく発表できた。」「自分がテンパってしまいました。しかし，発送の面白さを伝えられました。」【発信】	・「良い商品をつくるだけではダメ。それを売る季節，売り方，キャッチコピー等も重要。」【ＩB連携性】 ・「伝えたいことはインパクト大に！絵本，ポーズ，声のトーンや大きさ。理由や根拠をしっかり述べる。」【ⅡC 効果的なプレゼンの仕方】
評価する	**○活動をまとめよう。** ・自分たちの活動が実社会にどのような影響を与えたのかを振り返る	・「最初は長岡野菜について知っているつもりでしたが，全然知らないことが改めて分かりました。学習を進める中で，新しく気づくことができました。」【自己の認識】	・「身近なものから論理を展開して，多視点から見ることができた。」「持続可能な社会をつくりあげるには，つながりが大切だと言うことが良く分かった。自分が消費する時は，つながりを感じながら生活していきたい。」【ＩB 連携性】【ⅡA自己評価の仕方】 ・「自分自身が長岡野菜について考えなくてはならない。」【ＩB 責任性】【ⅡA 自己評価の仕方】

第5ステージ　中3

1　はぐくむ資質・能力

	観点	本単元における資質・能力が働いている姿
自己を推進すること	自己の認識	自分が地域の一人であることを自覚し，自分の特徴や考えのよさが地域の中でどのように生かせるか考え，よりよい自分づくりに向けて必要なことをとらえている。
	価値の認識	地域の事象や問題について，それにかかわる人の思いや願い，考えをふまえ，持続可能性の視点からよさを見出している。
	立志・計画	地域の問題を解決したいと強く願い，自分で目標や長期的な計画を立て，問題解決を実践する過程を通して，逐次修正を重ねている。
	責任の遂行・粘り強い取組	追究の過程で任された自分の役割に責任をもって取り組んだり，実践の過程で生じる問題や，現状・実情に対して柔軟に対応したりしている。
相互に交流すること	他者の認識	地域の問題解決に向けて取り組む人の思いや願い，考えを大切にしたり，実践する過程でかかわるさまざまな人の考えを大切にしたりしている。
	志の共有	地域の問題解決に向け，それに取り組む人の思いや願い，考えを共感的に理解し，自分たちの考えを柔軟に対応させ，共通の目標を立てている。
	他者との協力	地域の問題解決をするために，地域の人と継続的に手を携え，また，さまざま人と考えを出し合いながら，力を合わせて取り組んでいる。
	対話や議論への参加	地域の問題解決に向けて，地域の人との話合いに建設的に参加したり，工夫して話合いをすすめたりしている。
新たに開発すること	現状の把握・分析	地域の問題に取り組む人との関わりを通し，現状について，その背景や原因，しくみを，持続可能性の視点からとらえている。
	熟考	幅広い視点で，様々な知識や情報を収集し，それらを組み合わせ，根拠を明らかにした解決方法を考えたり，試行錯誤しながら解決を試みたりしている。
	創造	対象とする問題に対して，持続可能性の視点で有効なよりよい考え，新たな考えをつくっている。
	発信	さまざまな人とかかわり，相手や場面，目的に応じて表現方法を工夫し，自分の思いや願い，考えを効果的に伝えている。

2　資質・能力を働かせる活動を位置付けたプロセスモデル例（このモデルを元に，題材に応じて内容を設定して実際の単元をつくります）

プロセス	○学習課題　・学習活動　※手だて	資質・能力	学習内容Ⅰ	学習内容Ⅱ
出合う 気付く	○地域の実態把握のための調査 ・校外活動，レポートの作成。 ※1年目（中2）は，個人の考えを明らかにする。2年目（中3）は，昨年の学びを振り返り，新年度の目標設定，計画作成に必要な情報を集める。	価値の認識	A有限性 A相互性 A多様性	C効果的な情報の集め方
	○追究グループの設定，目標と追究課題（仮）の設定，計画概略（案）の作成 ・プレゼン式テーマ選択発表会，課題設定シート・追究概略シートの作成。 ※1年目（中2）が正統的に周辺参加し，ステージでの合同授業がスパイラルに高まっていくよう，異学年でのグループ編成を行う。（徒弟制とする。）	立志・計画 対話や議論への参加		Bビジョン共有の仕方（互いの思いを肯定的に受け止める）
調べる 問題を もつ	○地域の人へのインタビュー ・講話，校外活動。 ※地域の人の活動のねらい，思いをとらえさせる。	他者の認識	A有限性 A相互性 A多様性	B聞きたいことを引き出すための効果的なインタビューの仕方
考える	○地域の人との話合い（目標と追究課題の設定） ・校外活動，課題設定シートの作成。 ※地域の人の抱える問題に対する考え，それに対する自分の気持ちを記述させ，共通の目標を設定させる。 ○地域の人との話し合い（長期的な計画の作成） ・校外活動，計画シートの作成。 ※実際に地域の人が取り組む問題解決活動に沿った計画（日程・内容）を立てさせる。	立志・計画 志の共有 発信		A目標を明確にした計画立案の方法
行動 する	○現状の分析，多様な可能性の模索と最善の選択，開発的な発想 ・校外活動，分析シート・発想シート・企画書の作成。 ※地域の人との話し合いや，実際の活動を通して深めさせる。	現状の把握・分析 熟考 創造	B責任性 B連携性	Cレーダーチャート等でのアイディア創出 C主張を明確にしたプレゼンの仕方
	○計画の定期的な振り返り，実践を通した役割の遂行，現実への柔軟な対応 ・活動計画の修正，活動報告書の作成。	立志・計画 責任の遂行・粘り強い取組 他者との協力		Aクリティカルな自己省察の仕方，活動に対する自己の内省
評価 する	○発表交流会 ○追究の振り返り ・自分たちの実践が地域に与えた影響，自分の変容等の視点から振り返らせる。	自己の認識	B責任性 B連携性	A凝縮ポートフォリオ作成による自己理解の仕方

単元の実際　長岡野菜をつなごう～農工商連携の視点から～（9月～11月）

３　単元の概要

農商工連携の視点で地場産物（長岡野菜）の普及・発展に取り組んでいる企業と手を携え，新たな商品の開発を行う活動をとおして，連携性や責任性を学び，地場産物の新たな価値を創造する。

■評価計画

プロセス	学習内容 ※各プロセスにおける主な学習内容を記述	評価材料	学習内容Ⅰ					学習内容Ⅱ			資質・能力											
			A			B																
			有限性	多様性	相互性	責任性	連携性	A	B	C	自己の認識	価値の認識	立志・計画	責任・粘り	他者の認識	志の共有	他者との協力	対話・議論	現状把握	熟考	創造	発信
出合う・気付く	**○現状を学ぼう！** ・長岡野菜の生産，加工，消費の実態を知る。 ・農工商連携に取り組んでいる企業の方から講話を聞き，現状を知る。	・振り返りシート					○					○										
調べる・問題をもつ	**○私たちにできることを考えよう！** ・長岡野菜がどのように消費されているか調べる。 ・長岡野菜の消費についても問題点を調べる。	・振り返りシート			○										○							
考える	**○商品開発のプランを立てよう！** ・必要な手順を考え，計画を立案する。	・計画書 ・振り返りシート						○					○			○						
行動する	**○商品を考えよう！** ・長岡野菜を使った新しいレシピを考える。 ・パッケージなど，効果的な販売方法を考える。 ・中間発表会で評価し合い，新たな視点を得る。 ・計画の修正をする。 **○企画を発信しよう。** ・企業の方に提案する。 ・商品化に向けてアイディアを練り直す。	・企画書 ・振り返りシート				○	○	○		○				○			○			○	○	○
評価する	**○活動をまとめよう。** ・自分たちの活動が実社会にどのような影響を与えたのかを振り返る。	・凝縮ポートフォリオ ・単元のまとめシート			○	○	○	○			○											

	学習内容（Ⅰ，Ⅱ）の獲得と資質・能力（〇資）の評価の具体
出合う・気付く	【ＩＢ連携性】～いろいろな物や主体が手を携えることで，新しい価値が創出されているという知識を得る。 【資価値の認識】～長岡野菜を取り巻く諸問題について，かかわっている人々の思いや願いをとらえ，問題解決に取り組む良さをとらえている。
調べる・問題をもつ	【ＩＡ相互性】～長岡野菜を取り巻く他の環境や要素が多くあることをとらえている。 【資他者の認識】～長岡野菜にかかわる様々な立場の人の考えや取組を調査し，その良さを肯定的にとらえている。
考える	【ⅡＡ計画立案の方法】～ゴールを明確にし，やるべき事柄を整理して計画を立てることができる。 【資立志・計画】～より良い商品を生み出すため，強い思いをもちながらゴールに向かって取り組む。 【資志の共有】～長岡野菜に携わる方々の思いや立場を大切にしながら考える。
行動する	【ＩＢ責任性】～社会とのかかわりをとおして効力感をもち，自分たちが頑張らねばならないという思いをもつ。 【ＩＢ連携性】～様々な人や立場と手を携え，新しい価値を創出することができることを実感できる。 【ⅡＣアイディアの創出】～レーダーチャートなどを用いて様々な視点や立場を大切にしながらアイディアを生み出す。 【ⅡＣ効果的なプレゼンの仕方】～対象やターゲットを明確にし，主張が伝わるような分かりやすいプレゼンを行う。 【ⅡＡ自己省察の仕方，内省】～クリティカルに取組を振り返り，自己をさらに高めるために必要なことをとらえる。 【資責任の遂行・粘り強い取組】～コンペをとおして，地域の方にレシピの構想を伝えることで，相手の思いや反応を受け止め，改良の視点を得ている。 【資他者との協力】～仲間や地域の人の考えを共感的に聞き，より良いアイディアの創出に向けて努力する。 【資熟考】～様々な立場や考えを踏まえ，いろいろな素材をうまく組み合わせながら新しいアイディアを生み出している。 【資創造】～様々な立場や考えを踏まえ，持続可能な視点から商品のアイディアやコンセプトを考える。 【資発信】～相手や場面に応じてプレゼンの方法や形態，話し方を工夫し，相手により伝える努力をしている。
評価する	【ＩＡ相互性】～さまざまな物や主体がかかわりあって社会が成り立っていることを理解する。 【ＩＢ責任性】～持続可能な社会づくりのために，自分自身が行動の主体となって取り組むという意思をもっている。 【ＩＢ連携性】～様々な人や立場と手を携え，地域に新しい価値を創出することが，その地域の持続発展につながることを理解する。 【ⅡＡ自己理解の仕方】～凝縮ポートフォリオの作成をとおして，自分の成長や課題を見つけ，学びをまとめることができる。 【資自己の認識】～持続可能な社会づくりのために，自分がどのように携わっていくかを考え，これからの生活にむけて意欲を高めている。

４　単元の実際（「■評価計画」で定めたもの以外の資質・能力の表出や学習内容の習得がなされる場合もある）

	○学習課題　・学習活動	資質・能力	学習内容
出合う・気付く	**○現状を学ぼう！** ・長岡野菜の生産，加工，消費の実態を知る。 ・農工商連携に取り組んでいる企業の方から講話を聞き，現状を知る。	・「長岡野菜の発展に向けて頑張っている方から話を聞いて，自分も長岡野菜をもっと広く普及させたいと思った」【価値の認識　現状の把握，分析】	・「農工商連携」という新しい考え方を学んだ。いろいろなものをかかわらせるとよさそうだ。【ＩＢ連携性】
調べる・問題をもつ	**○私たちにできることを考えよう！** ・長岡野菜がどのように消費されているか調べる。 ・長岡野菜の消費についても問題点を調べる。	・すでにたくさんのメニューやお土産が考案されていて意外だ多くの人が，長岡野菜を大切にしているのだな」【他者の認識】	・「長岡野菜の視点だけでなく，長岡野菜と組み合わせる他の物とのかかわりが重要そうだ。うまく組み合わせて意外性のあるレシピをつくって発信し，消費量を拡大したい。」【ＩＡ相互性・ＩＢ連携性】
考える	**○レシピ開発のプランを立てよう！** ・必要な手順を考え，計画を立案する。	・「企業の方や生産者の方の思いをできるだけ取り入れて商品をつくりたい」【志の共有】	・「To-do リストを活用して，やるべきことを整理して計画を立てることができた」【ⅡＡ計画立案の方法】
行動する	**○商品を考えよう！** ・長岡野菜を使った新しいレシピを，地域の方と共に試作する。 ・パッケージなど，効果的な販売方法を考える。 ・中間発表会で評価し合い，新たな視点を得る。 ・計画の修正をする。 **○企画を発信しよう。** ・企業の方に提案する。 ・商品パッケージのアイディアを練り直し，企業へ提出する。	・「いろいろな視点や立場からアイディアを何度も練り直し，幅広い世代に受け入れられるものになるよう，アイディアを修正できた」【熟考】	・「一見相反する，青味のものと甘いものを融合することで，意外な新しい味になりそうだ。今あるものをひと手間かけて上手く組み合わせると，新しい価値あるものをつくりたい。」【ＩＢ連携性】【ＩＢ責任性】 ・「チャートを使って，様々な立場の意見を反映した商品を考えることができた」【ⅡＣアイディアの創出】【ⅡＡ自己省察の仕方，内省】 ・「より多くの人に受け入れてもらえるためには，ターゲットを明確にし，ウリをはっきり伝えることが大切だ」【ⅡC 効果的なプレゼンの仕方】
評価する	**○活動をまとめよう。** ・自分たちの活動が実社会にどのような影響を与えたのかを振り返る。 	・「話し合って考えたり，その考えをもっと良くするためにプラスして活動したりすることができた。もっと色々なものを組み合わせて作れるといい」「学習全般をとおして，自分の意見をしっかりともって臨むことができて良かった。他のものにも目を向けていきたい」【自己の認識】	・「私たちが長岡野菜のことをもっと良く知り，広めていくことを目指して頑張らなくてはならない」【ＩＢ責任性】 ・「意外性を加えつつも伝統のものも守る大切さを改めて理解した。また，手に取る人のために，パッケージやシールで興味を引くような工夫が必要」【ＩＡ相互性】【ＩＢ責任性】【ＩＢ連携性】【ⅡＡ自己理解の仕方】

その他の実践（第5ステージ）

◆ 附属長岡校園のホームページに社会創造科のブログがあります。
第５ステージ以外の活動・学習の様子もご覧いただけます。

コミュニティ

1	高齢者・障がい者	地域の特別養護老人ホーム

高齢者の特性を学び，生きがいや楽しみを持ってもらう交流を企画する！

8月30日（土）に，地域の特別養護老人ホームで行われた，地域の人々を集めての「**納涼祭**」に参加し，利用者の方々との交流をねらったイベントを実施しました。企画は，色付きや，巨大シャボン玉の披露と，自由参加を募っての実験です。高齢者でも危険がなく楽しめ，一緒にできて思い出に残るように，考えました。最後はみんなで一緒に花火をして，ナイアガラを作りました。

その後，9月9日（火）と，9月30日（火）の二回，慰問をして，一緒に折り紙をする等，交流を続けています。これらの活動を通してつながりができた利用者の方々へ，お礼のメッセージカードをお送りしました。

人と人とがつながりを通して生きがいを確かなものにしていくための，心の連携の必要性を感じました。

2	高齢者・障がい者	地域のコミュニティセンター（地域交流の場）

高齢者・若い世代とがふれあい，コミュニティセンターの活動に楽しみを感じてもらおう！

地域の高齢者との関わりをねらって行っている昼食配食サービスに着目し，自分たち若い世代も積極的に参加したいと考えました。調理に協力し，メッセージカードを作ってお弁当に添えて渡す企画です。

8月7日（木），調理に携わらせていただき，高齢者の栄養バランスや食べやすい大きさ等の配慮について考えました。そして，配食に同行させていただき，メッセージカードを直接渡すことができました。

10月10日（金），今度は，児童クラブの小学生たちを対象に，**紙芝居イベント**を実施しました。多くの小学生に喜んでもらえただけでなく，地域におけるコミュニティセンターの役割を学びました。

多世代交流の必要性や，高齢者と多くの人がかかわりあえる社会の大切さを学ぶことができました。

3	高齢者・障がい者	特定非営利法人 多世代交流館

多世代交流で高齢者と幼児や子育て世代の親の相互理解を図り，接点を持てるように働きかけよう！

高齢者や母親と子どもなど，異なる世代が互いに理解し，共に生きていく社会を目指し，多世代交流が促進するようなプロジェクトを考えました。多世代交流館さんが実施している，ちょっとしたものづくりを通して，気軽に多世代が会話できる場をつくることを目的とした「手しごとカフェ」に協力し，イベントを企画・提案しました。

9月9日（火）のお茶会に参加し，「簡単に準備ができて，多くの方に楽しんでもらえる」という視点から，**ビンゴゲーム**を企画運営しました。

多世代交流には，それぞれの世代が楽しみやすいことを第一に考えることがスタートとなり，ともに楽しむ相互交流から相互理解が深まっていくと実感しました。

4	高齢者・障がい者	すこやかともしびまつり実行委員会（長岡市の社会福祉イベント）

地域の啓発活動に参加・協力し，高齢者や障がい者の方への差別・偏見をなくすように働きかけよう！

長岡市の健康の推進と社会福祉の啓発をねらった「すこやかともしび運動」に参加しました。

8月19日（火）に市役所福祉総務課を訪問，インタビューし，「多くの方々が毎年楽しみにしている」という思いや，「参加者同士の交流の促進」という目的をとらえました。そこで，「**ＣＭづくり**」と「**参加者につながりの大切さを伝えるハートのオブジェづくり**」をしました。

9月27日（土），28日（日）の「すこやかともしびまつり」当日には，アトラクションの受け付けや車いすの誘導をし，参加者と直接触れ合い，笑顔が欠かせないことや声をかける時の配慮など実際の活動を通して学びました。地域の意識の高揚には，まず，互いに理解をし合うこと，そのために，輪を広げていくことが必要であると実感しました。

5	子育て	ちびっこひろば（市の子育て支援施設）

ちびっこひろばさんと協力し，次世代の親になる中学生が，他の親子と触れ合うことで，触れ合うことの楽しさを感じ，子育ての大切さを学ぶ機会をつくろう！

10 月 21 日（日）に，ちびっこひろばで，子育てイベント「**ドキドキ宝さがし　赤ずきんちゃんとおおかみを探せ**」（中学生と若い親子の交流をねらった宝探し）を実施しました。探した「お宝カード」に，「中学生にだっこしてもらって高いところにタッチ」等，自然と交流が促進するような活動を準備しました。参加した若い母親からは，「普段かかわることが少ない中学生と遊ぶことができてよかった」とコメントをもらいました。

また，これから親となる世代の意識の高揚をねらい，参加した中学生と若い親の座談会を実施しました。施設の方からは，「参加した親子と中学生がつながった。長岡に，そういうつながりの輪が広がっていくといい。」と多世代のつながりをねらった活動を褒めてくださいました。

自然環境

6	環境保全	越路もみじの会(酒造会社)

越路もみじの会さんと,朝日もみじ園のオープンに協力し，地域の人と自然の架橋になろう！

今秋からオープンする，朝日もみじ園の造園に協力しました。

8 月 7 日(水)に，造園予定地に足を運び，一つ一つもみじの葉を採集し，マッピングをしました。その後，標本にしたもみじの葉から樹種を特定しました。採取時のマッピングをもとに，パンフレットを共同制作しました。もみじ園が所有する 23 種のもみじ特徴を調べ，それぞれのキャッチコピーを考えました。また，採取した葉の標本をかたどり，イラストを描き，紅葉時の色で着色しました。これらを生かしたパンフレット・案内板が完成しました。また，キャッチコピーとイラストは，それぞれの樹名板としても採用されています。

活動を通して，一人でも多くの地域の人に，地域の自然を大事にしてもらうには，「分かりやすくよさを伝えること」「親しみをもってもらうこと」の重要性をとらえました。

7	エネルギー	長岡市環境部環境業務課

ECO を通して，環境が循環するよう，長岡市役所の方と情報発信しよう！

一人一人の環境への意識を高め，住みよい町，循環型社会を目指して，長岡市環境業務課と協力して追究を進めてきました。「長岡市ごみ情報誌」の紙面の工夫から市民の意識を高めることができると考え，環境資源開発㈱を訪問し，「プラスチック容器包装材のゆくえ」について取材したことを記事にまとめました。何度も校正を重ね，「ごみ情報誌 vol32」に掲載されました。

活動を通して，長岡が住みよい街になること，循環型社会の実現には，一人一人が責任感をもって物を購入したり廃棄したりする必要があると考えることができました。また，そのことを知った人，学んだ人が，分かりやすく他の人に伝えていく必要性や責任についても学ぶことができました。

8	エネルギー	市内企業・長岡技術科学大学

エコの視覚化に挑戦しよう！

一人一人の節電の意識を高めるためには「視覚化」が効果的であるという考えに基づき，スマートメーターの普及を目指して追究を進めました。

7月15日(火)には，長岡技科大学を訪問し，スマートグリッド，スマートシティーについて学習しました。また，市内企業を訪問し，長岡で広めるための課題などについても学習しました。

活動を通して，一人一人のエコへの意識を高めるためには，各自が自分の行動について責任をもつことが大切であることをとらえました。また，そのためには，視覚化が有効だということが分かりました。

9	エネルギー	NPO 法人　地域循環ネットワーク

発信という視点から循環型社会をつくり上げよう！

「リサイクルが広まらないのは，ごみだと思っているものもリサイクルできることが広まっていないため」と考え，発信という視点に着目し，循環型社会実現に向けて追究をすすめてきました。

「ごみを再利用することで環境に優しい循環型社会を創る」という目的で，割りばしを収集・加工して「割り箸炭」を作成している地域循環ネットワークさんと協力し，割り箸のリサイクルを進め，CO_2削減につながる活動をしました。割り箸炭の使い方を考え，イベントでの販売に向けて知恵を出し合いました。

夏休み中に竹を切り出し，イベントでのPRに利用しました。アオーレで行われたイベントには学校行事が重なり参加できませんでしたが，作成したPRポスターを掲示していただき，イベント販売に協力できました。

10	エネルギー	長岡青年会議所

ポイ捨てゼロで，環境改善しよう！

長岡駅周辺や，長岡花火大会での環境整備（ゴミ拾い，草刈り）を通して，環境改善の必要性を呼びかけてきました。

7月21日（月）に，柿川清掃ボランティアに参加し，その後の長岡祭り灯籠流しに参加しました。単なる環境美化だけでなく，長岡空襲で尊い命が多数失われた事実を忘れないための活動であるという目的意識を持って取り組んできました。

活動を通して，思いを伝え実現するためには，多くの人たちの連携や協力をひきだなければいけないということを感じました。

11	エネルギー	市内の企業

将来性，循環，発信からCO_2削減を目指そう！

長岡の地で環境面から循環型社会を実現したいという視点で，CO_2 の削減に向けて，古紙リサイクルのPRに取り組んできました。

古紙リサイクルに取り組んでいる市内の企業に伺い，インタビューし，古紙回収における問題点を把握しました。また，PR を強化してCO_2の削減を目指すという考えから，江口佐五七商店さんのホームページの内容についてわかりやすく伝えるために提案を行いました。その後，古紙回収の問題点についてアンケート調査した結果，回収できないものも出されるという課題を見出しました。そこで，実際に校内でPRし，古紙回収を行いました。

活動を通して，PR方法を通して，多くの人が自分の行動に責任を持って行動できれば，循環型社会につながると考えました。

まちづくり

12	地域振興	市内の商店（大手通りの店舗）

各種店舗がどのように広報活動を行い，どのようなところに成果をあげているのか探り，大手通りの活性化を目指そう！

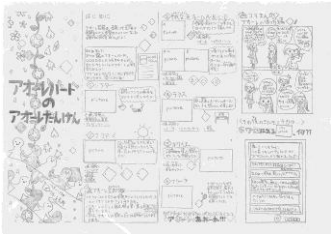
長岡の中心商店街「大手通」の活性化をねらい，大手通の画材商店と協力しながら，大手通に人を呼び込むことを考えました。

9月9日（火）に商店を訪問し，多くの画材を見学したり，店内の説明を受け，画材専門店ならではの品数や芸術的な専門性が高いと感想を持ちました。それを受け，品数や専門性というよさに着目し，それをアピールするチラシを4パターン作成し，提案しました。お店の方からは，多くの人が気を引くレイアウトの工夫について評価していただきました。また，10月4日（土）の米百俵祭で，作成したチラシを配布しました。

実践を通して，商店街の活性化には，それぞれの店がオリジナルのよさを発信していくことが不可欠だ，と改めて実感しました。

13	地域振興	NPO 法人ながおか未来創造ネットワーク（アオーレ長岡運営団体）

オリジナルパンフレットを作成し，多世代が集えるアオーレ長岡を目指そう！



シティホールプラザアオーレ長岡（市民利用施設と市役所機能が一体となった複合施設）を見学し，現在のアオーレのパンフレットが，施設概要が中心であるため、より利用者の視点に立った内容があるといいという点を共有し，新しいパンフレット作成に向けて，アイディアを出すことにしました。

そこで，特に小中学生に焦点を当て，クイズ形式で紹介するという素案を提出しました。すると，「新しい視点。こんなふうに，利用する中学生の意見を取り入れ新たなリーフレットがあるといい。」と回答をいただきました。小中学生という対象を考え，「親しみやすさ」の視点から，「アオーレバード（キャラクター）が紹介する」というコンセプトで改定版を作成しました。現在，完成に向けて取材を続けています。

活動を通して，いろいろな世代の多くの人が交流でき，親しみながら利用する市の中心施設のあり方を考えることができました。

14	地域振興	山古志地区の食堂

山古志産の食材のおいしさや観光地としてのよさを，若年層にも伝えよう。

長岡市の周辺部に位置する中山間地「山古志地区」の活性化に向けて，多くの人が集う場をつくることをテーマに取り組みました。山古志の食材を生かした料理を出している食堂と協力し，「小・中学生の男子が喜ぶメニューとは何か」について追及を進めてきました。

食堂の方をお招きし，一緒に調理をし，「ヤーコン入り山古志牛ハンバーグ定食」というメニューが完成しました。これを「食堂の新メニュー」として紹介し，「食堂周辺の山古志の立ち寄りおすすめスポット」も載せたチラシを作成し，店の入り口などに貼らせていただく計画です。

周辺部の活性化に向けて活動をすることを通して，将来を担う世代である若年層を対象に啓発していくことの重要性を学びました。

15	地域振興	公益財団法人 山の暮らし再生機構・長岡地域復興支援センター・山古志サテライト

震災復興 10 年の山古志のよさと山古志のＰＲに携わる人のよさを伝えよう！

周辺部「山古志地区」の活性化に向けて，山古志を知ってもらうだけでなく，足を運んでくれる人を増やすために「復興」「アルパカ」「女性」というテーマで取り組みました。

夏休みに開催された山古志フェアでは，来場する子ども連れの若い母親をターゲットに，女性向けのチラシ（第 1 号）を作成し，配布しました。しかし，内容が説明的で情報量も多かったため，読んでもらえたという手ごたえがありませんでした。そこで，内容を精査し，手に取ってもらえるようなコンパクトなチラシ（第2号）を作成しました。現在，アオーレや山古志支所，山古志サテライトの窓口に置いていただいています。周辺部の活性化に向けて，ターゲットを絞った情報の精選とPR方法が重要であることを学びました。

■山古志 HP　http://www.yamakoshi.org/

16	防災	公益財団法人 中越防災安全推進機構・長岡市青年会議所・長岡市商工部工業振興課

震災から１０年を迎える長岡で，震災の記憶を風化させない取組を行う」

今年が中越地震から10周年であることから，それにかかわる活動ができないかと考えました。「きおくみらい」を訪問して震災当時の状況について調べたり，青年会議所の方とフェニックス花火について学んで一緒に募金活動をさせてもらったりしました。また，同年代の人にアンケートを行い，その中で若い世代は震災の記憶があいまいであったり，記憶の風化が見られることに気付きました。

そこで，自分たちの活動の記録や学んだことをパネルにまとめ，11月８日，９日にアオーレ長岡で行われた「ものづくりフェア」の中で発表させていただきました。多くの人から「震災について改めて考えることができた」という感想をいただきました。こういった活動は継続することが大切です。これからも地域の一員として震災と防災について考えていきます。

17	防災	公益財団法人 中越防災安全推進機構

１０年後の長岡市を災害から守れる人生育成～中学生が取り組む防災～

持続可能な地域に必要不可欠な，防災を視点に追究をすすめてきました。

まず，「長岡市では，今までの災害の経験を生かし，どのようにまちづくりに生かしているのか」という疑問を解決するために，きおくみらいを訪問し，市の防災について学びました。10 年後の長岡を守るには，次世代を担う自分たちやもっと小さい子どもたちが防災力を身に付けることの必要性に気付き，市民防災センターに協力を得て，子ども向けのクイズづくりに取り組みました。

10 月 18 日の防災訓練（於：越後丘陵公園）では，来園者と取り組む防災訓練と防災迷路を担当しました。防災迷路の中に，幼児～小学校低学年向けのクイズを取り入れ，防災に関心をもってもらうことができました。

次世代の防災力を高めることが，持続可能な社会における防災の考え方であると学びました。

18	歴史・文化	東山油田保存会

地元長岡の産業遺産の価値を次世代に語り継ごう！

長岡市の産業遺産である「東山油田」の歴史的価値に関心をもち，保存会の会長さんから油田の歴史や現状などを教えていただきました。自分たちの調査だけではなかなか明らかにならなかった東山油田の価値が明らかになり，長岡市の産業の発展において，大きな役割を果たした文化遺産の保存や周知に，さらに関心が高まりました。

19	歴史・文化	長岡観光コンベンション協会

多くの戦災や震災から復興を果たした長岡に伝わる米百俵の精神を，市街地の史跡をたどりながら伝えよう！

「米百俵祭り」に着目し，いくつもの困難から不死鳥のように復活してきた長岡市の歴史的な魅力を探履帯と考えました。観光ボランテイアの方と市街地巡りをしたり，実際に米百俵祭りの時代行列に参加したりして，長岡市には多くの歴史的な魅力があることや，それを大切にしている多くの人々がいるのだということがわかりました。私たちが調べ，体験してきたことはわかりやすくまとめ，校内の発表会でPRすることができました。地域に向けてPRできなかったことは残念ですが，今後も関心をもち，学びを深め，行事にも積極的に参加していきます。

20	異文化理解	コミュニティシネマ長岡

コミュニティシネマ長岡さんと，長岡の多文化共生・異文化理解にむけて，映画を通して，ながおかの人の心を動かす！

10 月 13 日（土）～15 日（月）に，様々な国や文化を取り上げた映画を放映する「ながおか映画祭」（於：リリックホール）に協力しています。

8 月 3 日（日）の長岡まつりでのチラシ配布を行ったり，告知ムービーを作成して街頭で流したり（アオーレ，フェニックスビジョンで，毎時 7 分に CM 上映）しました。

当日は，映画監督と対談をしたり，トークショーで質疑をしたり，中学生の視点から考えを述べ，映画祭参加者に対して，映画を通した多文化共生，異文化理解に向けて啓発することができました。告知やプロモーション活動，当日の運営の協力を通して，多文化理解を広めることの難しさを体感しました。

21	歴史・文化	花火の駅・長岡花火ワールド悠

長岡が誇る長岡花火について，「復興」をテーマに次世代に語り継ごう！

私たちが大好きな長岡祭りの大花火大会について，どのように受け継がれてきたのかということに関心をもちました。

『花火の駅・長岡花火ワールド悠』の館長さんから様々なことを教えてもらい，私たちが全然知らなかった花火の歴史を学びました。その中でも，「3度の試練からの復興（関東大震災，長岡空襲，中越地震）」こそが長岡花火のもつ大きな価値だととらえました。そして私たちより小さい子どもたちに何とか伝えたいと思い，絵本にまとめました。

絵本は花火の駅・長岡花火ワールド悠に置かせていただく予定です。是非多くの方に見ていただきたいです。

22	歴史・文化	市内の音楽食堂

長岡を音楽の街に。長岡の音楽活動を若い世代に広めよう！

「長岡の伝統を若い世代が引き継がなければいけない」という考えで，様々な活動をしてきました。

８月２日の長岡まつりでは，「もっと祭りを盛り上げよう」と前夜祭への参加を全校に呼びかけ，約３０人の中学生が参加に賛同してくれました。当日は「附属長岡中学校」という団体名で民謡流しに参加し，前夜祭を盛り上げました。

また，音楽を通して若い世代が長岡に集まることを願い，地域のライブハウスと活動を行いました。主に，学生の音楽活動をＰＲするために，情報をもらいポスターやチラシを作成しました。これらのことを通して，街の活性化には，ビジョンを明確にもち，様々な人と連携することが大切であると考えることができました。

23	交流	ニュージェネレーションプロジェクト（新潟日報）

これからの長岡を担う若い人たちと，今の，そして将来の長岡について腹の底から議論しよう！

長岡の各企業から，若手を2名ずつ選出し，協賛金を募って，これからの長岡をつくる人材育成をねらうニュージェネレーションプロジェクト（主催：新潟日報，現在約 30 社参加）に，参加させてもらっています。これまで 2 回の講話時に，参加した若手サラリーマンに感想と要望を調査，中学生なりに，批評した新聞「社創×ニュージェネ」を継続的に作成しています。

また，8月3日（土）の長岡まつりで市民の意識調査を実施したり，新潟県米菓工業協同組合理事長に対して，これからの社会の中での企業のあり方についてインタビューさせていただいたりしました。

活動を通して，「これからの社会を担っていく者の責任感」を強く感じています。

24	国際交流	市民協働推進室・国際交流課

国際交流を通して，長岡の魅力を世界に発信しよう！

長岡の国際交流の現状を調査し，その利点を使って「世界の人たちへ長岡の良さを伝えよう」と考え，活動をしてきました。特に，市の『国際交流センター』と協力し，外国人が参加する運動会の運営や，クリスマスや正月のイベントの企画にかかわりました。

９月２８日（土）には，長岡市の国際交流協会が企画するイベント（運動会）にボランティアスタッフとして参加し，様々なお手伝いをしながらイベントを盛り上げ，具体的な国際交流の仕方について学ぶことができました。

１２月２３日（火）には，長岡市の国際交流センターで地球市民の会の皆さんとイベント（クリスマス交流会）を行いました。企画会議に参加し，参加する外国の方々と歌を歌うコーナーの担当を任されました。選曲，歌詞カード準備，曲の説明，運営などをこなし，会を盛り上げました。

仕事の手伝いやイベントの企画会議を通して，「知ること」「かかわること」「工夫すること」が必要であり，様々な国の人たちの多様性を理解し合いながら共存共栄できる社会を目指すことが大切だと気づきました。

ブランド

25	独自の技術	市内の企業(紙製品の製造)

素材の良さを生かして，製品を開発する過程を学び，オンリーワンの誇りをもった新商品を提案し，安達紙器商品をプロデュースしよう！

昨年度(1年生の時に)，市内の企業を見学し，品質や技術の高さに驚き，今年度はそれを生かした商品を提案し，共同開発したいと考え，企業がもつ紙のよさを仲間と検討し，いくつもの商品を提案しました。

9月30日(火)の訪問では，「発案はいいが多くのものはすでに作っている。コストや消費者のニーズをもう少し考慮して開発ができるといいだろう。」と指導をいただきました。

商品開発には，素材や技術のよさを十分に生かす，という視点だけでなく，消費者が本当に求めているものをマーケティングすることの大切さや，生産や販売のコストの試算が重要であると実感しました。

26	独自の技術	地域のラーメン店

究極の商品開発～ラーメンから地域を活性化～

これまで3年間続いてきた地域のラーメン店との共同商品開発です。1年目は「生姜つけ麺」，2年目は「紅担々」を開発してきました。いずれも，長岡の「生姜醤油味」そして長岡の「イタリアン」に着目したメニューです。今年は幅広い年代の客層をねらって多世代を視点にメニューを考えました。開発したのは長岡(栃尾地区)の特産物である油揚げを使った「柚子味噌」です。10 月 4 日には，市のイベントでチラシを配布し，販売スタートしました。

販売開始から一か月で約 400 食，現在「中学生ラーメンバトル」として3年間で開発した3つのメニューとともに，好評販売中です。

地域にある特産物に着目し，それらを相互に組み合わせることで新しい価値(ブランド)を生み出す，ということを学びました。

27	独自の技術	地域の和菓子店

和菓子文化を若い世代に伝えよう。

若い世代の和菓子離れに着目し，日本の伝統文化を守り，受け継ぐ大切さを広めるために，地域の老舗和菓子店と協力して追究をすすめました。着目したのは，「和菓子を作ること」。これを，若い世代に広めるために，「和菓子体験工房　餅土間」のプログラムを一緒に考えました。

実際にお店の「餅土間」で，どら焼きを作るシュミレーションを行うなどの活動を通して，和菓子文化を受け継ぐためには，古くからあるものも大切にしつつ，今の生活に合わせて変えていくことも大切であるという考えをもちました。若い世代に日本の伝統文化を守っていくためには，受け継ぐ人とのつながりが不可欠であり，体験を通してそのよさを伝えることが必要だと考えることができました。

28	独自の技術	地域の旅行代理店

長岡の魅力を紹介するツアーを企画しよう！

長岡市の魅力ある場所，特産品などに着目し，「長岡の魅力を多くの人に伝えよう」と願いをもち，地域の旅行代理店と協力して企画を考えてきました。

「観光で長岡に来た人たちに長岡の良い所を知ってもらおう」というコンセプトを立て，旅行代理店の方からツアーを立て方やそのポイントを教えてもらいながら企画を考えました。

小さな子どもをもつ親をターゲットに，親も子も楽しめ，長岡の良さも伝えられるようなツアーを目指して活動をしました。場所の良さだけでなく，そこでの名産品等にも注目し，インターネットや雑誌から情報を集め，ツアーを企画しました。アドバイスをいただきながらツアーを考えることを通して，その地域の特長やそこでしか体験できないことをツアーに取り入れ，地域に多くの付加価値を加えることが重要だととらえることができました。

29	独自の技術	ガンジー牛の飼育と乳製品化している牧場

多世代の人々に向けて，意外性のあるジェラートを開発しよう！

県内で 13 頭しかおらず，栄養価の高い乳が採取できるガンジー牛に着目し，ガンジー牛乳を用いたジェラートの共同開発を目指しました。地域の牧場との商品開発です。

今年は，どんな味のジェラートにすれば，男女の区別なく，また大人から子どもまで人気が出るものになるかという視点からアイディアを考え，提案しました。8 月 2 日，3 日の長岡まつりでは，**「スイカ」味と「みたらし団子」味のジェラート**を販売し，消費者の反応を調査しました。

多世代に受け入れられ，また，さまざまな類似した商品が販売される状況で勝ち残るために，「意外性が重要である」ということを学びました。

30	独自の技術	地域の和菓子店

菓子を通して地域の活性化を目指そう。

地域の和菓子店と一緒に，名物となるような新たな商品を共同開発し，長岡を盛り上げようと追究をすすめました。長い歴史をもつ地域の和菓子店の定番商品である「さかさ川」のクリームをアレンジして「新さかさ川」を作るという商品開発を依頼され，試行錯誤を繰り返してきました。秋のイベントで販売するという目標に向けて，秋のくだものや秋においしく感じるものという視点から新たなメニューを提案しました。完成した商品は，**「抹茶のさかさ川」**140 円と，**「りんごのさかさ川」**140 円です。10 月 25 日～26 日にアオーレで開催された「旬 Na ベジまつり」で販売しました。

地域の和菓子店の「さかさ川」のブランドイメージを崩さないこと，よさを取り入れることとともに，季節感を考慮すること，そして中学生の視点からの新しい発想の有効性を学びました。

31	独自の技術	地域の米菓メーカー

魚沼のお米と地元の特産を使って若い女性に米菓の魅力を伝えよう！

「いろんな世代の人に米菓に対して親しみをもってもらう」ことを目指し，地域の米菓メーカーと協力をして，商品開発を続けてきました。今年は，「地元の食材を生かした，笑顔の輪が広がるような新しい米菓」というコンセプトで商品開発会議を重ねました。野菜嫌いの子どもをもつ母親をターゲットにした「カレーコロッケ味の揚げせん」，若い女性をターゲットにした「きなこ＆ゴマ揚げせん」，晩酌を行うミドル層をターゲットにした「きんぴらごぼう味の揚げせん」といった商品案を練り上げ，試作品を作ってもらいました。これらの試作品の中から味，きんぴらごぼうという意外性と斬新さ，ターゲットの層の広さ等から**「きんぴらいす（きんぴらごぼう味の米菓）」**という商品を新商品として提案することに決定しました。

商品の企画開発の過程を経て，様々な世代の人たちが楽しむことができるように物事の多面性を意識することが大切である，また，そのためには様々な人との協力が必要であると考えました。

32	地場産物	地域の酒造会社・地域のジェラート店

青木酒造の『酒』を生かし，一年中楽しめ，多世代に親しまれる商品をつくろう！

「酒＝大人が親しむもの」という一般的な考えを広げ，子どもも含めて多くの人に地元の名産を広げていくことができないかと考え，地域の酒造会社に相談をしました。酒造会社の方からは，酒かすなどを使用してスイーツをつくることはどうかという視点をいただきました。

そこで，地域でジェラートを販売しているお店に相談したところ，共感していただき，共同商品開発がスタートしました。

現在，新しいメニューを開発するためにさまざまな素材を使ってアイディアを出し，レシピ，商品化を目指しています。

33	地場産物	地域の和菓子店

伝統的な老舗の和菓子を生かし，地場産物『長岡野菜』を取り入れた，新たな和菓子を開発しよう！

長岡の老舗という強みを生かしながら，地場産物『長岡野菜』のよさを取り入れ，さらに意外性のある味を目指して，和菓子作りのアイディアを練りました。何度もお店の方との打ち合わせをし，いくつものプランを提案しました。しかし，「すでに他店で行っている」「過去に行った」などの現実問題に直面し，苦しみながら試作を重ねました。完成した商品は，**「ほどよい甘さのかぼちゃが入っています！『南瓜饅頭』」**（130 円）と，**「ふわふわの生地とさつまいもあんの相性がいい『芋銅鑼』」**（130 円）です。10 月 25 日～26 日にアオーレで開催された「旬 Na ベジまつり」で販売しました。

老舗であるお店の和菓子のブランドを崩さないこと，長岡野菜のよさを取り入れることとともに，中学生の視点からの新しい発想の有効性を学びました。

34	地場産物	地場産物を使ったレストラン

地場野菜を生かした，新たなレシピを開発しよう！

地場野菜を生かしたメニューを出している『SUZUDELI』と，メニューを共同開発しています。

地場野菜を生かしたメニューは，どのように開発しているかを学ぶために，インタビューに伺いました。そこで，生産者の方とのつながりが大切であること学びました。その後，実際に生産者の方を訪問し，野菜の収穫を見学・体験し，生産者の方の思いを感じ取ったり，実際に収穫された数多くの野菜を試食し，素材のおいしさを味わったりすることができました。

再びレストランを訪問し，この素材の味を存分に生かしたメニューが提供されていることも改めて実感し，地場産物のブランド化とはどういうことかを考えました。

単元を通して，新たな商品を開発し，価値を高めていくには，多くの人の連携が欠かせないことを学びました。

35	地場産物	農商工連携による商品開発をされている食品会社

地場産物『長岡野菜』に着目し，新潟をテーマとした，お土産を開発しよう

『長岡野菜』を加工している食品会社の社長さんをお招きして，農商工連携というお話を伺いました。そこから，生産者といかに手を携えていくかが大切であることを学びました。

８月 11 日に山古志の農家を訪問し，『長岡野菜』を作る上での思いや，栽培上の難しさなどを学びました。また，現地で採れたての神楽南蛮を味わい，素材のうまさを実感しました。

その後，会社の社長さんをお招きし，『長岡野菜』を使った新しいのメニュー開発を目指して検討しています。

36	地場産物	地域の洋菓子店

地域の食材を生かしたスイーツを開発し，長岡のブランド化を目指そう！

地元の食材を生かしたスイーツ作って，長岡をブランド化していくことを目指し，地域の洋菓子店と商品開発に取り組みました。

これまでの「若い人に人気のあるスイーツ」から，もっと幅広い年代をターゲットとして，なおかつ地元の食材を生かす，という視点から商品価値を高めた提案をつくり，プレゼンをしました。検討を重ね，ついに完成した商品が，**「見附産のさつまいもを使ったスイートポテトタルト」**（２００円）と，**「新潟産米の生地，新潟産のももぶどうを乗せたふわもちタルト」**（６００円）です。１０月２８日，２９日に，店頭販売をしました。

商品開発会議や試食を通して，「思いをもっていても実際にできることとできないことがあること」や，「何をすれば商品化につながるのか」を考えることができました。また，商品開発や販売促進を通して，具体的な商品のイメージをもち，その開発・販売に向けて責任をもち続けることが大切だと考えることができました。

37	地場産物	地域の洋菓子メーカー

地域の食材を生かしたタルトを開発し，長岡のブランド化を目指そう！

地域の洋菓子メーカーと協力し，地域の特産品をつかった新しいタルトの開発に取り組みました。まず，メーカーの方をお招きし，ブランディングの考え方や商品開発で留意すべき視点について講演をしていただきました。その後，若い女性を中心に人気が高いスイーツを，同じ年代の子どもたちもターゲットにした商品にできないか，企画会議を重ねていきました。

販売時期をバレンタインデーに合わせ，ルレクチェを使い，ハートをイメージしたタルトの商品案が固まりした。材料，原価等を検討し，本社の営業部の方にプレゼンできるように準備を進めました。

新しいタルト作りを企画することを通して，様々な立場の人のことを考えながら生産側と消費側両者に利益をもたらすことが大切であるととらえることができました。

38	地場産物	地場産物を使ったレストラン

地場産物『長岡野菜』を多くの人に食べてもらい，よさを広めよう。

地産地消を大切にしているレストランと協力し，地場産物『長岡野菜』をつかった商品を開発，そのよさを広めることを目指して追究をしました。大口れんこんや白雪こかぶを用い，「雪国　長岡」や「長岡の大花火」を連想する新メニューを考えました。

活動を通して，『長岡野菜』には，独特のおいしさがある個性豊かな野菜であるととらえ，それを広めるためには，「長岡らしいもの・こと」と組み合わせたメニューを開発していくことが大切だと考えました。

39	地場産物	地域のパン屋

長岡野菜を使って多くの人に愛される長岡名物をつくろう。

地場産物『長岡野菜』のよさを伝え，長岡の人に誇りをもってもらうことを目指し，こころとからだに優しい焼きたて」を信条にした地域のパン屋さんと協力して，商品を開発しています。地域のパン店のよさを生かし，なおかつそれに合う長岡野菜を考え，様々なメニューを提案しました。「旬・冬」という視点から『長岡野菜』の「だるまれんこん」をつかったピザパン**「だるまれんこんパン」**を開発し，商品化しました。

活動を通して，パン店の方から「ごく短い限られた季節にしか手に入らない野菜を使うことは，短い期間しか販売できない」という指摘を受け，「広めるためには，継続性のあるもの，多くの人に愛されるもの」と考えました。また，「体に良い」「ピザ」という考えを合わせた提案を考えることで，独自性とよさをさらに大切にすることの有効性に気づきました。

40	地場産物	地域のイタリア料理店

旬の地場産物『長岡野菜』を生かしたメニューを開発し，『長岡野菜』のよさを伝えよう

地元野菜をふんだんに使う地域のイタリア料理店と，『長岡野菜』よさを広めるために，メニューを開発してきました。今年は，「旬」にこだわって，パスタ１品，デザート１品の商品開発を目指しました。「お店らしさと旬の『長岡野菜』」という視点から，両方のよさを生かして完成したメニューが，**「中之島大口れんこんと旬野菜のカポナータと燻製モッツァレラ」**と**「九思栗（くじゅうくり）かぼちゃと黒豆のクレームブリュレ」**です。ピザは，素材である長岡野菜のおいしさを生かせるような切り方，味付けを工夫しました。また，デザートは，九思栗かぼちゃの甘さを生かしてなめらかに仕上げました。

実際に『長岡野菜』をメニューに取り入れ，そのよさを伝えるためには，「よさを生かすための工夫が重要だ」ということを学ぶことができました。

平成２６年度版
（一部修正 150906）

社会創造科運用マニュアル

教師用
ステージ主任向け資料付

氏名〔　　〕

社会創造科運用マニュアル

1　外部とのかかわり（校外活動・講話）

1　校外活動

（1）活動計画

①交通手段及び費用

・児童・生徒の交通手段基本は，徒歩及び公共交通機関を原則とする。

・児童の校外活動は，担当教師の引率を必須とする。（第４ステージの合同授業も同様。）その場合，保護者からの協力を得，保護者によって替えることができる。

・児童・生徒ともに，公共交通機関にかかる費用は原則として自費とする。（受益者負担）ただし，学年やステージ全体で動く場合はこの限りではない。

②活動の始めと終わり

・活動の始まり及び終了（解散）は，小学校・中学校（校地内）を原則とする。
ただし，登下校の関係（電車やバス時間等）でやむを得ず別の場所（駅等）での始まりや終了（解散）とすることができる。その際は，必ず担当教師が立ち会うこととする。

③活動計画の周知

・活動（引率）計画を作成し，１週間前には保護者にも配付することとする。

・保護者へ交通費等の費用負担をお願いする場合は，交通手段，金額を明示すること。

・校外活動は，少なくとも当日の朝には，活動する児童・生徒を明示した計画を示し，該当する各校園で動静を共通理解すること。

（2）折衝

①アポイントメント

・遅くとも２週間前にはアポイントメントを済ませること。

・校園として外部と折衝をする姿勢をとる。そのため，外部とのかかわり（相手先）が決定し次第，校園全職員に一括メールを送り，概略と必要事項（相手先のお名前，組織・役職，日程等）の共通理解を図ること。※複数の教師からのアポイントメントが重複した場合，それを踏まえて折衝を行えるようにするため。

・児童・生徒に電話連絡をさせる場合は，必ず事前に，担当教師からの説明を行うこと。（学習の主旨，見通し等を説明し，児童・生徒から連絡する旨の了解を得ておくこと。）

・「アポイントメントの取り方」（生徒用マニュアル）参照。

②依頼状・質問状と礼状（第一次）

・参加計画や派遣申請等，必要文書を作成し，１週間前には相手方に届くよう発送すること。

・児童・生徒の依頼状・質問状や礼状には，学校としての文書を添付すること。
依頼状に質問項目を盛り込んだり，別途，訪問前に FAX で質問項目を送信したりして，学習を充実させることが大切である。また，お礼については，代表の児童・生徒が礼状を書き，残りの児童・生徒はお礼カードをもって替えたり，担当教師が作成する礼状に児童・生徒の声を載せたりする等工夫し，可能な限り早期の発送を心がけること。

・「派遣申請，FAX での質問状」参照。

・「礼状・お礼状・お礼カードの書き方」（生徒用マニュアル）参照。

③礼状（第二次）とアンケートの依頼

・単元の終了時に，学校としての礼状を発送すること。その際，単元を通した児童・生徒の学び等と感謝の言葉を一筆添える等，心配りをすることが大切である。

・礼状と同時に，アンケートを発送する。その際，学校としての依頼状を添えること。アンケートの内容は，社会創造科実施の評価にかかわること，次年度以降の継続可否を問うこと等を盛り込む。アンケート結果は，評価部と社会創造科担当が集約し，次年度へ反映させる。

④相手先についての留意事項

・児童・生徒には，企業活動等の合間を縫って協力してもらっていることを理解させる。

・申請，許可が必要な相手先，活動があることを留意し，余裕をもってアポイントメントする。

・路上でのアンケートは，管轄する警察署の許可を必要である。許可が下りるまで時間がかかることを考慮した計画を立案すること。

（３）活動当日の動き

①服装

・児童・生徒は，制服を基本とする。活動の状況に合わせて体操着等を認める。

②持ち物

・児童・生徒は，社創ファイル，筆記用具を持参する。

・必要に応じて交通費を準備する。

・児童・生徒が，携帯電話を所持することは認めない。

「緊急対応マニュアル」（生徒用マニュアル・巻末資料）参照

③昼食

・一日活動の際には，昼食に弁当を用意することとする。活動中の購入は認めない。

・昼食を食べる場所の確保が困難な場合も考えられる。あらかじめ活動計画内に明確に位置付けること。

④職員の指導体制

・第５ステージの活動では，同一時間に複数の相手先を訪問することがあるため，すべての相手先について担当教師が引率することができないこともある。相手先の選定の際にその旨を説明し，事前に了解を得ておく。

⑤緊急時の対応

・「緊急対応マニュアル」に従う。

「緊急対応マニュアル」（生徒用マニュアル）参照

２　講話（外部講師の招致）等

（１）活動計画

①活動場所

・幼稚園・小学校・中学校（校地内）を原則とする。

・具体的な教室割りについては，社会創造科担当や教務主任等と相談の上，各校園だけでなく，互いの校種で連絡を密に図り，会場確保を確実に行うこと。

②活動計画の周知

・活動計画を作成し，一週間前には児童・生徒に配付することとする。

・校外活動日は，少なくとも当日の朝には，必要事項（講師のお名前，役職，日程等）と活動する児童・生徒が明らかとなった計画を示し，各校園で動静を共通理解すること。

（２）折衝

１　校外活動に準ずる。

（３）講話受講当日の動き

①服装

・児童・生徒は，制服を基本とする。活動の状況に合わせて体操着等を認める。

②持ち物

・児童・生徒は，社創ファイル，筆記用具を持参する。

（４）交通費・謝金

・交通費を支給する。特に，テーマごとに外部講師を招いた場合である。（各学年の予算では支出できない場合等）

・事前に受け取りを確認すること。※市や県の職員（公務員）は受理しない。

・講師としての招致が決定し次第，少なくとも１週間前には，管理職（幼稚園は副園長，小学校は副校長，中学校は教頭）に相談，報告し，振込登録用紙を準備する。

●謝金（旅費含）は，以下の手続き踏み，銀行への口座振込みとする。

・講師の方には，事前に，印鑑や銀行通帳（口座番号）をご持参いただくようお願いする。

・講師の方に，振込登録用紙を記入してもらう。後日，謝金が振り込まれることを伝える。

・用紙を事務室に提出する。

※その後，同じ方が継続的に来校する場合は，活動計画のコピーを提出することで，一度の申請で済ませることができる。

３　その他

（１）各家庭との共通理解と協力の依頼

・年度当初に，「社会創造科における校外活動について」を保護者に配付し，前項の留意点やお願いを周知する。

・年度末に，「社会創造科への協力についてのお礼とアンケートのお願い」を保護者に配付する。アンケートの内容は，社会創造科実施の評価にかかわること，次年度以降の継続可否を問うこと等を盛り込む。アンケート結果は，評価部と社会創造科担当が集約し，次年度へ反映させる。

（２）活動費用

・予算は，各学年に配当されているものを充てる。

・執行は，通信費（切手代等），消耗品（発表用紙代等），バス代（全体が動く場合のみ）など，学年全員が享受する場合とする。

（３）人材バンクの活用と登録

・相手先の選定等，外部との折衝の際に活用できるよう，年度当初に確認する。

・外部との折衝後に，校園で共通理解するために一括送信した内容を蓄積することで，人材バンクの充実を図る。

・人材バンクへ登録する名称は，礼状・アンケート等の宛先になるため，フルネーム，正式名称で入力すること。所属長などの宛先が必要であれば，それらの情報も入れること。

※各ステージ主任が指示，調整をする。

（４）各ステージの運用上の留意点

①第４ステージ

・合同授業を行うため，基本的には５時間目，６時間目を社会創造科とする。

小学校　13:55～15:30

中学校　13:55～15:45

※校外活動や講話の際は，13:30 から活動をすることができる。

※帰着時間が小学校下校時間よりも遅れる場合は，家庭配付する計画書に明記すること。

②第５ステージ

・合同授業を行うため，基本的には５時間目，６時間目を社会創造科とする。

授業時間（平常）13:55～15:45

※校外活動は，担当教師の責任の下，授業時間内でのないでの発着を基本とする。

※校外活動や講話の際は，13:30 から活動をすることができる。校外活動のグループが多い場合は，出発確認場所を別途設け，一括してチェックする等工夫し，教師の確認を欠かさず行うこと。

※帰着時間が終会を越える場合は，教務室に帰着報告をする。（貴重品や配付物の受け渡し。）担当教師は，別に時間を設け，確実に事後指導（相手先への失礼や問題はないか，学習内容と次回の見通しの確認等）を行うこと。

・生徒への指導は，以下の流れを基本とする。

ア 生徒（代表でよい）に，「校外活動のお願い」を記入させる。

※少なくとも一週間前には提出させ，事前指導（活動内容）と相手先への確認をする。

※すでに相手先と活動の見通しが立っている場合は，１枚に複数回分記入することができる。

イ 担当教師は，生徒用コピーを班員の人数×２部，学校用コピーを４部とる。

※４部のコピー内訳は担当教師用と教務室掲示である。

ウ 生徒に配付し，事前指導（安全面も含む）を徹底し，家庭配付を指示する。

エ 当日の生徒の動静等を，excel ファイルに打ち込む等して，各校園での共通理解を図る。

社会創造科単元構想マニュアル

１　第４ステージの合同授業の単元構想

１　実践単元

（１）目標

・以下の点から，教科の目標をもとに，目標を設定する。

ア. 約３か月間程度，地域での実践的な活動を行う。

イ. 地域の人とかかわりながら，地域の問題を扱う。
小中合同授業を行う。

ウ. 思考力の発達の特性から，多面的・多角的な思考や，一般化して考える力を働かせながら，持続可能性の視点で考えを深める活動を行う。

〔例〕

地域の問題に着目し，その解決に向けて取り組む地域の人と関わりながら，計画的に追究を進めたり，異なる年齢の仲間と協力したり，持続可能性の視点から問題や地域の価値を見出し，解決に向けた考えをつくりだしたりする能力を高めるとともに，地域の問題を自分の事としてとらえ，解決に向けて意欲的に取り組む態度を育てる。

（２）はぐくみを目指す資質・能力

・目標を受け，資質能力発展表をもとに，設定する。

・評価規準としても活用できる。→生徒の振り返りの項目へ。

〔例〕

	観点	単元で育みを目指す資質・能力が働いている姿
自己を推進すること	自己の認識	自分の特徴が，地域の中との関わりの中でどのように生かせるかを考え，それを発揮すべく取り組むこと。
	価値の認識	地域の事象や問題に対して，それにかかわる人の思いや願い，考えをふまえ，対象がもつ価値を見いだすこと。
	立志・計画	地域の問題を解決したいと強く願い，その実現に向けて，自分で目標を立てたり，活動を考えたりすること。
	責任の遂行・粘り強い取組	自分の立場に責任をもって取り組んだり，自分たちの考えと現実に隔たりがあっても，最後までやり遂げたりすること。
相互に交流すること	他者の認識	地域の問題の解決に向け，それにかかわる人の思い願いを大切にすること。
	志の共有	地域の問題の解決に向け，それにかかわる人の考えを共感的に理解し，活動の目標を立てること。
	他者との協力	地域の問題を解決するために，異学年の仲間と考えを出し合いながら，力を合わせて取り組むこと。
	対話や議論への参加	地域の問題解決に向け，それに関わる人との話合いに積極的に参加すること。
新たに開発すること	現状の把握・分析	地域の問題に取り組む人とかかわることを通し，現実に起きている地域の問題や実情について，その背景や原因をとらえること。
	熟考	様々な知識や情報を収集し，それらを組み合わせ，根拠のある解決方法を考えたり，試行錯誤しながら解決を試みたりすること。
	創造	地域の問題の解決に向けて，地域の人や仲間の考えを聞きながら，よりよい考えをつくること。
	発信	地域の人に対して，相手の状況をふまえて，内容や表現を工夫し，自分の思いや願い，考えを伝えること。

（３）地域とのかかわり

・実施する単元の大きさ（日程的な期間）や，時期，児童・生徒および地域の実態を踏まえ，校外活動日等の地域とのかかわりを構想する。

・管理職，教務，校園の社会創造科担当と連携を密に図り，調整をする。

〔例〕

○単元の期間…６月～７月（全６回×２時間）

○校外活動可能日…２回（６月２７日，７月１１日）

○校外活動の規模…各テーマごとの団体行動。貸上バスで片道３０分以内であれば，可。

（４）プロセスモデルをもとにした単元のデザイン

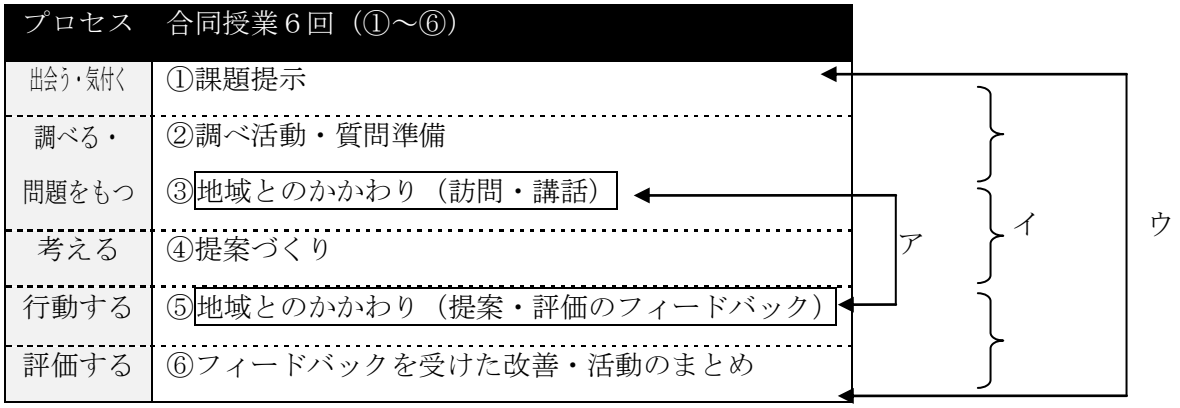
・以下の観点から，プロセスモデルをもとにして，単元をデザインする。

ア. 軸となる地域の人との交流日（校外活動日）を設定する。

イ．アの前後に必要な活動を位置付ける。

ウ. 単元の導入と終末を構想する。

〔例〕



エ. 資質・能力を働かせる活動を位置付ける。（埋め込む）

〔例〕

プロセス		○主な学習活動（観点）
出会う・気付く	①課題提示	
調べる・問題をもつ	②調べ活動・質問準備 ③地域とのかかわり（訪問・講話）	○地域の実態把握のための調査（価値の認識） ○地域の人へのインタビュー（他者の認識） ・校外活動，レポートの作成 ○目標と追求課題の設定（立志，志の共有） ○計画の作成（計画）
考える	④提案づくり	○企画書の作成（他者との協力，現状の把握・分析，熟考，創造）
行動する	⑤地域とのかかわり（提案・評価のフィードバック）	○地域の人と話合い（対話や議論への参加）
評価する	⑥フィードバックを受けた改善 ・活動のまとめ	○地域の人の評価を受けた改善（粘り強い取組） ○テーマ内発表会（発信） ○振り返り（自己の認識）

オ. 指導事項を確認し，手だて（ワークシート等）を準備する。

（５）題材の選定

・以下の観点から，地域の題材を選定する。

ア．実践的・探究的な学習が成立すること。（費用，距離等の面で現実的に可能かどうか。）

イ．協働的な学習が成立すること。（地域の人とともに問題解決に向けて取り組めるかどうか。）

ウ．学習内容が習得されること。

・それぞれの題材を通して，学習内容の習得の視点から，いくつかのテーマを設定する。

・相手先の選定や，打ち合わせは丁寧に行うこと。（依頼，派遣申請，交通費，礼状等。）
相手先が決定した場合は，人材バンクに打ち込んだり，校園一括メールを送信したりして，事実の共有と蓄積を欠かさないこと。

〔例：これまで開発した相手先〕

テーマ	持続可能性の視点	題材	協働・実践・探究
まちづくり	集う・交流	中心部（中心商店街「大手通」）	「よりよい街」についての提案を作成
		周辺部（中山間地「太田・山古志地区」	「交流の仕方」を提案
ブランド	オリジナリティ 特徴を生かす 信頼 地産地消	独自の技術（会社・企業「独自の技術をもつ地元の企業」）	独自の技術を生かした新商品の提案
		地場産物（「長岡野菜」）	長岡野菜を使ったレシピの提案
自然環境	共生・循環・エコロジー・省エネ	環境保全（川「栖吉川」）	理想の「栖吉川プラン」の提案
		エネルギー（「ゴミ処理施設」）	クリーンセンターの悩みを解決するプランの提案
コミュニティ	多世代多文化交流 任せきりにしない	子育て（「子育て支援施設」）	子育て支援施設の悩みを解決するプランの提案
		高齢者・障がい者（「高齢者福祉施設」）	高齢者施設でのかかわり方のプランの提案

（６）評価

・子供が資質・能力を働かせている様相や学習内容を習得・活用している姿を見取るために，質的評価を行う。主にポートフォリオによる評価を行う。具体的には，問題解決の過程で，子供の振り返りから，資質・能力が働いた姿を見取る。単元の途中や終末ではポートフォリオをまとめて，資質・能力を働かせた様相，それによって得た学習内容を整理させる。その中で子供が記述した内容を基に，教師は子供が資質・能力を働かせた様相や，学習内容を習得・活用した姿を見取っていく。

・以下のような評価資料から評価をする。

ア.「まとめシート」（Ａ４程度の用紙に，各自が実践をまとめたもの。）

イ.「振り返りシート」（各自が，自らの単元への取り組みの状況を，１２の観点それぞれで振り返って記述したもの）

ウ. 発表資料（発表交流会等に向けて作成した資料。模造紙に作成した場合は，デジカメで撮影し，Ａ４程度でプリントアウトして，本人に返却するとよい。）

・本人への通知は，文言評価とする。（上記ア～ウをもとに，例えば単元末等に，所見で通知する。）

（７）その他

・合同授業に伴い，小学校，中学校の授業時間を以下のように確認する。

小学校　13:55～15:30

中学校　13:55～15:45

・合同授業に伴い，授業で作成したワークシートや記録写真等は校園共有サーバーへ保存すること。

２　旅行単元

（１）目標

・以下の点から，教科の目標をブレイクダウンして，目標を設定する。

ア. 旅行的行事を通して，実践的な追究を進める。

イ. 自分の住む地域とは別の地域の人とかかわりながら，追究を進める。
同年齢の仲間と協力して，追究を進める。

ウ. 思考力の発達の特性から，共通点を見出し，それを抽象化するような思考力を働かせながら，持続可能性の視点で考えを深める活動を行う。

〔例〕

自分の暮らす地域の問題の解決に向けて，他の地域で問題解決に取り組む人と関わりながら，具体的な計画の立案や逐次修正しながら追究を進めたり，同年齢の仲間と協力したり，自分の暮らす地域と他の地域との比較することを通して，持続可能性の視点からの考察を深めたりする能力を高めたりするとともに，自分の暮らす地域の問題を解決しようとする態度を育てる。

（２）はぐくみを目指す資質・能力

・目標を受け，資質・能力発展表をもとに設定する。
・評価規準としても活用できる。→生徒の振り返りの項目へ。

〔例〕

	観点	単元で育みを目指す資質・能力が働いている姿
自己を推進すること	自己の認識	自分の特徴が，追究活動の中でどのように生かせるかを考え，それを発揮すべく取り組むこと。
	価値の認識	他の地域の問題解決に向けた取組について，具体的な手立てや工夫点を見いだすこと。
	立志・計画	東京との比較によって，自分の追究をより深めたいと願い，その実現に向け，自分で活動の目標や計画を立案し，逐次修正すること。
	責任の遂行・粘り強い取組	研修旅行での自分の役割に責任をもち，確実に実行すること。また，うまくいかない状況があっても，工夫したり，リーダーや仲間と相談したりして，乗り越え，役割を全うすること。
相互に交流すること	他者の認識	他の地域の問題解決に向けた取組について，それにかかわる人の思いや願い，考えをとらえること。
	志の共有	仲間の思いや願い，考えに共感的に理解し，自分の考えを柔軟に対応させ，統一した課題や目標を設定すること。それを受けて，自らの追究の充実に向けて目標や取組を工夫すること。
	他者との協力	研修旅行を成功させるために，様々な仲間と考え，声をかけ合いながら取り組むこと。
	対話や議論への参加	自分の課題解決に向け，積極的に質問したり，インタビューしたりして，機会を有効に活用すること。
新たに開発すること	現状の把握・分析	他の地域の事例との比較から，自分の暮らす地域の問題や実情について，その背景や原因をとらえること。
	熟考	研修旅行を通して得た知識や情報と，それまでに収集していた情報などを比較し，共通点や相違点を見出し，一般化し知見を出すこと。
	創造	研修旅行を通して得た知見から，自分の暮らす地域の問題の解決に向けて，新たな考えをつくること。
	発信	仲間に対して，相手の学習履歴をふまえて，内容や表現を工夫し，自分の学びや考えを伝えること。

なお，上記の単元では，特別活動からの以下の移譲内容を含んでいる。（観点）
※学級内の組織づくりや仕事の分担処理【学級活動】，旅行・集団宿泊的行事【学校行事】（責任の遂行・粘り強い取組）
※学校における多様な集団生活の向上【学級活動】，旅行・集団宿泊的行事【学校行事】（他者との協力）

（３）地域とのかかわり

・実施する単元の大きさ（準備が可能な日程）や，時期，児童・生徒および地域の実態を踏まえ，旅行での地域とのかかわりを構想する。
・管理職，教務，旅行社，社会創造科担当と連携を密に図り，調整をする。

〔例〕

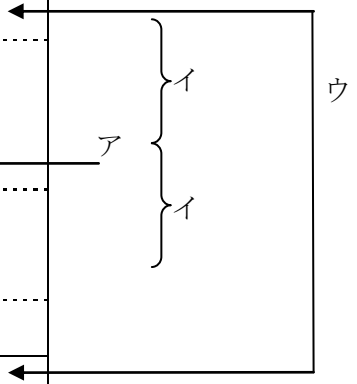
○単元の期間…１２月～３月（全１０回×２時間）
○旅行中の活動日…２回（１月２３日，２４日）
○旅行中の活動の規模…テーマごとの団体行動。バス。

（４）プロセスモデルをもとにした単元のデザイン

・以下の観点から，プロセスモデルをもとにして，単元をデザインする。
ア. 軸となる地域の人との交流日（旅行中の活動）を設定する。
イ．アの前後に必要な活動を位置付ける。
ウ. 単元の導入と終末を構想する。

〔例〕

プロセス	合同授業１０回（①～⑩）
出会う・気付く	①課題提示
調べる・問題をもつ	②前期・中期の想起 ③調べ活動・質問準備 ④計画の立案 他の地域とのかかわり（訪問・講話）
考える	⑤中間発表交流会 ⑥⑦次ステージで取り組む提案づくり ⑧⑨発表交流会
行動する	
評価する	⑩活動のまとめ



※旅行単元には，「行動する」プロセスは位置づけていない。

エ. 資質・能力を働かせる活動を位置付ける。（埋め込む）

〔例〕

プロセス		○主な学習活動（観点）
出会う・気付く	①課題提示	
調べる・問題をもつ	②前期・中期の想起 ③調べ活動・質問準備 ④計画の立案 地域とのかかわり（訪問・講話）	○訪問先のための調査（価値の認識） ○訪問先でのインタビュー（他者の認識） ・校外活動，レポートの作成 ○目標と追求課題の設定（立志，志の共有） ○計画の作成（計画） ○旅行中の活動（他者との協力）
考える	⑤中間発表交流会 ⑥⑦次ステージで取り組む提案づくり ⑧⑨発表交流会	○中間発表会（発信） ○次ステージで用いる企画書の作成（現状の把握・分析，熟考，創造） ○発表会（発信）
行動する		
評価する	⑩活動のまとめ	○振り返り（自己の認識）

オ. 指導事項を確認し，手だて（ワークシート等）を準備する。

（５）題材の選定

・自分の暮らす地域との比較の視点から，既習のテーマを生かし，訪問先を設定する。
・相手先の選定や，打ち合わせは丁寧に行うこと。（依頼，派遣申請，交通費，礼状等。）
相手先が決定した場合は，人材バンクに打ち込んだり，校園一括メールを送信したりして，事実の共有と蓄積を欠かさないこと。
・訪問先の活動を充実させるため，活動時間の確保を重視し，訪問先の選定を進めること。

（６）評価

・以下のような評価資料から評価をする。
ア.「まとめシート」（Ａ４程度の用紙に，各自が実践をまとめたもの。）
イ.「振り返りシート」（各自が，自らの単元への取り組みの状況を，１２の観点それぞれで振り返って記述したもの）
ウ. 発表資料（発表交流会等に向けて作成した資料。模造紙に作成した場合は，デジカメで撮影し，Ａ４程度でプリントアウトして，本人に返却するとよい。）
・本人への通知は，文言評価とする。（上記ア～ウをもとに，例えば単元末等に，所見で通知する。）

緊急時には…

緊急対応マニュアル

1　グループとはぐれた場合

1－1　徒歩の場合

〇グループとはぐれてしまった者で，訪問先へ戻ることができる場合は，訪問先へ帰り，事情を話し，学校へ連絡をする。その後の対応・指示を確認する。

〇グループとはぐれてしまった者で，迷子になった場合は，近くの公衆電話で学校へ連絡し，その後の対応を確認する。近くに公衆電話が見当たらない場合は，近くの交番，お店，民家に行き，事情をよく話し，電話をお借りして学校へ連絡し，その後の対応・指示を確認する。

1－2　バスの場合（乗り越し・乗り遅れ・はぐれた場合）

〇グループとはぐれてしまった者は，近くの公衆電話で学校へ連絡し，その後の対応・指示を確認する（乗り過ごしてしまった場合は次のバス停で)。近くに公衆電話が見当たらない場合は，上記１－１と同じ対応をする。

1－3　電車等の場合（乗り越し・乗り遅れ・はぐれた場合）

〇グループとはぐれてしまった者は，駅員の方に事情を説明し，相談をする。
その後，その駅から動かず，公衆電話を探し，学校または指定の連絡先に連絡をし，その後の対応・指示を確認する（乗り過ごしてしまった場合は次の駅で)。近くに公衆電話が見当たらない場合は，上記１－１と同じ対応をする。

グループ長へ

〇はぐれたことに気付いたグループ長も目的地の駅で公衆電話から学校または指定の連絡先へ連絡を入れる。近くに公衆電話が見当たらない場合は，上記１－１と同じ対応をする。

＊いずれの場合も，連絡がとれ，対応を確認したらその場をむやみに動かない。

＊テレフォンカードまたは小銭の準備をしておく

中学校	０２５８－３２－４１９０
小学校	０２５８－３２－４１９１

2　体調不良や事故に遭遇した場合

〇３人以上いる場合は，１人はその場で様子を見る。もう１人（グループ長）は，緊急な事態の場合は周囲に人に助けを求め，すぐに学校に連絡を入れて指示を仰ぐ。
電話は公衆電話／近くの公共施設／民家に事情を説明して借りる。

〇２人の場合は，その場から離れず，近くの人に助けを求める。

3　地震等の災害の場合

〇宿舎，企業等訪問中…周囲の大人の指示に従って近隣の避難所へ避難する。

〇交通機関で移動中…原則として係員の指示に従う。

4　その他

〇企業等訪問時に，明らかに遅れることが分かった場合，ただちに先方に連絡をする。

〇学校への帰着が予定よりも遅れる場合（バスや電車に乗り遅れる等）は学校へ必ず連絡する。

※公衆電話／近くの公共施設／民家に事情を説明して借りる。

グループ長用

緊急対応マニュアル

学校　０２５８－３２－４１９０

１　グループとはぐれた場合

〇はぐれたことに気付いたグループ長も公衆電話から学校または指定の連絡先へ連絡を入れる。

１－１　徒歩の場合

〇グループとはぐれてしまった者で，訪問先へ戻ることができる場合は，訪問先へ帰り，事情を話し，学校へ連絡をする。その後の対応・指示を確認する。

○グループとはぐれてしまった者で迷子になった場合は，公衆電話で学校へ連絡し，その後の対応を確認する。近くに公衆電話が見当たらない場合は，近くの交番，お店，民家に行き，事情をよく話し，電話をお借りして学校へ連絡し，その後の対応・指示を確認する。

１－２　バスの場合（乗り越し・乗り遅れ・はぐれた場合）

〇グループとはぐれてしまった者は，近くの公衆電話で学校へ連絡し，その後の対応・指示を確認する（乗り過ごしてしまった場合は次のバス停で)。近くに公衆電話が見当たらない場合は，上記１－１と同じ対応をする。

１－３　電車等の場合（乗り越し・乗り遅れ・はぐれた場合）

○グループとはぐれてしまった者は，その駅から動かず，公衆電話を探し，学校または指定の連絡先に連絡をし，その後の対応・指示を確認する（乗り過ごしてしまった場合は次の駅で)。近くに公衆電話が見当たらない場合は，上記１－１と同じ対応をする。

＊いずれの場合も，連絡がとれ，対応を確認したらその場をむやみに動かない。

＊テレフォンカードまたは小銭の準備をしておく

２　体調不良や事故に遭遇した場合

○３人以上いる場合は，１人はその場で様子を見る。もう１人（グループ長）は，緊急な事態の場合は周囲に人に助けを求め，すぐに学校に連絡を入れて指示を仰ぐ。
電話は公衆電話／近くの公共施設／民家に事情を説明して借りる。

○２人の場合は，その場から離れず，近くの人に助けを求める。

３　地震等の災害の場合

○宿舎，企業等訪問中…周囲の大人の指示に従って近隣の避難所へ避難する。

○交通機関で移動中…原則として係員の指示に従う。

４　その他

〇企業等訪問時に，明らかに遅れることが分かった場合，ただちに先方に連絡をする。
訪問先の電話番号〔　　〕
（受け入れの企業等は，わざわざ時間を割いてみなさんに対応することを忘れずに）

〇学校への帰着が予定よりも遅れる場合（バスや電車に乗り遅れる等）は学校へ必ず連絡する。

※公衆電話／近くの公共施設／民家に事情を説明して借りる。

○１日目の交通費がいくらかかったか（１人当たり）をメモしておく。その上できちんとおつりを返す。

○グループの仲間をしっかりと把握する。
グループの中での責任者である自覚をもって指示を出し従わせる。

ＭＥＭＯ

単元の終わりに記入させる等して，活動を通した学びを整理・自覚化させる。
家庭連絡票等作成の資料にもなる。

St4 中期単元

まとめシート

大テーマ	小テーマ
コミュニティ 自然環境	環境保全

グループテーマ（グループの目標）

地域密着型栖吉川フェスティバル

①地域との最初の関わり
・訪問で分かったこと、講話を聞いてとらえたこと。事実や地域の人の思いや願い、考えなど。それに対する自分の考え。

自然に詳しい　　さんから，外来種や絶滅危惧種，自然と人間の共存などについてお話してもらった。栖吉川にある階段や草刈りが自然にどんな影響を与えるのか理解することができた。また，階段は人と川とのつながりをつくる「親水護岸」という意味があることを知った。

②つくった自分たちの考え
・分かったこと、とらえたことを受けて、自分・自分たちが考えたこと。着目点やこだわり、工夫など。

人間と自然がうまく共存していくことが大切だと分かった。栖吉川では，水と親しむ「親水」の為につくられた階段に草がありすぎて，本来の役割を果たせていない。だからといってただ草を刈るのではなく，自然のことも考えて共存していけるシステムがあると良いと考えた。

③地域との2回目（それ以降）の関わり
・取材・体験で分かったことや、提案をして地域の人からもらった評価やアドバイス。

河川事務所の　　さんから治水・利水・環境についてなどをお話してもらった。そのお話を聞いて考えた「栖吉川フェスティバルを小・中学生・地域の人とやる」という案に小学生の蛇かごをおくという案や，花を植えるという案を取り入れ話合い，　　さんに提案した。

④現在の自分の考え
・地域の人からの評価や、もらったアドバイスを受けて修正した考え、追究をまとめた今の自分の考え。

　　さんから教えていただいた治水，利水，環境と関心という観点をすべて実現できるように，「地域密着型栖吉川フェスティバル」という提案を考えた。
話合いでは，小学生が参加してくれなくて困ることもあったけど，同じ班の中学生と声をかけ合ったりして，提案のイラストや企画書を完成させることができた。St5では実現できると良いと思う。

【自由記述】
・上記に書ききれなかった、自分の追究のよさ、主張をしたり、図示して補足したりして、有効に活用してよい。

活動後に記入させる等して，資質・能力の働きを振り返り，整理・自覚化させる。
家庭連絡票・個人カルテ作成の資料にもなる。

St4（中学1年生） 中期単元

振り返りシート

資質・能力発展表，プロセスモデルを参考に，その単元で目指す「資質・能力が働いている姿」を描く。

単元によって，重点を置かない観点があってよい。

	観点	目標（書き方の例）	
自己を…ること	自己の認識	自分の特徴が地域の中との関わりの中でどのように生かせるかを考え，それを発揮すべく取り組むこと。 □□	河川事務所の　　さんに提案をする時，企画書を分かりやすくかくことに役立てることができ，提案をより分かりやすく整理できた。
	価値の認識	…願い，考えをふまえ，対象がもつ価値を見いだすこと。 例：私たちが取り組んだ地域の問題●●には、△△（地域の人）さんは○○と考えていた。その観点から見ると、…せるのではないかと思う。	栖吉川には，コンクリートの階段があり，それを私達は自然破壊だと思っていたけど，蝶太郎さんは親水護岸という人間と川が親しむためのものだと教えてくださった。その階段をイベントに生かせると考えた。
	立志・計画	…を解決したいと強く願い，その実現に向けて，自分で目標を立てたり、活動を考えたりすること。 例：私は、テーマの●●という問題について、□□ということから、解決に向けて取り組みたいと感じて、選んだ。活動では、○○をはっきりさせたかったので、実際にインタビューする必要があると考え、計画を立てた。	私は，栖吉川の草が多すぎる，ゴミがある，人がいない，という問題について，全て一度に解決できないかと考えた。活動では，より実現可能なプランになるように，細かい所まで計画を立てた。
	責任の遂行 粘り強い取組	自分の立場に責任をもって取り組んだり，自分たちの考えが地域の人と異なっていても最後までやり遂げたりすること。 例：私は、バスの中で小学生に注意をしたり、整列を呼びかけたりして、中学生としての責任を果たすことができた。また、△△（地域の人）さんに●●と指摘されたことについて、改めて考え直し、改善した○○という考えをつくることができた。	小学生との話合いでは，小学生が集中してくれない時に声をかけたり注意することができた。 他にも，中学生として話合いをリードすることができた。 また，3つの視点を聞いてプランを考え直すことができた。

社会創造科の通知票

1 年 3 組　　番氏名

前期・中期単元

単元名	目指す姿
持続可能な長岡 (地域)の創造	地域が抱える問題について，地域の人と手を携えながら，継続的に活動をすすめる中で，持続可能な地域(長岡)に関する認識を深める。

前期単元

大テーマ	小テーマ	グループテーマ
ブランド	長岡野菜	長岡野菜を使ったレシピで知名度UP
地域との関わり	農園や　　へのインタビュー	
追究活動の概要・学びの様子		
農園へのインタビューから，「食べた感想を伝えてほしい」という思いを聞き，「試食・アンケート」という方法を考え，具体的な場のイメージを構想することができました。原信美沢店への訪問では，「地場野菜は主力である。試食は旬のもので，目立つところ」に配置しているという考えを聞き，それをうけ，店頭パネルの案を考えることができました。次ステージでの実践を期待しています。		

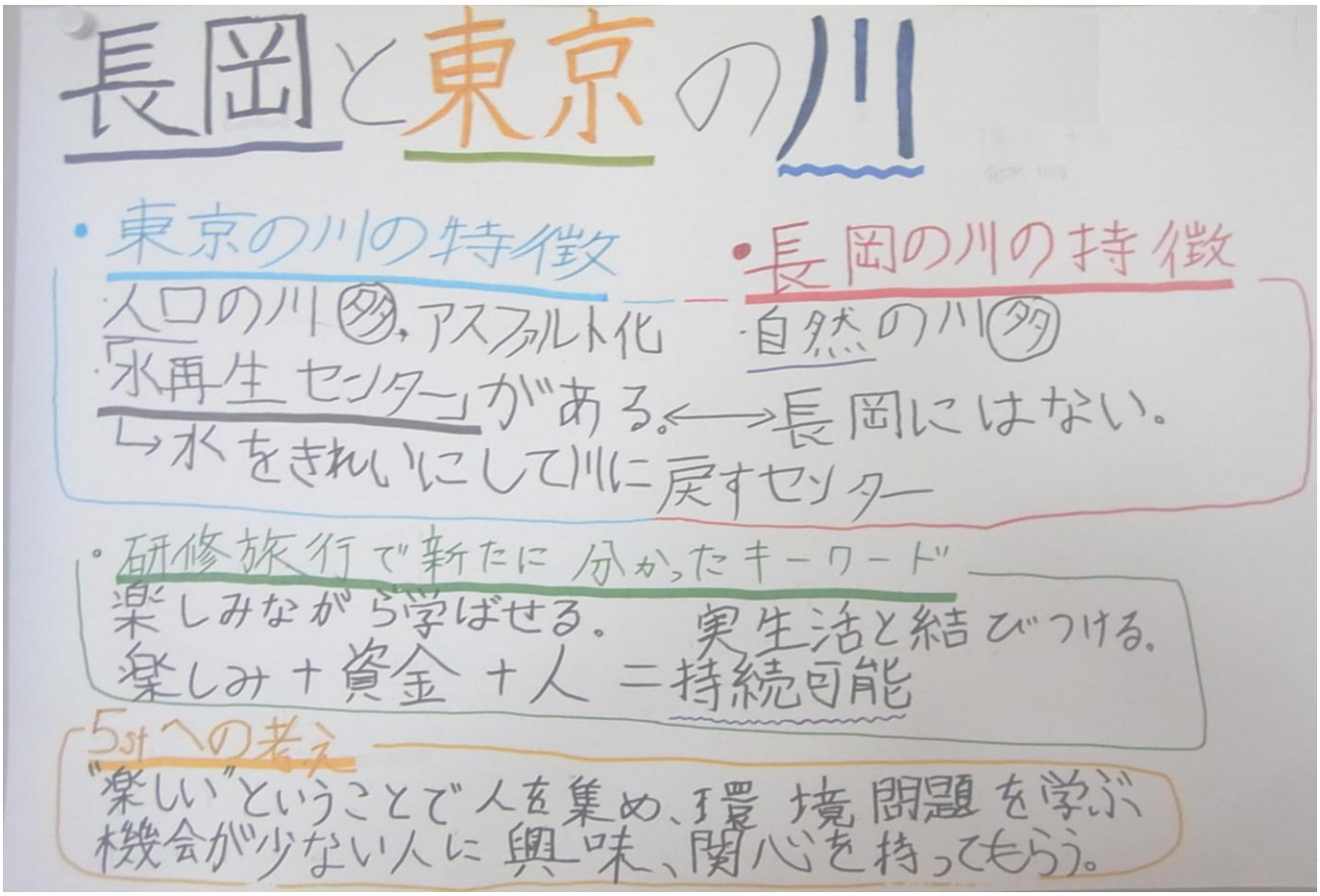
中期単元

大テーマ	小テーマ	グループテーマ
自然環境	環境保全	地域密着型栖吉川フェスティバル
地域との関わり	信濃川河川事務所の方をお招きし，河川工事や護岸整備の様子を聞く。また，NPO信濃川学校の方をお招きし，川の自然環境の実態や保全活動の様子を学ぶ。	
追究活動の概要・学びの様子		
河川事務所の方から「治水・利水・環境」についての話をしてもらい，「栖吉川フェスティバルを小中地域の人と実施する。」という案に，小学生の「蛇かごを置く」という案と，「花を植える」という案を取り入れて，考えをすすめました。さらに，「関心」という観点から，「地域密着型」へと考えを広げることができました。草刈りやゴミ拾いをゲーム形式にする，蛇かごの石に絵やメッセージを書く等，工夫した提案ができました。		

後期単元

単元名	目指す姿	
研修旅行	長岡地域が抱える問題について，東京で実際に問題解決に携わる人の取組やその工夫と比較し，共通点や相違点を見出し，第5ステージの追究に生きる考えをつくる。	
一日目の活動 長岡野菜 訪問先とのかかわり	開発協会の方から，「持続可能な社会に向けて」という演題で講話をいただく。ワークショップ「もし世界が100人の村だったら」の実践。	東京シティ青果株式会社を訪問し，江戸東京野菜の歴史等についての講話を聞き，市場見学をする。
追究活動の概要・学びの様子		
研修旅行を通して，様々な地域の伝統野菜を知ることや，地元の農家の方々に継続的にかかわりつながることの重要性をとらえました。		
二日目の活動 環境保全 訪問先とのかかわり	遊んで学ぶ環境と科学クラブを訪問し，環境保全活動の工夫について講話を聞く。	(一か所のみの訪問)
追究活動の概要・学びの様子		
東京と長岡の川について，特徴を比較しました。このことから，「人々の意識を高めるには，楽しみながら学べる機会を設けること」「資金については企業からの協力を得ること」が効果的であり，持続可能な活動に結び付いていることをとらえました。そして，長岡でも人々の興味・関心を呼び起こす企画に盛り込むことが大切であるとの考えをまとめました。		

生徒が作成した発表資料等は，デジカメで撮影する等して，デジタルデータで保存したり，プリントアウトして本人用として資料を蓄積させたりする。
生徒の学びの深まりや，家庭連絡票等作成の参考になる。



（校外活動応諾願い）

平成　　年　　月　　日

保護者の皆様

新潟大学教育学部附属長岡中学校
校長　　○　○　○　○

「社会創造科」における校外活動について（お願い）

保護者の皆様におかれましては，附属校園の教育活動にご理解と多大なるご支援・ご協力いただきありがとうございます。

附属校園では，文部科学省より研究開発学校の指定を受け，研究主題「社会性を培う」の下，幼小中の一貫教育，そして「社会創造科」を中心に，研究に取り組んでいるところです。

「社会創造科」は，「地域に出て，地域の問題を，地域の人とともに解決する」という活動を継続的に行うことが特徴です。そのため，一定の期間内に複数回の受け入れ訪問をする場合があります。

つきましては，生徒たちの校外活動にあたり，下記のとおり実施させていただくことについてご理解とご協力をお願いいたします。

記

１．活動期間	６月下旬～１０月（毎週火曜日，５時間目～６時間目） ※先方が受け入れてくださる日以外は，学校で授業をします。
２．活動計画	校外活動の前には，校外学習活動計画書を各家庭に配付する。
３．費用	生徒自己負担（交通費を含む）
４．安全指導	・校外活動では，事前に安全指導を行うとともに，緊急対応用のマニュアルと緊急連絡用小銭を携帯する。 ・校外活動では，必ずグループで活動を行う。 ※各グループの活動では，訪問先が多岐に渡るため，学校職員の同行ができず，生徒のみの活動となる場合があります。

なお，上記の点をご理解いただき，生徒の社会創造科の校外活動を御理解いただき，下の応諾書を学級担任へ提出してください。よろしくお願いいたします。

----------　切り取り線----------

応諾書

「社会創造科」の校外での学習活動を応諾します。

年　　組　　番 参加生徒氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿.

保護者　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

６月３０日（月）までに，担任へ提出してください。

校外活動計画・報告用紙

記入者　　年　　組　　番　名前　　，

【出発前に記入】

・担当の先生のチェックを受け，ＯＫをもらう。
担当の先生はコピーを班員数×２＋２とり，生徒に２部ずつ配付。
生徒は自分用（活動時持参・活動後記入提出）と，持ち帰って保護者に説明・家庭掲示用とする。
＋２のコピーは，担当の先生が１枚所持，教務室黒板に１枚掲示とする。

□ 日時	月　　日（　）
□ グループメンバー ※氏名(クラス)を書く	
□ 訪問（活動）場所	
□ 活動時間	現地着　　：　　～　　：　　まで
□ 交通手段	費用　　円
□ 出発，帰着時間	学校発　　：　　～　　：　　着予定
□ 活動予定内容	

【活動後に記入】

・完全退校時間までに記入ができる場合は記入し，担当の先生に提出をする。
担当の先生は，確認，評価後，本人に返却とする。

□ 活動内容報告 □ 次回の活動予定 □ 次回までにやっておかなければならないこと	≪訪問先の連絡先≫ 住所 電話番号　　－　　－ 担当者　　さん 担当教諭

夏休み校外活動計画・報告用紙

班長　　年　　組　　番　名前

【出発前に記入】

・担当の先生にチェックを受け，ＯＫをもらう。
　担当の先生はコピーを班員数×２＋２とり，生徒に２部ずつ配付。
　生徒は自分用（活動時持参・活動後記入提出）と，持ち帰って保護者に説明・家庭掲示用とする。
　＋２のコピーは，担当の先生が１枚所持，もう１枚は教務室日直用ファイルに綴じ込む。

日時	月　　日（　　）
グループメンバー **※氏名（クラス）** **緊急時の連絡系統を→で示す。**	
訪問（活動）場所	
活動時間	**現地着**　：　～　：　（解散）まで
交通手段 **※個人によって交通手段が異なる場合は，すべての生徒のパターンを書き出して明記する。**	費用　　円　（　往復　）
活動予定内容	

☆活動後に終了報告する。３時半までは学校，それ以降はテーマ担当の先生に直接。

班長帰着予定時刻 **※この時間に報告電話がないと，連絡先に電話確認をします。**	**帰着**　：　**（予定）** **確認時の連絡先（班長連絡先）**

【活動後に記入】

・次回の登校日までに記入し，担当の先生に提出する。
　担当の先生は，確認，評価後，本人に指導し，返却する。

活動内容報告

次回の活動予定

次回までにやっておかなければならないこと

≪協力していただいている方≫
お 名 前　担当　　様
住　　所
電話番号

テーマ「　　」担当教諭　　先生
電話
学校　0258 －　32　－ 4190

平成　　年　　月　　日

社会創造科「　　」参加について（自由参加）

テーマ担当　　

１　日時

８月７日（木）　13:00～16:00（解散 16:10 を予定）

２　参加生徒

※３年生は，学習との両立をよく考えて参加を決めること。

３　内容

もみじ園の樹種調査

・カエデ樹種同定

・葉の採集

・マッピング

４　場所

〇〇もみじ園

※集合場所は，〇〇とする。〒　　-　　長岡市　　-　　

５　服装・持ち物

・長袖，長ズボンの附属中学校体操着

・帽子

・水筒

・タオル，軍手，天候によっては雨具等

６　その他

・現地集合，現地解散とする。（保護者による送迎をお願いしたい。）

・テーマ担当職員〇〇が，活動に帯同する。連絡先　　-　　-　　（　　携帯）

・３年生は，学習との両立をよく考えること。

・学習や部活動との両立をよく考えること。

・欠席する場合は，担当へ連絡をすること。

（校外活動計画・長期休暇遠方の場合）

平成　　年　　月　　日

社会創造科「　　」参加について（自由参加）

テーマ担当　　

１　日時

８月３日（日）　13:00～14:30（解散 14:40 を予定）

２　参加生徒

３　内容

長岡まつり昼行事「お祭りわんぱくひろば」〇〇ブースのお手伝い

・△△への関心度調査

・ブースへの呼び込み

４　場所

大手通　歩行者天国（「お祭りわんぱくひろば」〇〇ブース）

※集合場所は，〇〇ブース前とする。歩行者天国中なので，時間をみて徒歩でくること。

５　服装・持ち物

・制服（夏服）

・水筒（水分）

・タオル等

・筆記用具（関心度調査道具）等

６　その他

・現地集合，現地解散とする。

（学校への登下校と同じ手段とする。場合によっては，保護者による送迎をお願いしたい。）

・テーマ担当職員〇〇が，活動に帯同する。連絡先　　-　　-　　（　　携帯）

・３年生は，学習との両立をよく考えること。

・学習や部活動との両立をよく考えること。

・欠席する場合は，担当へ連絡をすること。

（派遣申請　外部指導者宛）

平成　　年　　月　　日

所属
役職　　氏　名　　様

新潟大学教育学部附属長岡中学校
校　長　○　○　○　○
新潟大学教育学部附属長岡小学校
校　長　○　○　○　○

社会創造科学習における職員の派遣について（依頼）

秋冷の候　貴職におかれましてはますます御清栄のことと推察申し上げます。

さて，当校では，文部科学省の指定を受け，持続可能な社会を創り上げる力を育てるため標記学習授業を行っており，このたび「　　」を一つのテーマとした研究を進めていく予定です。

つきましては，　所属　氏　名　　から来校いただき，下記のとおり御指導，御講義いただきますようお願い申し上げます。

記

１　日　時　　平成　　年　　月　　日（　）　午後１時３０分から午後３時４５分
（５限）午後１時５５分から午後２時４０分（４５分）
（６限）午後２時５０分から午後３時３５分（４５分）

２　会　場　　新潟大学教育学部附属長岡○学校　場所

３　対象　　児童　　人，生徒　　人

４　内　容　　講話「　　について（案）」
体験

（派遣申請　外部指導者宛　150501 改訂版）

平成２７年５月１日

□□□□　　□□□□
□□　○○　○○　様

新潟大学教育学部附属長岡中学校
校　　長　　○　○　　○　○

新しい教科「社会創造科」学習活動への協力のお願い

新緑の候，貴台におかれましては，益々ご健勝のことと拝察いたします。

さて，当校園では，文部科学省より指定を受け，「社会創造科」の学習を実施しております。「社会創造科」では，地域から世界をとらえながら未来の社会を考える学習を進めています。子どもたちは，商品づくりを通して郷土の伝統や特徴を考え，長岡地域の現状についての認識を一層深めていきたいと考えています。

つきましては，ご多用の折，誠に恐縮ではございますが，下記の内容のとおり，ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

記

１　日　時　　５月１１日（月）　１３：３０～１５：１５

２　場　所　　新潟大学教育学部附属長岡中学校　食堂
〒940-8530　長岡市学校町１－１－１　電話 0258-32-4190

３　内　容　　講義
- 長岡野菜の現状（生産量，消費量，流通など）についての講話
- 現場の方の声（消費が伸びない，一時的なブームであってはならないこと，消費者の反応など）をお話しいただければありがたいです。
- 生徒の質疑の対する応答

４　その他　　ご不明な点，ご確認が必要なことがありましたら，担当まで問い合わせください。

（担当）新潟大学教育学部附属長岡中学校
３学年職員　○○　○○
〒940-8530　長岡市学校町１－１－１
Tel.0258-32-4190　Fax.0258-32-6340
E-Mail masayuki@nagaoka.ed.niigata-u.ac.jp

（校外活動願い　保護者宛て）

平成　　年　月　日

保護者の皆様

新潟大学教育学部附属長岡中学校
校　長　○　○　○　○
新潟大学教育学部附属長岡小学校
校　長　○　○　○　○

社会創造科における校外活動について（お願い）

以下のとおり，社会創造科で校外学習を行いますので，活動内容等をご確認いただき，ご理解とご協力をお願いします。

1　日時　　月　　日（　）午後

2　目的　　何についての　調査（講話，インタビュー）

3　目的地　　場所・施設名
住所：新潟県長岡市
電話：0258-　-

4　参加児童生徒　　テーマ「　　」を選択した児童生徒
小学校　年生　名
中学校　年生　名

5　引率職員

6　主な活動内容　　誰　から，　何　をお聞きする。

＜行　程＞

１３：３０　学校町発（徒歩）
１４：００　場所　着
１４：１５～　場所　にて講話とインタビュー
１５：２０　場所　発
１５：５０　学校着

7　留意事項
・交通安全に十分に注意する。
・地域の方との対話の仕方，目的を明確にしたインタビューの仕方についても学習する機会とする。
・緊急の場合は携帯で連絡を取る。（担当：　－　－　）

（校外活動願い　保護者宛て　交通費有の場合）

平成　　年　月　日

保護者の皆様

新潟大学教育学部附属長岡中学校
校　長　○　○　○　○
新潟大学教育学部附属長岡小学校
校　長　○　○　○　○

社会創造科における校外活動について（お願い）

以下のとおり，社会創造科で校外学習を行いますので，活動内容等をご確認いただき，ご理解とご協力をお願いします。

1　日時　　月　　日（　）午後

2　目的　　何についての　調査（講話，インタビュー）

3　目的地　　場所・施設名
住所：新潟県長岡市
電話：0258-　-

4　参加児童生徒　　テーマ「　　」を選択した児童生徒
小学校　年生　名
中学校　年生　名

5　引率職員

6　主な活動内容　　誰から，　何　をお聞きする。

＜行　程＞

１３：３０　学校町発（徒歩）
１４：００　場所　着
１４：１５～　場所　にて講話とインタビュー
１５：２０　場所　発
１５：５０　学校着

7　留意事項
・交通安全に十分に注意する。
・地域の方との対話の仕方，目的を明確にしたインタビューの仕方についても学習する機会とする。
・緊急の場合は携帯で連絡を取る。（担当：　－　－　）

8　交通手段・経費
・バス１台を借り上げ，担当　・　が同乗する。※附属校園から　場所　までの往復
＜集金額＞　借り上げバス代　，　円。（　，　円÷　名　一人あたり　円）
※中学生は，当日の朝，名前を書いた古封筒に　円を入れて，　担当　に提出する。
※小学生は，担当からの指示に従う。

（外部指導者宛）

Fax 送信票

送付枚数（このページを含めて）1 枚

送信先　役職　　氏名　　様

発信元　〒940-8530　新潟県長岡市学校町１－１－１
新潟大学教育学部附属長岡中学校
℡　０２５８－３２－４１９０
Fax　０２５８－３２－６３４０
担当　氏名

〈件名・連絡〉

お世話になっております。附属長岡中学校　担当　です。小学５年生と中学１年生を担当しています。

この子どもたちの中には公立の小学校から入学してきた子も多く，「社会創造科」という授業を始めて間もない状況です。このような子供たちが，今回，貴台からのお話を聞くことにより，「　　」に関する問題点を把握させていただきたいと考えました。その問題点について，この子どもたちなりに，改善策を考えて貴台に提案させていただくという学習を構想しました。またその際は，現実の厳しさを教えていただければ，と考えます。

そして，この子どもたちが２，３年生になった時には，現実に通用する提案を作ることができる力を身に着けさせたいと考えております。お忙しい中とは存じますが，お力をお貸しください。

現段階で出ている子どもたちからの質問をお送りいたします。　月　　日にご講話いただく内容に入れていただけると幸いであります。よろしくお願いします。

＜質問事項＞
①
②
③
④
⑤
⑥

（礼状）

平成２５年２月２４日

様

社会創造科におけるご協力のお礼

新潟大学教育学部附属長岡中学校
校　長　○　○　○　○
新潟大学教育学部附属長岡小学校
校　長　○　○　○　○

春寒の候，貴台におかれましては，益々ご健勝のことと拝察いたします。今年度は，本校生徒の学習にご協力いただき，ありがとうございした。

本校では「持続可能な社会を創り上げる」というテーマの下，新設教科「社会創造科」の授業を実施しています。

今回の学習は，実際に地域の問題にかかわり，その解決にご尽力されている方とともに活動をすることで，よりよい長岡地域を考えるというものでした。お陰様で，実りある学びの場をもつことができました。お仕事の合間を縫っての丁寧なご対応に重ねてお礼申し上げます。生徒が実社会の中で活動をすることに伴い，何かとご迷惑をおかけしたのではないかと思います。不行き届きの点等ありましたら，ご意見，ご連絡をお願いします。

今後とも，ご協力をお願いすることがあるかと存じますが，その際はよろしくお願い申し上げます。

末筆になりましたが，皆様のご健康とご発展を祈念しております。

（担当）新潟大学教育学部附属長岡中学校
３学年職員　○○　○○
〒940-8530　長岡市学校町１－１－１
Tel.0258-32-4190　Fax.0258-32-6340
E-Mail □□□□@nagaoka.ed.niigata-u.ac.jp

（アンケート依頼状：外部指導者）

平成２５年２月２４日

様

社会創造科アンケートのお願い

新潟大学教育学部附属長岡中学校
校　長　○　○　○　○
新潟大学教育学部附属長岡小学校
校　長　○　○　○　○

この度は，ご多用の中，ご都合をつけていただき，附属長岡中学校の社会創造科の学習に多大なるご協力をいただき，誠にありがとうございます。

今回，御指導いただいた内容を今後の学習活動に生かすために，御意見を頂戴できればと考えております。

恐縮ではございますが，可能な範囲で記入いただき，同封した封筒にて，御返送いただければ幸いです。

（担当）新潟大学教育学部附属長岡中学校
３学年職員　○○　○○
〒940-8530　長岡市学校町１－１－１
Tel.0258-32-4190　Fax.0258-32-6340
E-Mail □□□□@nagaoka.ed.niigata-u.ac.jp

社会創造科アンケート

お名前〔　　〕

1　社会創造科の学習

(1) ご協力いただいた社会創造科の学習活動を，以下の４段階で評価し，数字に○をつけてください。

4 とてもあてはまる　3 あてはまる　2 あまりあてはまらない　1 あてはまらない

① よりよい地域づくり(活性化や人材育成，問題解決)のために社会創造科の学習は期待できる。

4　　3　　2　　1

②　児童，生徒とともに活動することに価値を感じた。

4　　3　　2　　1

(2) 社会創造科では，地域の皆様から教えていただくだけでなく，児童，生徒が地域の皆様に協力させていただいたり，共に活動したりするような，学校と地域がお互いにプラスになる関係を目指しています。

今回の活動を通して，皆様にお役に立てたこと（メリット）がございましたら，お書きください。

（新たな発見・気づきがあった。視点・アイディアを得た。また，それを採用・実践していただいた。子どもたちの考えの一部や着眼を，今後も生かしていただける見込みである。…）

ご協力いただいた社会創造科の学習活動が，報道機関等に取り上げられたり，皆様がチラシやパンフレット等へ記載したりしたことがありましたら，お聞かせください。

2　児童，生徒とのかかわり方，学習活動の方法

今回の社会創造科へご協力いただいた方法について，ご意見，ご要望をお聞かせください。 今後の参考にさせていただきます。(活動の日時，担当教師との連絡・調整，予算面など)

3　今後について

今後の活動についてお聞かせください。ア～ウに当てはまるものに○をつけてください。

ア 来年度も，今年度と同じように児童，生徒との活動にご協力いただける。

イ 来年度も協力できるが，かかわり方等，改善の要望がある。

ウ 次年度は，検討したい。

4　研究紀要等への掲載

社会創造科は，文部科学省より研究開発指定を受け，研究の成果等について，広く発信しております。つきまして，お名前（会社名，団体名），児童，生徒が皆様とかかわらせていただいている様子（文章や写真）を，本校の出版物に掲載させていただくことは可能でしょうか。例として「社会創造科パンフレット」をご覧ください。

ア 掲載を許可する。

イ 条件付きで，許可する。(条件：　　)

ウ 掲載を断る。

以上で終わりです。ありがとうございました。

（アンケート依頼状：保護者）

平成２６年２月２４日

保護者の皆様

新潟大学教育学部附属長岡中学校
校　長　　○　○　○　○

社会創造科への協力についてのお礼とアンケートのお願い

春寒の候，保護者の皆様におかれましては，ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて，本校では文部科学省より指定を受け，「持続可能な社会を創り上げる」というテーマの下，新設教科「社会創造科」の授業を実施しております。

「社会創造科」では，これからの社会を持続可能な社会へと創り変える力を育むことを目標に，地域の人と深くかかわりながら，実際に地域の問題解決に取り組む活動をいたします。生徒の活躍は，多くの報道機関にも取り上げられ，県内外からも注目されています。また，先日の３年生の卒業論文発表会では，充実したこれまでの「社会創造科」の活動を根拠に，これからの社会を自分の力で創っていこうという強い意気込みが語られました。このような学びは，保護者の皆様のご理解とご協力があったからこそ実現することができたと考えております。誠にありがとうございました。

文部科学省の研究指定は残り２年です。「社会創造科」の一層の充実に向けて，研究を進めていきたいと考えております。つきましては，保護者の皆様にも下記の方法で裏面のアンケートにご回答いただきたいと存じます。お子さんがご家庭で語る「社会創造科」の学習の様子や，学習を通したお子さんの変化など，お聞かせいただきたいと考えます。ご協力をお願い申し上げます。

記

１　記入方法

(1) 回答の内容により，研究出版物への掲載等，個々に対応させていただく場合もありますので，氏名のご記入をお願いします。

(2) 項目　～　については，お子さんについて４段階で評価し，記入してください。
(3) 項目　～　については，「社会創造科」の学習について４段階で評価し，記入してください。
(4) 全体に関わることでお気付きの点等がある場合は，「ご意見・感想等」の欄にご記入ください。
※「社会創造科」による効果・影響等について，具体的にお書きいただけると大変参考になります。

２　提出方法

保護者様の氏名をご記入のうえ古封筒等に入れ，３月 4 日(火)までに学級担任にお届けください。

３　アンケートの活用について

アンケートの結果は，研究データといたします。また，よいものについては，学校だより等で紹介します。その際は，氏名の公表は致しません。

社会創造科アンケート

〔　〕年〔　〕組　生徒氏名〔　　〕

１　それぞれの質問について以下の４段階で評価し，数字に○をつけてください。

4　とてもあてはまる　3　あてはまる　2　あまりあてはまらない　1　あてはまらない

①「社会創造科」の，「地域に出て，異なる年齢の人や，様々な立場の人と深くかかわる学習」は，お子さんの成長の場となった。

4	3	2	1

② 「社会創造科」の，「現実の地域の問題に目を向け，その解決に向けて実際に取り組む学習」は，お子さんの成長の場となった。

4	3	2	1

③ 「社会創造科」は，お子さんが，地域・社会への関心を高めたり，地域・社会の一員としての責任感を強めたりすることにつながっている。

4	3	2	1

④ 「社会創造科」は，お子さんが，自ら目標をより高く設定したり，自分を振り返りながら自己を高めようとしたりすることにつながっている。

4	3	2	1

⑤ 「社会創造科」は，お子さんが，仲間とよりよい人間関係を築いたり，他者と協力したりする力をはぐくむことにつながっている。

4	3	2	1

⑥ 「社会創造科」は，幅広い視野で物事をとらえたり，複数の考え方で解決を試みたりする力をはぐくむことにつながっている。

4	3	2	1

２　「社会創造科」をとおしたお子さんの変容など，お気づきのことがあればお聞かせください。

平成 26 年度版
（150906　一部修正）

社会創造科ハンドブック
校外活動マニュアル

生徒用

年　　組　　番　氏名〔　　〕

社会創造科校外活動マニュアル

１　活動計画

（１）交通手段及び費用

・交通手段は，基本的に，徒歩及び公共交通機関を原則とする。
・公共交通機関にかかる費用は原則として自己負担とする。
　ただし，テーマ全体で動くような場合は，一部学校が負担することもある。

（２）活動の始めと終わり方

・活動の始まりと終了（解散）は学校で行う。（原則的にテーマの活動場所とする。）
　ただし，登下校の関係（電車やバス時間等）でやむを得ず別の場所での始まりや終了（解散）になることもある。その際は，必ず先生に報告し，確認，許可を得ること。

（３）活動計画の配付

・活動（引率）計画を保護者に渡す。
　※少なくとも，活動日の一週間前には，配付が完了していること。
　※活動場所，時間，内容，費用を必ず伝えること。

２　訪問先について

（１）アポイントメントの取り方

・通常，２週間前までにアポイントメント（予約）を終える。
　※それまでに訪問先の電話番号・訪問目的・具体的な活動内容・質問等を準備する必要がある。
・知性と品位のある応対でアポイントメントをとること。
　ハンドブック「アポイントメントの取り方」参照。

（２）質問状と礼状

・依頼をする際に，事前に質問状などを添えると，校外活動が充実する。
・授業の時間を活動時間として確保するために，質問状と礼状は，予習・復習として準備できるとよい。
　ハンドブック「礼状の書き方」参照。

（３）訪問先（企業等）について

・企業活動の合間を縫って学習に協力してもらっている。「附属中学校に協力できてよかった」と思ってもらえるような活動を目指すこと。
・訪問先では，「附属校園の代表」として活動しているという自覚をもち，「知性と品位」のある行動を心がけること。（「笑顔」「あいさつ」「返事」，「学びの充実３カ条」）
・アンケートは，特に計画的に行うこと。（安易にアンケートを計画しないこと。）
　○路上アンケートは，管轄する警察署の許可が必要。許可が下りるまで時間がかかるので，計画的に進めること。
　○企業の敷地内でのアンケートは，管理者，責任者と相談が必要である。
　○校内でのアンケートは，授業時間，朝会・終会等，時間の確認が必要。担任，担当の先生と相談すること。

３　活動当日の動き

（１）服装

・活動中は，制服を基本とする。訪問先に事前に確認し，体操着のほうが望ましい場合はそのようにすること。

（２）持ち物

・社創ファイル，筆記用具，交通費（必要な場合)。
※１日活動日には，水筒，昼食等。
・原則として携帯電話を所持しない。
ハンドブック「緊急対応マニュアル」参照。

（３）昼食

・訪問先に場所，時間等を確認してとること。活動中に購入したり飲食したりしないこと。

４　緊急時の対応

ハンドブック「緊急対応マニュアル」参照。

電話でのアポイントメント

地域の人との活動には，事前に電話であいさつをしたり，活動の予約（アポイントメント）をとったりすることが必要です。

電話を受けた地域の人は，仕事の手を止めて，対応してくださっています。事前準備を確実にし，失礼のないようにしましょう。また，こちらの予定通りに話合いがすすむとは限りません。こちらが電話対応可能となる休み時間や放課後の見通しや，担当の先生の指導を仰ぐタイミングを考え，適切に応答をしましょう。(他の教科等の授業中の電話の折り返しや，活動日以外の訪問・来校など，できない約束をしないこと。)

また，社会創造科は授業です。学校として，①事前に担当の先生から一報入れること。②遅くとも活動の２週間前には連絡を済ませること。は必須です。計画的に，追究を進めましょう。

アポイントメントをとる電話をする前の確認事項（電話の構成メモ）

①ねらい（何をお願いする電話なのか。）

②依頼する相手（電話口にお願いする方。）

③内容（お願いする内容。案でよいので，箇条書き等で例示すること。）

④日時・場所（いつ・どこで，お願いする内容に協力してもらいたいか。）

⑤電話番号

＊必要な事項を口に書き出そう。実際に電話する前に担当の先生の指導を受けること。

アポイントメントの電話までの流れ（以下の方法を基本とする）

① 訪問先の吟味（担当の先生と実際に可能な活動内容・安全面・交通手段等の視点で相談。）
② （担当の先生が，事前に，学校として依頼。）
③ アポイントメントの構想を，担当の先生に提出し，アポイントメントの電話許可を得る。
④ アポイントメントの電話。先方より正式な許可。→訪問可能。活動開始！

アポイントメントの電話 ☑ 口担当の先生から事前連絡 口遅くても２週間前にアポ

○ 明るく元気な声で。最初の第一声がとても大事！
○ ゆっくり。事前準備したメモをただ読むだけではなく，電話先の相手の理解を確認しながら。
○ メモと筆記用具の準備。

アポイントメントの電話でのメモ		
1	日時 到着時間，出発時間，活動可能時間等	
2	場所 現地についたらどこを訪ねればいいか	
3	担当者 役職，お名前，緊急連絡先	
4	服装・持ち物・必要な準備	
5	内容 自分たちの計画のうち， 何をさせていただけることで合意したか	
6	その他注意点 担当の先生に伝えておくことはないか	

アポイントメントの電話の例

「新潟大学教育学部附属長岡中（小）学校の，〇年〇組の〇〇と申します。」 「私たちは，社会創造科という授業をしています。これは，持続可能な地域や社会づくりを目指す学習です。その学習活動の協力についてのお願いですが，責任者の方をお願いします。」	明るい声で，元気よく。 ゆっくり話す。 先方は初めて聞く話です。
①都合が悪い場合は，相手の都合のよい時間を聞く。 「いつ頃，ご都合がよろしいですか。」 ②それでも授業中などかけ直せない場合もあるので， 「すみません。授業中であるので，〇時〇分頃は大丈夫でしょうか。」 ③それでも都合がつかない場合は，一度電話を切り，先生に相談する。 「それでは，先生に相談いたします。一度ここで失礼させていただきます。お忙しい中，ありがとうございました。」	「お願いしている」ということを忘れずに，できる限り先方の都合に合わせましょう。 折り返しかけることが可能な時間は，必ず確認して。
責任者の方との打ち合わせ。 「今お時間大丈夫でしょうか？」 「〇月〇日に，そちらに，男子何人女子何人，何時から何時までの間で，〇〇（活動内容）させていただきたいのですが，ご都合はいかがでしょうか？」	訪問先での活動を具体的にそして簡潔に伝える。 〔台詞の準備！〕 ゆっくり話す。
「何か訪問にあたって注意点はございますか」	不足がないか，確認。
アポイントメントが終了したら， 「お忙しい中，ありがとうございました。当日はよろしくお願いします。では，失礼します。」	喜びを感じ，さわやかに応答し，静かに電話を切ります。

＊電話終了後，担当の先生に報告し，当日までの準備について指導を受けること。

訪問・体験/ToDo リスト

会創造科は，地域に出て，地域の人と深くかかわりながら追究をすすめることが，最大の特徴です。「感謝の気持ち」「附属長岡校園の代表としての『知性と品位』」が欠かせません。そしてそれは，「充実した学び」よって証明されます。

的意識をもって訪問・体験し，自分の考えをより高めましょう。

訪問・体験の基本的な流れ（構想メモ）

内容	注意点
・集合，整列 場所 隊形 ・あいさつ ねらい ・注意点（荷物を置く場所，動き，昼食場所，集合場所，立ち入り禁止区域等）の確認	・安全なところに集合，整列をする。 ・「自分の場所に」「座って」待つ。 ・リーダーは代表の方を探し，あいさつを受けていただくようお願いをする。 ・脱帽，荷物を置く。 ・リーダーは，ねらいを端的に述べる。 ・後に続いて全員で。 ・自分の動きが分からなければ，訪ねて確認をする。
ToDo リスト	・自分の追究を深めるために，現地での自分の行動・調査すべきことを事前に明らかにしておく。 例：～を見てくる。 ～を触ってくる。 ～を集めてくる。 ～を聞いてくる。 ・自分の疑問を明らかにしておき，代表質問者の質問が終わった後や，回答に不足を感じた時に，すぐに挙手する **受け身ではなく，学び取る姿勢で！**
・集合，整列 場所 隊形 ・感謝の言葉 ・あいさつ	・時間厳守で集合する。 ☆活動終了後，どこでどうすればいいのか，あらかじめ確認しておく。 ・リーダーは，学びを端的に述べる。数名が感想を述べてもよい。 ☆ねらいに対応したものを。 ・退出時，お別れ時は，「ありがとうございました」等すすんであいさつをする。

＊訪問・体験前に，当日の動き・やることを見通し，有意義な活動にしよう。

名刺

地域の人とのかかわりでは，名刺をいただくことがあります。正しい受け渡しをマスターしましょう。

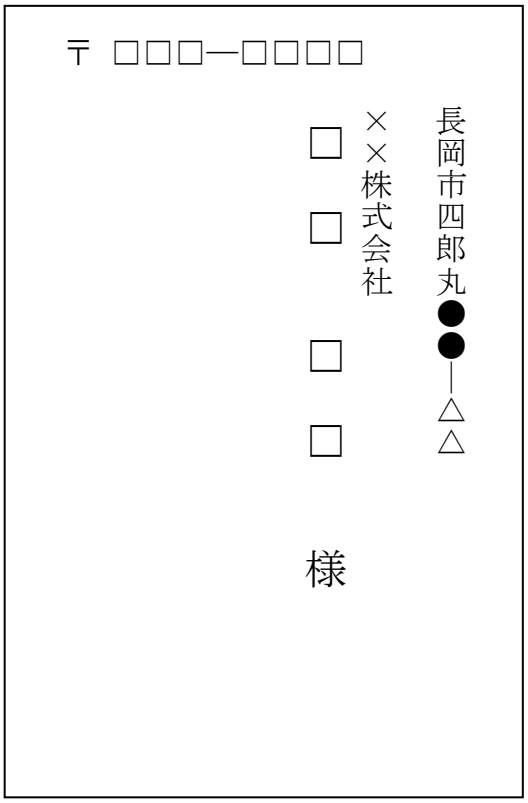
1　**自分から先に名乗り，挨拶をする。**
　マナーとしては訪問した方から先に差し出すのが原則。
2　**必ず立って名刺交換する。**
　テーブルを挟んで渡すのはマナー違反，必ずテーブルの横に出る。
3　**他の人が名刺交換をしている間は立っている。**
4　**相手に読める向きに差し出す。**
　原則は両手で渡して両手で受け取る。
5　**相手から受け取った後は，右手を添え，およそ目の高さまで軽く持ち上げ押し頂く姿勢を示す。**
　「ちょうだいします。」と言って受け取る。

〈　受け取り後　〉

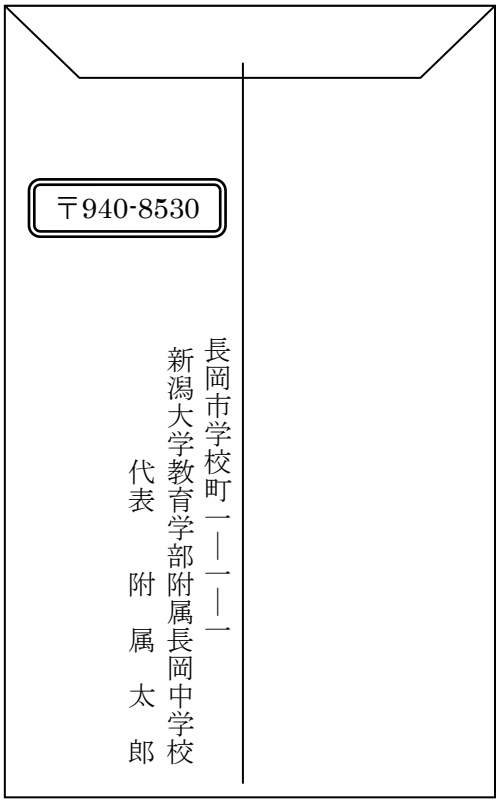
6　**名刺を受け取ったらよく目を通す。**
　読めない字は，その場で名前を復唱して確認する。後ほどメモをしておく。
☆　**相手の前で，折ったり，書き込んだりしない。**

封筒（宛名）

表



裏



校外での活動

社会創造科の時間では，校外で活動することが多くあります。地域の人と，担当の先生と綿密に打ち合わせ，充実した校外活動にしましょう。

①事前に

□地域の人とのアポイントメント完了後，担当の先生に報告し，「校外活動計画・報告用紙」を受け取る。
□グループで作成し，担当の先生に提出する。
□担当の先生の指導を仰ぎ，グループメンバーが２枚ずつもらえるようコピーしてもらう。
□各自，１枚は自分の社創ファイルに綴じ，もう１枚は保護者に渡し，活動内容を伝える。
☆グループ全員が，活動の前日帰宅するまでに，２枚ずつ受け取っていなければならない。

②出発

Ａ社会創造科の授業中に出発する場合

□グループで集合し，持ち物等の最終確認をする。
□グループメンバー全員で，担当の先生に出発確認を受け，緊急連絡用小銭を受け取り，出発する。

Ｂ昼休みに出発する場合

□図書室前にグループで集合し，持ち物等の最終確認をする。
□グループメンバー全員で，出発担当の先生に確認を受け，緊急連絡用小銭を受け取り，出発する。

③活動

・学校生活のきまりに準ずる。
・緊急時は，緊急対応マニュアルに従う。

④帰着

Ａ社会創造科の授業中に帰着した場合

□グループメンバー全員で，担当の先生に帰着報告をし，緊急連絡用小銭を返却する。
□「校外活動計画・報告用紙」を記入し，担当の先生に提出する。

Ｂ社会創造科の授業中に帰着できなかった場合

□グループメンバー全員で，教務室に帰着報告をし，緊急連絡用小銭を渡す。自分の貴重品を受け取る。
□グループリーダーは，担当の先生を探し，帰着報告をする。
□「校外活動計画・報告用紙」は宿題として作成し，翌日，担当の先生に提出する。

社会創造科　第５ステージ

様式１

校外活動計画・報告用紙

記入者　　年　　組　　番　名前

【出発前に記入】

・担当の先生のチェックを受け，ＯＫをもらう。
　担当の先生はコピーを班員数×２＋２とり，生徒に２部ずつ配付。
　生徒は自分用（活動時持参・活動後記入提出）と，持ち帰って保護者に説明・家庭掲示用とする。
　＋２のコピーは，担当の先生が１枚所持，教務室黒板に１枚掲示とする。

□ 日時	月　　日（　）
□ グループメンバー ※氏名（クラス）を書く	
□ 訪問（活動）場所	
□ 活動時間	現地着　　：　　～　　：　　まで
□ 交通手段	費用　　円
□ 出発，帰着時間	学校発　　：　　～　　：　　着予定
□ 活動予定内容	

【活動後に記入】

・完全退校時間までに記入ができる場合は記入し，担当の先生に提出をする。
　担当の先生は，確認，評価後，本人に返却とする。

□ 活動内容報告 □ 次回の活動予定 □ 次回までにやっておかなければならないこと	≪訪問先の連絡先≫ 住所 電話番号　　－　　－ 担当者　　さん 担当教諭

来校者の接遇

社会創造科の時間では，複数のグループが来校者をお招きすることがあります。担当の先生と相談の上，自分たちで接遇をし，失礼のないように対応しましょう。

①事前に

□担当の先生と相談し，「講師・外部指導者・協力者招致用紙」を提出する。
□予定時間の５分前に，玄関で待つ。
□スリッパを用意する。
□ウェルカムボードが出ているか確認し，無ければ教務主任の先生にお願いする。

②到着されたら

Ａそのまま活動場所に移動する場合

□教務室に立ち寄り，「○○様に来ていただきました。□□で活動します。」と報告する。
※「講師・外部指導者・協力者招致用紙」が提出されていれば，教務室では了解しているはずです。
□活動場所にお連れする

Ｂ校長室で控えていただく場合

□校長室にお連れする。「○○様に来ていただきました。よろしくお願いします。」と紹介する。
※「講師・外部指導者・協力者招致用紙」に「控室必要」とチェックされていれば，副校長先生，教頭先生が対応していただけるはずです。
□担当の先生に報告に行く。
□お茶を出す。
□時間を見て，活動場所にお連れする。

③お帰りは

□玄関までお送りする。
□お礼の言葉を述べる。今後どうすればいいか，次時の予約を確認する。
□スリッパを片付ける。
□ウェルカムボードを片付ける。（機会を見て，教務主任の先生にお礼と片付けた旨を伝える。）
□教務室に寄り，お帰りになったことを伝え，対応していただいた先生（副校長先生）にお礼を述べる。
※今回の活動で，「何を学んだのか・得たのか」「今後どうなっていくのか」簡潔に述べられるように，考えをまとめておこう。
□担当の先生に報告する。

社会創造科　第５ステージ

様式２

講師・外部指導者・協力者招致用紙

記入者　　年　　組　　番　名前　　，

【出発前に記入】

・担当の先生のチェックを受け，ＯＫをもらう。
担当の先生はコピーを班員＋２とり，生徒に配付。生徒は自分用（活動時持参・活動後記入提出）とする。
＋２のコピーは，担当の先生が１枚所持，教務室黒板に１枚掲示とする。

□ 日時

月　　日（　）

□ 来校者（役職）

□ 対象
（グループメンバー）

□ 活動場所
（要確認・調整）

□ 時間

□ 活動予定内容

□ 交通費

□ 受け取る方　→□新規：振込登録用紙　必要
□二度目以降：振込登録用紙　不要
□ 受け取らない方

【活動前に記入】

□ 何について知りたいか

□ 自分の活動に関わる質問

≪来校者の連絡先≫

テーマ「　　」
担当教諭

礼状

お招きして講話をいただいたり，問先させていただいたりした場合，礼状を書かなければなりません。
相手の方は，本来のお仕事を中断し，私たちに時間を割いて，対応をしてくださっています。
感謝の意を，私たちにどのような学びがあったのか，をしっかり示すことで伝えましょう。
相手の方に「附属小・中学生と関わってよかった」という感情をもっていただくことを目指し，私たちの後輩に，社会創造科の学びが引き継ぐ（チャンスをつぶさない）よう，丁寧に，確実に行いましょう。

礼状の基本的な構成（構想メモ）

①相手先の役職・お名前（失礼がないよう，漢字も含めて確認をすること。）

⇩

②相手の方を気づかう文。お礼の文。

⇩

③目的：どんなねらいで講話をいただいたり，訪問させていただいたりしたのか。端的に。

⇩

④活動：何をさせてもらったのか。 ※聞いた（インタビューした・質問した），見た，触った。これも活動です。

⇩

⑤ 学び：できたこと，分かったこと。※とらえた相手の方の思いや願い，工夫点や着目点，特徴など。

⇩

⑥今後：学んだことをどのように生かしていくのか。端的に。

⇩

⑦相手の方の今後のご活躍をお祈りする文。お礼の文。

＊グループで考えたり，分担したりして，礼状に必要な内容を口に書き出そう。
できあがったら，担当の先生の点検を受けること。

礼状の例

心に残ったことを具体的に。
親切にしていただいたことは，必ず記す。

季節の言葉。一言でよい。

①○○課○○様

②夏の暑さが厳しくなってきました。例○○様におかれましては，いかがお過ごしでしょうか。

例先日は，お忙しい中，訪問させていただき大変ありがとうございました。

③例この度は，○○について詳しく調査するために，実際に見学をさせていただきました。

④学校では見ることができない，○○を見せていただいたり，□□を操作させていただいたりしました。なかなかうまくできなかったけれど，こんなふうに○○はできあがっているのか，と驚きました。ありがとうございました。

⑤お聞きした○○についての話では，○○様が，「○○」ということをとても大切にされていることが分かりました。また，取り組まれているイベント『○○』は，○○という考えに基づいていること，また実施にあたっては，○○という工夫がされていることが分かりました。

私たちがさせていただいた活動『○○』は，○○というトラブルがありましたが，「○○」とアドバイスしていただいたり，○○を助けていただいたりして，なんとかやり遂げることができました。ありがとうございました。

⑥今後，私たちは，『○○』というテーマで，○○しようと考えています。その時，今回学んだ○○を○○のように生かしていきたいと考えます。

⑦例○○様におかれましては，今後とも，変わらぬご活躍をされることをお祈り申し上げます。

この度は，本当にありがとうございました。

附属長岡○学校　　附属太郎
附属花子
平成　年　月　日

ねらい

今後について

＊できあがったら，担当の先生に提出すること。

相手の方にとって「普通」のことでも，私たちにとって「驚き」「価値あること」である場合があります。それを相手の方に伝えることも，礼状のよさ，意味でもあります。「もらってうれしい礼状」を目指そう！

季節のあいさつの例

１月	寒さが厳しい日が続きますが，　例年にない寒さですが，　雪が降り続いていますが，
２月	降り積もった雪が高くなりましたが，　まだ大雪が続いていますが，　暦の上では春ですが，
３月	寒さもゆるんできましたが，　雪が溶け始めてきましたが，　つぼみがふくらむ頃ですが，
４月	桜の季節になりましたが，　中学校では入学式を行いましたが，　春も半ばとなりましたが，
５月	緑が濃くなりましたが，　こいのぼりの頃となりましたが，　初夏の季節となりましたが，
６月	梅雨が続いていますが，　長かった梅雨もようやく終わり，　暑くなってきましたが，
７月	夏になりましたが，　夏祭りが近づいてきましたが，　蝉の声が一段と大きくなりましたが，
８月	残暑厳しいですが，　まだまだ暑い日が続きますが，　秋の虫の声が聞こえてきましたが，
９月	初秋の頃となりましたが，　秋の色濃くなりましたが，　秋の気配が次第に濃くなりますが，
１０月	実りの秋となりましたが，　秋の夜長の頃となりましたが，　紅葉の季節となりましたが，
１１月	落ち葉がさみしくなりましたが，　吐く息も白くなってきましたが，　寒さが続きますが，
１２月	雪がちらつく季節となりましたが，　今年も終わりが近づいてきましたが，　年末ですが，

※あくまで例であり，自分の言い方で，相手を気づかう言葉を考え，あいさつ文にするのがよい。

「社会創造科」先輩の実践例

拝啓

近頃、寒い日が続きます。山田さんにおかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

先日は、遠いところわざわざ学校にお越しいただき、ありがとうございました。これまでの活動の振り返りもでき、また、アイスについても、話すことができて、良い機会となりました。

これまでの活動では、話し合いを重ね、アイスを長岡市内のお店に置くことを目標としてきました。その過程では、お店探しから始まりました。初めは、不安で一杯でしたが、だんだん慣れていけたと思います。企業に電話をしたり、直接行ってお話したりと、初めての体験がたくさんありました。中でも、ウオロクさんで売り子をしたことは、とても心に残っています。

この社会創造科で、会社・企業を選択し、第一食品さんと活動したことで、感じたことはたくさんありました。特に、私達が思っていたよりも、会社や企業はとても忙しくて、大変なのだということです。常に、時間におわれて、仕事をしているのだとわかりました。私達は、計画通りに進まなくて、甘い部分がダメだったです。ご迷惑をかけてしまいました。それでも、それをかばうようにして対応してくださり、大人の対応のすごさを感じました。

これからは、ここで学習したことを生かして、3年生にも引き続き、頑張っていきたいと思います。

11月にでる、メープル＆クルミの新贅沢最中を食べるのを楽しみにしています。私達はこれで終わりになってしまいますが、ウオロクさんの他店舗でも置いていただけるようにしてくださるということなので、それも楽しみにしています。

約半年という長い間、一緒に活動してくださって、本当にありがとうございました。これからも、贅沢最中を応援しています。

敬具

第一食品　山田様

附属長岡中学校

自分たちの名前

お礼カード

グループや，テーマ全体で講話をいただいたり，問先させていただいたりした場合，代表が礼状を書くことがあります。しかし，対応していただいた地域の人は，全体に対して講話をしてくださったり，訪問を受け入れてくださったりしたのです。一人一人にとってどのような学びがあったのか，お礼カードとして伝えましょう。
自分にとってどのような変容があったのか，気づきがあったのか，自分なりの感覚を素直に伝えることが，大量に渡されるお礼カードの質的な価値になります。
全員分集まらないと，発送が遅れます。迅速に行いましょう。

お礼カードの基本的な構成（構想メモ）

①事前（希望・期待，目的意識，イメージや先入観など）

②活動の感想（発見・気づき・驚き，学び・考えの変化，感謝・感激など）

③今後（今後の追究にどう生かしていくか，お礼など）

＊できあがったら，担当の先生の点検を受けること。

お礼カードの例

自分なりの視点を大切に。
事実を具体的に。

○○様

先日は，訪問させていただきありがとうございました。

①私は，長岡での追究で，○○という疑問をもっていました。これについて，こちらでは□□というふうにすすめていらっしゃいました。とても驚き…。

②今回の訪問で一番の驚きは，△△ということで…。

普段の学校では体験することができない○○は，とても貴重なものとなりました。

お忙しい中，□□のようにしていただき，本当にありがとうございました。

③私は，これから，長岡での社会創造科の授業で，○○していきたいと考えています。

本当に，ありがとうございました。

附属長岡中学校　長岡次郎

アンケート

追究が進むと，市場調査や，幅広く考えを得るため，アンケートを採る必要が生じることがあります。ただし，手続きや集計・分析等，多くの時間がかかり，追究計画に適切に位置づけなければなりません。また，デメリットもあります。地域の方から依頼された場合を除き，内容（文面），対象，方法等，担当の先生の指導を仰ぎながらすすめましょう。

【メリット】

・複数の人に対して同じ質問をすることにより，比較できる意見を集めることができる。

・回答を定型化することで，意見を明確化することができる。

【デメリット】

・「どう思うか」などの漠然とした状態でのアンケートは，分析が難しい。（「何を明らかにしたかったのか」を明らかにして実施すること。）

・作成，集計，分析に時間がかかり，社創の活動時間の多くを割いてしまう。（アンケートを実施する場合は，追究計画に適切に位置づけること。）

アンケートを実施する際の確認事項（活動の構成メモ）

①ねらい（はっきりさせたいこと）

②追究計画の位置づけ（結果をどのように生かすのか）

③内容（案でよいので，箇条書き等で例示すること）

④対象・方法（誰に，いつ・どのような方法で実施するのか）

⑤必要な準備（物品，依頼，許可等）

＊必要な事項を口に書き出そう。アンケート用紙作成前に担当の先生の指導を受けること。

アンケート作成上の確認事項

・冒頭の説明は丁寧に書かれているか。
（「お願い」する立場で，アンケートの意図が簡潔に述べられているか）
・質問項目は妥当か
・スムースに回答できるか。回答の記述欄は適正か。
・分かりやすい文，文言か。
・気持ちよく記入できるか。
・必要十分，過不足ないか。
・必要時間は見通されている文量であるか。

アンケート対象（以下のように対象を広げていくことを基本とする）

① **自分の周り**

⇩ それでも足りなかったら

② **自分のクラス**

増えれば増えるほど，集計は大変。
忙しい活動に錯覚し，満足してしまって，
その後の整理・分析が甘くならないよう，
ねらいを確認，項目を厳選すること。

⇩ データが足りない，異年齢のデータがほしい

③ **自分の学年　or　各学年１クラスずつ**

全校配付，全家庭配付はおおごとです。最低１週間前に相談をすること。

⇩ 先方から依頼された等，どうしても必要な場合

④ **全校や各家庭**

各クラスでのアンケートの実際（以下の方法を基本とする）

・朝会，終会の連絡の時間に，自分でクラスへ依頼する。
・原則として朝会，終会中に記入の時間をとることはできない。
・回収は，自クラスの場合は自分とする。他クラスの場合は友人に依頼したり，回収 BOX を設けてもらったり（担任の先生の許可必要）することも認める。

各クラスでのアンケート実施までの流れ（以下の方法を基本とする）

① テーマ担当の先生から指導を仰ぐ。（実施に必要性，追究計画の位置づけ，下書き添削等）
② （テーマ担当の先生から，学級担任の先生に依頼。）
③ アンケート配付の依頼を，実施するクラスの担任の先生に申し出て，許可を得る。
※アンケートのねらい，項目の具体を説明すること。実施日が後日になることもある。
④ テーマ担当の先生から，アンケート清書を最終チェックしてもらい，印刷する。
⑤ 対象の学級担任の先生から許可いただいた時間に，自分で対象クラスに依頼をする。
※朝会・終会を抜ける場合は，自分の学級担任の先生に断ってから抜けること。

グループ交流発表会

それぞれの追究を交流すると，新しい情報を得ることができたり，比較して考えることで共通点や相違点を見出したりすることができます。新たな考えを創り出すためには有効なチャンスです。そのためには，自分の発見や気づき・考えを端的に発信したり，仲間の発表を自分に取り入れる視点で聞いたりすることが重要です。

グループでの交流発表を上手に行い，自分の考えを高めましょう。

グループ発表交流の基本的な構成（構想メモ）

時間	内容	数	各時間
	・あいさつ ・ねらいの確認 ・見通しの説明		
	1　個人の考えをもつ ・何について，どの視点から考えをもたせるのか，はっきりさせる。 ⇒発表会のねらい，目的から導く。 ・グループでの交流形態を示し，どれくらいの情報量（具体性）で考えを述べるのか，はっきりさせる。		
	2　グループでの考えをもつ ・各個人の考えを聞き合う時間を確保する。 ・出し合った個人の考えを整理する。 ア，多くの考えに共通することをキーワードとして挙げる。 イ，考えをグループ分けし，上位概念でくくる。（タイトルをつける） ウ，優先順位，重要度で並べ，ナンバリングする。 ・グループでよく考える。 ア，比較する。（共通点＝普遍性 相違点＝特殊性・個性を明らかにする。） イ，組み合わせ，応用する。（合わせたり，何かに転用したりする。） エ，試行錯誤する。（他の可能性が無いか，十分に検討する。） ウ，新たな考えを創る。（根拠を明らかにした，仮説をつくる。） ・全体での交流形態を示し，どれくらいの情報量（具体性）で，何を述べるのか，はっきりさせる。	人	
	3　各グループからの発表 ・各グループの考えを聞き合う時間を確保する。 ・出し合った考えを記録する方法を示す。 ⇒ホワイトボードを用いる，ワークシートにメモする等。	班	
	4　全体での整理と確認 ・ねらいを踏まえ，グループからの発表を総括し，価値づける。 ⇒各グループの発表を一般化し，全体としての知見を導く。		
	・ねらいの達成の確認（評価） ・担当の先生からの話 ・あいさつ		

＊ねらい，参加する人数・班，時間から，構成を考え，担当の先生に指導を仰ごう。

発表資料（模造紙）の作成

実践を効果的に発信するために，模造紙で資料を作成しましょう。「模造紙の作成」が目的ではなく，「効果的な発信」のための「補助資料」の作成が目的です。
効果的，「使える」資料を作成し，上手に発信をしましょう。

発表資料の材料（構想メモ）

①ねらい（何が求められているのか。発表会のねらい，発表対象など。）

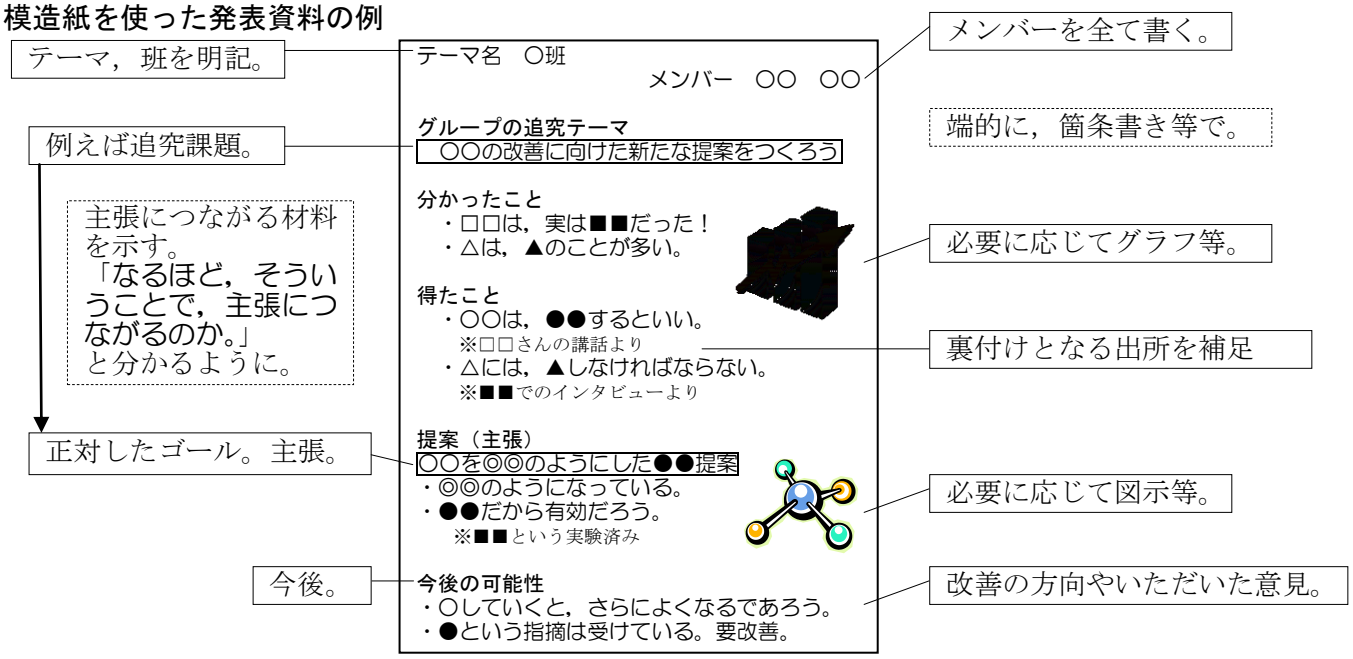
②主張（ねらいを受けて，自分たちの追究から主張できること。ゴール。最も伝えたいこと。）

③内容（主張の裏付けとなる事実。図示や例示，表等，説明時に必要となることがら。）

④模造紙で示さないが，準備が必要なもの（細かいデータや，その時の様子等，口頭で説明するもの。）

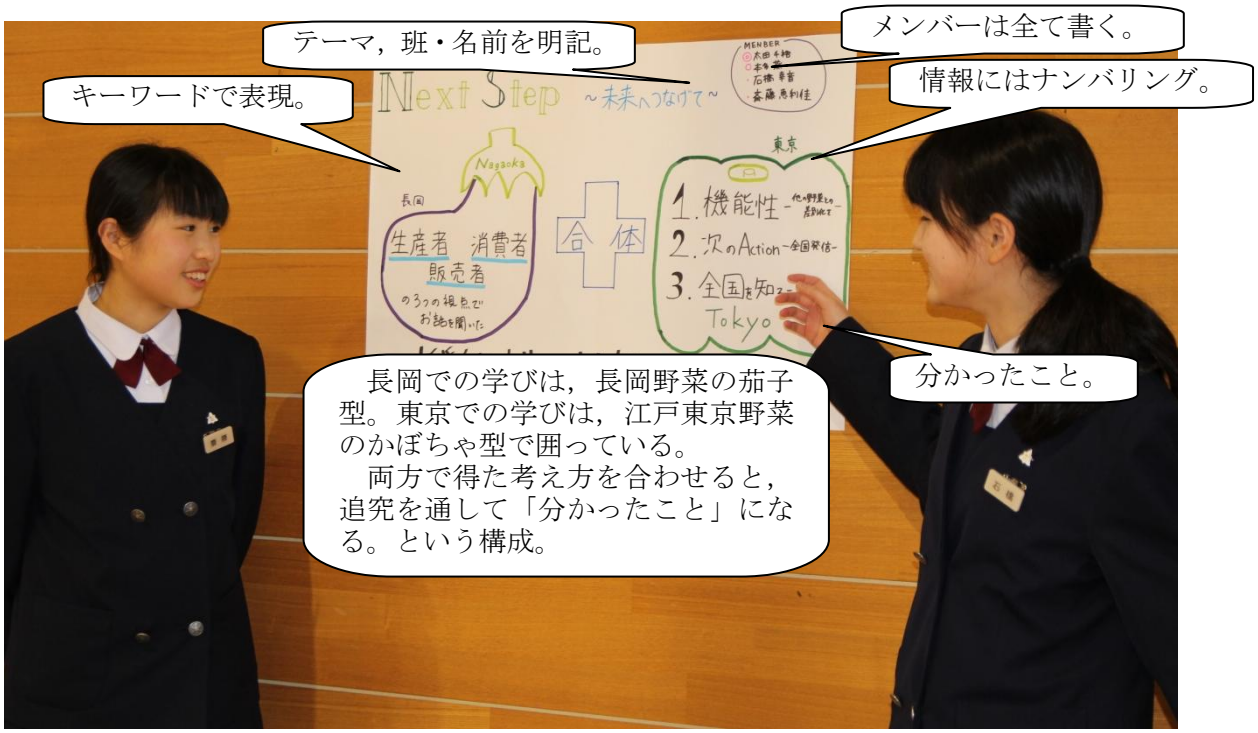
＊グループで構想が固まったら，担当の先生に過不足はないか指導を仰ごう。

模造紙を使った発表資料の例

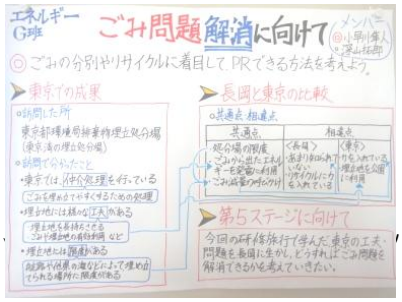


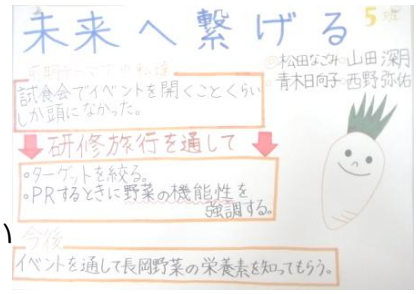
口頭で説明することが全部書いてある，細かい字でびっしりと埋められた模造紙はやめよう。

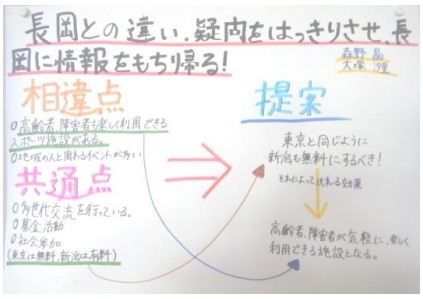
「社会創造科」先輩の実践例



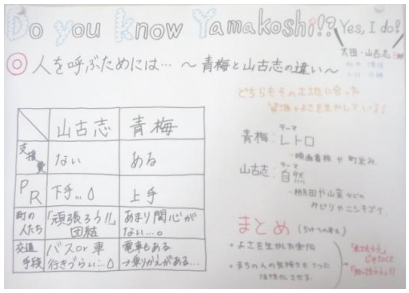
↓発表の流れが分かりやすいもの

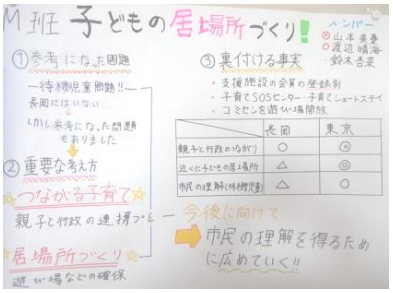


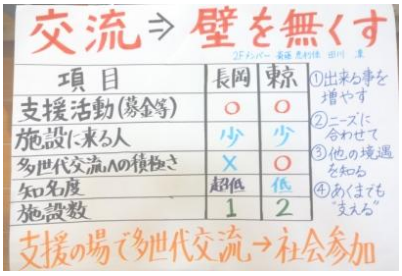


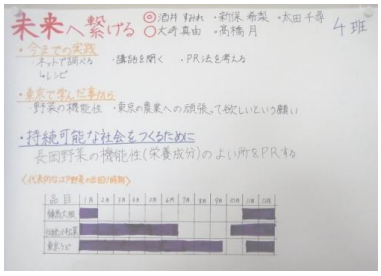


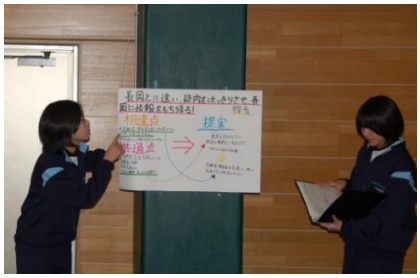
↓発表時に「使って説明する」ことに主眼をおいているもの











ポスター作成の 10 の注意点

1　目的をはっきりさせよう

・ポスター作成の目的に沿ったものを。「ねらい」を受けているか，正対しているか。
　→自分が書きたいことを書くのではない。
・対象（「誰に」）を意識しているか。
・場所（「どこで」→文字の大きさ），時間（「発表の持ち時間」→量）を想定しているか。

2　目立つようにアピールしよう

・「聞きたい」と惹きつけるものであるか。
　→10 秒で「なんとなくだけど，だいたい分かる」ものを。

3　タイトルにこだわろう

・内容を総括した言葉か，分かりやすいか。
→人はタイルから見る。
　新聞見出しを参考に，短く，シャープに，惹きつけるものを。

4　字の大きさを考えよう

5　簡潔に表現しよう

・言葉は厳選されているか。
→ポスターを基に，「使って」発表をする。＝セリフを全て書きこまない。ともかく文字を減らす。
　小さい字は，後ろの参会者には見えない。
　最大２文，それ以上は…。

6　レイアウトやデザインを工夫しよう

・主張したい内容に応じた配分がされているか。
→まず，全体を俯瞰し，配分・バランスを決める。空白部分も大事。
・効果的に作られているか。
→「比べる」内容の場合には，表。「説明する」内容の場合には，構造図・モデル図を使う。
　☆ひとつのグラフは，何百もの単語に匹敵する情報を有する。
・見る人の目の動きが意識されているか。
→誘導するような矢印や番号を。
・字の色，線，点は，考えられているか。
→意図ある統一とメリハリ。

7　個性を出そう

・例えばクイズ形式にする等，オリジナリティはあるか。
→同じような発表が続くであろう発表会時のポスターは，特に自分たちのウリを工夫して表現する。

8　見終わってからも印象に残るポスターを目指そう

9　課題，未完成の部分も描こう

10　追加資料を準備しよう

→発表時に，追加して示す実物や，別途資料（グラフ・表など）を準備しよう。

活動の記録（デジタルカメラの使い方）

社会創造科の時間は，活動そのものに価値があります。活動の様子を適切にデジタルカメラで撮影し，レポートの作成，発表資料の作成等，その後の学びに生かしましょう。

レポートに生かせる写真を撮るには

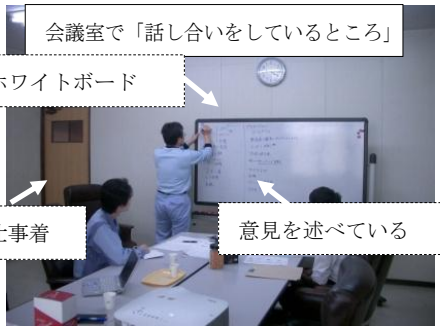
①調べる・まとめる：学校外に調査に行った時は…。

自分たちが写っていない風景。
どんな活動をしたのか分からない

活動が見えず，記念写真。

【よくない例】

②考える：地域の方と話合いをした時は…。



【よくない例】

③行動する：地域で活動をした時は…。

【よくない例】

成果物のみ。１枚は欲しいが，過程が分かる写真を！

☆先輩は，このような写真を誰かに依頼し，「シャッターを押してもらって」撮影しています。

デジタルカメラの使い方

・電池とメモリーカードを確認する
・本体（メモリーカード），添付物がすべてあるか確認し，返却する。
☆メモリーカードは，担当の先生に渡し，データをパソコンに保存してもらう。
デジカメの返却と同時にデータはすべて消えます。

撮影上の注意

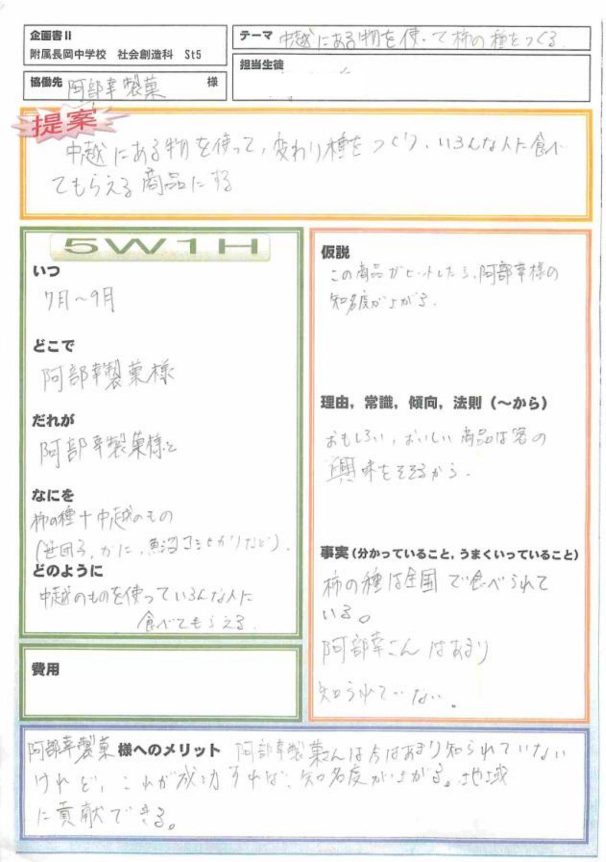
・活動中に撮影する時は，その場の状況を正しく判断してから使用すること。
・許可が必要だと考えられた場合は，許可を得ること。心配な場合は相談すること。
・グループで活動している場合は，どのメンバーも記録が残るよう，撮りまわすこと。
特に，一人で活動をしている場合は，事情を説明し，シャッターを押してもらう。

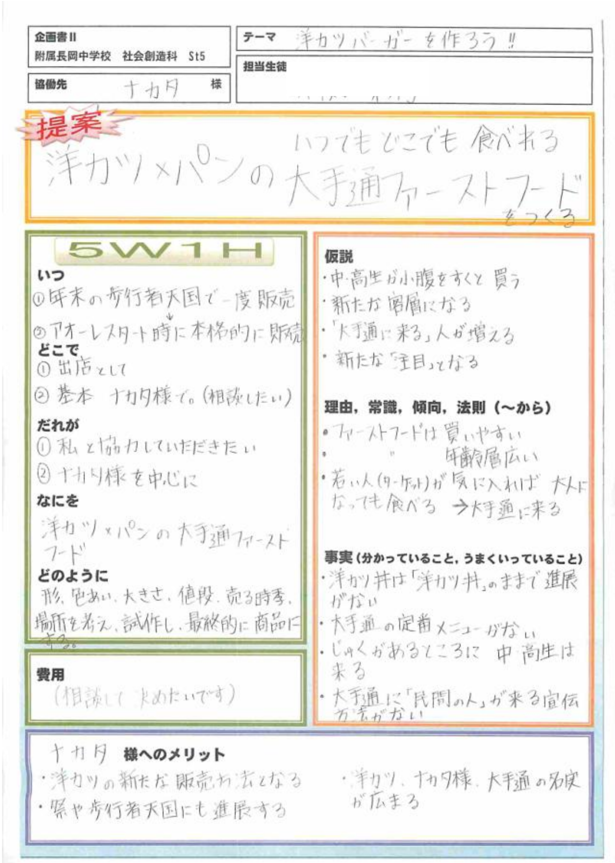
企画書

社会創造科の時間では，地域の人に提案する活動をすることが多くあります。自分たちの提案を地域の人に伝え，合意を得て，実際に実現させていくには，見通しや根拠がはっきりしていなければなりません。企画書に必要な項目の例を以下に示します。参考にして，有効な提案をつくりましょう。

提案	自分たちの提案を，端的に表現する。
５Ｗ１Ｈ	提案の内容を具体的に構想する。
仮説	提案が実現した場合，どのようなことが見込めるのか，想定して記述する。
理由 （常識，傾向，法則）	提案を支える理由。主張する仮説の下支えとなるもの。
事実	理由の基となる事実。地域の価値，よさ。着目点。
地域の人へのメリット	地域の問題解決にむけてできること。

「社会創造科」先輩の実践例


企画書Ⅱ 附属長岡中学校 社会創造科 St5
テーマ 中越にある物を使って柿の種をつくる
協働先 阿部幸製菓 様
担当生徒
提案 中越にある物を使って，変わり種をつくり，いろんな人に食べてもらえる商品にする
5W1H
いつ 7月～9月
どこで 阿部幸製菓様
だれが 阿部幸製菓様と
なにを 柿の種＋中越のもの（笹団子，かに，魚沼コシヒカリなど）
どのように 中越のものを使っていろんな人に食べてもらえる
費用
仮説 この商品がヒットしたら，阿部幸様の知名度が上がる。
理由，常識，傾向，法則（～から） おもしろい，おいしい商品は客の興味をそそるから。
事実（分かっていること，うまくいっていること） 柿の種は全国で食べられている。阿部幸さんはあまり知られてない。
阿部幸製菓 様へのメリット 阿部幸製菓さんは今はあまり知られていないけれど，これが成功すれば，知名度が上がる。地域に貢献できる。


企画書Ⅱ 附属長岡中学校 社会創造科 St5
テーマ 洋カツバーガーを作ろう!!
協働先 ナカタ 様
担当生徒
提案 洋カツ×パンの いつでもどこでも食べれる 大手通ファーストフード をつくる
5W1H
いつ ①年末の歩行者天国で一度販売 ②アオーレスタート時に本格的に販売
どこで ①出店として ②基本 ナカタ様で。（相談したい）
だれが ①私と協力していただきたい ②ナカタ様を中心に
なにを 洋カツ×パンの大手通ファーストフード
どのように 形，色あい，大きさ，値段，売る時季，場所を考え，試作し，最終的に商品にする。
費用（相談して決めたいです）
仮説 ・中・高生が小腹をすくと買う ・新たな客層になる ・「大手通に来る」人が増える ・新たな「注目」となる
理由，常識，傾向，法則（～から） ・ファーストフードは買いやすい ・〃 年齢層広い ・若い人（ターゲット）が気に入れば大人になっても食べる →大手通に来る
事実（分かっていること，うまくいっていること） ・洋カツ丼は「洋カツ丼」のままで進展がない ・大手通の定番メニューがない ・じゅくがあるところに中・高生は来る ・大手通に「民間の人」が来る宣伝方法がない
ナカタ 様へのメリット ・洋カツの新たな販売方法となる ・祭や歩行者天国にも進展する ・洋カツ，ナカタ様，大手通の名前が広まる

「かんずり柿の種」として商品化
毎日新聞 12. 6. 13

「洋カツバーガー」として商品化
産経新聞 12. 4. 25 新潟日報 12. 4. 1

様式３

企画書
附属長岡中学校　社会創造科

テーマ

提案先
様

担当生徒

提案

5W1H

いつ

どこで

だれが

なにを

どのように

仮説

理由・常識，傾向，法則（～から）

事実（分かっていること，うまくいっていること）

費用

様へのメリット

新潟大学教育学部附属長岡中学校
〒940-8530 新潟県長岡市学校町 1-1-1
TEL0258-32-4190　FAX 0259-32-6340

担当教諭

緊急時には…

緊急対応マニュアル

1　グループとはぐれた場合

1－1　徒歩の場合

○グループとはぐれてしまった者で，訪問先へ戻ることができる場合は，訪問先へ帰り，事情を話し，学校へ連絡をする。その後の対応・指示を確認する。

○グループとはぐれてしまった者で，迷子になった場合は，近くの公衆電話で学校へ連絡し，その後の対応を確認する。近くに公衆電話が見当たらない場合は，近くの交番，お店，民家に行き，事情をよく話し，電話をお借りして学校へ連絡し，その後の対応・指示を確認する。

1－2　バスの場合（乗り越し・乗り遅れ・はぐれた場合）

○グループとはぐれてしまった者は，近くの公衆電話で学校へ連絡し，その後の対応・指示を確認する（乗り過ごしてしまった場合は次のバス停で)。近くに公衆電話が見当たらない場合は，上記１－１と同じ対応をする。

1－3　電車等の場合（乗り越し・乗り遅れ・はぐれた場合）

○グループとはぐれてしまった者は，駅員の方に事情を説明し，相談をする。

その後，その駅から動かず，公衆電話を探し，学校または指定の連絡先に連絡をし，その後の対応・指示を確認する（乗り過ごしてしまった場合は次の駅で)。近くに公衆電話が見当たらない場合は，上記１－１と同じ対応をする。

グループ長へ

○はぐれたことに気付いたグループ長も目的地の駅で公衆電話から学校または指定の連絡先へ連絡を入れる。近くに公衆電話が見当たらない場合は，上記１－１と同じ対応をする。

＊いずれの場合も，連絡がとれ，対応を確認したらその場をむやみに動かない。

＊テレフォンカードまたは小銭の準備をしておく

中学校　０２５８－３２－４１９０

小学校　０２５８－３２－４１９１

2　体調不良や事故に遭遇した場合

○３人以上いる場合は，１人はその場で様子を見る。もう１人（グループ長）は，緊急な事態の場合は周囲に人に助けを求め，すぐに学校に連絡を入れて指示を仰ぐ。

電話は公衆電話／近くの公共施設／民家に事情を説明して借りる。

○２人の場合は，その場から離れず，近くの人に助けを求める。

3　地震等の災害の場合

○宿舎，企業等訪問中…周囲の大人の指示に従って近隣の避難所へ避難する。

○交通機関で移動中…原則として係員の指示に従う。

4　その他

○企業等訪問時に，明らかに遅れることが分かった場合，ただちに先方に連絡をする。

○学校への帰着が予定よりも遅れる場合（バスや電車に乗り遅れる等）は学校へ必ず連絡する。

※公衆電話／近くの公共施設／民家に事情を説明して借りる。

グループ長用

緊急対応マニュアル

学校　０２５８－３２－４１９０

１　グループとはぐれた場合

〇はぐれたことに気付いたグループ長も公衆電話から学校または指定の連絡先へ連絡を入れる。

１－１　徒歩の場合

〇グループとはぐれてしまった者で，訪問先へ戻ることができる場合は，訪問先へ帰り，事情を話し，学校へ連絡をする。その後の対応・指示を確認する。

○グループとはぐれてしまった者で迷子になった場合は，公衆電話で学校へ連絡し，その後の対応を確認する。近くに公衆電話が見当たらない場合は，近くの交番，お店，民家に行き，事情をよく話し，電話をお借りして学校へ連絡し，その後の対応・指示を確認する。

１－２　バスの場合（乗り越し・乗り遅れ・はぐれた場合）

〇グループとはぐれてしまった者は，近くの公衆電話で学校へ連絡し，その後の対応・指示を確認する（乗り過ごしてしまった場合は次のバス停で)。近くに公衆電話が見当たらない場合は，上記１－１と同じ対応をする。

１－３　電車等の場合（乗り越し・乗り遅れ・はぐれた場合）

○グループとはぐれてしまった者は，その駅から動かず，公衆電話を探し，学校または指定の連絡先に連絡をし，その後の対応・指示を確認する（乗り過ごしてしまった場合は次の駅で)。近くに公衆電話が見当たらない場合は，上記１－１と同じ対応をする。

＊いずれの場合も，連絡がとれ，対応を確認したらその場をむやみに動かない。

＊テレフォンカードまたは小銭の準備をしておく

２　体調不良や事故に遭遇した場合

○３人以上いる場合は，１人はその場で様子を見る。もう１人（グループ長）は，緊急な事態の場合は周囲に人に助けを求め，すぐに学校に連絡を入れて指示を仰ぐ。
電話は公衆電話／近くの公共施設／民家に事情を説明して借りる。

○２人の場合は，その場から離れず，近くの人に助けを求める。

３　地震等の災害の場合

○宿舎，企業等訪問中…周囲の大人の指示に従って近隣の避難所へ避難する。

○交通機関で移動中…原則として係員の指示に従う。

４　その他

〇企業等訪問時に，明らかに遅れることが分かった場合，ただちに先方に連絡をする。
訪問先の電話番号〔　　〕
（受け入れの企業等は，わざわざ時間を割いてみなさんに対応することを忘れずに）

〇学校への帰着が予定よりも遅れる場合（バスや電車に乗り遅れる等）は学校へ必ず連絡する。

※公衆電話／近くの公共施設／民家に事情を説明して借りる。

○１日目の交通費がいくらかかったか（１人当たり）をメモしておく。その上できちんとおつりを返す。

○グループの仲間をしっかりと把握する。
グループの中での責任者である自覚をもって指示を出し従わせる。

ＭＥＭＯ

トップページに戻る
（右の矢印をクリック）